

白井市男女共同参画に関する
アンケート調査
結果報告書

令和7年3月

白井市

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査実施の目的	1
2 調査概要	1
3 報告書の見方	2
第2章 調査結果のまとめ	3
第3章 一般市民調査の結果・分析	7
1 家庭生活について	7
2 仕事について	9
3 ワーク・ライフ・バランスについて	24
4 男女共同参画に関する意識について	31
5 ハラスメントやドメスティック・バイオレンス（DV）について	58
6 性と生殖に関する健康・権利について	69
7 子育てや小中学校での教育について	71
8 介護について	75
9 地域の活動について	78
10 防災・避難について	81
11 白井市への要望について	89
12 回答者自身について	91
第4章 市内在勤者調査の結果・分析	99
1 家庭生活について	99
2 仕事について	101
3 ワーク・ライフ・バランスについて	110
4 職場について	126
5 セクシュアル・ハラスメントについて	164
6 白井市への要望について	169
7 回答者自身のことについて	171
第5章 中学生調査の結果・分析	178
1 回答者自身のことについて	178
2 男女共同参画に関すること	179
3 将来に関すること	189
4 性別や心の性に関すること	195
5 デートDVに関すること	197
6 性教育に関すること	199
7 白井市が取り組むべきこと	200
資料編	201
1 一般市民調査 調査票	201
2 市内在勤者調査 調査票	206
3 中学生調査 調査項目	209

第Ⅰ章 調査の概要

Ⅰ 調査実施の目的

本調査は、性別に縛られず誰もが自分らしく輝ける市の実現のために、市民の皆様のご意見やニーズをお伺いし、男女共同参画に関する計画の見直しのための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査概要

項目	一般市民調査	市内在勤者調査	中学生調査
調査対象者	市内在住の満18歳以上の方 (令和6年10月1日時点) (無作為抽出)	市内在勤者	白井市立中学校2年生
調査期間	令和6年11月15日(金) ～12月6日(金)		令和6年12月13日(金) ～12月21日(土)
調査方法	郵送配布・郵送回収、 及びWEBによる本人回答方式		WEBによる 本人回答方式
配布数	2,000件	500件	655件
有効回収数	950件	230件	531件
有効回収率	47.5%	46.0%	81.1%

3 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において回答が0.0%であるものは、「-」で表記しています。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇表において、「その他」「不明・無回答」を除き、回答の高いもの第1位に網掛けをしています。
- ◇集計対象者総数（n）が少ない（10件未満）クロス集計については、分析文の記載を省略しています。

第2章 調査結果のまとめ

家庭生活について

- ・家庭における男女の役割分担について、一般市民調査、市内在勤者調査ともに、理想は「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が53.4%（市民）、59.6%（在勤者）と最も高いものの、現実では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が37.5%（市民）、53.0%（在勤者）と最も高くなっています。
- ・家庭生活において、理想と現実とのギャップが依然として大きくなっています。

仕事について

- ・1日に家庭内の家事（育児・介護を含む）をどのくらい担っているかについて、一般市民調査、市内在勤者調査ともに、【平日】【休日】に関わらず、男性に比べ女性で家事の負担が多くなっています。一方、【平日】の男性については、前回調査では「していない、ほとんどしていない」が最も高くなっていますが、今回調査では減少しており、男性の家事等への参加が進んでいる状況が見られます。
- ・女性の働き方に対する考え方について、一般市民調査、市内在勤者調査ともに、全体では「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい」が最も高くなっています。また、女性は男性に比べると「出産や育児にかかわらず、仕事を持ち続けた方がよい」が高くなっています。
- ・将来の昇進の希望について、一般市民調査では女性は男性に比べて「昇進したくない」が高く、31.7%となっています。また、将来的にはどのような職層で働きたいかについて、市内在勤者調査では女性は男性に比べて「管理職（管理職手当がある者）」の割合が17.9%と低くなっており、管理職になりたくない理由については、「管理職になると、責任が重くなるから」「現在の地位が自分に適しているから」が43.5%と最も高くなっています。
- ・育児や介護があっても仕事を継続できるようにするために必要なことについて、一般市民調査、市内在勤者調査ともに、「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」が72.9%（市民）、85.2%（在勤者）と最も高くなっています。
- ・女性の働き方の状況やキャリア選択において、制約や課題があることが見受けられます。

職場について

- ・育児・介護をする立場になったら育児・介護休業を取得したいかについて、市内在勤者調査では「取得したいと思う」が69.1%と最も高く、次いで「取得したいと思うが、取得しない」が20.0%、「取得したいと思わない」が6.1%となっています。取得しない主な理由については、「職場の同僚の負担が増えて迷惑がかかると思うから」が55.0%と最も高く、「仕事が忙しく取得できる状況にないから」も43.3%と高くなっています。
- ・家事への関わりが少ない男性が、より関わることをするために必要なことについて、市内在勤

者調査では「男性が育児・介護休暇を取りやすくすること」が52.2%と最も高く、次いで「男性自身の意識を高めること」が43.0%、「仕事中心という社会全体のしくみを改めること」が40.9%となっています。

- ・職場全体の意識改革や、休暇制度の実効性が求められています。

ワーク・ライフ・バランスについて

- ・生活の中における仕事・家事・プライベートな時間の優先度について、一般市民調査、市内在勤者調査ともに、理想は「仕事・家事・プライベートを両立」が49.8%（市民）、59.6%（在勤者）と最も高いものの、現実には12.1%（市民）、14.3%（在勤者）と大きく乖離しています。
- ・ワーク・ライフ・バランスがうまくとれていると思うかについて、一般市民調査、市内在勤者調査ともに、全体では「ややとれている」が最も高いものの、性・年代別にみると、40歳女性と30歳代男性（市民）、30歳代男女と60歳以上男女（在勤者）で「あまりとれていない」が最も高くなっています。うまくとれていない理由は、一般市民調査、市内在勤者調査ともに、全体で「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」が最も高くなっています。
- ・ワーク・ライフ・バランスを保ちたいという希望は高いものの、仕事等が忙しく現実ではうまく保てていないことが伺えます。

男女共同参画に関する意識について

- ・男女の平等観について、一般市民調査では〈職場〉〈社会通念〉〈政治の場〉〈全体〉において、『男性優遇評価』の割合がいずれも半数以上と高くなっています。
- ・男女共同参画に関する言葉の認知度について、一般市民調査では〈リプロダクティブ・ヘルス／ライツ〉〈ポジティブ・アクション〉〈アンコンシャス・バイアス〉〈デートDV〉で「知らない」がいずれも半数以上となっています。また、年代が上がるにつれて〈ジェンダー〉〈ワーク・ライフ・バランス〉〈ポジティブ・アクション〉〈デートDV〉で「知らない」の割合が高い傾向にあります。中学生調査では〈男女共同参画社会〉〈ワーク・ライフ・バランス〉〈アンコンシャス・バイアス〉で「知らない」がいずれも3割以上と高くなっています。
- ・アンコンシャス・バイアスの経験（今までに「女の子だから～しなさい（しちゃダメ）」「男の子だから～しなさい（しちゃダメ）」と言われた経験）について、中学生調査では「言われたことはない」が52.5%と最も高く、次いで「ときどきいわれる」が37.7%、「よく言われる」が9.0%となっています。どんなことについて言われたかについては、「言葉づかい」が41.1%と最も高く、次いで「座り方や歩き方」が39.9%、「着ている服や髪型、身だしなみ」が38.7%となっています。
- ・家族の役割について、中学生調査では「男女ともに協力して行うべき」が〈家事（掃除や洗濯、料理など）〉〈子育てや子どものお世話〉〈祖父や祖母等の家族の介護〉で9割前後となっていますが、〈家族のために働いて生活費を得ること〉では72.1%となっており、「どちらかといえば男性がした方がよい」「主に男性がした方がよい」を合わせた『男性優遇評価』の割合は27.3%とや

や高くなっています。

- ・一部の用語や概念の認知度が低く、特にポジティブ・アクションやアンコンシャス・バイアス等の重要なトピックが浸透していないことが見受けられます。

ハラスメント・DVについて

- ・配偶者や恋人等パートナーからのDV（身体的暴力、精神的暴力、性的強要、経済的圧迫）の状況について、一般市民調査では「したことがある」「されたことがある」「したことも、されたことも両方ある」経験のある方はいずれも1割前後となっています。また、そのことについて「どこ（だれ）にも相談しなかった」が53.4%と半数以上となっています。
- ・被害者支援体制の強化や、相談しやすい環境づくりが求められています。

性と生殖に関する健康・権利について

- ・性や妊娠・出産に関して女性自身で決めるうえで特に必要だと思うことについて、一般市民調査では「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が50.9%と最も高くなっています。
- ・身体の性別や心の性について悩んだ経験について、市民意識調査・中学生調査では「ほとんどない」が23.4%（市民）、32.8%（中学生）となっており、「多少ある」が6.1%（市民）、12.8%（中学生）となっています。
- ・性や人権に関する理解の促進や教育の推進を図るとともに、個々の経験や背景に寄り添った、柔軟なアプローチが求められます。

子育てや小中学校での教育について

- ・学校教育の中で男女平等の意識を深めるために特に大切だと思うことについて、一般市民調査では「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」が53.6%と最も高くなっています。また、体や心について学んでいきたいことについて、中学生調査では「特に知りたいことはない」が30.1%と最も高く、次いで「ジェンダーの多様性、LGBTQ+について」が27.1%、「思春期の心理について」が26.9%となっており、特に男性は女性に比べて「特に知りたいことはない」が高くなっています。
- ・ジェンダー平等教育の重要性について、更なる周知を図っていく必要があります。

介護について

- ・介護が女性の役割になりがちなことにどう思うかについて、一般市民調査では男女ともに「男性も積極的に取り組む方がよい」が最も高く、特に女性で67.2%、男性で50.5%と、女性の割合が高くなっています。また、前回調査と比較すると「男性も積極的に取り組む方がよい」が6.2ポイント高くなっています。

- ・「男性も積極的に介護に取り組むべき」という考えが広がりつつありますが、未だに女性の負担が大きい現状が見られます。

地域の活動や防災・避難について

- ・地域活動への参加状況については、一般市民調査では「参加したいが、できていない」が38.1%と最も高く、比較的若い年代で「参加するつもりがない」が高くなっています。
- ・地域活動に女性がリーダーとして参画することについて、一般市民調査では男女ともに「女性も積極的に参画するほうがよい」が最も高く、女性で60.2%、男性で74.6%となっています。また、女性は男性に比べて「女性が参画することには賛成だが、現実には難しい」が高くなっています。
- ・「女性も積極的に参画するべき」という意識は高いものの、現実的なハードルを感じている人も多く、制度的なサポート等が必要と考えられます。

白井市への要望について

- ・男女共同参画を進めるために取り組むべきことについて、一般市民調査では「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」が44.4%と最も高く、次いで「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が43.3%、「学校での男女平等教育を進める」が30.7%となっています。また、市内在勤者調査では、男女共同参画を進めるために市が特に力を入れて取り組むべきだと思うことは、全体で「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が57.4%と最も高く、次いで「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」が45.7%、「ひとり親（母子・父子）家庭を援助する」が31.7%となっています。
- ・中学生調査では、性別にかかわらず、誰もが自分らしく輝けるまちにするために取り組むべきことは、「男女ともに仕事と家庭を両立できるようにする」が46.1%と最も高く、次いで「仕事とプライベートのどちらも大切にできるような働き方を広める」が41.6%、「性別にかかわらず職業や仕事の内容を選べるよう、会社などに呼びかける」が32.2%となっています。

第3章 一般市民調査の結果・分析

Ⅰ 家庭生活について

問Ⅰ あなたが理想とする男女の役割分担に、最も近いものはどれですか。また、現在のご家庭の状況（一人暮らしの人は、これまでの家庭での状況）に、最も近いものはどれですか。

※家事には、育児・介護を含みます。

A 理想は（Ⅰつに○）〔共通設問：市内在勤者調査…問Ⅰ A〕

理想とする男女の役割分担は、全体で「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が53.4%と最も高く、次いで「特に何も決めず、できる人ができることをする」が28.2%、「男性が働き、女性が家事全般をする」が9.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が最も高く、女性で61.4%、男性で45.3%となっています。

性・年代別でみると、30歳代男性では「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」「特に何も決めず、できる人ができることをする」、その他の年代では「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が最も高くなっています。

単位：%		全男性が働き、女性が家事	全女性が働き、男性が家事	する男性は主として働き、女性が家事	する男性は主として働き、男性が家事	する男性も女性が共に働き、共に家事	特に何も決めず、できる	わからない	不明・無回答
全体(n=950)		9.3	-	3.4	0.3	53.4	28.2	2.4	3.1
女性	女性全体(n=497)	6.0	-	1.4	0.6	61.4	26.4	1.8	2.4
	29歳以下(n=39)	15.4	-	2.6	-	53.8	28.2	-	-
	30歳代(n=34)	5.9	-	-	2.9	58.8	32.4	-	-
	40歳代(n=88)	5.7	-	-	1.1	65.9	23.9	3.4	-
	50歳代(n=99)	3.0	-	2.0	-	69.7	24.2	-	1.0
	60歳代(n=84)	6.0	-	2.4	-	65.5	22.6	1.2	2.4
	70歳以上(n=145)	5.5	-	1.4	0.7	53.8	29.0	3.4	6.2
男性	男性全体(n=422)	13.0	-	5.7	-	45.3	30.3	2.6	3.1
	29歳以下(n=30)	10.0	-	-	-	60.0	30.0	-	-
	30歳代(n=38)	2.6	-	2.6	-	44.7	44.7	5.3	-
	40歳代(n=68)	10.3	-	1.5	-	50.0	36.8	1.5	-
	50歳代(n=80)	15.0	-	7.5	-	42.5	31.3	1.3	2.5
	60歳代(n=69)	11.6	-	5.8	-	50.7	24.6	4.3	2.9
	70歳以上(n=126)	18.3	-	8.7	-	38.1	25.4	2.4	7.1

B 現実（１つに○）〔共通設問：市内在勤者調査…問Ⅰ B〕

現実の男女の役割分担は、全体で「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が37.5%と最も高く、次いで「男性が働き、女性が家事全般をする」が24.2%、「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が14.9%となっています。

性別にみると、女性では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が46.3%、男性では「男性が働き、女性が家事全般をする」が29.1%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が高くなっています。

性・年代別でみると、30～40歳代男性では「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」、50歳代と70歳以上男性では「男性が働き、女性が家事全般をする」、その他の年代では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて30歳代女性では「男性が働き、女性が家事全般をする」が低くなっています。

単位：%		全男性 が働き、 女性が家事	全女性 が働き、 男性が家事	仕事全般は 男性が主として 働き、女性が家	仕事全般は 女性が主として 働き、男性が家	仕事全般も 男性女性が共に 働き、共に家	特に何も決 めず、できる	わからない	不明・無 回答
全体(n=950)		24.2	0.3	37.5	0.2	14.9	12.5	6.0	4.3
女性	女性全体(n=497)	20.3	0.6	46.3	0.2	11.3	12.7	4.8	3.8
	29歳以下(n=39)	23.1	-	59.0	-	12.8	5.1	-	-
	30歳代(n=34)	5.9	-	58.8	-	23.5	8.8	2.9	-
	40歳代(n=88)	17.0	-	53.4	-	14.8	9.1	5.7	-
	50歳代(n=99)	17.2	-	55.6	-	11.1	10.1	6.1	-
	60歳代(n=84)	28.6	2.4	41.7	1.2	8.3	14.3	2.4	1.2
	70歳以上(n=145)	22.8	0.7	31.0	-	7.6	18.6	6.9	12.4
男性	男性全体(n=422)	29.1	-	27.0	0.2	19.4	13.0	6.9	4.3
	29歳以下(n=30)	26.7	-	46.7	-	16.7	10.0	-	-
	30歳代(n=38)	15.8	-	21.1	-	31.6	21.1	10.5	-
	40歳代(n=68)	23.5	-	25.0	-	33.8	13.2	1.5	2.9
	50歳代(n=80)	31.3	-	30.0	-	17.5	11.3	6.3	3.8
	60歳代(n=69)	21.7	-	39.1	1.4	17.4	8.7	10.1	1.4
	70歳以上(n=126)	38.9	-	19.0	-	8.7	15.9	7.9	9.5

2 仕事について

問2 あなたは、収入の得られる仕事や、家庭内における家事（育児・介護を含む）などに1日平均どのくらい時間をあてていますか。

A 収入の得られる仕事（1つに○）[共通設問：市内在勤者調査…問2 A]

収入の得られる仕事の1日平均時間は、全体で「8時間以上」が37.1%と最も高く、次いで「していない、ほとんどしない」が29.8%、「6～7時間くらい」が11.3%となっています。

性別にみると、女性では「していない、ほとんどしない」が33.0%、男性では「8時間以上」が51.2%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「4～5時間くらい」が高く、男性は女性に比べて「8時間以上」が高くなっています。

性・年代別でみると、60歳以上女性、70歳以上男性では「していない、ほとんどしない」、その他の年代では「8時間以上」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて60歳代女性、70歳以上女性、70歳以上男性では「8時間以上」が低くなっています

単位：%		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどしない	不明・無回答
全体(n=950)		37.1	11.3	10.4	3.8	1.7	0.4	29.8	5.6
女性	女性全体(n=497)	26.0	12.9	15.9	4.4	1.6	0.2	33.0	6.0
	29歳以下(n=39)	41.0	15.4	7.7	2.6	5.1	-	25.6	2.6
	30歳代(n=34)	52.9	11.8	11.8	-	2.9	2.9	17.6	-
	40歳代(n=88)	44.3	19.3	22.7	1.1	-	-	11.4	1.1
	50歳代(n=99)	39.4	18.2	23.2	2.0	-	-	17.2	-
	60歳代(n=84)	15.5	11.9	17.9	10.7	1.2	-	40.5	2.4
	70歳以上(n=145)	2.1	4.8	9.0	5.5	2.8	-	57.9	17.9
男性	男性全体(n=422)	51.2	9.5	3.8	3.1	1.9	0.7	26.3	3.6
	29歳以下(n=30)	36.7	10.0	6.7	6.7	10.0	6.7	23.3	-
	30歳代(n=38)	73.7	13.2	2.6	2.6	-	-	7.9	-
	40歳代(n=68)	86.8	7.4	-	1.5	1.5	-	1.5	1.5
	50歳代(n=80)	81.3	7.5	3.8	1.3	-	-	3.8	2.5
	60歳代(n=69)	50.7	13.0	2.9	5.8	1.4	-	23.2	2.9
	70歳以上(n=126)	9.5	9.5	6.3	2.4	2.4	0.8	61.1	7.9

◆経年比較 問2 A 収入の得られる仕事

前回調査と比較すると、「していない、ほとんどしていない」が8.7ポイント低くなっています。
性別でみると、女性では「8時間以上」が7.8ポイント高くなっています。

単位：％		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどし	不明・無回答
全体	令和6(2024)年(n=950)	37.1	11.3	10.4	3.8	1.7	0.4	29.8	5.6
	平成26(2014)年(n=898)	33.4	9.8	9.6	3.7	1.6	0.4	38.5	3.0
女性	令和6(2024)年(n=497)	26.0	12.9	15.9	4.4	1.6	0.2	33.0	6.0
	平成26(2014)年(n=495)	18.2	12.5	14.9	4.4	1.8	0.6	44.6	2.8
男性	令和6(2024)年(n=422)	51.2	9.5	3.8	3.1	1.9	0.7	26.3	3.6
	平成26(2014)年(n=378)	54.2	6.9	2.9	2.6	1.3	0.3	29.4	2.4

※前回調査では「30分くらい」「15分くらい」となっていた選択肢を、今回調査では「30分未満」とした。

B 家庭内の家事（育児・介護を含む）など【平日】（1つに○）

〔共通設問：市内在勤者調査…問2 B〕

平日の家庭内の家事などの1日平均時間は、全体で「2～3時間くらい」が21.3%と最も高く、次いで「1時間くらい」が16.0%、「していない、ほとんどしない」が13.5%となっています。

性別にみると、女性では「2～3時間くらい」が27.0%、男性では「1時間くらい」が25.6%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「4～5時間くらい」「2～3時間くらい」が高く、男性は女性に比べて「1時間くらい」「30分未満」「していない、ほとんどしない」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下男女、70歳以上男性では「していない、ほとんどしない」、30歳代女性では「8時間以上」、40～60歳代女性では「2～3時間くらい」、70歳以上女性では「4～5時間くらい」、30～50歳代男性では「1時間くらい」、60歳代男性では「30分未満」が最も高くなっています。

単位：%		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどしない	不明・無回答
全体(n=950)		5.4	5.4	12.4	21.3	16.0	11.7	13.5	14.4
女性	女性全体(n=497)	9.3	8.2	21.5	27.0	8.5	4.8	7.0	13.7
	29歳以下(n=39)	12.8	-	-	7.7	15.4	25.6	33.3	5.1
	30歳代(n=34)	26.5	8.8	23.5	17.6	11.8	2.9	8.8	-
	40歳代(n=88)	13.6	9.1	27.3	31.8	6.8	4.5	5.7	1.1
	50歳代(n=99)	9.1	12.1	23.2	35.4	11.1	2.0	3.0	4.0
	60歳代(n=84)	3.6	10.7	20.2	40.5	7.1	6.0	2.4	9.5
	70歳以上(n=145)	4.1	6.2	23.4	17.9	5.5	0.7	6.2	35.9
男性	男性全体(n=422)	0.9	1.7	2.4	15.4	25.6	20.1	20.9	13.0
	29歳以下(n=30)	-	-	-	6.7	20.0	23.3	50.0	-
	30歳代(n=38)	2.6	5.3	5.3	18.4	44.7	13.2	10.5	-
	40歳代(n=68)	-	1.5	2.9	17.6	35.3	25.0	16.2	1.5
	50歳代(n=80)	-	1.3	1.3	16.3	33.8	26.3	20.0	1.3
	60歳代(n=69)	-	2.9	1.4	17.4	20.3	26.1	24.6	7.2
	70歳以上(n=126)	1.6	-	2.4	13.5	14.3	11.9	19.8	36.5

◆経年比較 問2 B 家庭内の家事（育児・介護を含む）など【平日】

前回調査と比較すると、大きな差は見られません。

性別でみると、男性では「していない、ほとんどしない」が9.5ポイント低くなっています。

単位：％		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどしない	不明・無回答
全体	令和6(2024)年(n=950)	5.4	5.4	12.4	21.3	16.0	11.7	13.5	14.4
	平成26(2014)年(n=898)	7.6	5.1	15.9	17.1	13.3	12.0	16.4	12.6
女性	令和6(2024)年(n=497)	9.3	8.2	21.5	27.0	8.5	4.8	7.0	13.7
	平成26(2014)年(n=495)	13.1	9.3	25.9	22.4	7.9	3.4	5.9	12.1
男性	令和6(2024)年(n=422)	0.9	1.7	2.4	15.4	25.6	20.1	20.9	13.0
	平成26(2014)年(n=378)	0.5	-	3.4	9.5	20.6	23.8	30.4	11.6

※前回調査では「30分くらい」「15分くらい」となっていた選択肢を、今回調査では「30分未満」とした。

C 家庭内の家事（育児・介護を含む）など【休日】（1つに○）

【共通設問：市内在勤者調査…問2 C】

休日の家庭内の家事などの1日平均時間は、全体で「2～3時間くらい」が22.6%と最も高く、次いで「4～5時間くらい」が14.5%、「1時間くらい」が13.8%となっています。

性別にみると、女性では「2～3時間くらい」が24.3%、男性では「1時間くらい」が22.3%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「4～5時間くらい」が高く、男性は女性に比べて「1時間くらい」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下男女、70歳以上男性では「していない、ほとんどしない」、30歳代男女では「8時間以上」、40歳代女性では「4～5時間くらい」、50歳代男性では「1時間くらい」、その他の年代では「2～3時間くらい」が最も高くなっています。

単位：%		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどしない	不明・無回答
全体(n=950)		9.5	5.6	14.5	22.6	13.8	7.8	11.4	14.8
女性	女性全体(n=497)	12.5	8.9	21.3	24.3	7.0	4.2	7.2	14.5
	29歳以下(n=39)	10.3	-	7.7	5.1	12.8	23.1	35.9	5.1
	30歳代(n=34)	41.2	8.8	11.8	23.5	2.9	2.9	8.8	-
	40歳代(n=88)	25.0	9.1	27.3	26.1	6.8	3.4	1.1	1.1
	50歳代(n=99)	7.1	20.2	25.3	28.3	10.1	2.0	4.0	3.0
	60歳代(n=84)	6.0	10.7	23.8	33.3	6.0	4.8	4.8	10.7
	70歳以上(n=145)	5.5	2.8	19.3	21.4	4.8	0.7	6.9	38.6
男性	男性全体(n=422)	6.4	1.4	6.9	21.8	22.3	12.3	15.9	13.0
	29歳以下(n=30)	6.7	-	3.3	6.7	20.0	23.3	40.0	-
	30歳代(n=38)	26.3	7.9	7.9	18.4	21.1	7.9	10.5	-
	40歳代(n=68)	8.8	1.5	11.8	36.8	25.0	4.4	10.3	1.5
	50歳代(n=80)	5.0	-	10.0	27.5	28.7	15.0	11.3	2.5
	60歳代(n=69)	1.4	2.9	2.9	24.6	23.2	20.3	17.4	7.2
	70歳以上(n=126)	2.4	-	4.0	14.3	15.9	9.5	18.3	35.7

◆経年比較 問2 C 家庭内の家事（育児・介護を含む）など【休日】

前回調査と比較すると、大きな差は見られません。

性別でみると、女性では「8時間以上」が5.1ポイント低くなっています。

単位：％		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどし	不明・無回答
全体	令和6(2024)年(n=950)	9.5	5.6	14.5	22.6	13.8	7.8	11.4	14.8
	平成26(2014)年(n=898)	11.2	7.3	14.5	22.5	11.4	9.0	9.6	14.5
女性	令和6(2024)年(n=497)	12.5	8.9	21.3	24.3	7.0	4.2	7.2	14.5
	平成26(2014)年(n=495)	17.6	11.9	20.2	24.0	5.5	2.0	4.4	14.3
男性	令和6(2024)年(n=422)	6.4	1.4	6.9	21.8	22.3	12.3	15.9	13.0
	平成26(2014)年(n=378)	3.2	1.6	7.4	21.4	19.0	18.0	16.7	12.7

※前回調査では「30分くらい」「15分くらい」となっていた選択肢を、今回調査では「30分未満」とした。

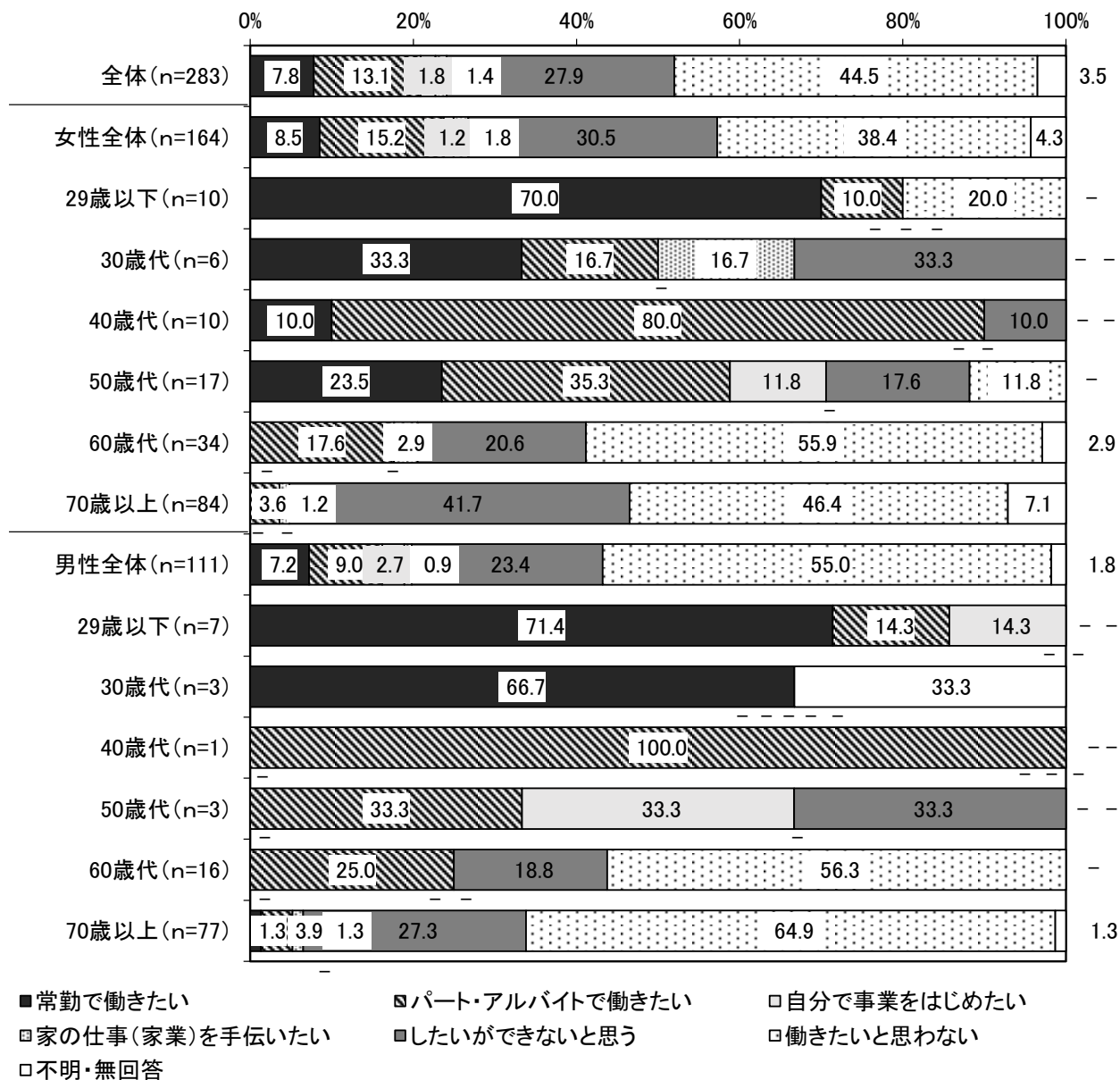
問2「A 収入の得られる仕事」で「していない、ほとんどしない」と答えた方

問2-1 あなたは、今後仕事をしたいと思いますか。(1つに○)

今後仕事をしたいと思うかは、全体で「働きたいと思わない」が44.5%と最も高く、次いで「したいができないと思う」が27.9%、「パート・アルバイトで働きたい」が13.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「働きたいと思わない」が最も高く、女性で38.4%、男性で55.0%となっています。また、男性は女性に比べて「働きたいと思わない」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「常勤で働きたい」、40～50歳代女性では「パート・アルバイトで働きたい」、60歳以上男女では「働きたいと思わない」が最も高くなっています。



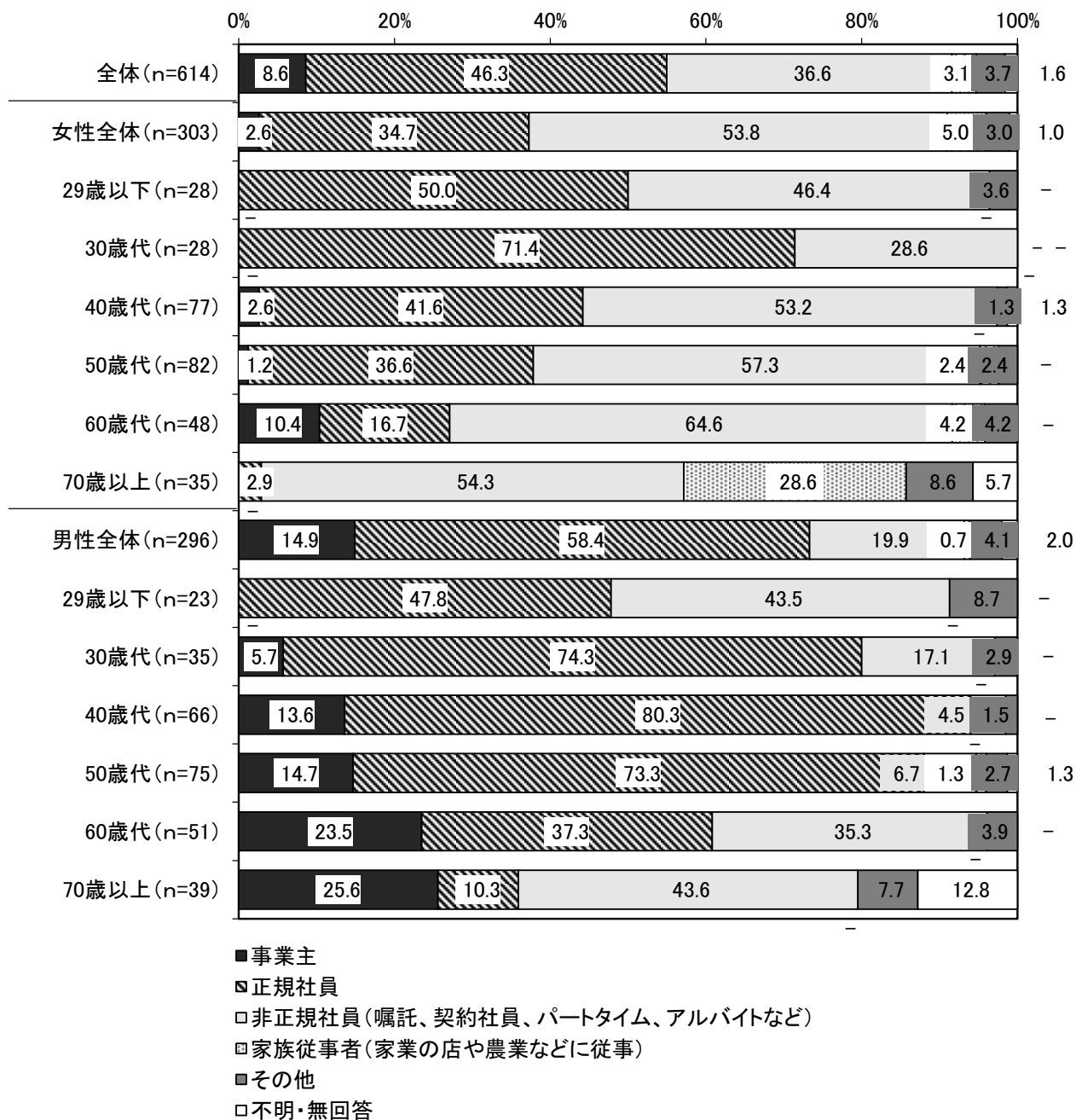
問2「A 収入の得られる仕事」で「8時間以上」～「30分未満」と答えた方

問2-2 今どのような形で働いていますか。(1つに○)

現在の就労形態は、全体で「正規社員」が46.3%と最も高く、次いで「非正規社員（嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど）」が36.6%、「事業主」が8.6%となっています。

性別にみると、女性では「非正規社員」が53.8%、男性では「正規社員」が58.4%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「非正規社員（嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど）」が高く、男性は女性に比べて「事業主」「正規社員」が高くなっています。

性・年代別でみると、40歳以上女性、70歳以上男性では「非正規社員」、その他の年代では「正規社員」が最も高くなっています。また、30～60歳代女性では年代が上がるにつれて「正規社員」が低くなっています。



問2「A 収入の得られる仕事」で「8時間以上」～「30分未満」と答えた方

問2-3 あなたの在宅勤務（テレワーク）の実施状況はどれですか。※直近3か月（令和6年8月～10月）を想定してお答えください。（1つに○）[共通設問：市内在勤者調査…問8]

在宅勤務の実施状況は、全体で「テレワークをしていない、できない」が67.9%と最も高く、次いで「週に4日以上」が9.1%、「週に1～2日程度」が6.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「テレワークをしていない、できない」が最も高く、女性で74.9%、男性で61.5%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「テレワークをしていない、できない」が最も高くなっており、29歳以下女性で92.9%と高くなっています。

単位：％		週に4日以上	週に3日程度	週に1～2日程度	月に1～2日程度	それ以下の頻度	いテレワークをしていない	その他	不明・無回答
全体(n=614)		9.1	4.9	6.5	3.6	3.9	67.9	1.8	2.3
女性	女性全体(n=303)	7.6	3.6	4.3	3.3	2.3	74.9	1.3	2.6
	29歳以下(n=28)	3.6	-	3.6	-	-	92.9	-	-
	30歳代(n=28)	10.7	-	-	3.6	7.1	78.6	-	-
	40歳代(n=77)	2.6	6.5	5.2	5.2	5.2	72.7	1.3	1.3
	50歳代(n=82)	2.4	4.9	6.1	1.2	1.2	81.7	1.2	1.2
	60歳代(n=48)	16.7	2.1	2.1	6.3	-	72.9	-	-
	70歳以上(n=35)	20.0	2.9	5.7	2.9	-	45.7	5.7	17.1
男性	男性全体(n=296)	10.8	5.7	9.1	3.4	5.7	61.5	2.0	1.7
	29歳以下(n=23)	4.3	-	-	4.3	4.3	82.6	4.3	-
	30歳代(n=35)	14.3	5.7	11.4	2.9	5.7	60.0	-	-
	40歳代(n=66)	15.2	7.6	9.1	6.1	7.6	54.5	-	-
	50歳代(n=75)	10.7	8.0	12.0	-	4.0	62.7	1.3	1.3
	60歳代(n=51)	5.9	2.0	5.9	5.9	7.8	70.6	2.0	-
	70歳以上(n=39)	10.3	5.1	7.7	2.6	5.1	53.8	5.1	10.3

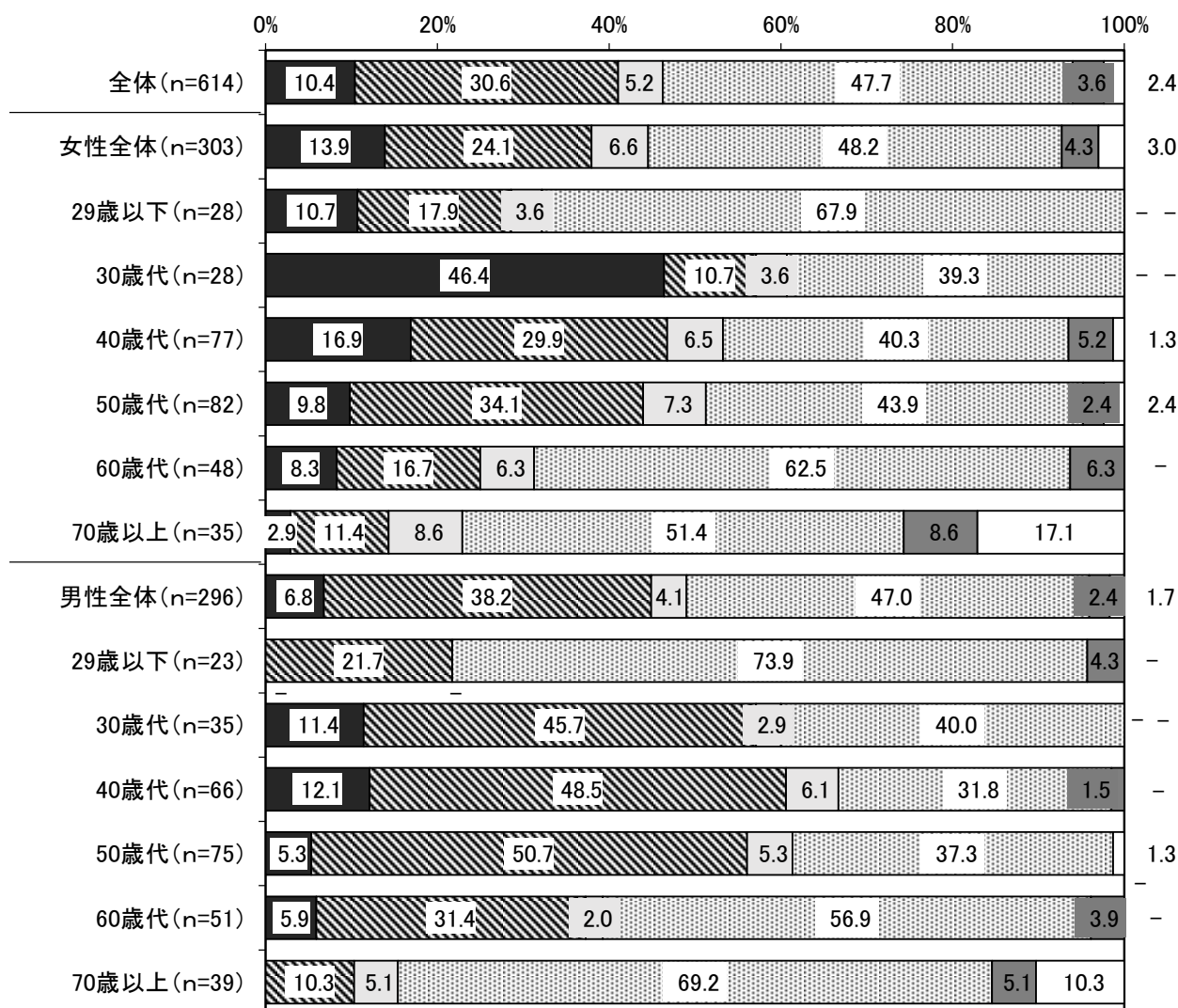
問2「A 収入の得られる仕事」で「8時間以上」～「30分未満」と答えた方

問2-4 あなたの育児・介護に関するいずれかの休暇制度の取得状況はどれですか。(1つに○)

休暇制度の取得状況は、全体で「該当しない(子ども、介護が必要な親族はいない)」が47.7%と最も高く、次いで「制度はあるが、取得したことはない」が30.6%、「取得した・取得中である・取得予定である」が10.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「該当しない」が最も高く、女性で48.2%、男性で47.0%となっています。また、男性は女性に比べて「制度はあるが、取得したことはない」が高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代女性では「取得した・取得中である・取得予定である」、30～50歳代男性では「制度はあるが、取得したことはない」、その他の年代では「該当しない」が最も高くなっています。



■取得した・取得中である・取得予定である

□制度について知らなかった

■その他

▨制度はあるが、取得したことはない

□該当しない(子ども、介護が必要な親族はいない)

□不明・無回答

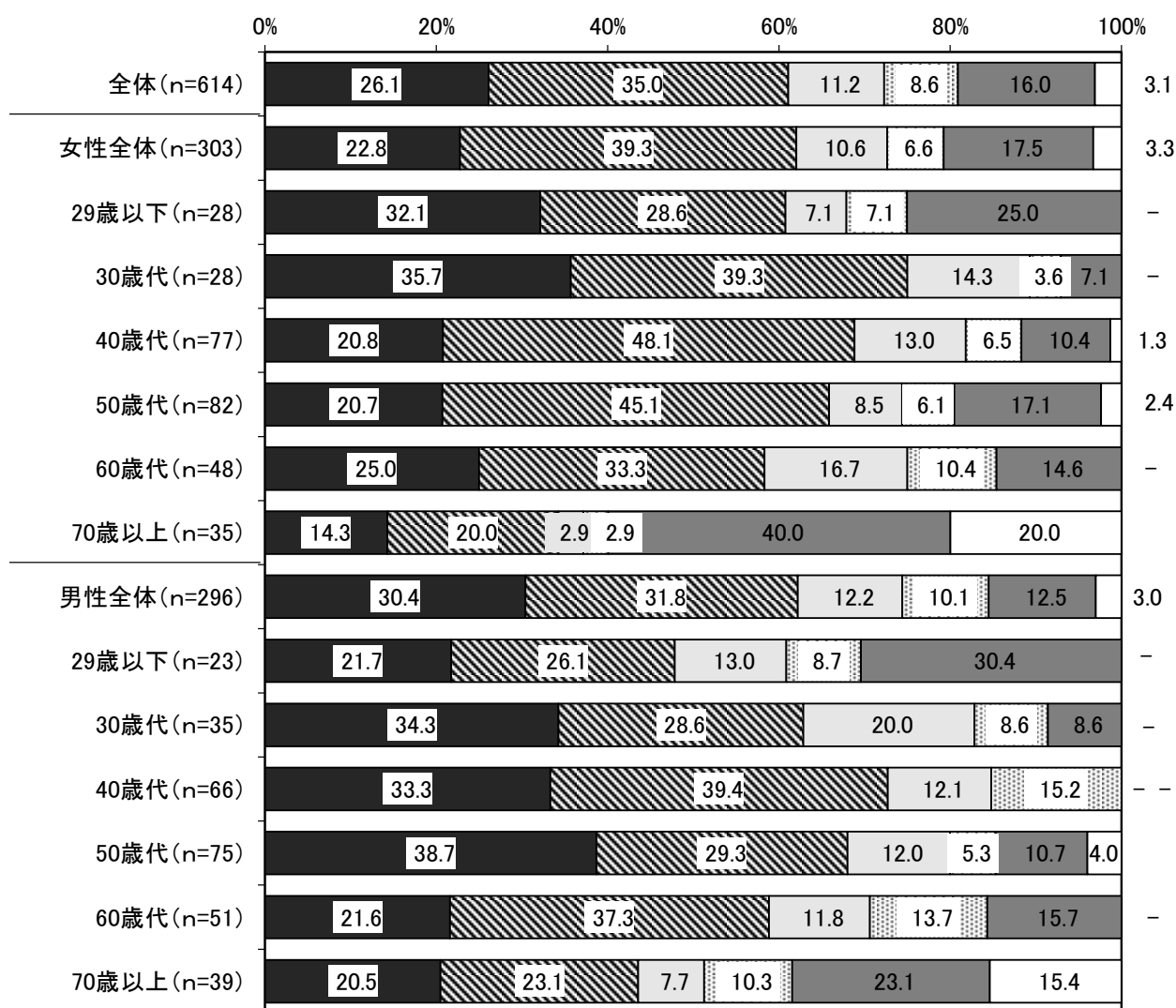
問2「A 収入の得られる仕事」で「8時間以上」～「30分未満」と答えた方

問2-5 あなたの職場では、社員（職員）が有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。（1つに○）

職場の休暇取得のしやすさは、全体で「どちらかといえば取りやすい」が35.0%と最も高く、次いで「取りやすい」が26.1%、「わからない」が16.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば取りやすい」が最も高く、女性で39.3%、男性で31.8%となっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性、30歳代と50歳代男性では「取りやすい」、70歳以上女性、29歳以下男性では「わからない」、70歳以上男性では「どちらかといえば取りやすい」「わからない」、その他の年代では「どちらかといえば取りやすい」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて70歳以上女性、29歳以下男性、70歳以上男性では『取りやすい』（「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」の合計）が低くなっています。



■取りやすい ■どちらかといえば取りやすい □どちらかといえば取りにくい □取りにくい □わからない □不明・無回答

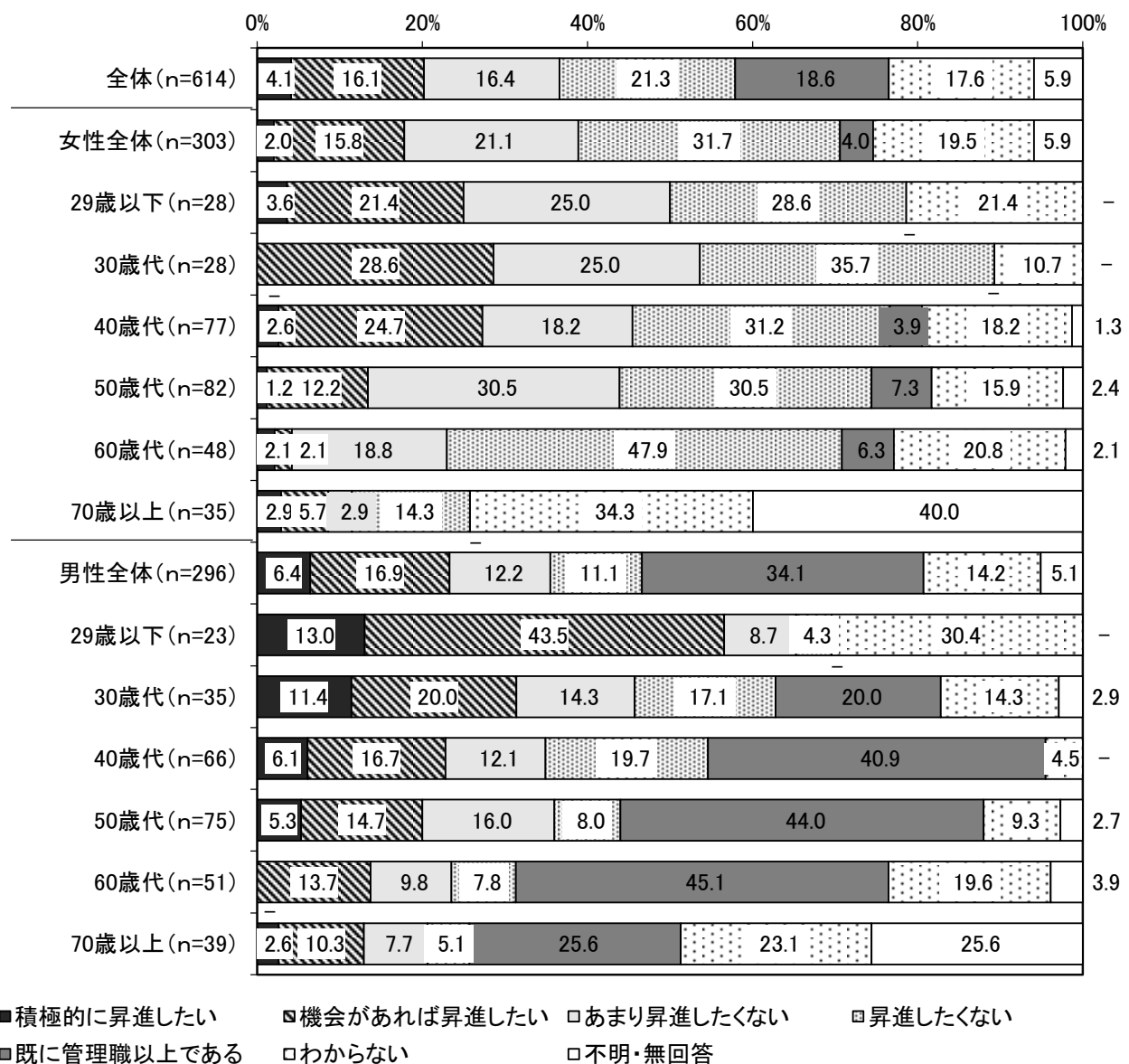
問2「A 収入の得られる仕事」で「8時間以上」～「30分未満」と答えた方

問2-6 あなたは、管理職以上に昇進したいと思いますか。(1つに○)

管理職以上に昇進したいと思うかは、全体で「昇進したくない」が21.3%と最も高く、次いで「既に管理職以上である」が18.6%、「わからない」が17.6%となっています。

性別にみると、女性では「昇進したくない」が31.7%、男性では「既に管理職以上である」が34.1%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「昇進したくない」が高く、男性は女性に比べて「既に管理職以上である」が高くなっています。

性・年代別でみると、女性では70歳以上で「わからない」、その他の年代で「昇進したくない」が最も高くなっています。一方、男性では29歳以下で「機会があれば昇進したい」、30歳代で「機会があれば昇進したい」「既に管理職以上である」、その他の年代で「既に管理職以上である」が最も高くなっています。



問2-6で「あまり昇進したくない」または「昇進したくない」と答えた方

問2-6-1 昇進したくないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

昇進したくないと思う理由は、全体で「責任が重くなるから」が54.3%と最も高く、次いで「やるべき仕事が増えるから」が49.1%、「仕事と家庭生活の両立が困難になるから」が48.3%となっています。

性別にみると、女性では「仕事と家庭生活の両立が困難になるから」が55.6%、男性では「責任が重くなるから」が53.6%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「仕事と家庭生活の両立が困難になるから」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下と50歳代女性、40～50歳代男性では「責任が重くなるから」、30～40歳代と60歳代女性では「仕事と家庭生活の両立が困難になるから」、30歳代男性では「やるべき仕事が増えるから」が最も高くなっています。

単位：％		が自分 多分 自身 で決 定す る事 柄	やる べき 仕事 が増 える か	責任 が重 くなる から	ねた みや 嫉妬 で足 を引 つ	仕事 と家 庭生 活の 両立 が	そ 他	特 に理 由は ない	わ か ら ない	不 明・ 無回 答
全体(n=232)		16.4	49.1	54.3	9.9	48.3	13.8	3.9	-	0.4
女性	女性全体(n=160)	19.4	47.5	55.0	7.5	55.6	10.0	3.1	-	0.6
	29歳以下(n=15)	40.0	40.0	60.0	20.0	46.7	6.7	13.3	-	-
	30歳代(n=17)	17.6	70.6	52.9	5.9	76.5	-	-	-	-
	40歳代(n=38)	28.9	52.6	60.5	7.9	71.1	2.6	2.6	-	-
	50歳代(n=50)	12.0	36.0	52.0	2.0	40.0	16.0	2.0	-	2.0
	60歳代(n=32)	15.6	56.3	56.3	9.4	59.4	15.6	-	-	-
	70歳以上(n=6)	-	16.7	16.7	-	33.3	16.7	16.7	-	-
男性	男性全体(n=69)	10.1	50.7	53.6	15.9	31.9	21.7	5.8	-	-
	29歳以下(n=3)	-	100.0	100.0	33.3	33.3	33.3	-	-	-
	30歳代(n=11)	-	72.7	54.5	-	36.4	27.3	-	-	-
	40歳代(n=21)	14.3	52.4	57.1	28.6	42.9	23.8	9.5	-	-
	50歳代(n=18)	5.6	50.0	55.6	11.1	27.8	16.7	5.6	-	-
	60歳代(n=9)	11.1	22.2	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1	-	-
	70歳以上(n=5)	40.0	20.0	40.0	-	40.0	20.0	-	-	-

問3 女性の働き方についてあなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。(1つに○)

〔共通設問：市内在勤者調査…問4〕

女性の働き方に対する考え方は、全体で「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい」が40.1%と最も高く、次いで「出産や育児にかかわらず、仕事を持ち続けた方がよい」が32.6%、「必要に応じて、臨時にパートやアルバイトをするのがよい」が9.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい」が最も高く、女性で41.2%、男性で39.6%となっています。

性・年代別でみると、30歳代女性では「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい」「出産や育児にかかわらず、仕事を持ち続けた方がよい」、40～50歳代女性では「出産や育児にかかわらず、仕事を持ち続けた方がよい」、その他の年代では「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい」が最も高くなっています。

単位：%		に 結 い、 婚 た 女 性 が は よ い に い 出 な い か で わ ら	事 出 や 産 や 育 児 に 専 念 し た 退 職 が し よ て い	な 休 家 っ・ 事 て 退 か 職 育 児 再 、 が 子 忙 働 ど し の が 大 期 よ き に い く は	事 出 を 産 持 や ち 育 続 け に た か 方 が わ ら い ず 、 仕	や 必 ア 要 ル に バ イ ジ ト を 、 臨 時 の に が バ よ い ト	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=950)		0.3	2.8	40.1	32.6	9.7	4.8	7.4	2.2
女性	女性全体(n=497)	-	1.8	41.2	37.2	8.5	3.0	6.2	2.0
	29歳以下(n=39)	-	5.1	51.3	23.1	10.3	2.6	7.7	-
	30歳代(n=34)	-	-	41.2	41.2	2.9	5.9	8.8	-
	40歳代(n=88)	-	1.1	30.7	50.0	8.0	3.4	6.8	-
	50歳代(n=99)	-	-	39.4	47.5	6.1	4.0	3.0	-
	60歳代(n=84)	-	1.2	47.6	40.5	6.0	1.2	2.4	1.2
	70歳以上(n=145)	-	2.8	42.1	25.5	12.4	2.8	9.0	5.5
男性	男性全体(n=422)	0.5	3.8	39.6	28.0	11.6	6.9	8.3	1.4
	29歳以下(n=30)	-	6.7	40.0	20.0	13.3	6.7	10.0	3.3
	30歳代(n=38)	-	2.6	52.6	15.8	5.3	13.2	10.5	-
	40歳代(n=68)	1.5	2.9	38.2	29.4	10.3	11.8	5.9	-
	50歳代(n=80)	1.3	6.3	43.8	27.5	10.0	7.5	3.8	-
	60歳代(n=69)	-	2.9	42.0	31.9	14.5	4.3	1.4	2.9
	70歳以上(n=126)	-	3.2	32.5	31.0	12.7	4.0	14.3	2.4

問4 育児や介護があっても仕事を継続できるようにするにはどのような援助や対策が望まれると思いますか。(あてはまるものすべてに○) [共通設問：市内在勤者調査…問5]

育児や介護があっても仕事を継続できるようにするために望まれる援助や対策は、全体で「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」が72.9%と最も高く、次いで「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」が71.3%、「保育・介護施設や保育・介護制度が充実していること」が66.8%となっています。

性別にみると、女性では「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」が77.1%、男性では「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」が71.6%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」「病人や高齢者の世話が家族のだれか一人に任されないようにすること」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下と70歳以上女性、70歳以上男性では「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」、30歳代女性では「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」「保育・介護施設や保育・介護制度が充実していること」、60歳代女性では「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」、その他の年代では「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」が最も高くなっています。

単位：％		解 育 ・ 児 協 育 力 や を 介 得 護 る の と 時 こ 間 事 事 業 業 の 理	解 育 ・ 児 協 育 力 や を 介 得 護 る の と 時 こ 間 事 事 業 業 の 理	員 配 と 属 差 や を 仕 設 事 け の 内 容 に 他 の 従 業	と 業 待 員 遇 と 差 が 与 え な い よ う に 他 の 従	と 機 育 育 会 や ・ 介 採 護 用 数 を を 行 同 う 等 に 社 員 の 雇	制 保 度 が ・ 介 充 護 実 し 施 設 を や 保 育 と ・ 介 護	に だ れ か や 高 齢 者 に 者 に 任 さ れ な い 家 族 の	こ の と ち や 育 児 の 介 護 を 機 に 家 族	出 産 や 育 児 の 介 護 を 機 に 家 族	や 育 児 休 業 や 介 護 休 業 等 が 取 り	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=950)		71.3	72.9	20.6	31.6	25.1	66.8	56.3	41.2	66.0	3.2	5.1	1.4	
女性	女性全体(n=497)	77.1	75.9	19.1	29.2	25.4	72.0	65.2	46.5	68.0	4.2	4.0	1.0	
	29歳以下(n=39)	82.1	79.5	35.9	48.7	23.1	66.7	66.7	43.6	59.0	5.1	2.6	-	
	30歳代(n=34)	79.4	85.3	20.6	26.5	23.5	85.3	52.9	41.2	73.5	14.7	-	-	
	40歳代(n=88)	81.8	84.1	21.6	28.4	26.1	77.3	67.0	47.7	75.0	5.7	5.7	-	
	50歳代(n=99)	77.8	87.9	13.1	26.3	24.2	70.7	71.7	54.5	70.7	4.0	-	-	
	60歳代(n=84)	82.1	82.1	15.5	26.2	25.0	76.2	72.6	50.0	71.4	2.4	-	-	
	70歳以上(n=145)	68.3	55.9	18.6	26.9	25.5	65.5	57.9	39.3	60.7	2.1	9.7	2.8	
男性	男性全体(n=422)	66.4	71.6	22.5	34.4	24.9	62.3	47.2	35.1	65.2	1.9	5.5	0.7	
	29歳以下(n=30)	63.3	76.7	36.7	36.7	23.3	50.0	40.0	30.0	70.0	3.3	3.3	-	
	30歳代(n=38)	60.5	81.6	18.4	34.2	23.7	55.3	28.9	31.6	68.4	7.9	10.5	-	
	40歳代(n=68)	70.6	85.3	30.9	32.4	33.8	64.7	48.5	32.4	70.6	1.5	2.9	-	
	50歳代(n=80)	58.8	71.3	32.5	48.8	21.3	63.7	41.3	45.0	60.0	-	5.0	-	
	60歳代(n=69)	72.5	76.8	14.5	36.2	26.1	69.6	58.0	42.0	72.5	-	-	2.9	
	70歳以上(n=126)	68.3	59.5	14.3	25.4	22.2	61.9	53.2	29.4	61.1	2.4	8.7	0.8	

3 ワーク・ライフ・バランスについて

問2 「A 収入の得られる仕事」で「8時間以上」～「30分未満」と答えた方

問5 生活の中での、仕事・家事（育児・介護を含む）・プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度について、「理想」と「現実」のそれぞれの視点で、あなたのお考えや現状に最も近いものはどれですか。

A 理想は（1つに○）〔共通設問：市内在勤者調査…問6 A〕

理想のワーク・ライフ・バランスは、全体で「仕事・家事・プライベートを両立」が49.8%と最も高く、次いで「プライベートな時間優先」が16.6%、「仕事とプライベート優先」が12.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「仕事・家事・プライベートを両立」が最も高く、女性で53.8%、男性で44.9%となっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「プライベートな時間優先」、その他の年代では「仕事・家事・プライベートを両立」が最も高くなっています。

単位：％		仕事 優先	家事 優先	プ ラ イ ベ ー ト な 時 間 優 先	仕事 と 家事 優先	仕事 と プ ラ イ ベ ー ト 優 先	家事 と プ ラ イ ベ ー ト 優 先	仕事・家事・ プライベート を両立	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=614)		2.8	1.8	16.6	6.2	12.4	6.7	49.8	2.1	1.6
女性	女性全体(n=303)	1.0	1.7	15.5	5.9	10.9	7.6	53.8	1.3	2.3
	29歳以下(n=28)	-	-	39.3	7.1	28.6	3.6	21.4	-	-
	30歳代(n=28)	-	3.6	28.6	-	7.1	17.9	42.9	-	-
	40歳代(n=77)	-	1.3	11.7	3.9	9.1	9.1	61.0	2.6	1.3
	50歳代(n=82)	2.4	1.2	13.4	4.9	13.4	7.3	57.3	-	-
	60歳代(n=48)	-	-	12.5	10.4	6.3	6.3	62.5	2.1	-
	70歳以上(n=35)	2.9	5.7	2.9	11.4	2.9	-	54.3	2.9	17.1
男性	男性全体(n=296)	4.7	2.0	17.9	6.8	14.2	6.1	44.9	2.4	1.0
	29歳以下(n=23)	-	-	34.8	-	21.7	-	43.5	-	-
	30歳代(n=35)	-	5.7	20.0	2.9	14.3	22.9	25.7	8.6	-
	40歳代(n=66)	1.5	3.0	27.3	3.0	12.1	1.5	51.5	-	-
	50歳代(n=75)	5.3	1.3	16.0	10.7	14.7	8.0	42.7	-	1.3
	60歳代(n=51)	5.9	2.0	3.9	7.8	13.7	5.9	58.8	2.0	-
	70歳以上(n=39)	12.8	-	10.3	10.3	15.4	-	38.5	7.7	5.1

◆経年比較 問5 A 理想は

前回調査と比較すると、「プライベートな時間優先」が5.1ポイント高くなっています。

性別でみると、女性では「仕事とプライベート優先」が6.5ポイント高くなっています。男性では「プライベートな時間優先」が6.0ポイント高くなっています。

単位：％		仕事優先	家事優先	プライベートな時間優先	仕事と家事優先	仕事とプライベート優先	家事とプライベート優先	仕事を両立・家事・プライベート	わからない	不明・無回答
全体	令和6(2024)年(n=614)	2.8	1.8	16.6	6.2	12.4	6.7	49.8	2.1	1.6
	平成26(2014)年(n=898)	4.6	3.7	11.5	5.2	9.2	9.0	50.1	-	6.7
女性	令和6(2024)年(n=303)	1.0	1.7	15.5	5.9	10.9	7.6	53.8	1.3	2.3
	平成26(2014)年(n=495)	2.2	4.6	11.3	4.2	4.4	13.7	52.3	-	7.1
男性	令和6(2024)年(n=296)	4.7	2.0	17.9	6.8	14.2	6.1	44.9	2.4	1.0
	平成26(2014)年(n=378)	7.9	2.1	11.9	6.6	15.6	3.2	49.2	-	3.4

※「わからない」は、今回調査より追加。

B 現実（１つに○）〔共通設問：市内在勤者調査…問 6 B〕

現実のワーク・ライフ・バランスは、全体で「仕事優先」が 35.2%と最も高く、次いで「仕事と家事優先」が 24.3%、「仕事・家事・プライベートを両立」が 12.1%となっています。

性別にみると、女性では「仕事と家事優先」が 31.7%、男性では「仕事優先」が 47.6%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「仕事と家事優先」が高く、男性は女性に比べて「仕事優先」が高くなっています。

性・年代別でみると、40 歳以上女性では「仕事と家事優先」、その他の年代では「仕事優先」が最も高くなっています。

単位：％		仕事優先	家事優先	プライベートな時間優先	仕事と家事優先	仕事とプライベート優先	家事とプライベート優先	仕事・家事・プライベートを両立	わからない	不明・無回答
全体(n=614)		35.2	5.2	2.4	24.3	10.1	3.7	12.1	4.1	2.9
女性	女性全体(n=303)	22.1	9.9	3.3	31.7	6.3	5.3	13.9	3.3	4.3
	29歳以下(n=28)	35.7	7.1	14.3	7.1	21.4	3.6	10.7	-	-
	30歳代(n=28)	28.6	10.7	3.6	25.0	-	14.3	10.7	7.1	-
	40歳代(n=77)	19.5	16.9	2.6	33.8	3.9	5.2	13.0	3.9	1.3
	50歳代(n=82)	20.7	7.3	2.4	37.8	6.1	7.3	17.1	1.2	-
	60歳代(n=48)	27.1	-	-	37.5	10.4	2.1	16.7	2.1	4.2
	70歳以上(n=35)	8.6	17.1	-	28.6	-	-	11.4	5.7	28.6
男性	男性全体(n=296)	47.6	0.7	1.7	16.9	14.5	2.4	10.8	4.4	1.0
	29歳以下(n=23)	39.1	-	4.3	8.7	26.1	-	-	21.7	-
	30歳代(n=35)	51.4	5.7	-	14.3	2.9	8.6	5.7	11.4	-
	40歳代(n=66)	51.5	-	1.5	15.2	16.7	1.5	13.6	-	-
	50歳代(n=75)	49.3	-	1.3	24.0	13.3	1.3	9.3	-	1.3
	60歳代(n=51)	41.2	-	2.0	15.7	15.7	2.0	19.6	3.9	-
	70歳以上(n=39)	51.3	-	2.6	10.3	17.9	-	7.7	5.1	5.1

◆経年比較 問5 B 現実

前回調査と比較すると、「仕事・家事・プライベートを両立」が6.4ポイント高くなっています。また、「家事優先」が8.7ポイント、「家事とプライベート優先」が5.5ポイント低くなっています。性別でみると、女性では「家事優先」が12.1ポイント、「家事とプライベート優先」が8.4ポイントと、それぞれ低くなっています。また、男性では「仕事優先」が5.8ポイント低くなっています。

単位：％		仕事優先	家事優先	プライベートな時間優先	仕事と家事優先	仕事とプライベート優先	家事とプライベート優先	仕事・家事・プライベートを両立	わからない	不明・無回答
全体	令和6(2024)年(n=614)	35.2	5.2	2.4	24.3	10.1	3.7	12.1	4.1	2.9
	平成26(2014)年(n=898)	33.4	13.9	3.1	19.0	9.4	9.2	5.7	-	6.2
女性	令和6(2024)年(n=303)	22.1	9.9	3.3	31.7	6.3	5.3	13.9	3.3	4.3
	平成26(2014)年(n=495)	18.6	22.0	1.8	24.2	6.9	13.7	5.7	-	7.1
男性	令和6(2024)年(n=296)	47.6	0.7	1.7	16.9	14.5	2.4	10.8	4.4	1.0
	平成26(2014)年(n=378)	53.4	3.2	4.8	13.2	12.4	3.2	6.1	-	3.7

※「わからない」は、今回調査より追加。

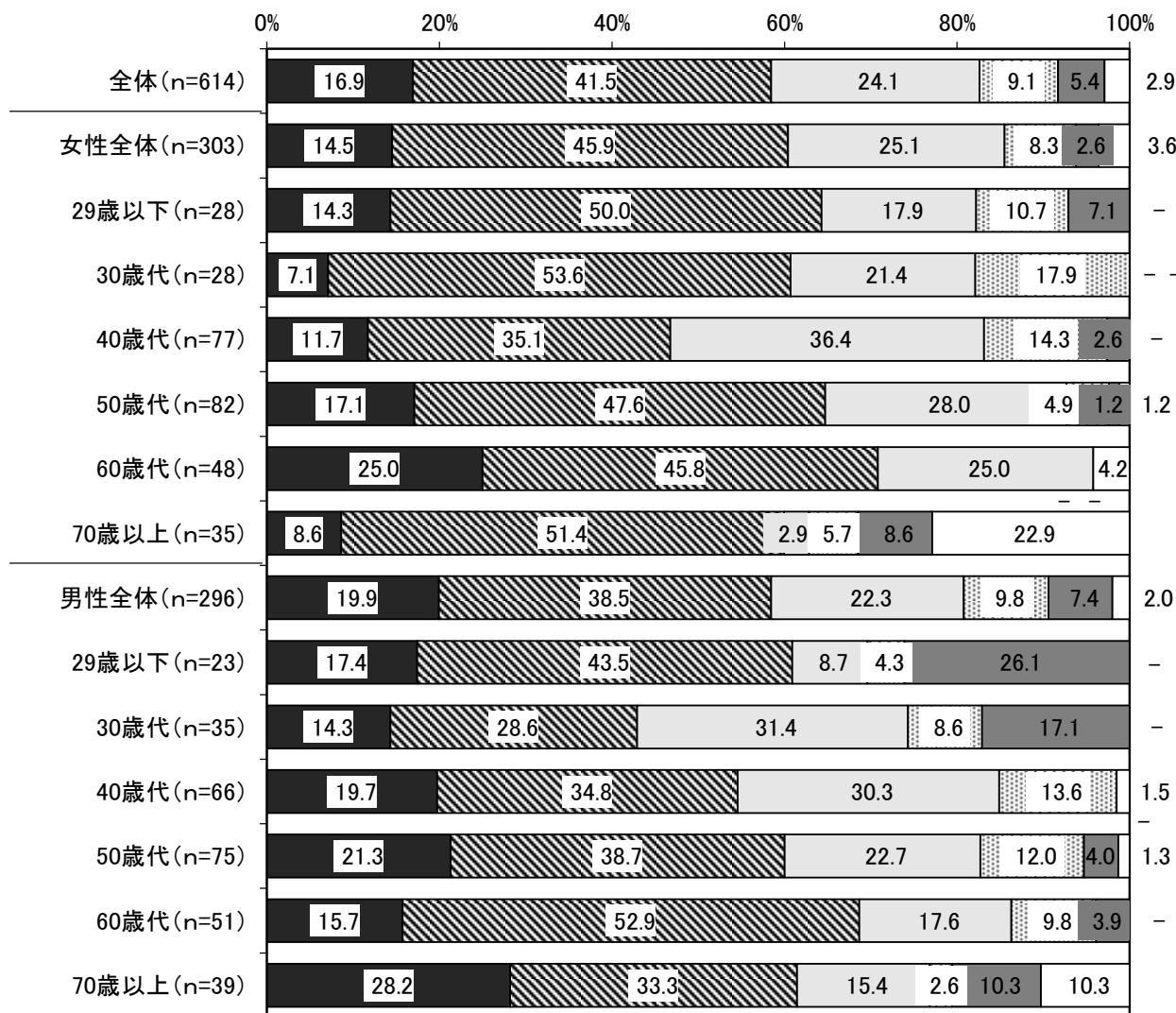
問2「A 収入の得られる仕事」で「8時間以上」～「30分未満」と答えた方

問6 あなたにとって、仕事・家事（育児・介護を含む）・プライベートな時間のバランスは、うまくとれていると思いますか。（1つに○）[共通設問：市内在勤者調査…問7]

ワーク・ライフ・バランスがうまくとれていると思うかは、全体で「ややとれている」が41.5%と最も高く、次いで「あまりとれていない」が24.1%、「うまくとれている」が16.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「ややとれている」が最も高く、女性で45.9%、男性で38.5%となっています。

性・年代別でみると、40歳代女性、30歳代男性では「あまりとれていない」、その他の年代では「ややとれている」が最も高くなっています。

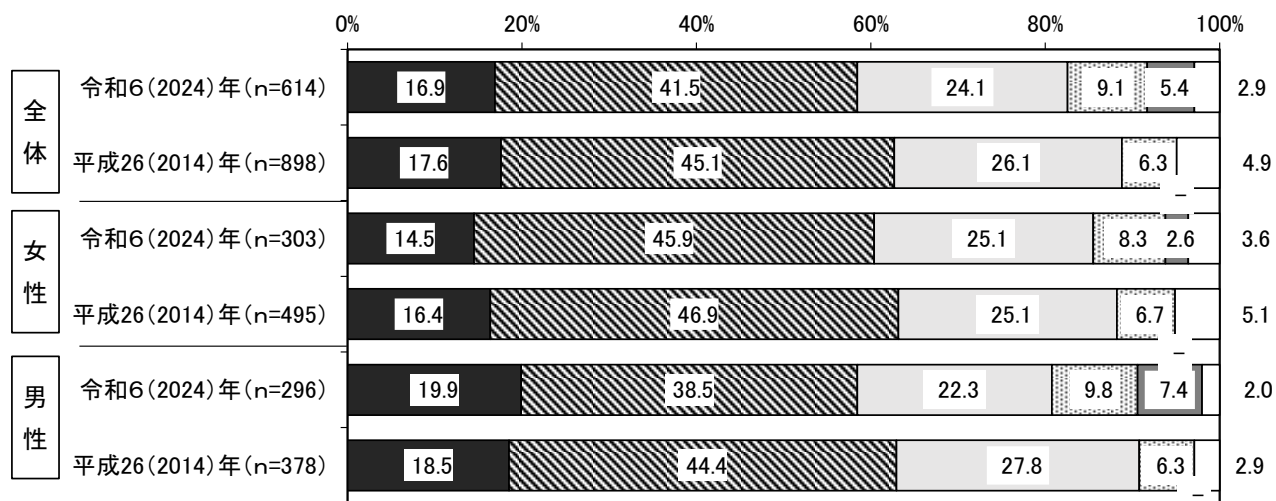


■うまくとれている ■ややとれている □あまりとれていない □まったくとれていない ■わからない □不明・無回答

◆経年比較 問6

前回調査と比較すると、大きな差は見られません。

性別でみると、男性では「ややとれている」が5.9ポイント低くなっています。



■うまくとれている ■ややとれている □あまりとれていない □まったくとれていない ■わからない □不明・無回答

問6で「あまりとれていない」または「まったくとれていない」と答えた方

問6-1 仕事・家事（育児・介護を含む）・プライベートな時間のバランスがうまくとれていない理由は何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

ワーク・ライフ・バランスがうまくとれていない理由は、全体で「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」が50.0%と最も高く、次いで「生活のため、仕事（収入）を優先せざるを得ないから」が48.0%、「家事、育児、介護等をしなければならないから」が25.5%となっています。

性別にみると、女性では「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」が46.5%、男性では「生活のため、仕事（収入）を優先せざるを得ないから」が55.8%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「家族の理解や協力が得られないから」「家事、育児、介護等をしなければならないから」が高く、男性は女性に比べて「生活のため、仕事（収入）を優先せざるを得ないから」が高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代女性、40歳代男性では「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」、40歳代女性では「家事、育児、介護等をしなければならないから」「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」、50歳代女性では「生活のため、仕事（収入）を優先せざるを得ないから」「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」、60歳代女性では「家事、育児、介護等をしなければならないから」「生活のため、仕事（収入）を優先せざるを得ないから」、30歳代と50～60歳代男性では「生活のため、仕事（収入）を優先せざるを得ないから」が最も高くなっています。

単位：％		うまく時間配分ができないから	プライベートな時間に必要以上時間がかかるから	家族の理解や協力が得られないから	職場の理解や協力が得られないから	世間・家庭に「男性は仕事、女性に育児・介護等がある」という風潮や固定観念があるから	家事・育児・介護等をしなければならないから	子どもを預ける場所がないから	優先せざるを得ない（収入）を生活のため、仕事（収入）を優先せざるを得ないから	休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから	仕事（収入）を優先せざるを得ないから	近くにスポーツ・文化施設がないから	社会制度や環境が整っていないから	その他	わからない	不明・無回答
全体(n=204)		22.5	4.9	12.3	11.3	10.3	25.5	5.4	48.0	50.0	2.9	11.3	5.4	2.0	0.5	
女性	女性全体(n=101)	26.7	4.0	16.8	9.9	11.9	40.6	5.9	39.6	46.5	5.0	8.9	5.9	2.0	-	
	29歳以下(n=8)	37.5	12.5	-	12.5	-	-	-	12.5	75.0	-	-	-	-	-	
	30歳代(n=11)	27.3	-	9.1	18.2	18.2	54.5	27.3	45.5	63.6	18.2	9.1	9.1	-	-	
	40歳代(n=39)	25.6	5.1	23.1	10.3	15.4	46.2	7.7	43.6	46.2	2.6	10.3	5.1	2.6	-	
	50歳代(n=27)	18.5	-	22.2	7.4	11.1	44.4	-	48.1	48.1	-	14.8	3.7	-	-	
	60歳代(n=12)	33.3	8.3	8.3	-	-	33.3	-	33.3	25.0	16.7	-	-	8.3	-	
	70歳以上(n=3)	66.7	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	66.7	-	-	
男性	男性全体(n=95)	18.9	5.3	6.3	11.6	7.4	8.4	4.2	55.8	52.6	1.1	11.6	5.3	2.1	1.1	
	29歳以下(n=3)	33.3	-	-	33.3	-	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	
	30歳代(n=14)	-	7.1	7.1	21.4	21.4	28.6	14.3	71.4	64.3	-	35.7	7.1	-	-	
	40歳代(n=29)	27.6	10.3	6.9	17.2	3.4	3.4	6.9	44.8	69.0	-	10.3	-	3.4	3.4	
	50歳代(n=26)	15.4	-	7.7	3.8	7.7	7.7	-	57.7	46.2	-	-	3.8	3.8	-	
	60歳代(n=14)	21.4	7.1	7.1	-	-	-	-	71.4	35.7	7.1	21.4	7.1	-	-	
	70歳以上(n=7)	28.6	-	-	14.3	14.3	-	-	42.9	28.6	-	-	28.6	-	-	

4 男女共同参画に関する意識について

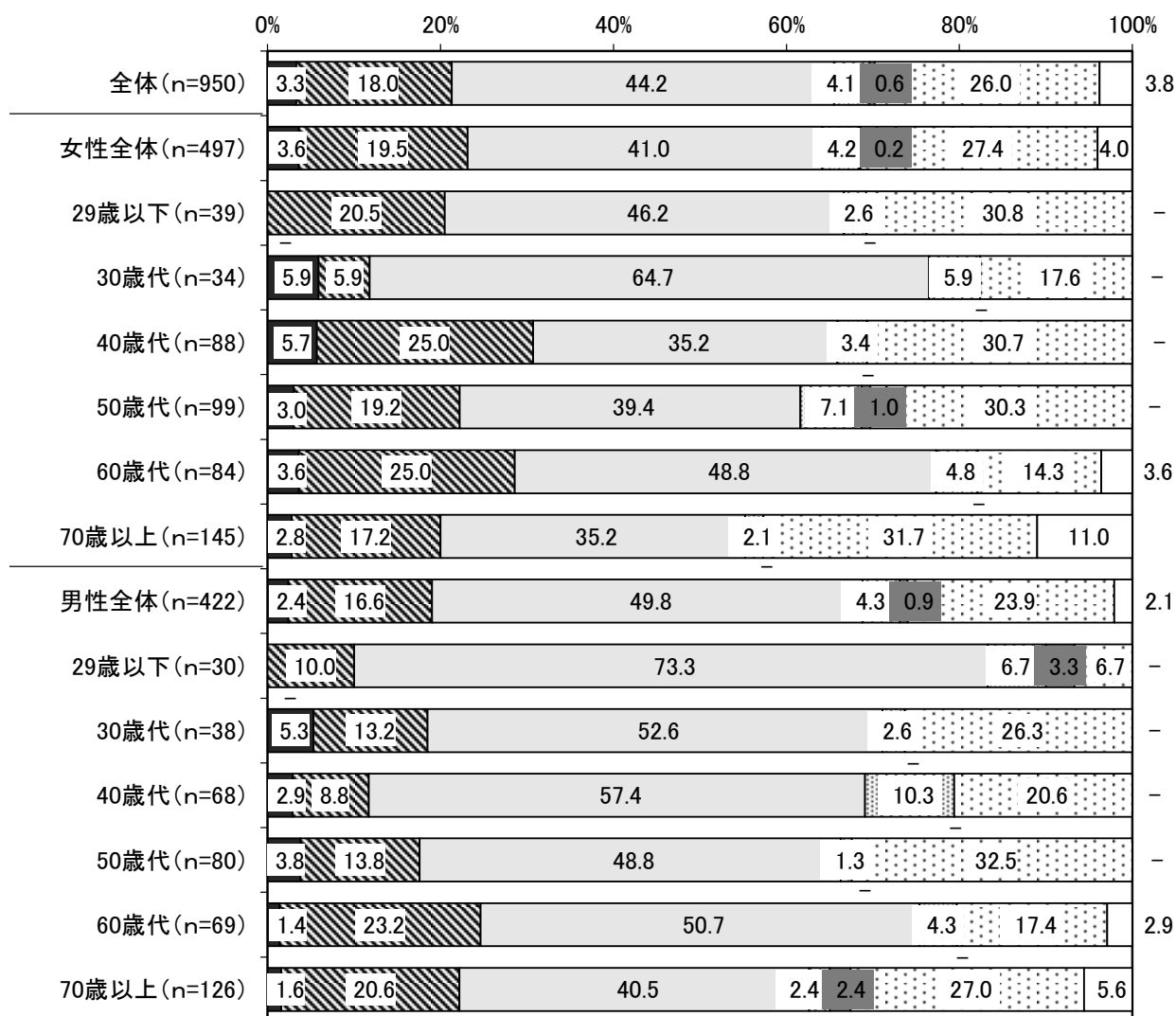
問7 次の各項目で、男女は対等な立場にあると思いますか。お考えに最も近い段階を選んでください。

A 学校教育の場（1つに○）[共通設問：中学生調査…問2 A]

学校教育の場の男女平等は、全体で「対等になっている」が44.2%と最も高く、次いで「わからない」が26.0%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が18.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「対等になっている」が最も高く、女性で41.0%、男性で49.8%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「対等になっている」が最も高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- 対等になっている
- 女性の方が非常に優遇されている
- 不明・無回答

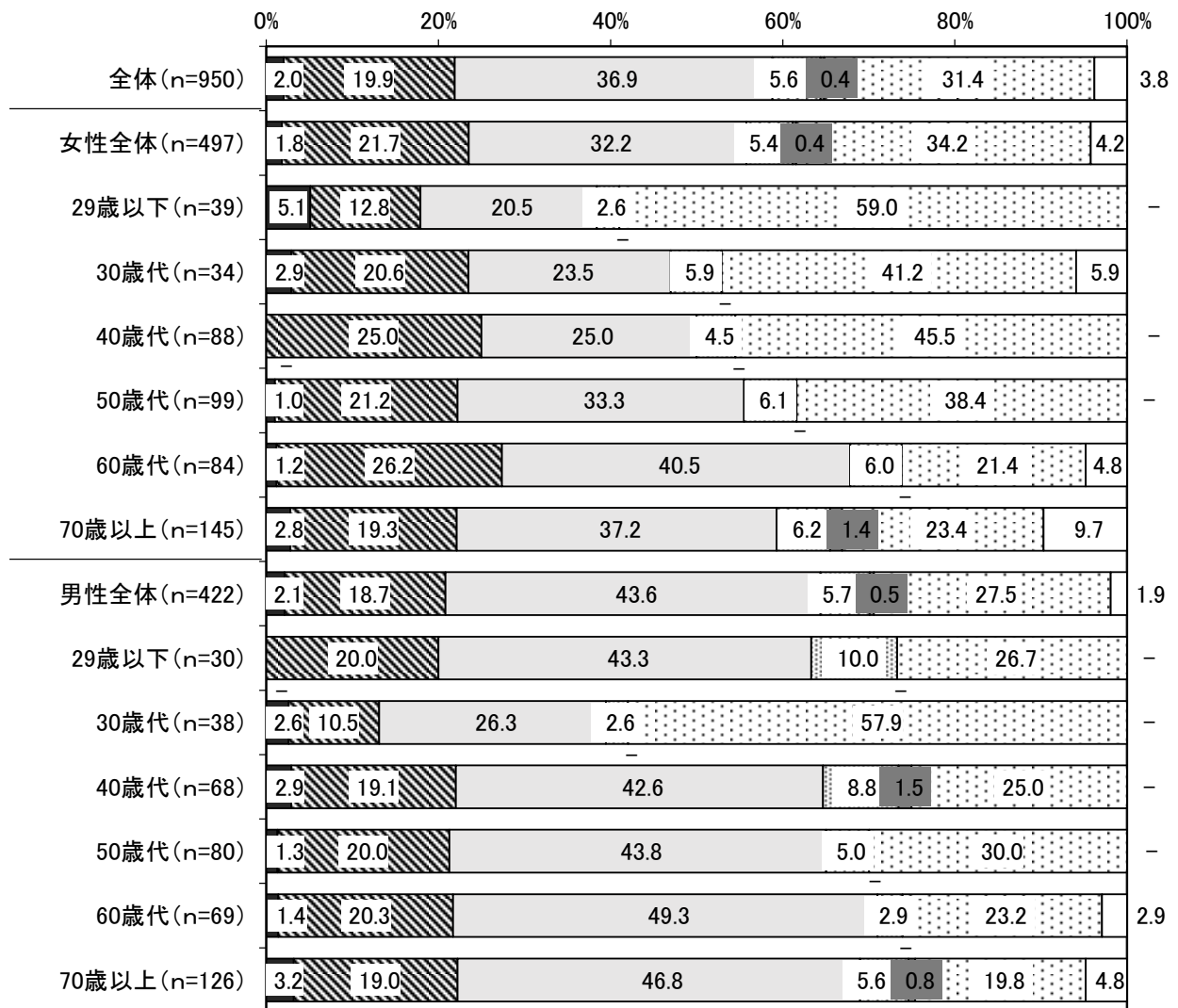
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない

B 地域活動の場（自治会、ボランティア等）（1つに○）[共通設問：中学生調査…問2 B]

地域活動の場の男女平等は、全体で「対等になっている」が36.9%と最も高く、次いで「わからない」が31.4%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が19.9%となっています。

性別にみると、女性では「わからない」が34.2%、男性では「対等になっている」が43.6%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「対等になっている」が低くなっています。

性・年代別でみると、50歳代以下女性、30歳代男性では「わからない」、その他の年代では「対等になっている」が最も高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- 対等になっている
- 女性の方が非常に優遇されている
- 不明・無回答

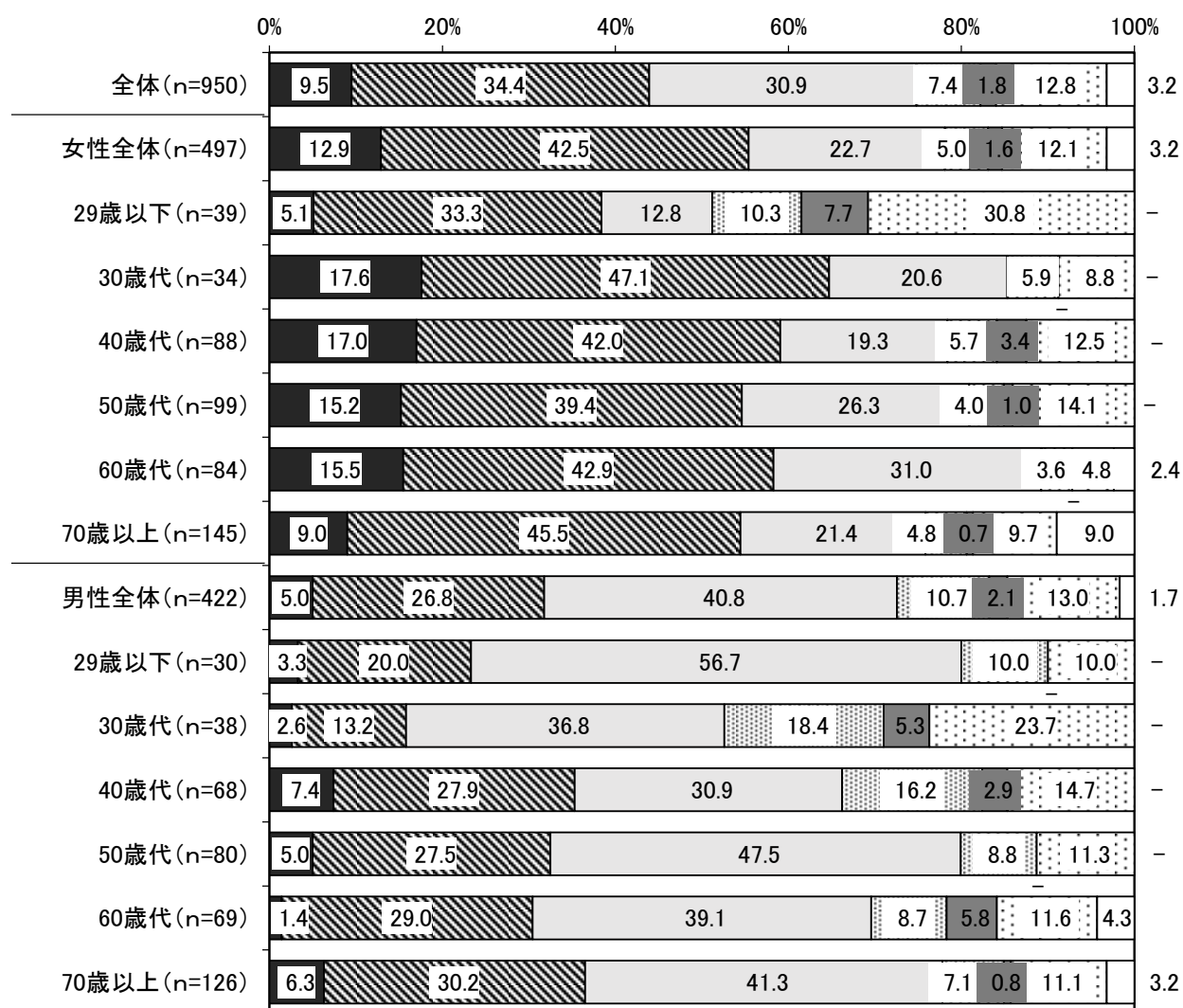
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない

C 家庭生活（1つに○）〔共通設問：中学生調査…問2 C〕

家庭生活の男女平等は、全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が34.4%と最も高く、次いで「対等になっている」が30.9%、「わからない」が12.8%となっています。

性別にみると、女性では『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合算）が55.4%、男性では「対等になっている」が40.8%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて『男性優遇』が高く、「対等になっている」が低くなっています。

性・年代別でみると、40歳代以外の男性では「対等になっている」、40歳代男性では『男性優遇』が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて30歳以上の女性では『男性優遇』が高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- 対等になっている
- 女性の方が非常に優遇されている
- 不明・無回答

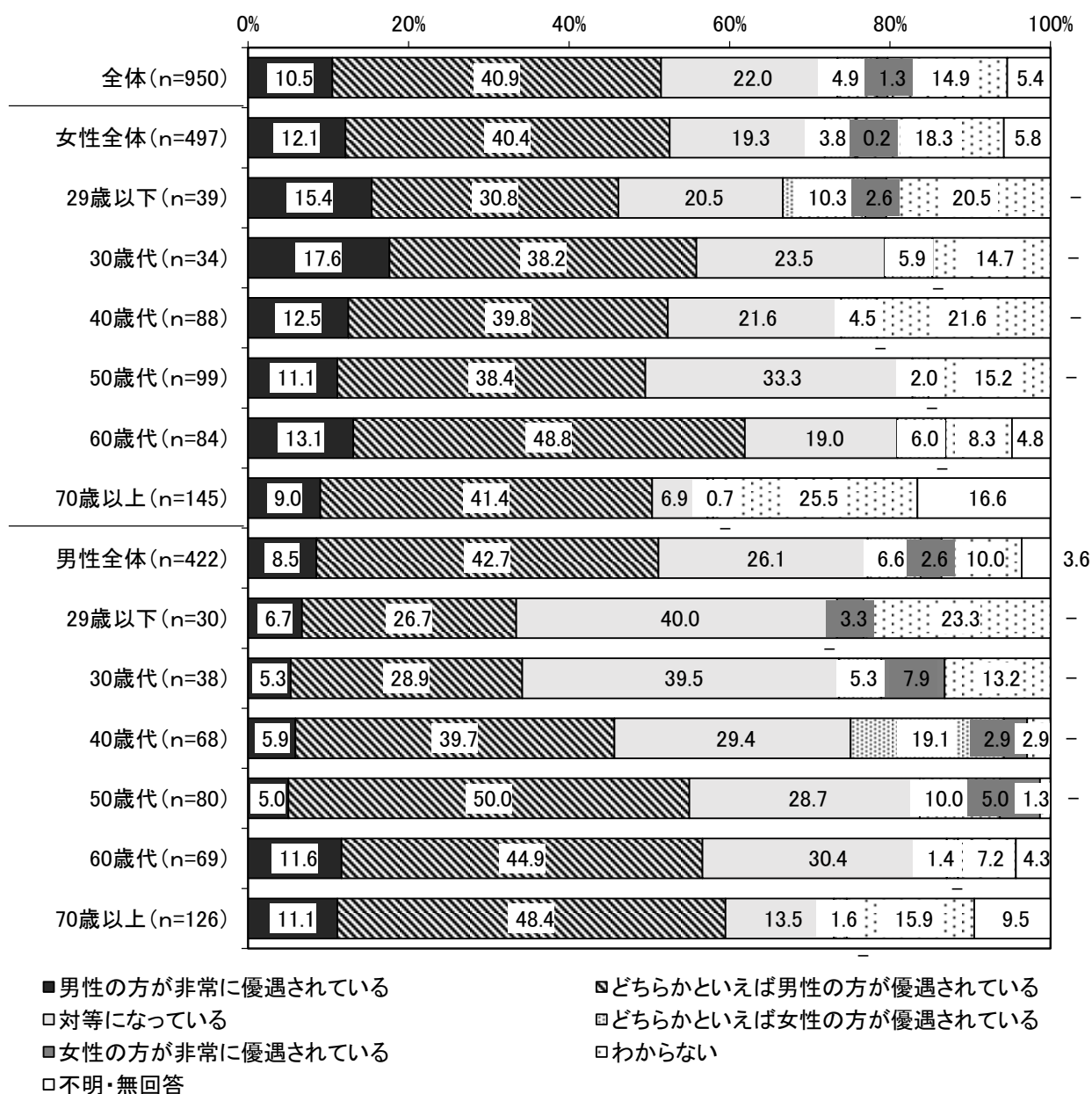
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない

D 職場（1つに○）

職場の男女平等は、全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.9%と最も高く、次いで「対等になっている」が22.0%、「わからない」が14.9%となっています。

性別にみると、男女ともに『男性優遇』が最も高く、女性で52.5%、男性で51.2%となっています。

性・年代別でみると、30歳代以下男性では「対等になっている」、その他の年代では『男性優遇』が最も高くなっています。

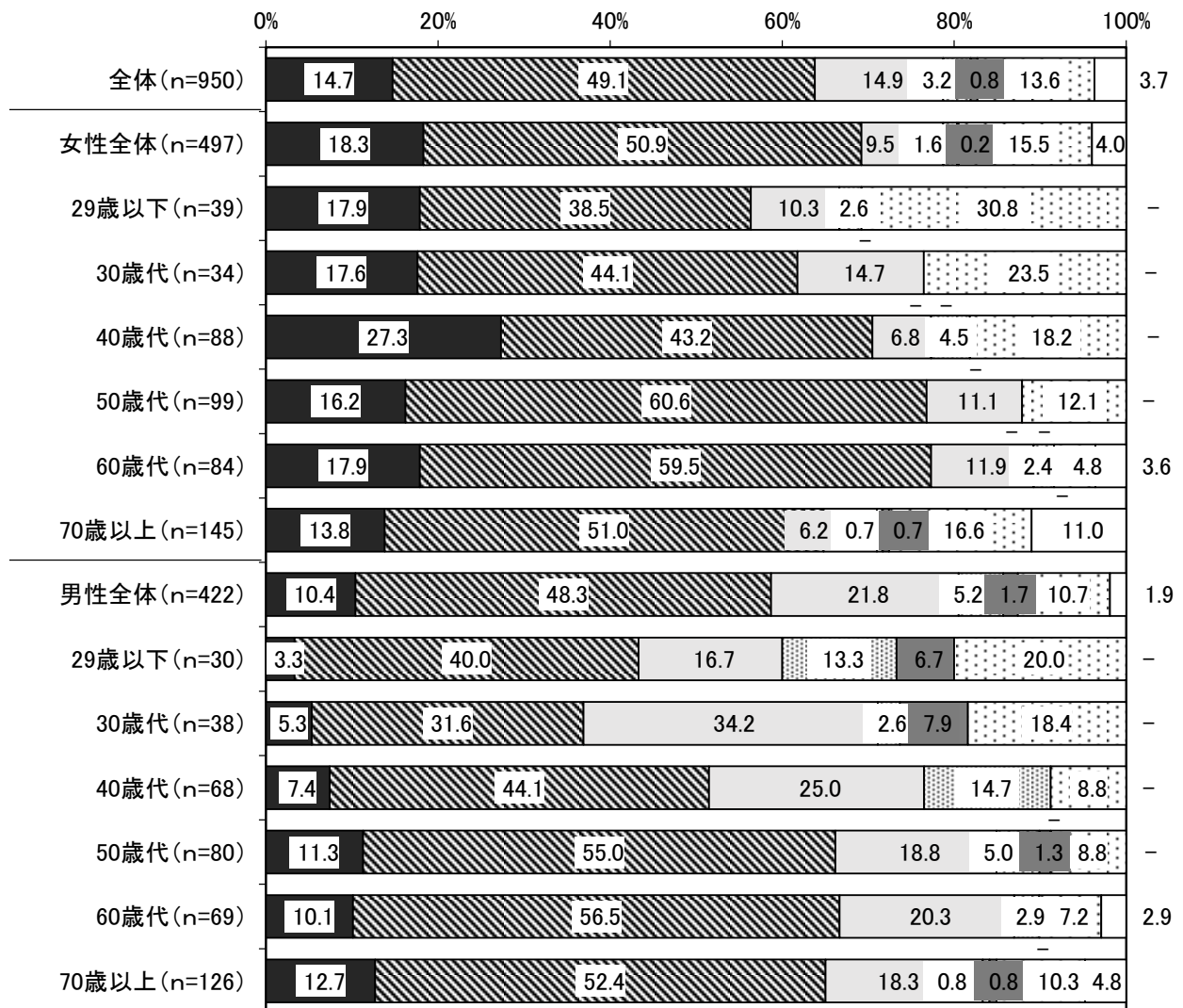


E 社会通念・慣習など（1つに○）[共通設問：中学生調査…問2 D]

社会通念・慣習などの男女平等は、全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が49.1%と最も高く、次いで「対等になっている」が14.9%、「男性の方が非常に優遇されている」が14.7%となっています。

性別にみると、男女ともに『男性優遇』が最も高く、女性で69.2%、男性で58.7%となっています。また、女性は男性に比べて『男性優遇』が高く、「対等になっている」が低くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で『男性優遇』が最も高くなっていますが、一方で、30歳代以下男性では他の性・年代に比べて『男性優遇』が低くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- 対等になっている
- 女性の方が非常に優遇されている
- 不明・無回答

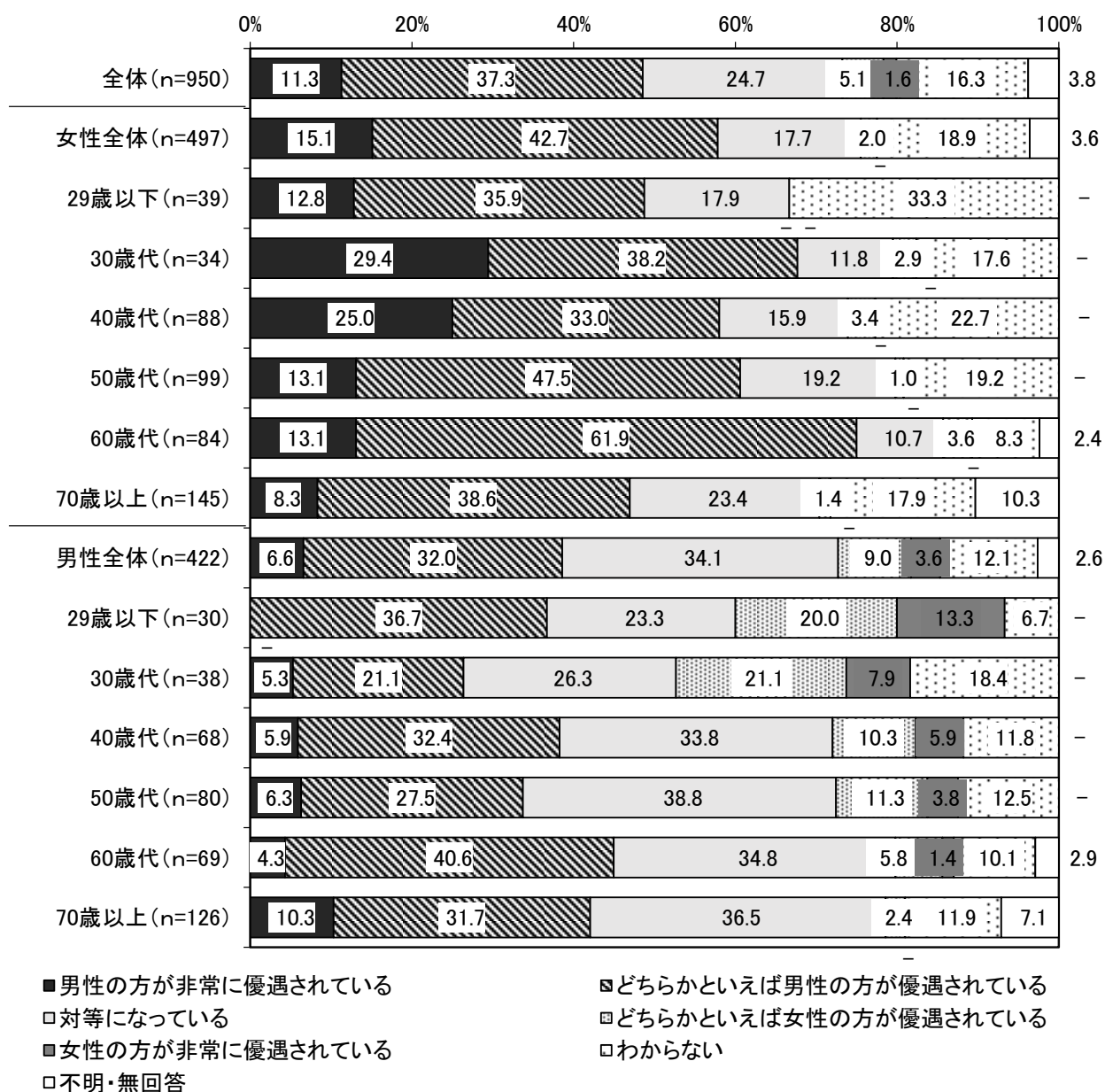
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない

F 法律や制度の上（1つに○）

法律や制度の上の男女平等は、全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.3%と最も高く、次いで「対等になっている」が24.7%、「わからない」が16.3%となっています。

性別にみると、男女ともに『男性優遇』が最も高く、女性で57.8%、男性で38.6%となっています。また、女性は男性に比べて『男性優遇』が高く、「対等になっている」が低くなっています。

性・年代別でみると、50歳代男性では「対等になっている」、その他の年代では『男性優遇』が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて30歳代以下男性では『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合算）が高くなっています。

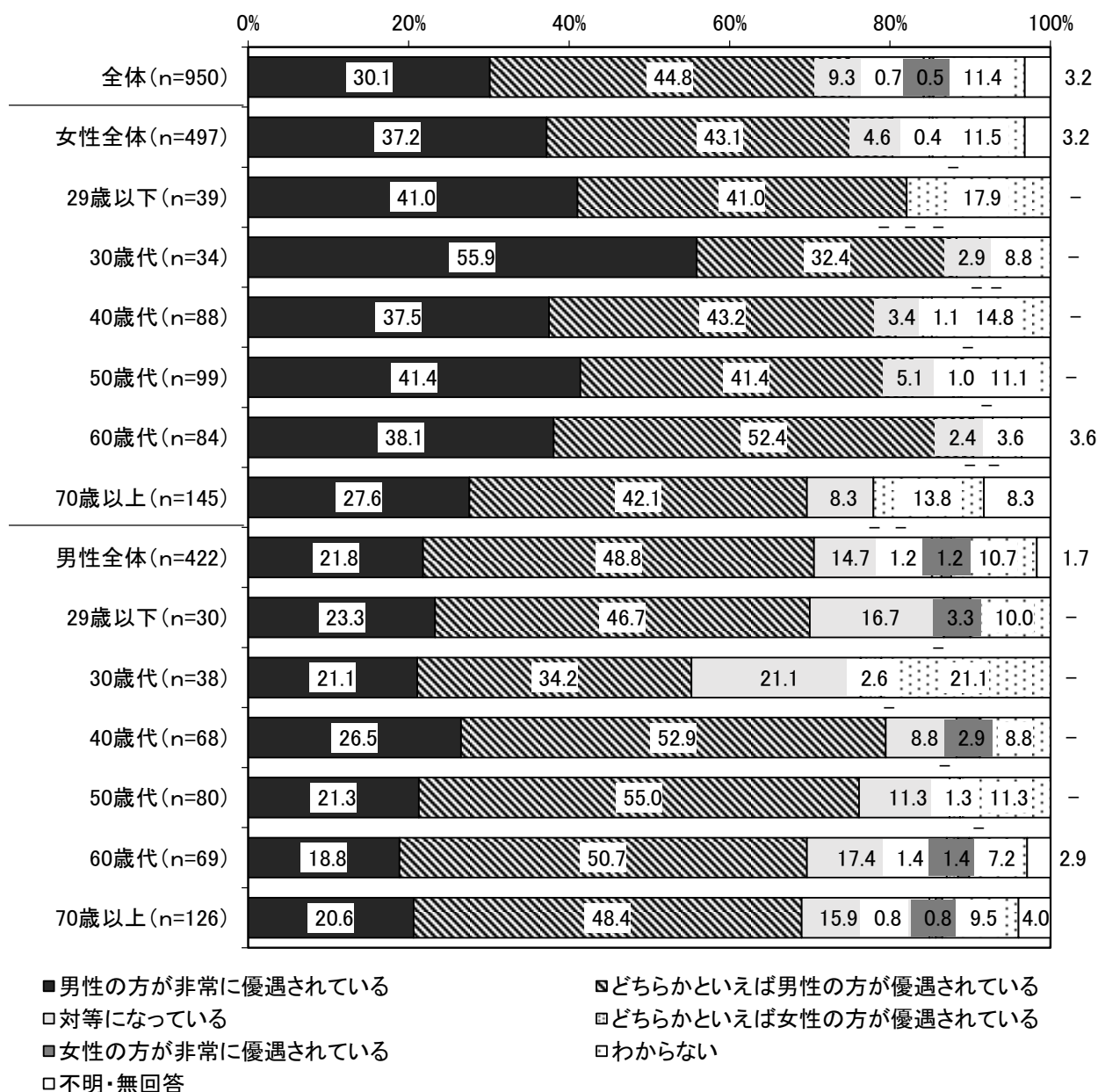


G 政治の場（1つに○）〔共通設問：中学生調査…問2 E〕

政治の場の男女平等は、全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が44.8%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が30.1%、「わからない」が11.4%となっています。

性別にみると、男女ともに『男性優遇』が最も高く、女性で80.3%、男性で70.6%となっています。また、女性は男性に比べて「対等になっている」が低くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で『男性優遇』が最も高くなっていますが、一方で、30歳代男性では他の性・年代に比べて『男性優遇』が低くなっています。

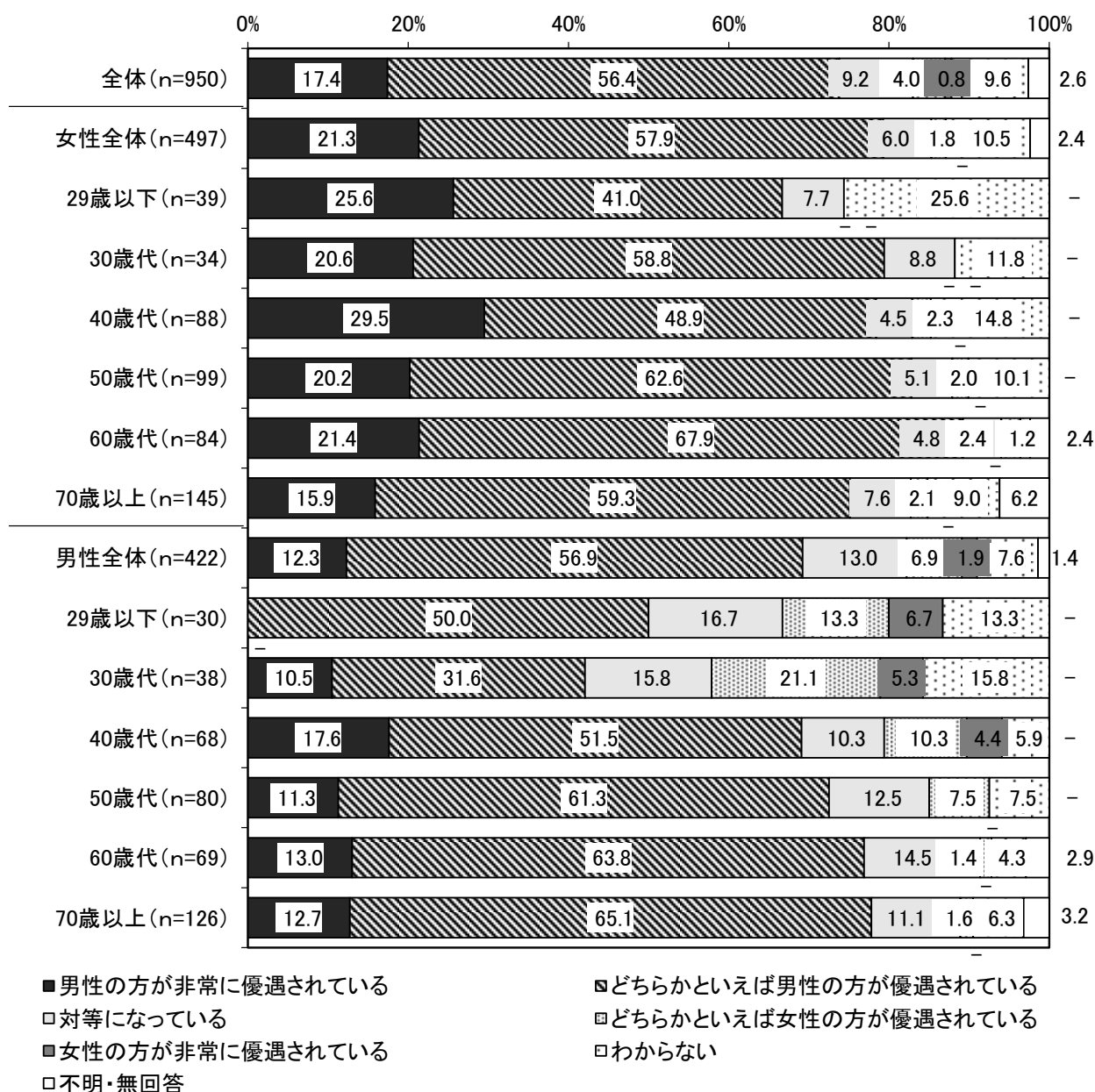


H 全体として今の日本では（1つに○）[共通設問：中学生調査…問2 F]

全体として今の日本での男女平等は、全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が56.4%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が17.4%、「わからない」が9.6%となっています。

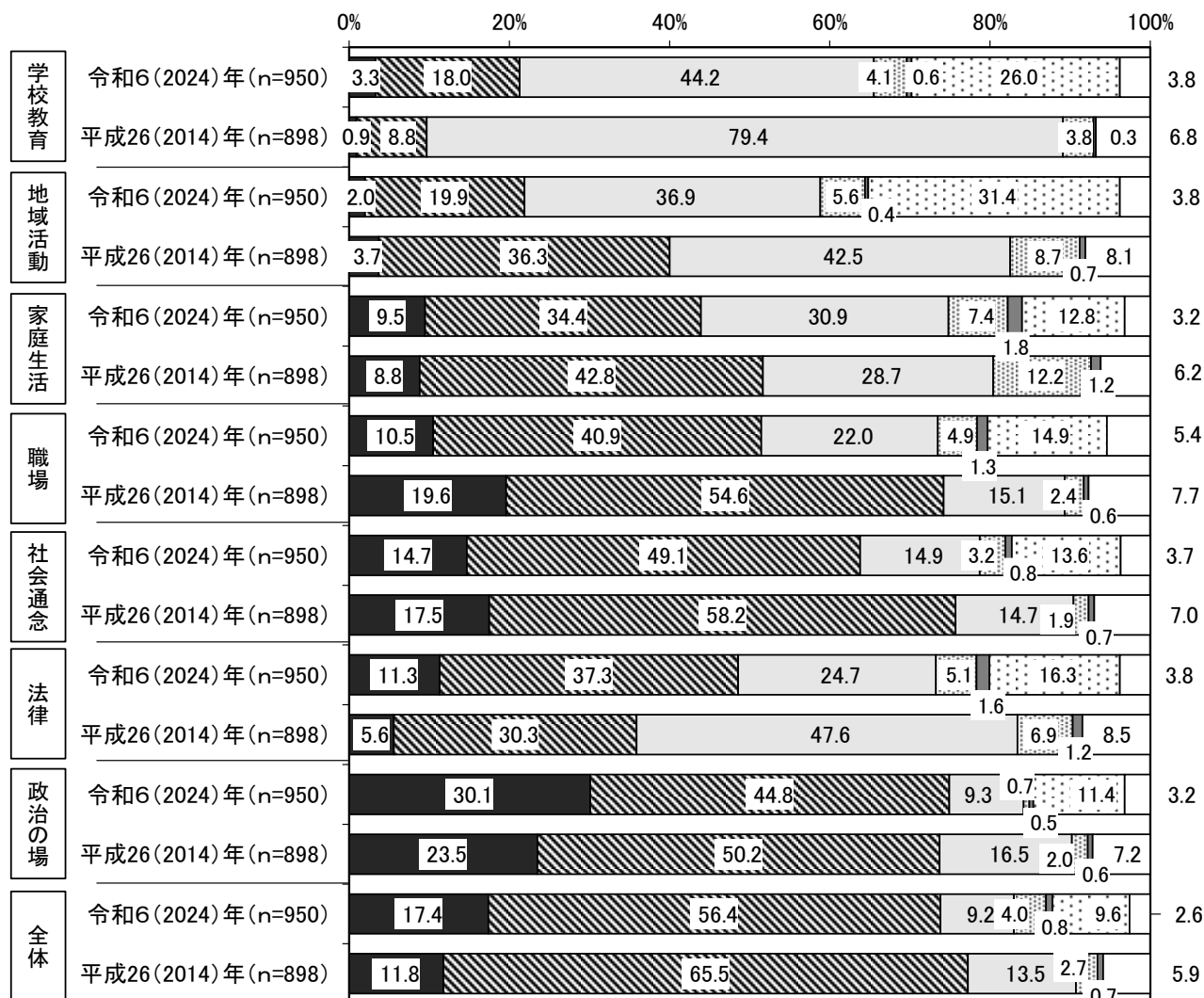
性別にみると、男女ともに『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合算）が最も高く、女性で79.2%、男性で69.2%となっています。また、女性は男性に比べて『男性優遇』が高くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で『男性優遇』が最も高くなっていますが、一方で、30歳代以下男性では他の性・年代に比べて『男性優遇』が低くなっています。



◆経年比較 問7

前回調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が、〈学校教育〉で11.6ポイント、〈法律〉で12.7ポイント高くなっています。また、「対等になっている」が〈学校教育〉で35.2ポイント、〈地域活動〉で5.6ポイント、〈法律〉で22.9ポイント、〈政治の場〉で7.2ポイント低くなっています。



■男性の方が非常に優遇されている
□対等になっている
■女性の方が非常に優遇されている
□不明・無回答

■どちらかといえば男性の方が優遇されている
■どちらかといえば女性の方が優遇されている
□わからない

※「わからない」は、今回調査より追加。

(あてはまるものすべてに○)

性別にみると、男女ともに「家事や育児、介護などを、男女で協力し合う」が最も高く、女性で59.2%、男性で62.6%となっています。また、女性は男性に比べて「自ら収入を得て、身の回りのことは自分で行う」「男の子、女の子を差別しない子育て・教育をする」「『男らしく』『女らしく』というような押しつけをしない」「性別を気にせず、自分の個性や好みに合った服装や髪型を選ぶ」が高くなっています。

単位：％		男性は仕事、女性 は家庭を 決めた 性別に よって 役割が 異なる	家事や 育児、 介護な どを、男 女で協 力し合 う	自らの 収入を 得て、 身の回 り	男の子 育、女 の子を 差別し ない	社会の いろい ろな出 来事	政治経 済や社 会情勢 に目を 向ける	く「男 らしく 」という ような 押しつ けをし ない	個性や 好みに あわせ 、自分 の髪型 を選ぶ	その他	特に何 もない	不明・ 無回答
全体(n=950)		57.7	60.4	32.7	44.1	46.1	40.1	41.3	32.2	2.0	8.5	1.9
女性	女性全体(n=497)	57.7	59.2	37.2	49.1	50.7	40.0	47.7	37.4	1.8	7.2	1.8
	29歳以下(n=39)	69.2	43.6	51.3	48.7	30.8	15.4	59.0	66.7	-	5.1	-
	30歳代(n=34)	58.8	64.7	44.1	38.2	23.5	23.5	58.8	52.9	2.9	5.9	-
	40歳代(n=88)	54.5	58.0	44.3	53.4	44.3	42.0	53.4	40.9	3.4	4.5	-
	50歳代(n=99)	58.6	59.6	35.4	41.4	55.6	35.4	43.4	32.3	4.0	4.0	-
	60歳代(n=84)	64.3	63.1	40.5	59.5	57.1	40.5	52.4	36.9	1.2	2.4	2.4
	70歳以上(n=145)	53.1	60.7	28.3	49.0	60.0	53.8	38.6	28.3	-	14.5	4.1
男性	男性全体(n=422)	57.8	62.6	26.8	37.9	41.2	39.8	34.1	26.1	1.9	10.0	0.9
	29歳以下(n=30)	56.7	56.7	33.3	26.7	43.3	30.0	53.3	36.7	3.3	13.3	-
	30歳代(n=38)	60.5	68.4	26.3	36.8	42.1	31.6	47.4	47.4	2.6	13.2	-
	40歳代(n=68)	60.3	69.1	30.9	36.8	42.6	30.9	29.4	23.5	2.9	10.3	-
	50歳代(n=80)	58.8	52.5	23.8	23.8	25.0	35.0	33.8	26.3	1.3	11.3	-
	60歳代(n=69)	53.6	63.8	29.0	36.2	43.5	40.6	27.5	18.8	-	8.7	2.9
	70歳以上(n=126)	61.1	66.7	23.0	51.6	50.0	52.4	34.1	23.8	2.4	7.1	1.6

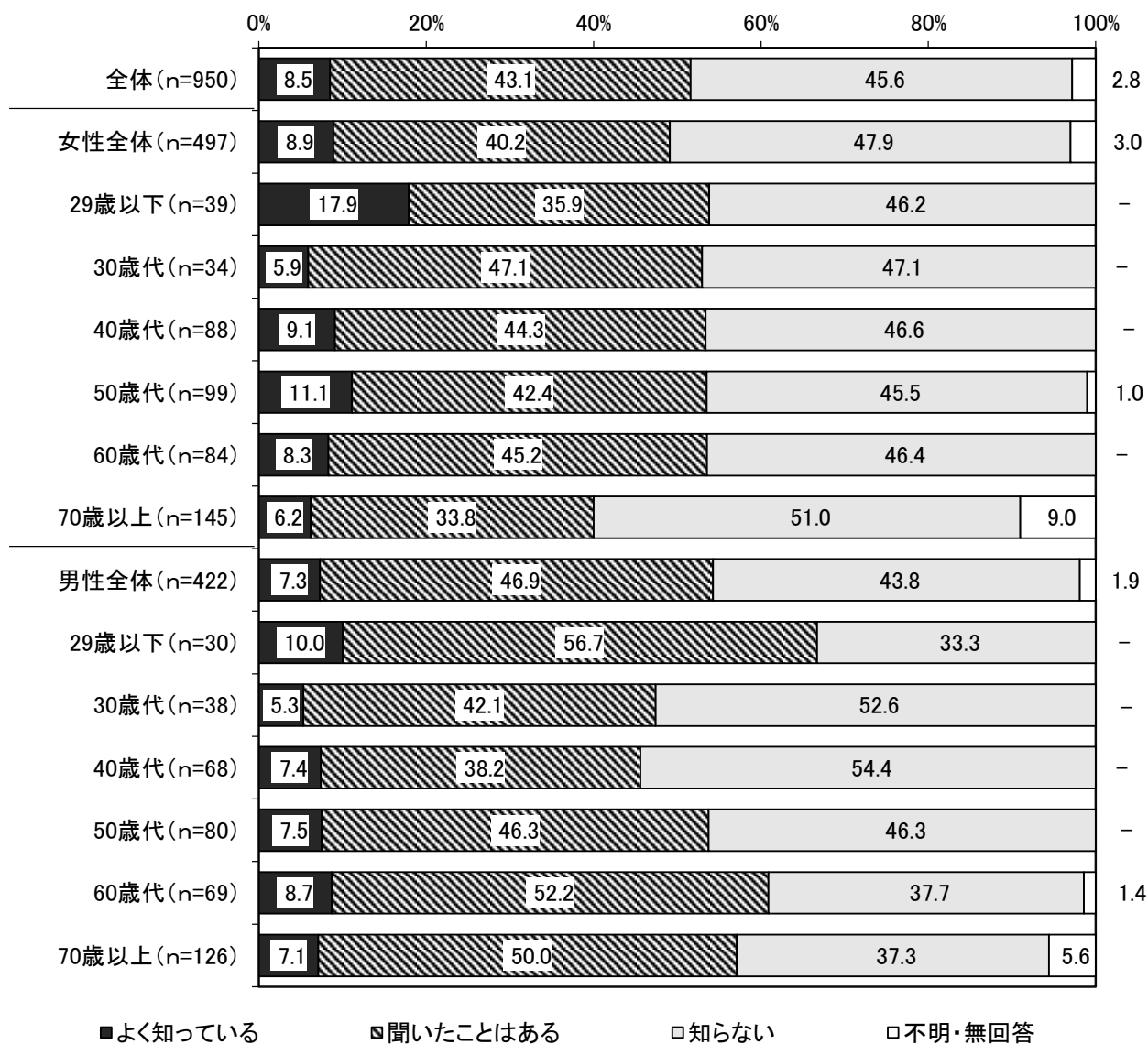
問9 次のA～Lの言葉を知っていますか。それぞれの言葉について最も近い段階を選んでください。

A 女子差別撤廃条約（1つに○）

女子差別撤廃条約の認知状況は、全体で「知らない」が45.6%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が43.1%、「よく知っている」が8.5%となっています。

性別にみると、女性では「知らない」が47.9%、男性では「聞いたことはある」が46.9%で最も高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代女性、50歳代男性では「聞いたことはある」「知らない」、29歳以下と60歳以上男性では「聞いたことはある」、その他の年代では「知らない」が最も高くなっています。

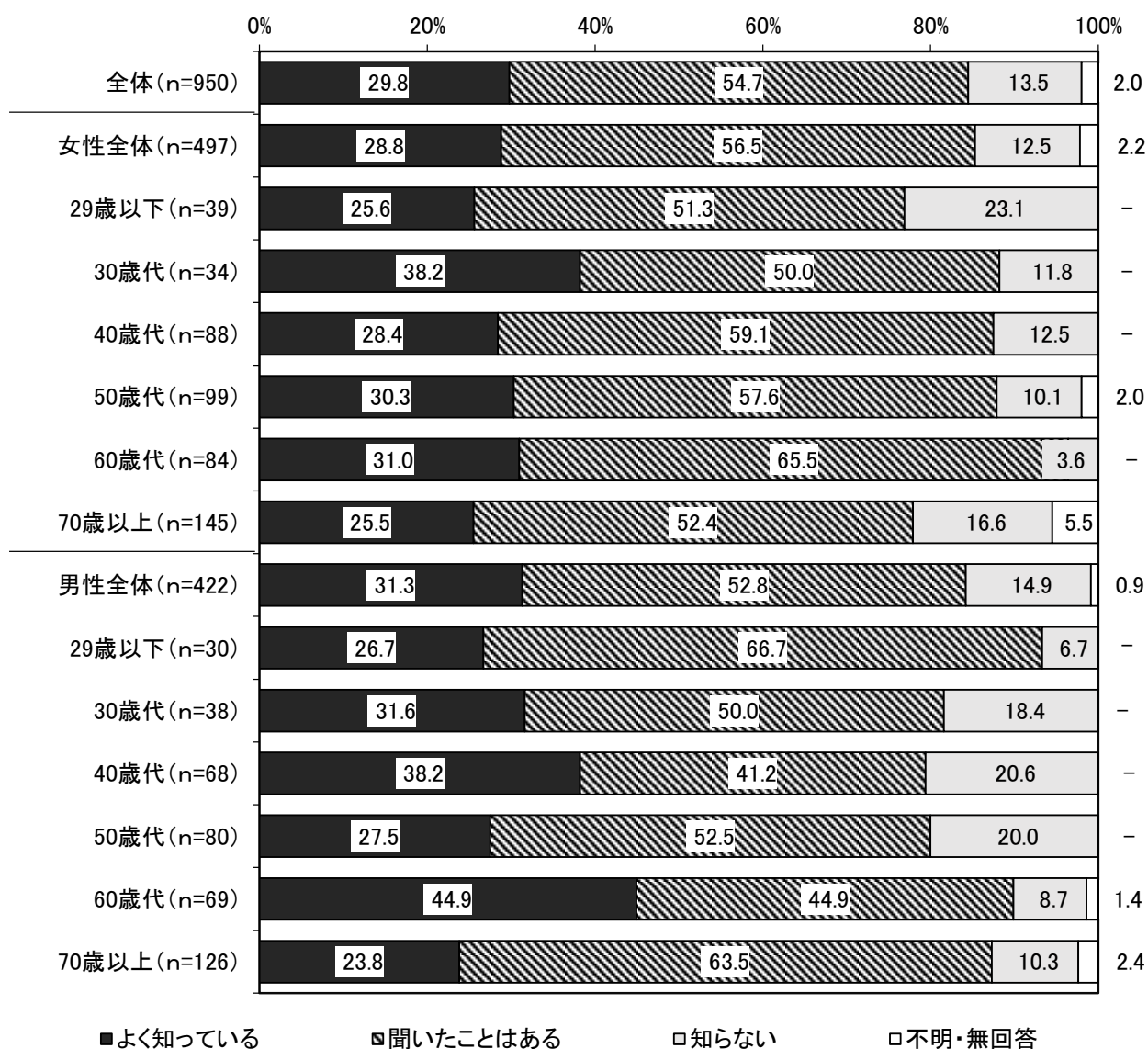


B 育児・介護休業法（1つに○）

育児・介護休業法の認知状況は、全体で「聞いたことはある」が54.7%と最も高く、次いで「よく知っている」が29.8%、「知らない」が13.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「聞いたことはある」が最も高く、女性で56.5%、男性で52.8%となっています。

性・年代別でみると、60歳代男性では「よく知っている」「聞いたことはある」、その他の年代では「聞いたことはある」が最も高くなっています。

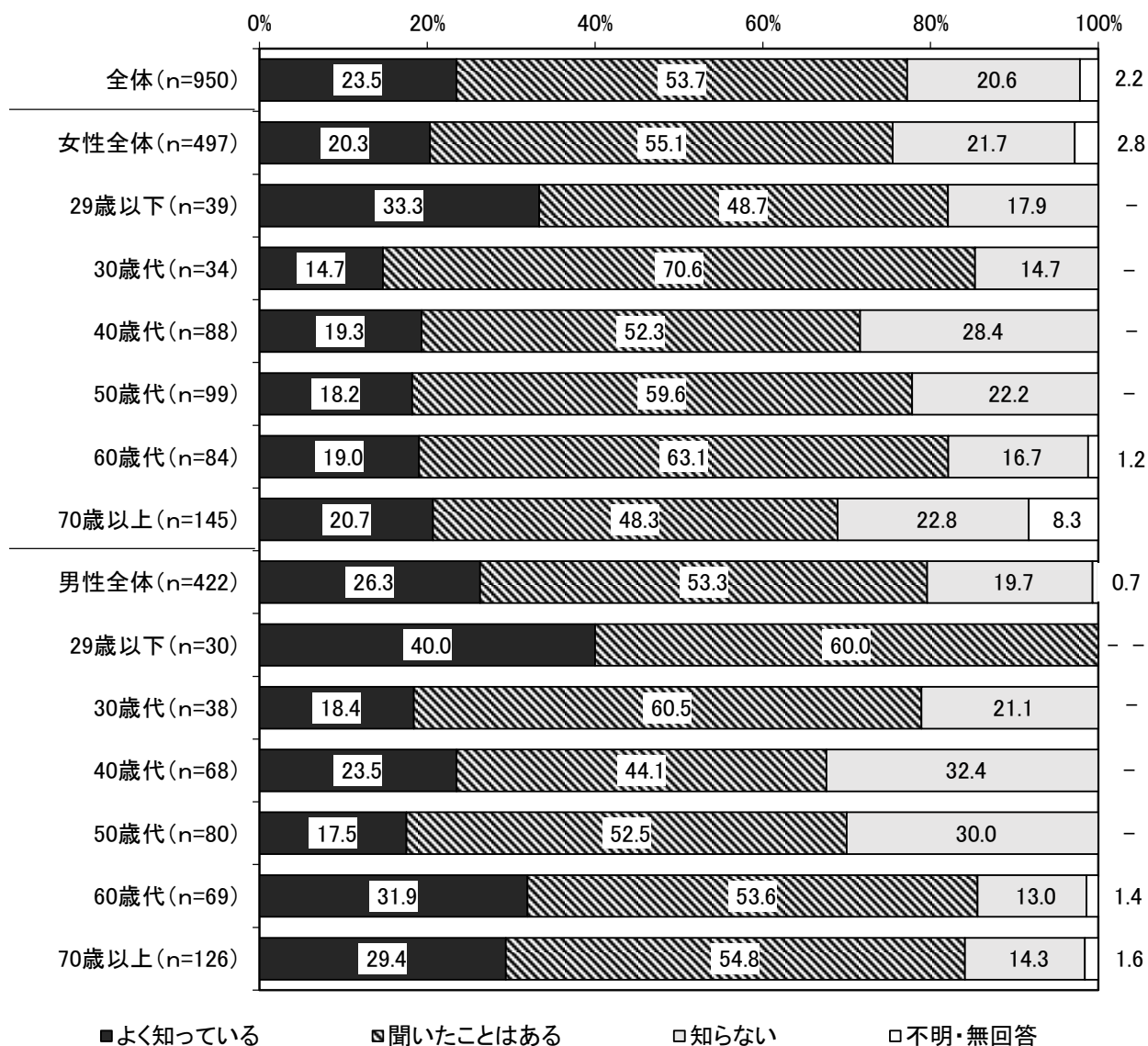


C 男女共同参画社会（1つに○）[共通設問：中学生調査…問1 A]

男女共同参画社会の認知状況は、全体で「聞いたことはある」が53.7%と最も高く、次いで「よく知っている」が23.5%、「知らない」が20.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「聞いたことはある」が最も高く、女性で55.1%、男性で53.3%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「聞いたことはある」が最も高くなっています。また、29歳以下男性では「知らない」で回答がありませんでした。

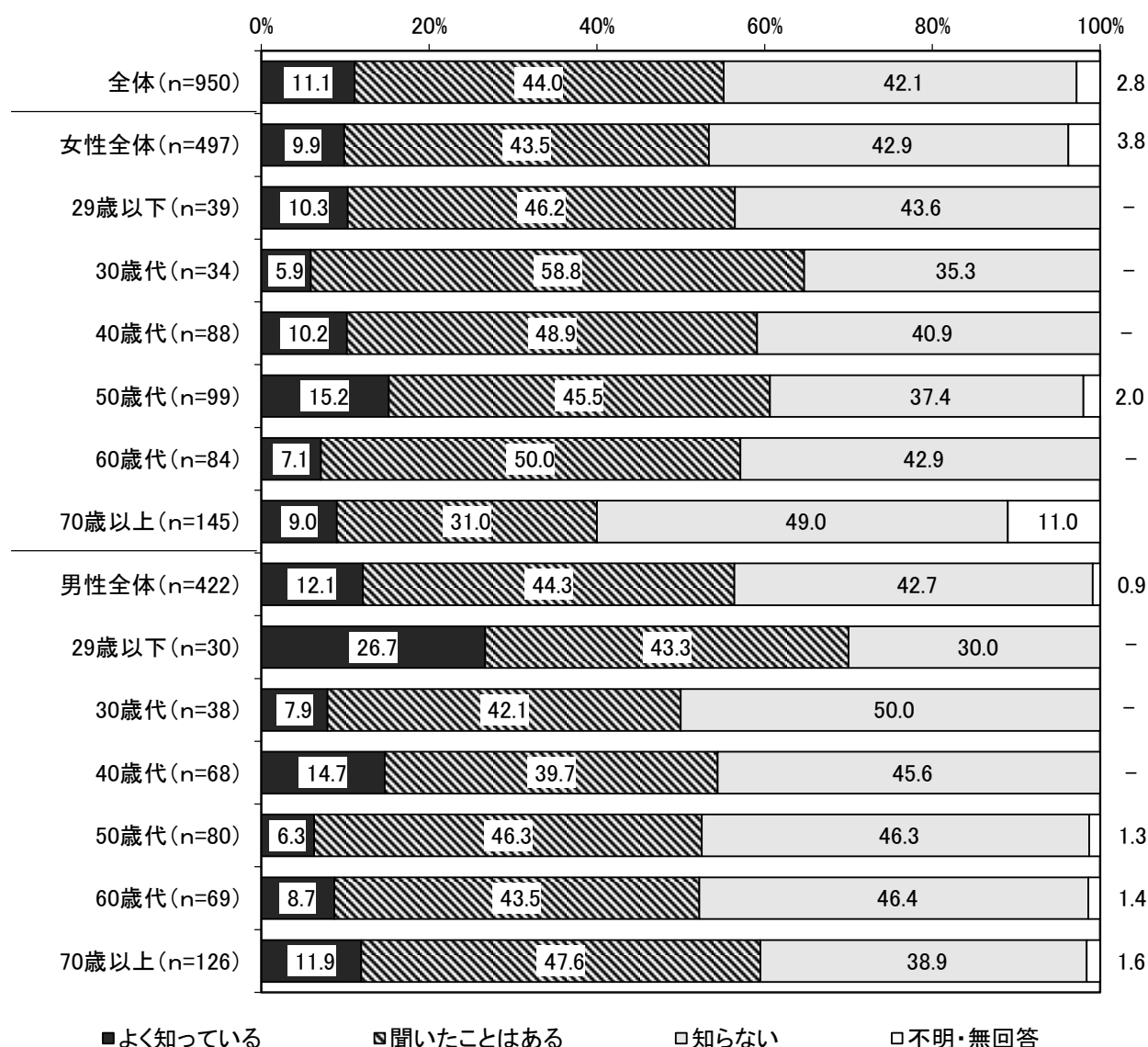


D 刑法の性犯罪規定の改正（1つに○）

刑法の性犯罪規定の改正の認知状況は、全体で「聞いたことはある」が44.0%と最も高く、次いで「知らない」が42.1%、「よく知っている」が11.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「聞いたことはある」が最も高く、女性で43.5%、男性で44.3%となっています。

性・年代別でみると、70歳以上女性、30～40歳代と60歳代男性では「知らない」、50歳代男性では「聞いたことはある」「知らない」、その他の年代では「聞いたことはある」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて29歳以下男性では「よく知っている」が高くなっています。



◆刑法の性犯罪規定の改正（令和5年7月13日施行）について

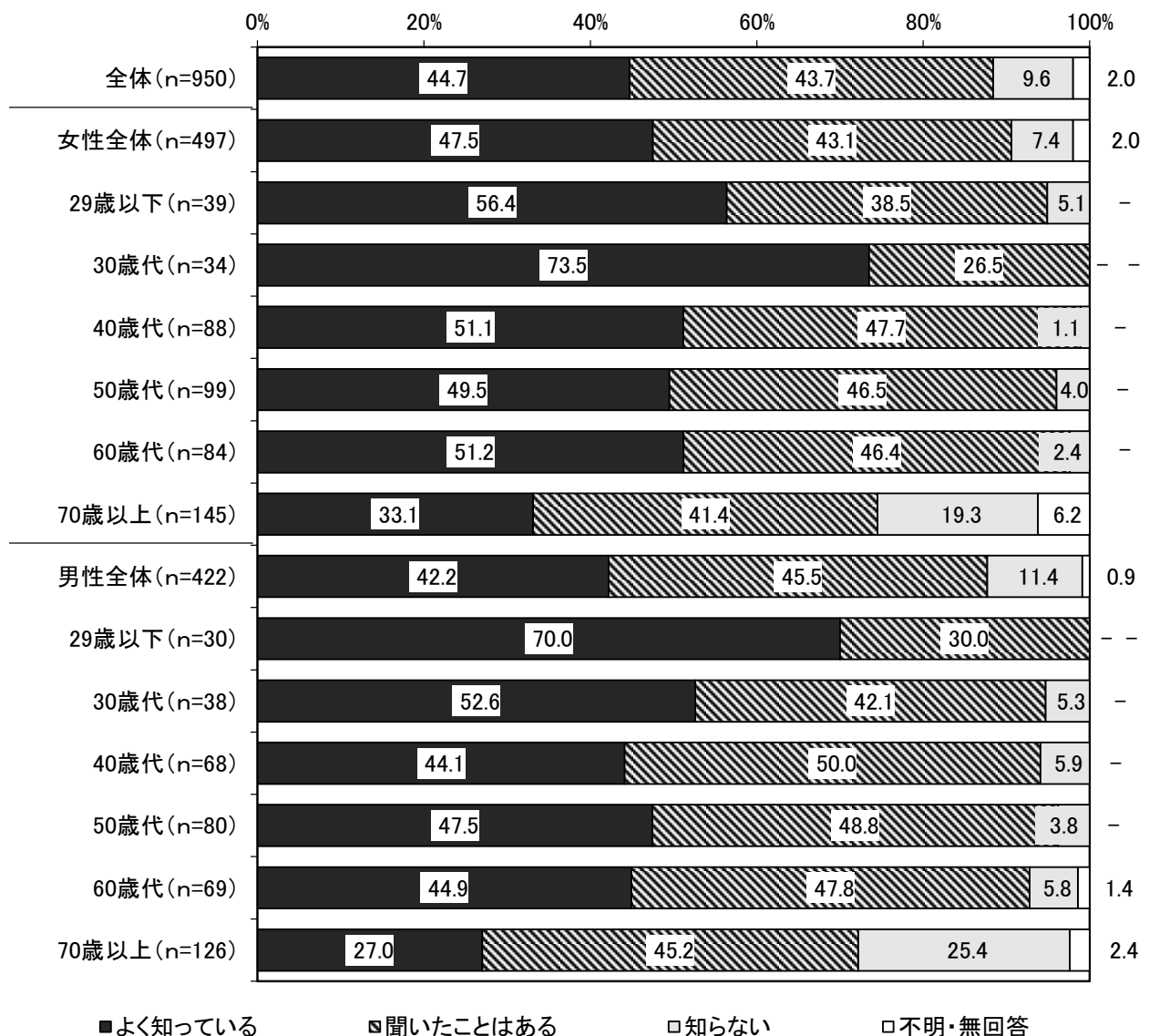
強制・準強制性交罪を「不同意性交罪」に一本化し、「不同意性交罪」の要件を「同意しない意思を形成、表明、もしくは全うすることが難しい状態」と定めたほか、性交同意年齢の見直し（原則13歳から16歳への引き上げ）等が盛り込まれています。

E ジェンダー（1つに○）[共通設問：中学生調査…問Ⅰ B]

ジェンダーの認知状況は、全体で「よく知っている」が44.7%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が43.7%、「知らない」が9.6%となっています。

性別にみると、女性では「よく知っている」が47.5%、男性では「聞いたことはある」が45.5%で最も高くなっています。

性・年代別でみると、70歳以上女性、40歳以上男性では「聞いたことはある」、その他の年代では「よく知っている」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて30歳代女性、29歳以下男性では「よく知っている」が高く、70歳以上女性、70歳以上男性では「よく知っている」が低くなっています。

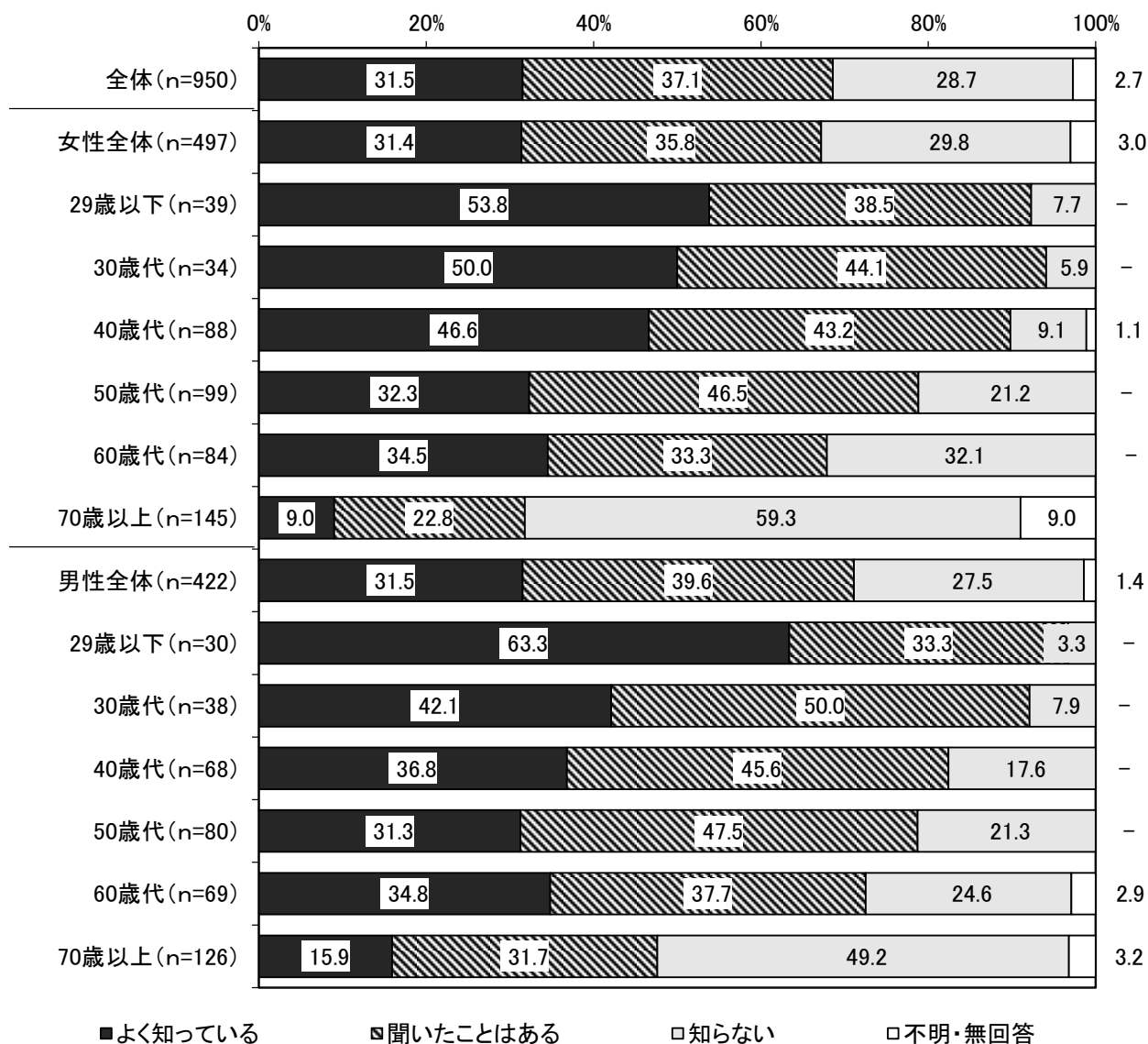


F LGBTQ+（I つに〇）〔共通設問：中学生調査…問 I D〕

LGBTQ+の認知状況は、全体で「聞いたことはある」が37.1%と最も高く、次いで「よく知っている」が31.5%、「知らない」が28.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「聞いたことはある」が最も高く、女性で35.8%、男性で39.6%となっています。

性・年代別でみると、40歳代以下と60歳代女性、29歳以下男性では「よく知っている」、50歳代女性、30～60歳代男性では「聞いたことはある」、70歳以上男女では「知らない」が最も高くなっています。また、男女ともに概ね年代が上がるにつれて「よく知っている」が低くなっています。

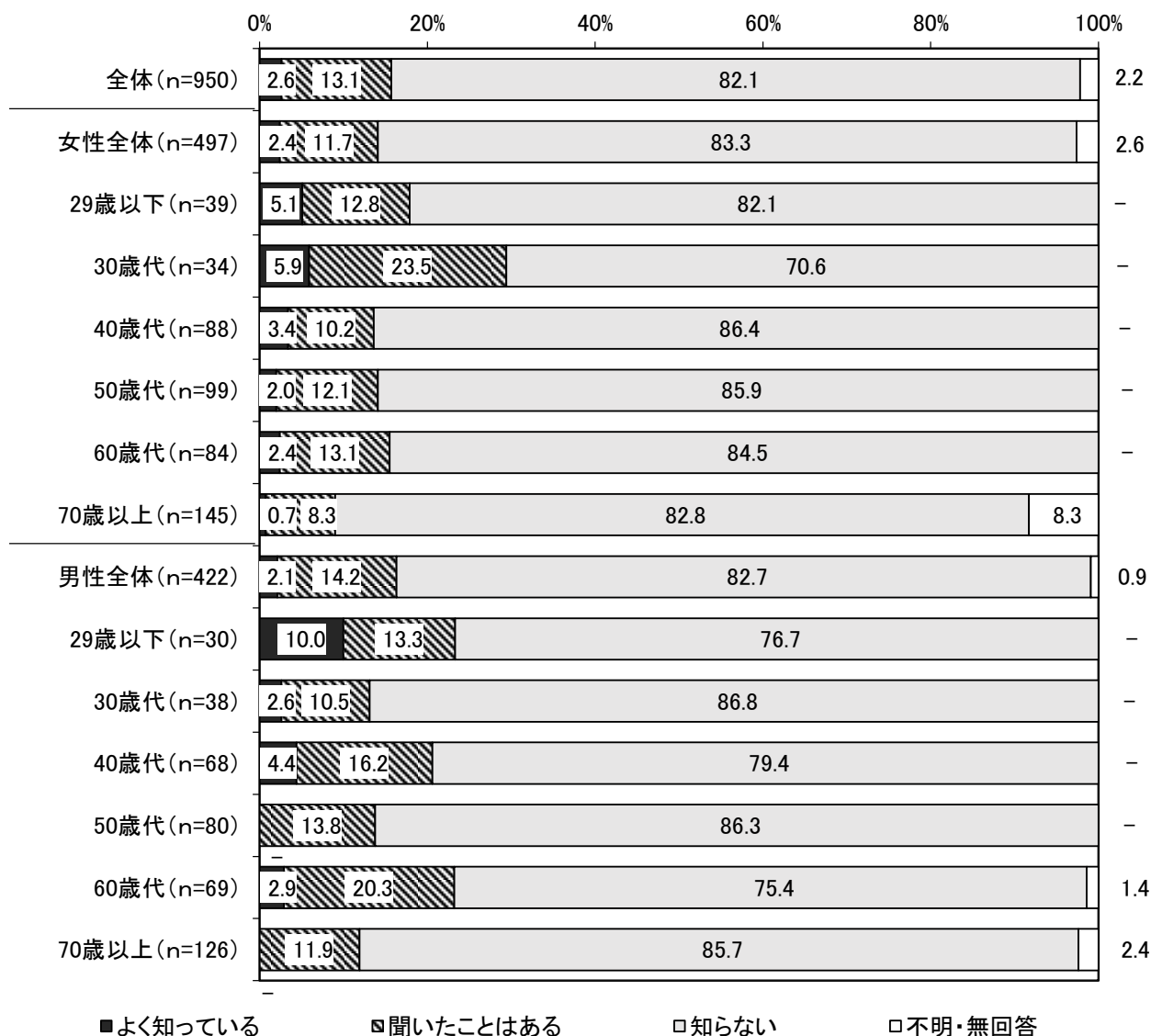


G リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（1つに○）

リプロダクティブ・ヘルス／ライツの認知状況は、全体で「知らない」が82.1%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が13.1%、「よく知っている」が2.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で83.3%、男性で82.7%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「知らない」が最も高くなっています。



◆リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康・権利）とは

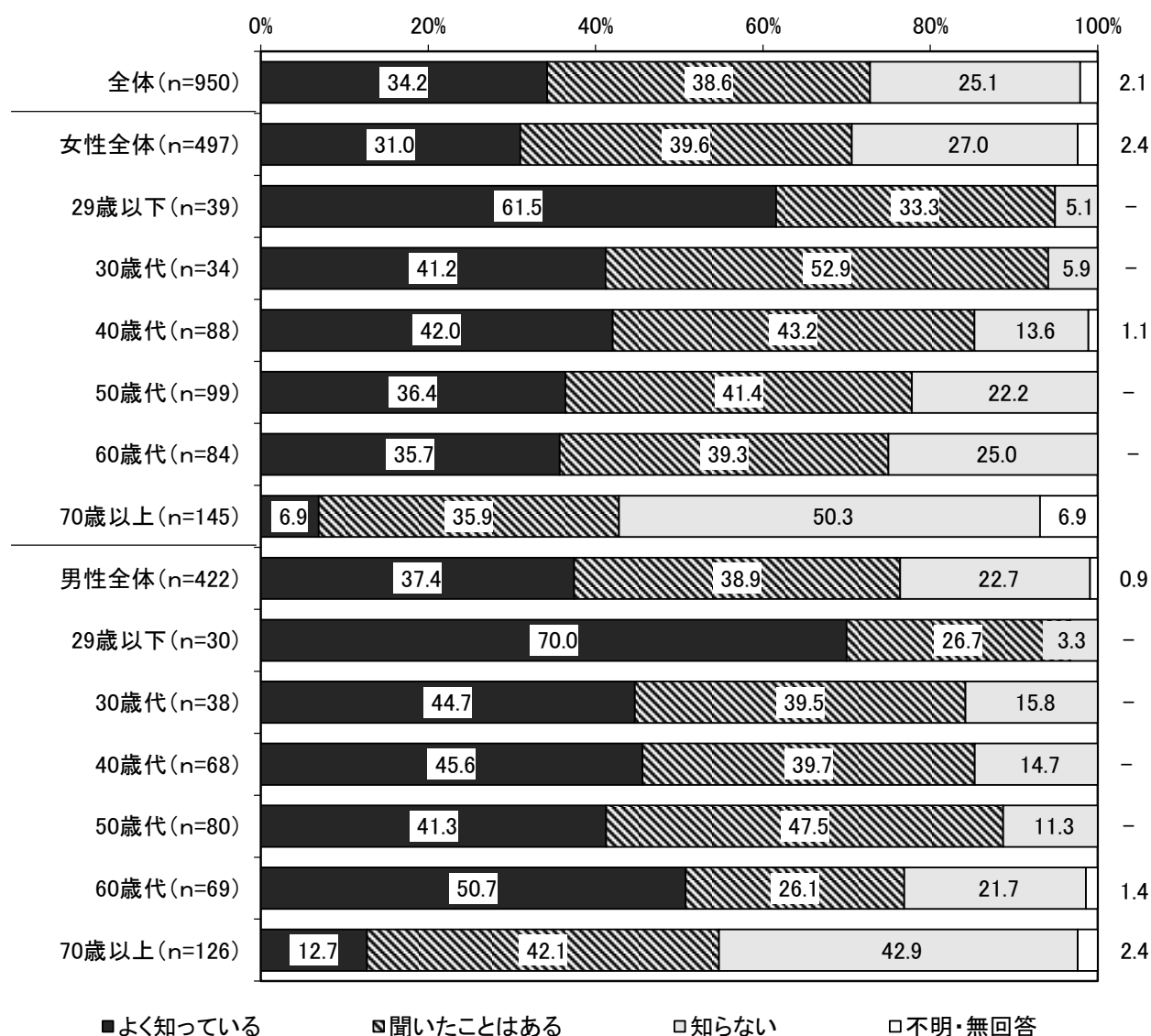
生殖に関する「健康」と「権利」のことです。「健康」としては、安全で満足できる性生活、安全な出産等が、「権利」としては、避妊・妊娠・中絶・出産の過程において、自ら「いつ」、「何人」、「子どもを産むか、産まないか」を決定する自由、性・生殖に関する適切な情報とサービスを得られる権利等が挙げられます。

H ワーク・ライフ・バランス（1つに○）[共通設問：中学生調査…問Ⅰ E]

ワーク・ライフ・バランスの認知状況は、全体で「聞いたことはある」が38.6%と最も高く、次いで「よく知っている」が34.2%、「知らない」が25.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「聞いたことはある」が最も高く、女性で39.6%、男性で38.9%となっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性、40歳代以下と60歳代男性では「よく知っている」、30～60歳代女性、50歳代男性では「聞いたことはある」、70歳以上男女では「知らない」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて29歳以下女性、29歳以下男性では「よく知っている」が高くなっています。

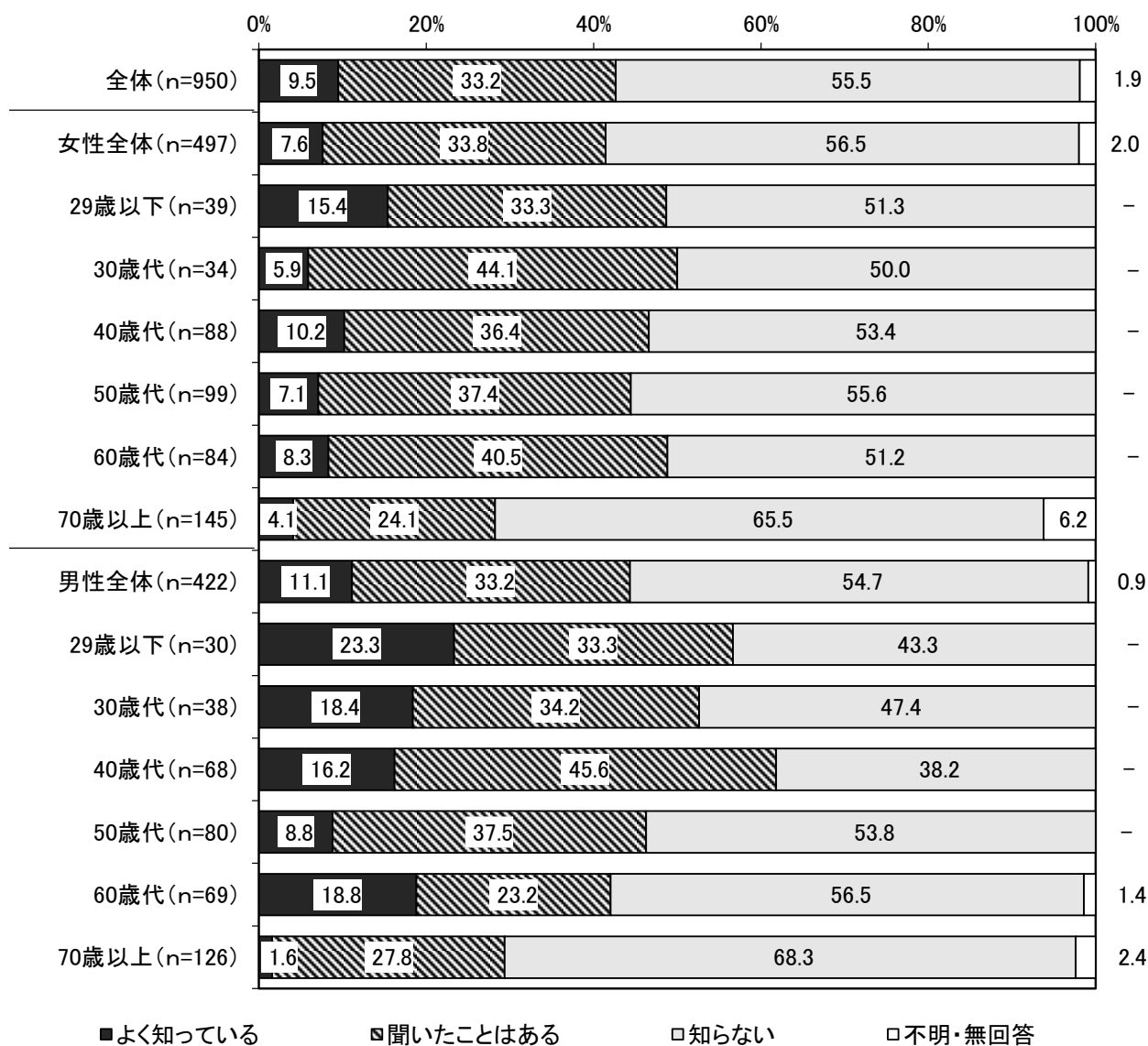


I ポジティブ・アクション（1つに○）

ポジティブ・アクションの認知状況は、全体で「知らない」が55.5%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が33.2%、「よく知っている」が9.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で56.5%、男性で54.7%となっています。

性・年代別でみると、40歳代男性では「聞いたことはある」、その他の年代では「知らない」が最も高くなっています。また、40歳代以上男性では年代が上がるにつれて「知らない」が高くなっています。



◆ポジティブ・アクション（積極的改善措置）とは

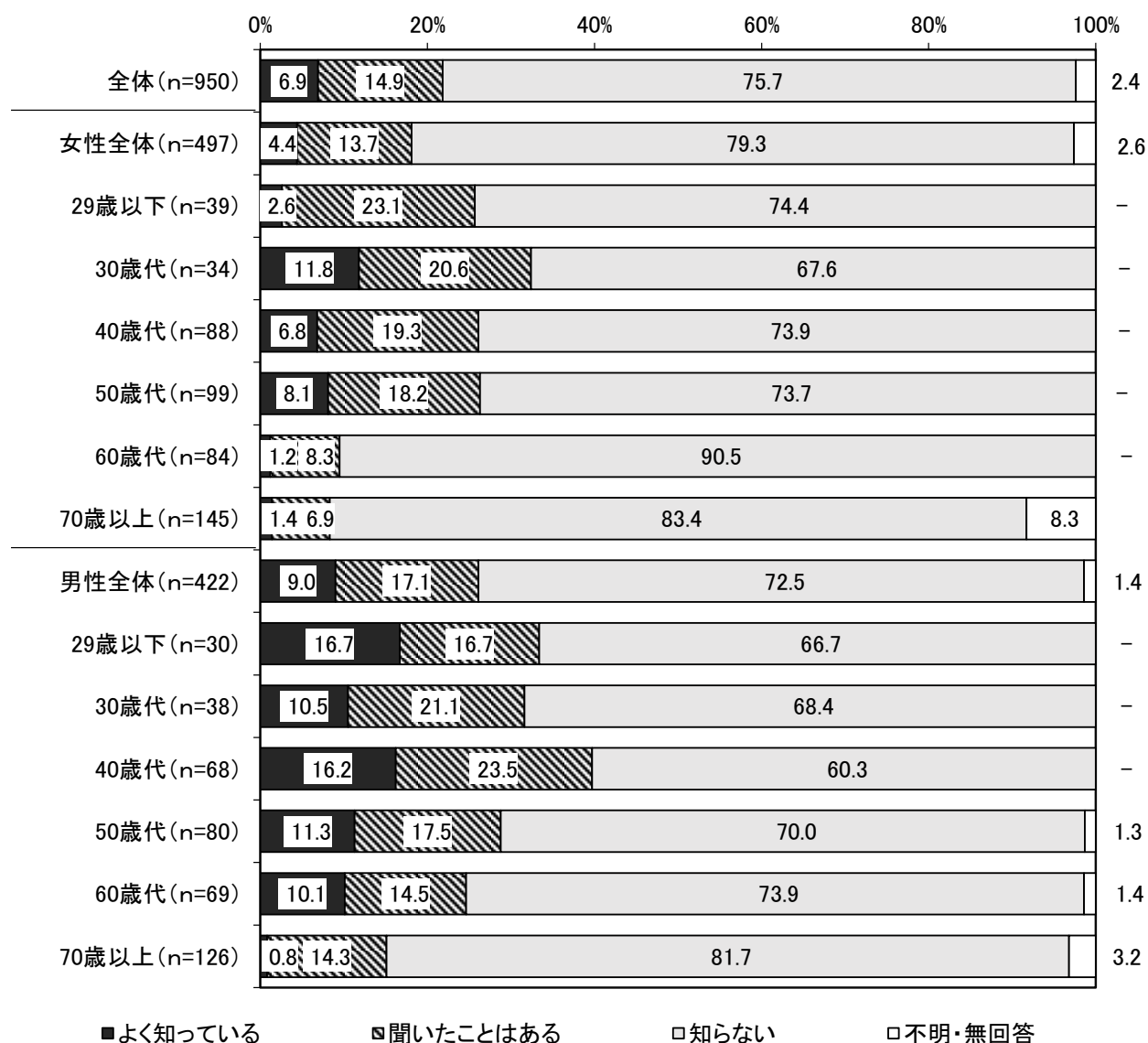
家庭、職場、学校、地域その他の社会のあらゆる分野における活動に参画する機会に係る男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、その機会を積極的に提供することです。

J アンコンシャス・バイアス（1つに○）[共通設問：中学生調査…問1 F]

アンコンシャス・バイアスの認知状況は、全体で「知らない」が75.7%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が14.9%、「よく知っている」が6.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で79.3%、男性で72.5%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「知らない」が最も高くなっています。また、40歳代以上男性では年代が上がるにつれて「知らない」が高くなっています。



◆アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）とは

固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みのことです。

例)「性別」で任せる仕事や、役割を決めていることがある

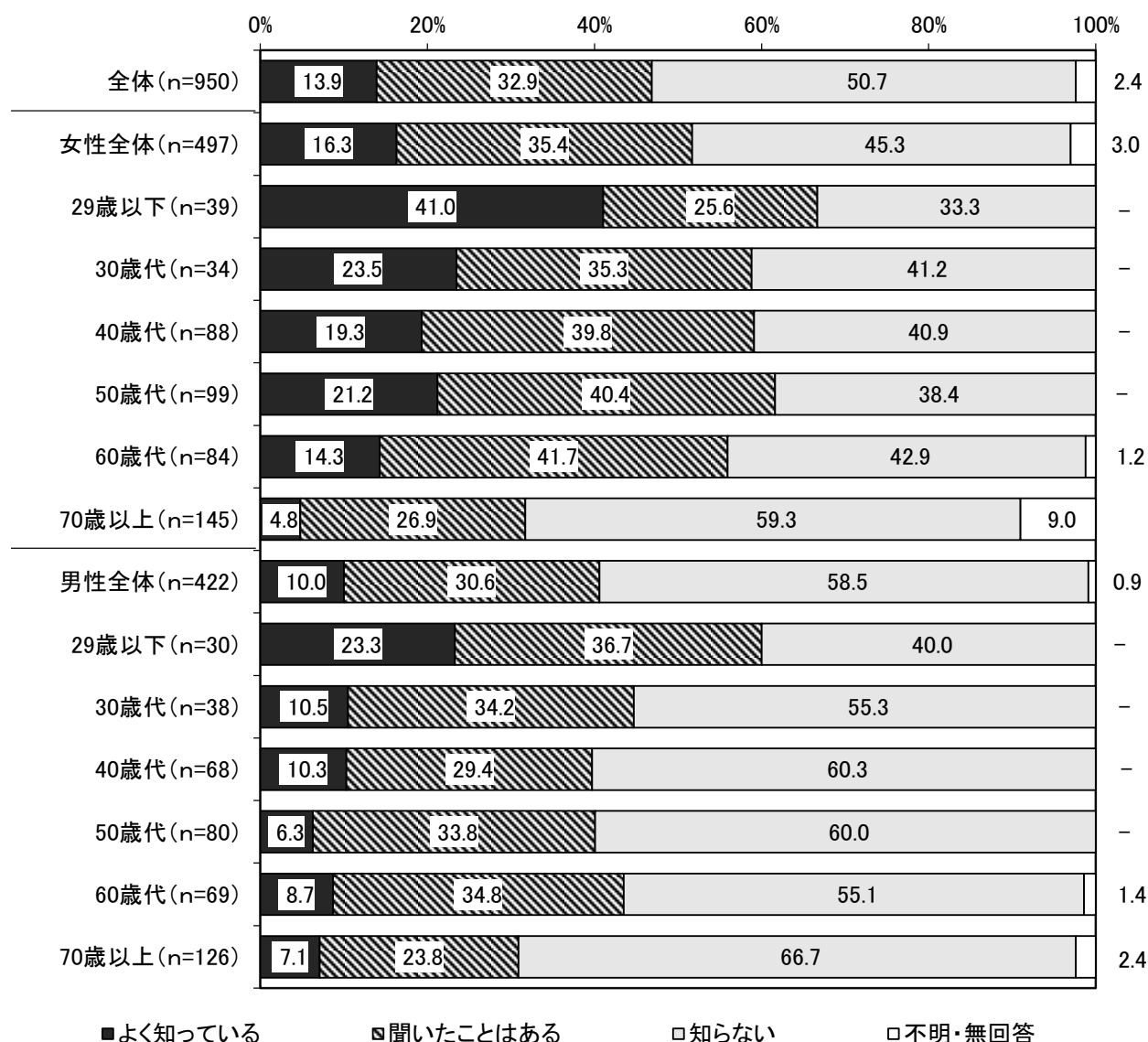
男性から育児や介護休暇の申請があると、「奥さんは？」と咄嗟に思う
 “親が単身赴任中です”と聞くと、まずは「父親」を思い浮かべる

K デートDV（1つに○）〔共通設問：中学生調査…問13〕

デートDVの認知状況は、全体で「知らない」が50.7%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が32.9%、「よく知っている」が13.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で45.3%、男性で58.5%となっています。また、男性は女性に比べて「知らない」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「よく知っている」、50歳代女性では「聞いたことはある」、その他の年代では「知らない」が最も高くなっています。

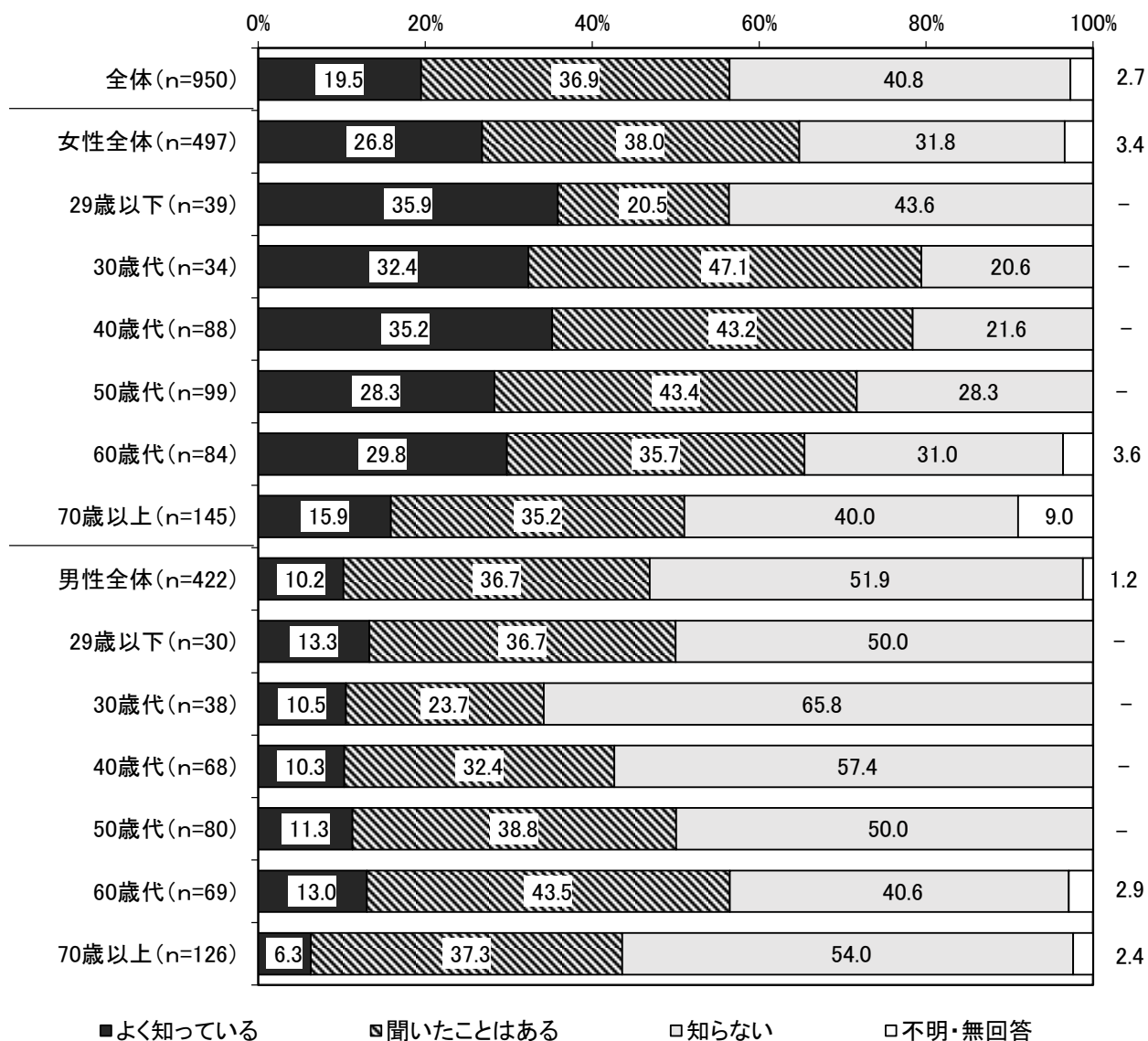


L 生理の貧困（1つに○）

生理の貧困の認知状況は、全体で「知らない」が40.8%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が36.9%、「よく知っている」が19.5%となっています。

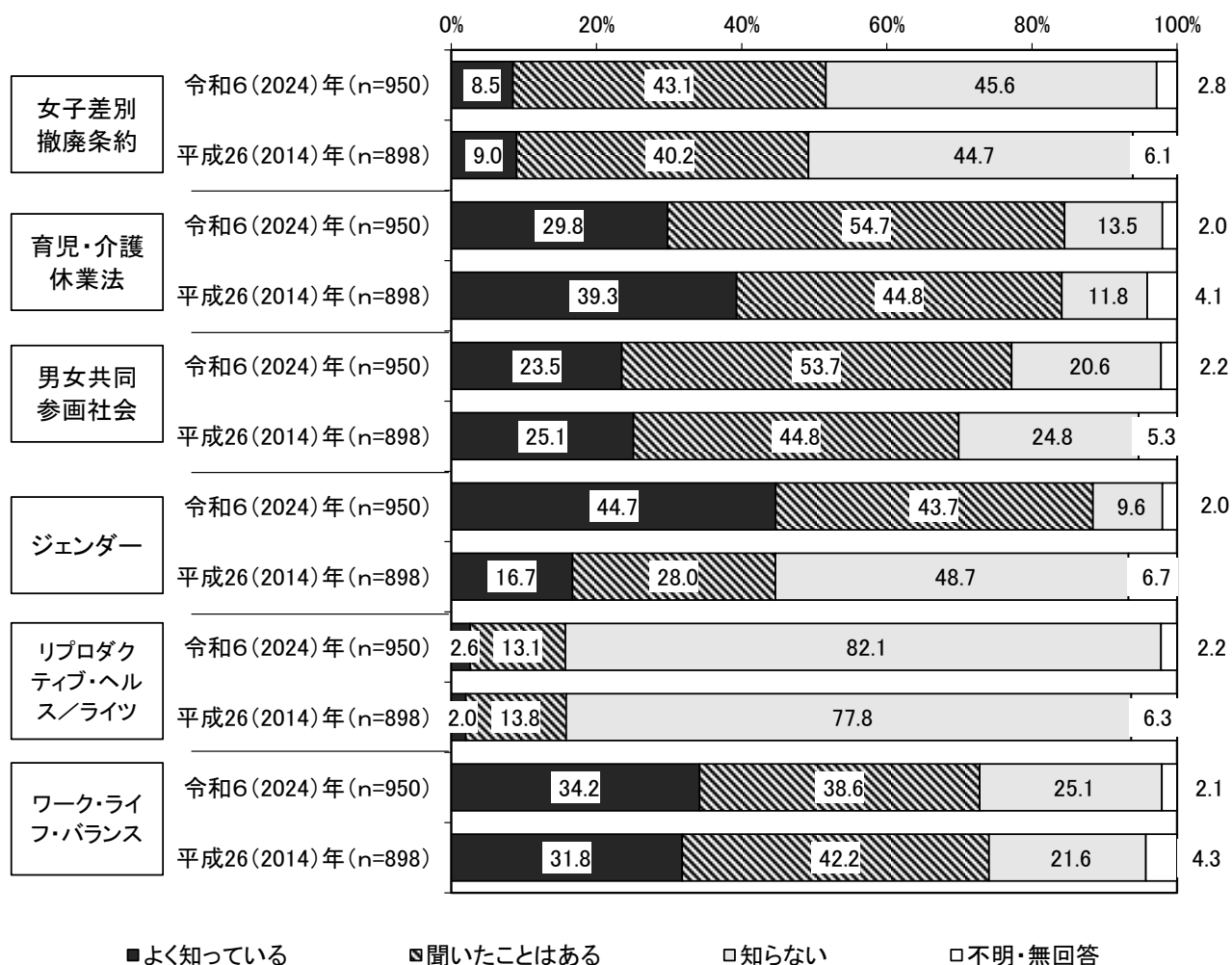
性別にみると、女性では「聞いたことはある」が38.0%、男性では「知らない」が51.9%で最も高くなっています。また、男性は女性に比べて「知らない」が高くなっています。

性・年代別でみると、30～60歳代女性、60歳代男性では「聞いたことはある」、その他の年代では「知らない」が最も高くなっています。また、30歳代以上女性では年代が上がるにつれて「知らない」が高く、30～60歳代男性では年代が上がるにつれて「知らない」が低くなっています。



◆経年比較 問9

前回調査と比較すると、〈ジェンダー〉で「よく知っている」が28.0ポイント、「聞いたことがある」が15.7ポイント高くなっています。一方、〈育児・介護休業法〉で「よく知っている」が9.5ポイント低くなっています。



※経年比較可能な項目のみ掲載。

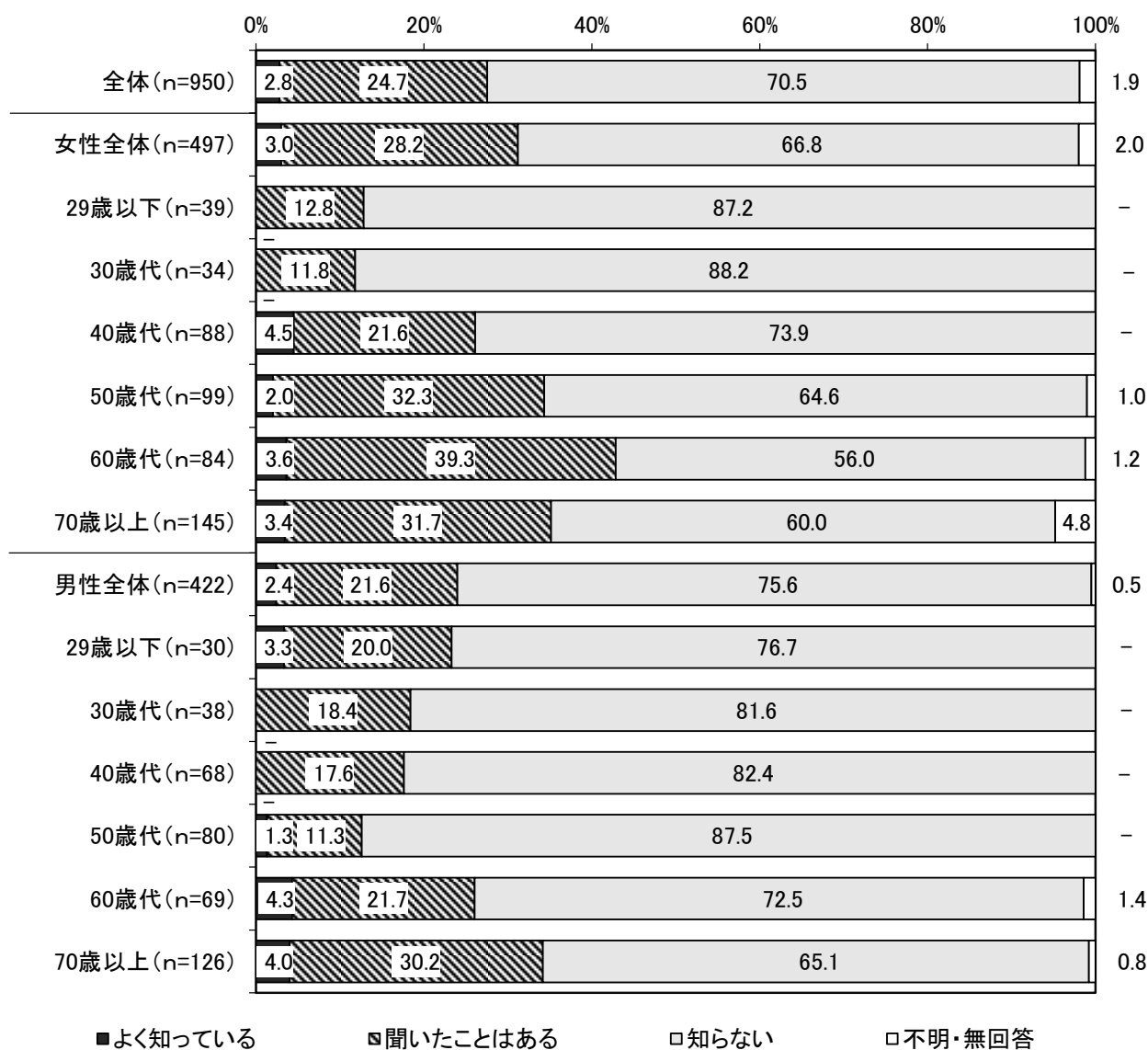
問 10 次のA～Cの言葉を知っていますか。それぞれの言葉について最も近い段階を選んでください。

A 白井市男女平等推進行動計画（1つに○）

白井市男女平等推進行動計画の認知状況は、全体で「知らない」が70.5%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が24.7%、「よく知っている」が2.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で66.8%、男性で75.6%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「知らない」が最も高くなっています。また、30～60 歳代女性では年代が上がるにつれて「知らない」が低く、30～50 歳代男性では年代が上がるにつれて「知らない」が高くなっています。

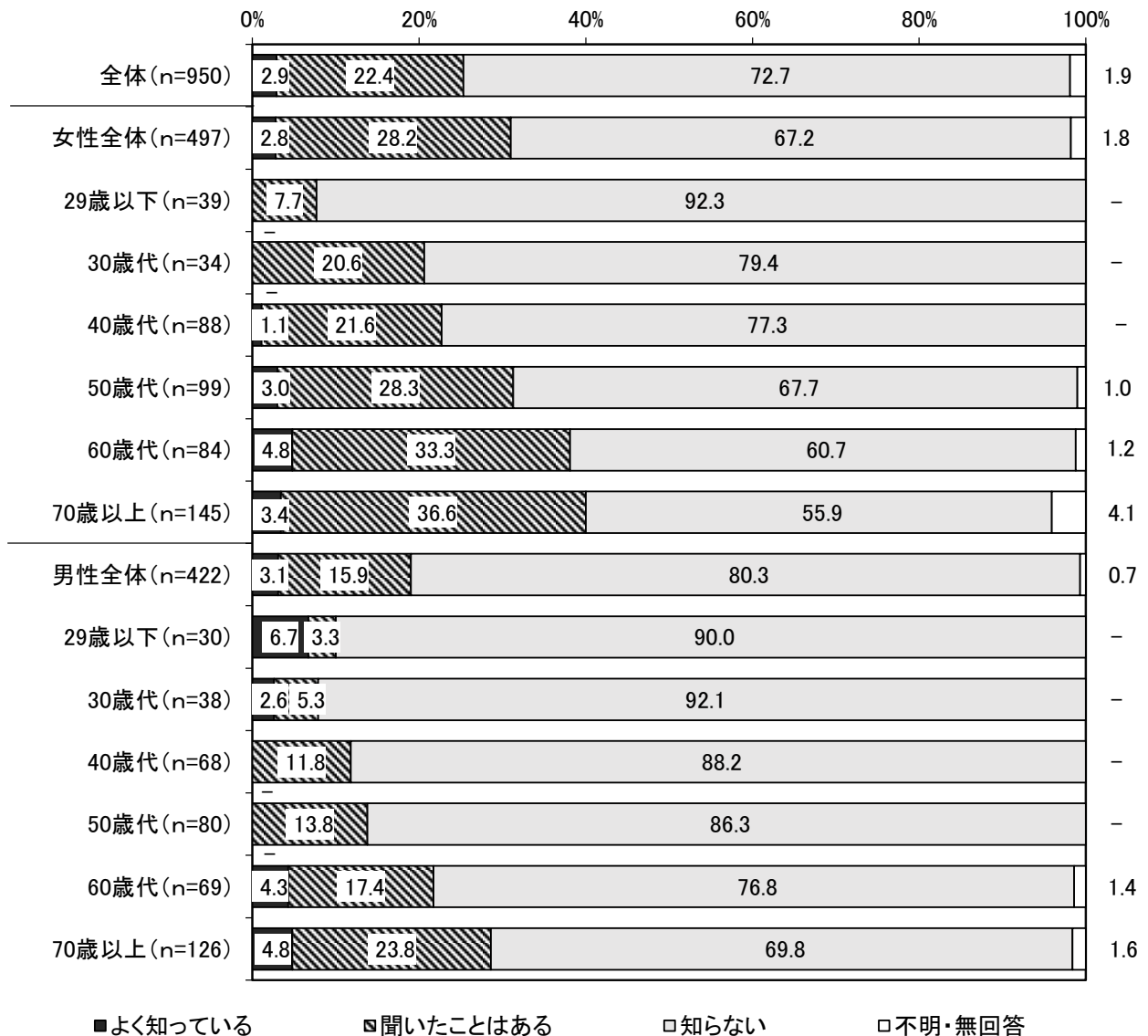


B 女性生き生き相談（白井市）（1つに○）

女性生き生き相談の認知状況は、全体で「知らない」が72.7%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が22.4%、「よく知っている」が2.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で67.2%、男性で80.3%となっています。また、女性は男性に比べて「聞いたことはある」が高く、男性は女性に比べて「知らない」が高くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「知らない」が最も高くなっています。また男女ともに概ね年代が上がるにつれて「知らない」が低くなっています。

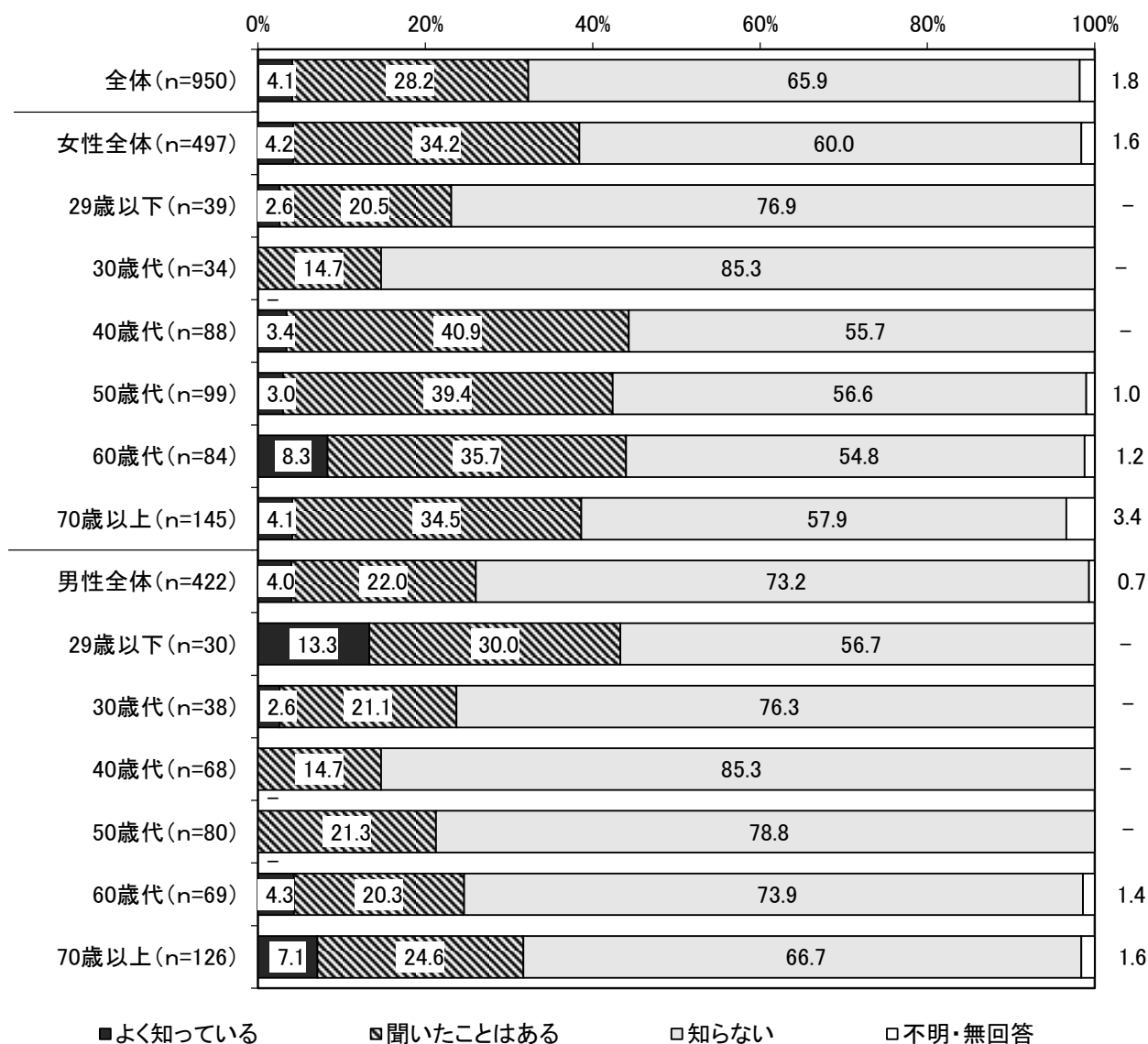


C 青少年女性センター（白井市）（1つに○）

青少年女性センターの認知状況は、全体で「知らない」が65.9%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が28.2%、「よく知っている」が4.1%となっています。

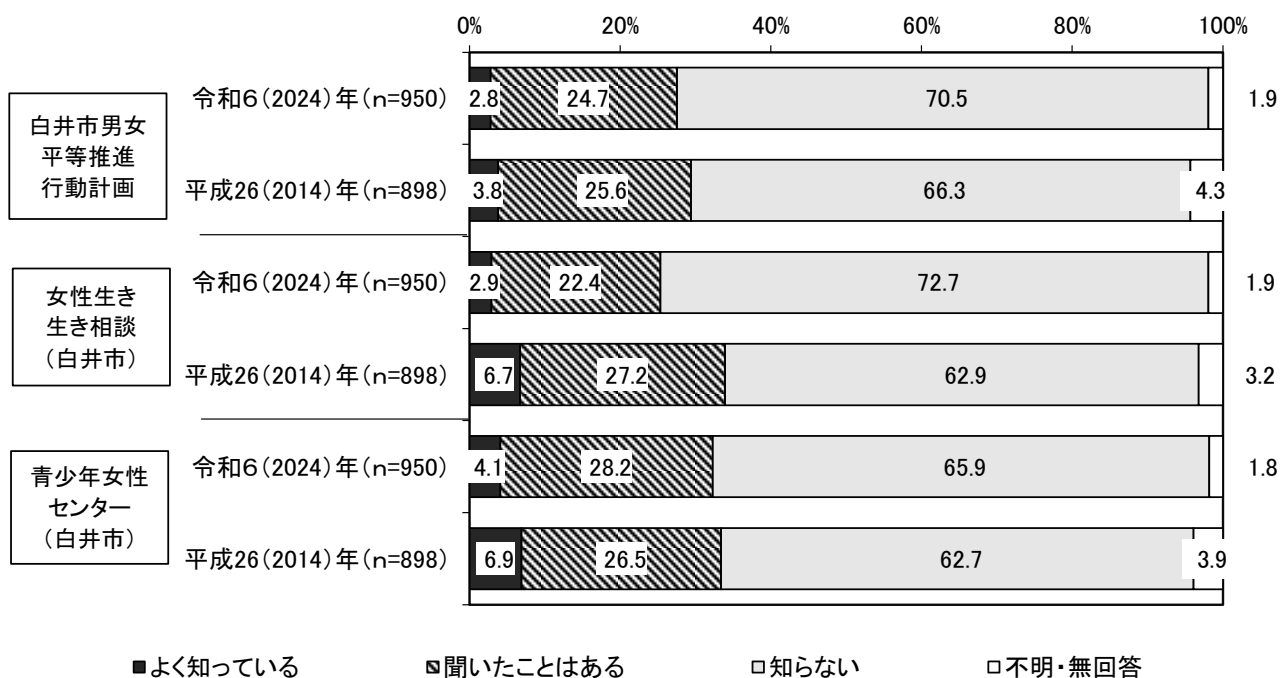
性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で60.0%、男性で73.2%となっています。また、女性は男性に比べて「聞いたことはある」が高く、男性は女性に比べて「知らない」が高くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「知らない」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて40歳代以上女性では「知らない」が低くなっています。



◆経年比較 問 10

前回調査と比較すると、〈女性生き生き相談（白井市）〉で「知らない」が9.8ポイント高くなっています。



5 ハラスメントやドメスティック・バイオレンス（DV）について

問Ⅱ これまで、ハラスメントを受けた経験はありますか。（あてはまるものすべてに○）

ハラスメントを受けた経験の有無は、全体で「ハラスメントを受けたことはない」が47.2%と最も高く、次いで「パワー・ハラスメント（パワハラ）」が30.3%、「モラル・ハラスメント（モラハラ）」が14.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「ハラスメントを受けたことはない」が最も高く、女性で44.9%、男性で50.2%となっています。また、女性は男性に比べて「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」が高くなっています。

性・年代別でみると、40歳代男女では「パワー・ハラスメント（パワハラ）」、その他の年代では「ハラスメントを受けたことはない」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて30～40歳代女性では「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」が高くなっています。

単位：％		セクハラ・ハラスメント	（パワハラ）ハラスメント	マタニティ・ハラスメント	パタニティ・ハラスメント	（モラハラ）ハラスメント	性的指向・性自認（SOG）に関するハラスメント	その他	ハラスメントを受けたことはない	不明・無回答
全体(n=950)		13.4	30.3	2.8	0.5	14.5	0.7	2.4	47.2	11.1
女性	女性全体(n=497)	22.5	27.4	4.6	0.4	18.7	0.6	2.6	44.9	10.5
	29歳以下(n=39)	20.5	15.4	5.1	-	15.4	5.1	-	61.5	2.6
	30歳代(n=34)	38.2	26.5	11.8	-	17.6	-	5.9	44.1	2.9
	40歳代(n=88)	37.5	44.3	3.4	-	28.4	-	2.3	35.2	2.3
	50歳代(n=99)	26.3	35.4	6.1	1.0	27.3	-	3.0	39.4	3.0
	60歳代(n=84)	20.2	29.8	3.6	-	19.0	-	2.4	42.9	7.1
	70歳以上(n=145)	9.0	13.1	2.1	0.7	7.6	-	2.8	51.0	26.2
男性	男性全体(n=422)	2.4	34.6	0.5	0.7	10.0	0.7	2.1	50.2	10.7
	29歳以下(n=30)	10.0	20.0	3.3	3.3	10.0	3.3	-	80.0	-
	30歳代(n=38)	2.6	36.8	-	2.6	13.2	2.6	2.6	47.4	5.3
	40歳代(n=68)	5.9	57.4	-	-	19.1	-	-	29.4	8.8
	50歳代(n=80)	1.3	43.8	1.3	-	12.5	-	-	51.2	2.5
	60歳代(n=69)	1.4	39.1	-	-	11.6	-	4.3	47.8	7.2
	70歳以上(n=126)	-	17.5	-	0.8	2.4	-	4.0	54.8	23.0

◆マタニティ（パタニティ）・ハラスメントとは

働く女性が（「パタニティ」については働く男性の）妊娠・出産をきっかけに職場で精神的・肉体的な嫌がらせを受けたり、不当な扱いを受けたりすること

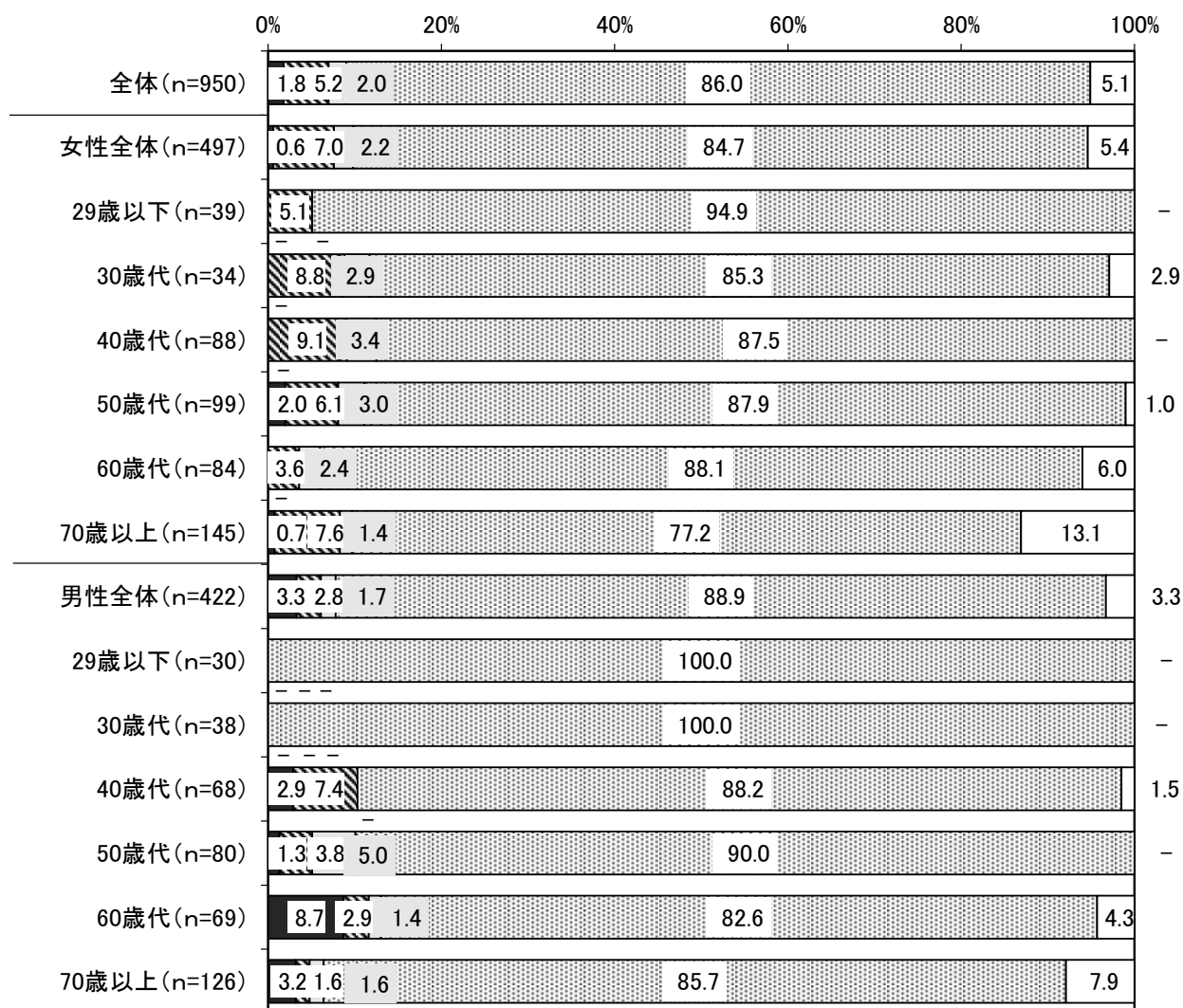
問 12 これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などのパートナーから、次にあげる A～D のような経験がありますか。

A 身体的暴力（1 つに○）

身体的暴力の経験の有無は、全体で「したことも、されたことも両方ない」が 86.0% と最も高く、次いで「されたことがある」が 5.2%、「したことも、されたことも両方ある」が 2.0% となっています。

性別にみると、男女ともに「したことも、されたことも両方ない」が最も高く、女性で 84.7%、男性で 88.9% となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「したことも、されたことも両方ない」が最も高くなっています。



■したことがある ▣されたことがある □したことも、されたことも両方ある
 □したことも、されたことも両方ない □不明・無回答

◆身体的暴力とは

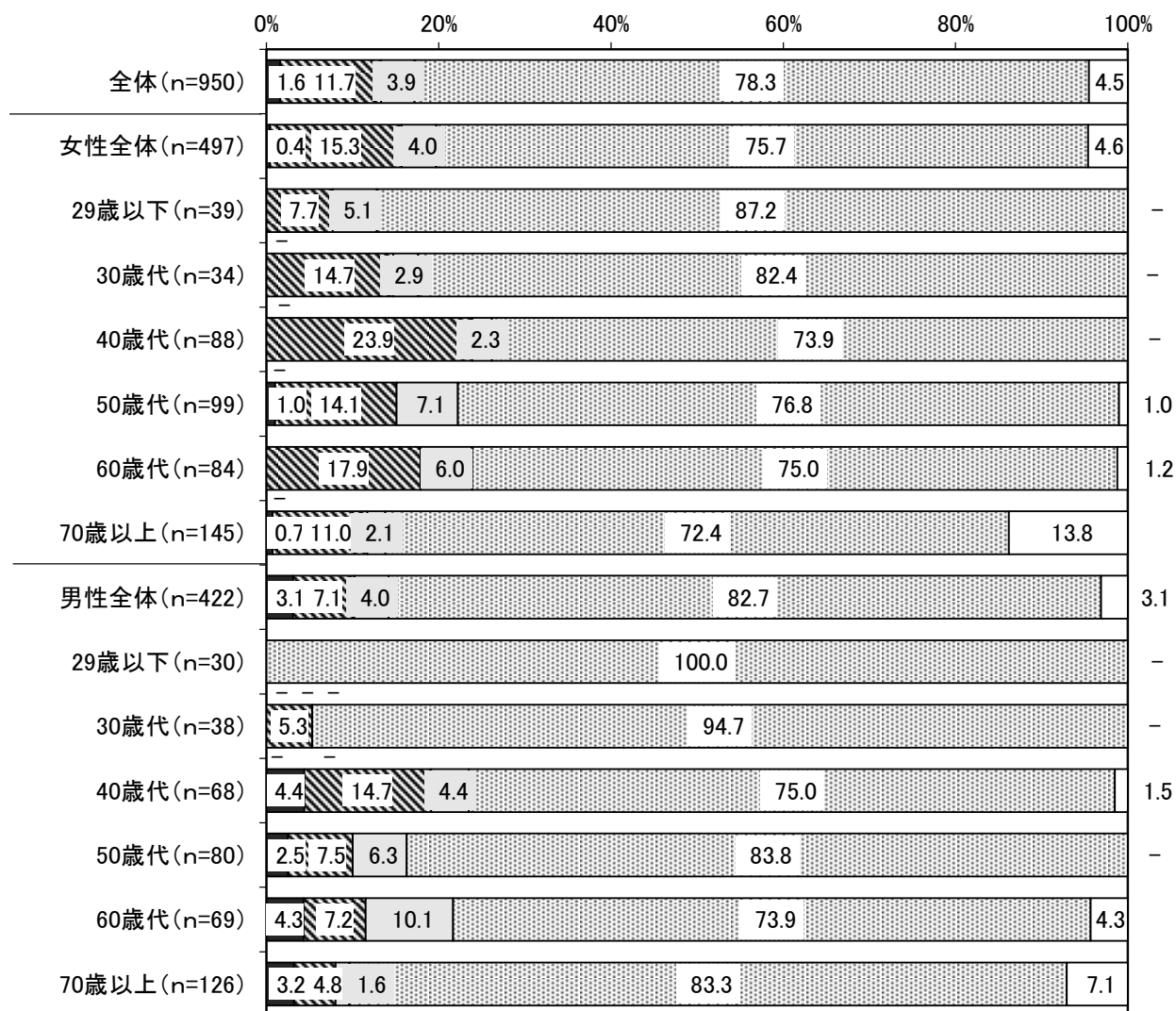
なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりすること

B 精神的暴力（1つに○）

精神的暴力の経験の有無は、全体で「したことも、されたことも両方ない」が78.3%と最も高く、次いで「されたことがある」が11.7%、「したことも、されたことも両方ある」が3.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「したことも、されたことも両方ない」が最も高く、女性で75.7%、男性で82.7%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「したことも、されたことも両方ない」が最も高くなっています。



■したことがある ▨されたことがある □したことも、されたことも両方ある
 □したことも、されたことも両方ない □不明・無回答

◆精神的暴力とは

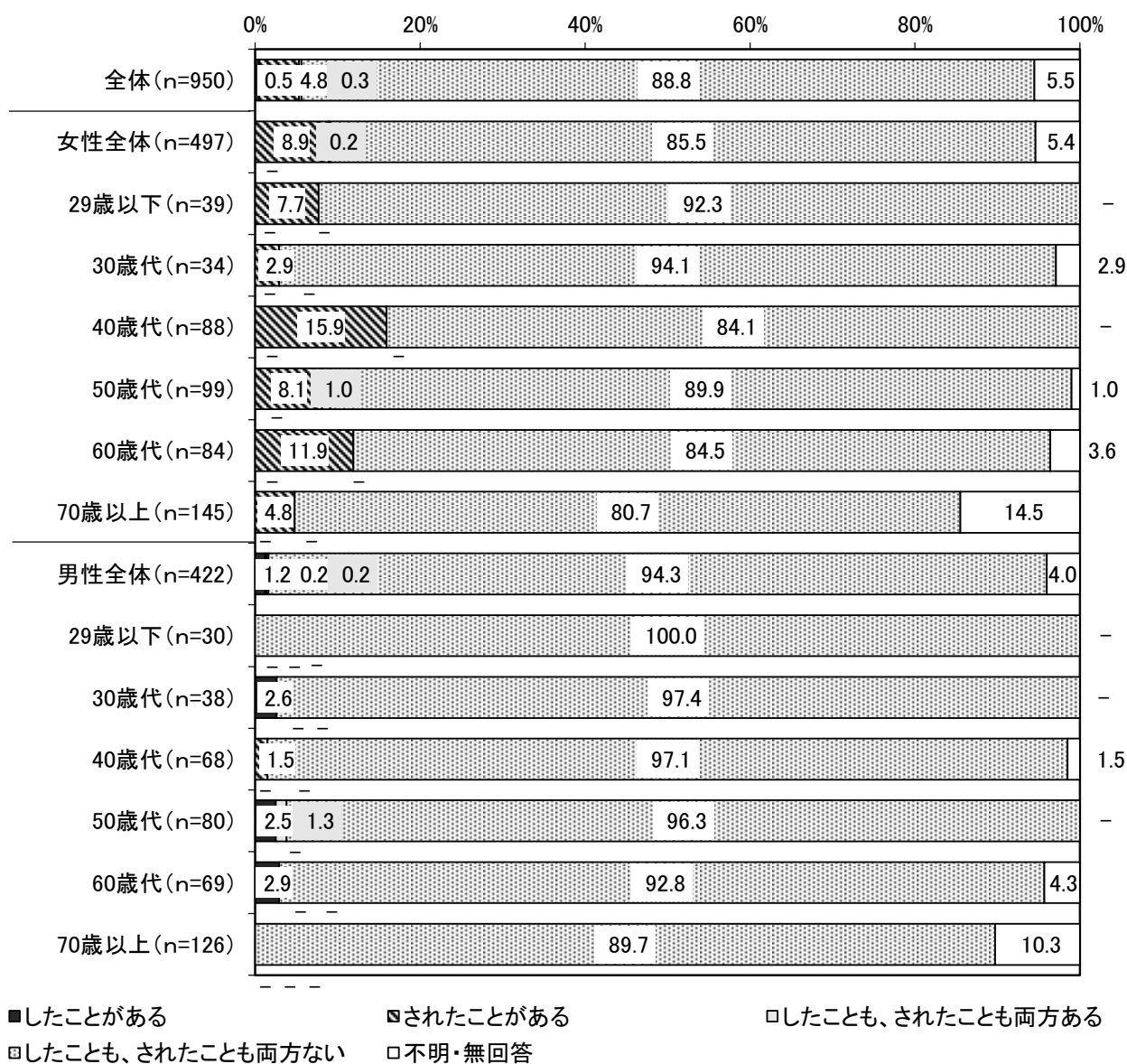
人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫をすること

C 性的強要（1つに○）

性的強要の経験の有無は、全体で「したことも、されたことも両方ない」が88.8%と最も高く、次いで「されたことがある」が4.8%、「したことがある」が0.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「したことも、されたことも両方ない」が最も高く、女性で85.5%、男性で94.3%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「したことも、されたことも両方ない」が最も高くなっています。



◆性的強要とは

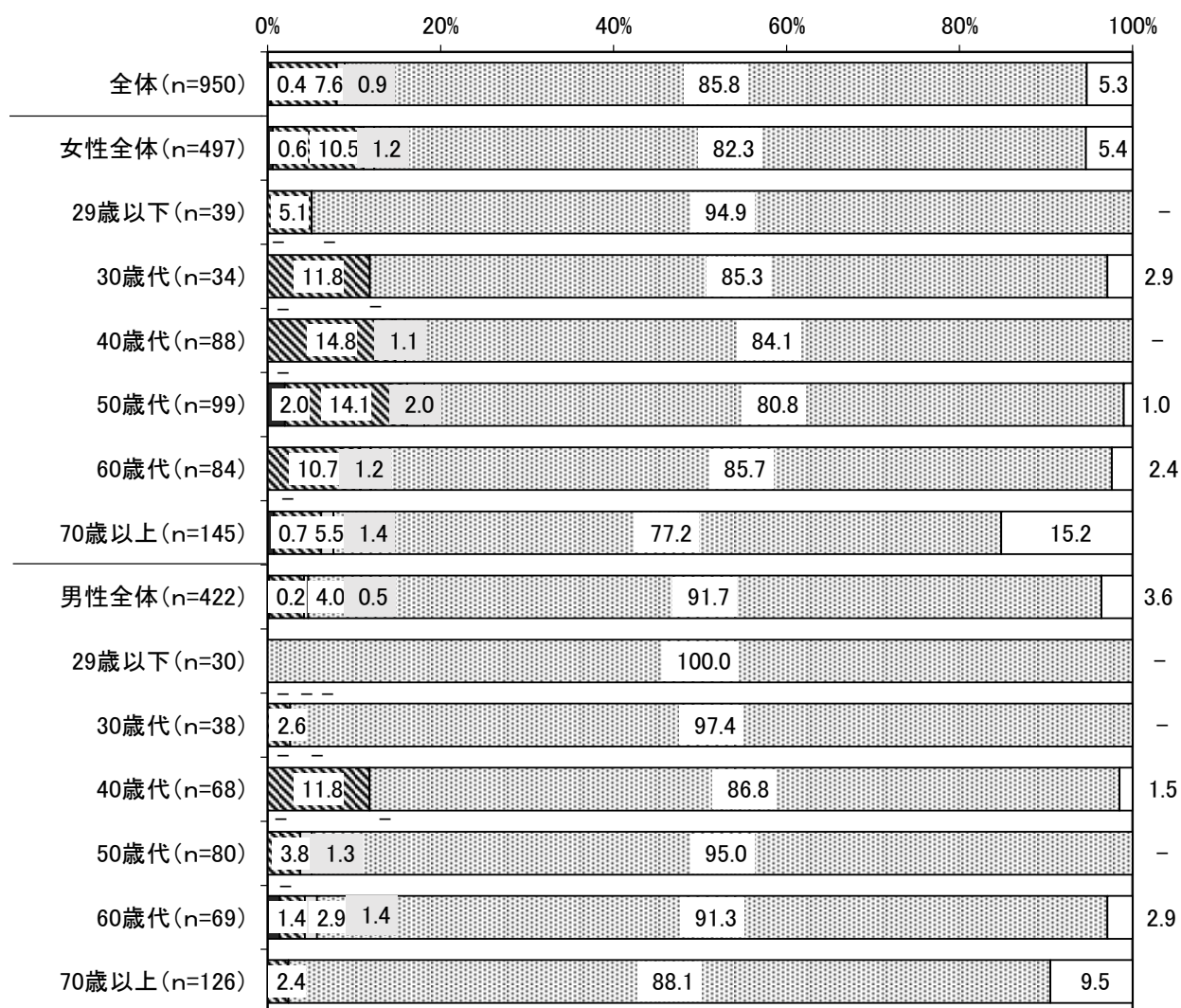
いやがっているのに、性的な行為を強要したり、見たくないのにポルノ映像等を見せる、避妊に協力しないこと

D 経済的圧迫（1つに○）

経済的圧迫の経験の有無は、全体で「したことも、されたことも両方ない」が85.8%と最も高く、次いで「されたことがある」が7.6%、「したことも、されたことも両方ある」が0.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「したことも、されたことも両方ない」が最も高く、女性で82.3%、男性で91.7%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「したことも、されたことも両方ない」が最も高くなっています。



■したことがある ▨されたことがある □したことも、されたことも両方ある
 □したことも、されたことも両方ない □不明・無回答

◆経済的圧迫とは

生活費を渡さなかったり、貯金を勝手に使う、外で働くことを妨害すること

問12のA～Dで「したことがある」～「したことも、されたことも両方ある」と1つでも答えた方
問12-1 そのとき、だれ、もしくはどこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

相談相手は、全体で「どこ（だれ）にも相談しなかった」が53.4%と最も高く、次いで「家族や親戚」が21.6%、「友人・知人」が20.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高く、女性で45.2%、男性で70.4%となっています。また、女性は男性に比べて「家族や親戚」「友人・知人」が高く、男性は女性に比べて「どこ（だれ）にも相談しなかった」が高くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。

単位：％		るの健康相談など）	所、家庭児童相談室、こ	き生きた相談、特設人権相談	市役所の相談窓口（女性生	参画センター、児童相談所	千葉県の相談窓口（女性サ	警察	法務局	民生委員・児童委員	法律関係者（弁護士など）	医療関係者（医師、看護	学校関係者（教員、養護教	員、スクールカウンセラー	間の相談機関（民間シエ	ルター・カウンセリング機	等）	家族や親戚
全体（n=204）		3.9		2.0	3.9	-	-	2.9	3.4	1.5	1.0	21.6						
女性	女性全体（n=126）	5.6	1.6	4.0	-	-	3.2	4.0	2.4	0.8	26.2							
	29歳以下（n=7）	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	-	-						
	30歳代（n=10）	10.0	10.0	-	-	-	-	10.0	-	-	30.0							
	40歳代（n=26）	7.7	3.8	11.5	-	-	-	7.7	-	-	34.6							
	50歳代（n=29）	6.9	-	-	-	-	6.9	3.4	3.4	-	34.5							
	60歳代（n=25）	-	-	-	-	-	-	-	4.0	-	24.0							
	70歳以上（n=26）	3.8	-	7.7	-	-	3.8	3.8	-	3.8	19.2							
男性	男性全体（n=71）	1.4	2.8	4.2	-	-	1.4	2.8	-	1.4	12.7							
	30歳代（n=4）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0							
	40歳代（n=18）	5.6	5.6	5.6	-	-	-	-	-	-	16.7							
	50歳代（n=16）	-	6.3	6.3	-	-	6.3	12.5	-	6.3	12.5							
	60歳代（n=16）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12.5							
	70歳以上（n=15）	-	-	6.7	-	-	-	-	-	-	6.7							

単位：％		友人・知人	その他	かど（だれ）にも相談しな	不明・無回答
全体(n=204)		20.6	1.5	53.4	7.4
女性	女性全体(n=126)	27.0	0.8	45.2	6.3
	29歳以下(n=7)	57.1	-	42.9	-
	30歳代(n=10)	20.0	-	50.0	-
	40歳代(n=26)	34.6	-	38.5	-
	50歳代(n=29)	27.6	-	41.4	3.4
	60歳代(n=25)	24.0	-	64.0	4.0
	70歳以上(n=26)	15.4	3.8	38.5	23.1
男性	男性全体(n=71)	11.3	1.4	70.4	8.5
	30歳代(n=4)	25.0	-	75.0	-
	40歳代(n=18)	-	-	77.8	-
	50歳代(n=16)	18.8	-	68.8	6.3
	60歳代(n=16)	18.8	-	68.8	12.5
	70歳以上(n=15)	6.7	6.7	60.0	20.0

※〔男性29歳以下〕はn＝0のため省略しています。

問 12-1 で「市役所の相談窓口（女性生き生き相談、特設人権相談所、家庭児童相談室、こころの健康相談など）」～「その他」と答えた方

問 12-2 相談した際の手段は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

相談時の手段は、全体で「対面での相談」が 74.1%と最も高く、次いで「電話での相談」が 33.3%、「メールでの相談」が 12.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「対面での相談」が最も高く、女性で 75.4%、男性で 81.3%となっています。

性・年代別でみると、40～50 歳代と 70 歳以上女性では「対面での相談」が最も高くなっています。

単位：％		対面での相談	電話での相談	メールでの相談	チャット、SNSでの相談	その他	不明・無回答
全体(n=81)		74.1	33.3	12.3	8.6	3.7	11.1
女性	女性全体(n=61)	75.4	34.4	11.5	8.2	1.6	11.5
	29歳以下(n=4)	100.0	25.0	-	50.0	-	-
	30歳代(n=5)	60.0	60.0	20.0	20.0	-	20.0
	40歳代(n=16)	87.5	25.0	12.5	12.5	-	6.3
	50歳代(n=16)	75.0	43.8	12.5	-	-	6.3
	60歳代(n=8)	100.0	37.5	12.5	-	-	-
	70歳以上(n=10)	40.0	20.0	-	-	10.0	40.0
男性	男性全体(n=16)	81.3	31.3	18.8	12.5	6.3	6.3
	30歳代(n=1)	-	-	-	100.0	-	-
	40歳代(n=4)	100.0	50.0	25.0	-	-	-
	50歳代(n=4)	100.0	50.0	25.0	25.0	-	-
	60歳代(n=3)	100.0	33.3	33.3	-	-	-
	70歳以上(n=4)	50.0	-	-	-	25.0	25.0

※〔男性29歳以下〕は n = 0 のため省略しています。

問 12-1で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方

問 12-3 どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

相談しなかった（できなかった）理由は、全体で「相談するほどのことではないと思った」が45.9%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」が32.1%、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかった」「恥ずかしくて誰にも言えなかった」が17.4%となっています。

性別にみると、女性では「相談しても無駄だと思った」が42.1%、男性では「相談するほどのことではないと思った」が58.0%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかった」「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「相談しても無駄だと思った」「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思った」が高く、男性は女性に比べて「相談するほどのことではないと思った」「特に理由はない」が高くなっています。

性・年代別でみると、40歳代女性では「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「相談しても無駄だと思った」、50歳代女性では「相談しても無駄だと思った」、60歳以上女性、40～60歳代男性では「相談するほどのことではないと思った」が最も高くなっています。

単位：%		よどこ のへだ われか らな相 か談し たて	な相 か談 つ窓 たが ある のを 知ら	口が なな がな かた った ので の相 談し た窓	な恥 かづ った しく て誰 にも 言え	た相 談し ても 無駄 だと思 つ	な相 談し るほ どの こと では	たも と相 談し たこ とが むし とど しを さ が わ る た け、	この 自分 がま さえ 我慢 すれ ば、 こ	思れ た相 談し た、 た 生活 でき ない と別	と自 分 に悪 い ところ がある
全体(n=109)		17.4	11.0	1.8	17.4	32.1	45.9	5.5	16.5	4.6	14.7
女性	女性全体(n=57)	26.3	14.0	3.5	31.6	42.1	36.8	8.8	22.8	8.8	15.8
	29歳以下(n=3)	66.7	-	33.3	66.7	33.3	33.3	-	-	-	33.3
	30歳代(n=5)	20.0	-	-	40.0	100.0	40.0	-	60.0	20.0	20.0
	40歳代(n=10)	30.0	10.0	-	40.0	40.0	30.0	10.0	10.0	20.0	10.0
	50歳代(n=12)	25.0	16.7	-	33.3	41.7	25.0	8.3	25.0	-	16.7
	60歳代(n=16)	12.5	12.5	-	18.8	37.5	43.8	-	25.0	-	12.5
	70歳以上(n=10)	30.0	20.0	10.0	20.0	20.0	40.0	20.0	10.0	10.0	20.0
男性	男性全体(n=50)	8.0	8.0	-	2.0	20.0	58.0	2.0	10.0	-	14.0
	30歳代(n=3)	33.3	33.3	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-
	40歳代(n=14)	7.1	-	-	-	21.4	35.7	-	-	-	7.1
	50歳代(n=11)	18.2	18.2	-	9.1	-	72.7	-	27.3	-	27.3
	60歳代(n=11)	-	-	-	-	18.2	54.5	-	-	-	18.2
	70歳以上(n=9)	-	11.1	-	-	33.3	88.9	11.1	22.2	-	11.1

単位：%		そ 他	特 に 理 由 は な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=109)		3.7	11.0	2.8	0.9
女性	女性全体(n=57)	1.8	5.3	-	1.8
	29歳以下(n=3)	-	33.3	-	-
	30歳代(n=5)	-	-	-	-
	40歳代(n=10)	10.0	-	-	-
	50歳代(n=12)	-	8.3	-	8.3
	60歳代(n=16)	-	-	-	-
	70歳以上(n=10)	-	10.0	-	-
男性	男性全体(n=50)	6.0	16.0	6.0	-
	30歳代(n=3)	33.3	33.3	-	-
	40歳代(n=14)	7.1	35.7	-	-
	50歳代(n=11)	-	9.1	-	-
	60歳代(n=11)	9.1	9.1	18.2	-
	70歳以上(n=9)	-	-	-	-

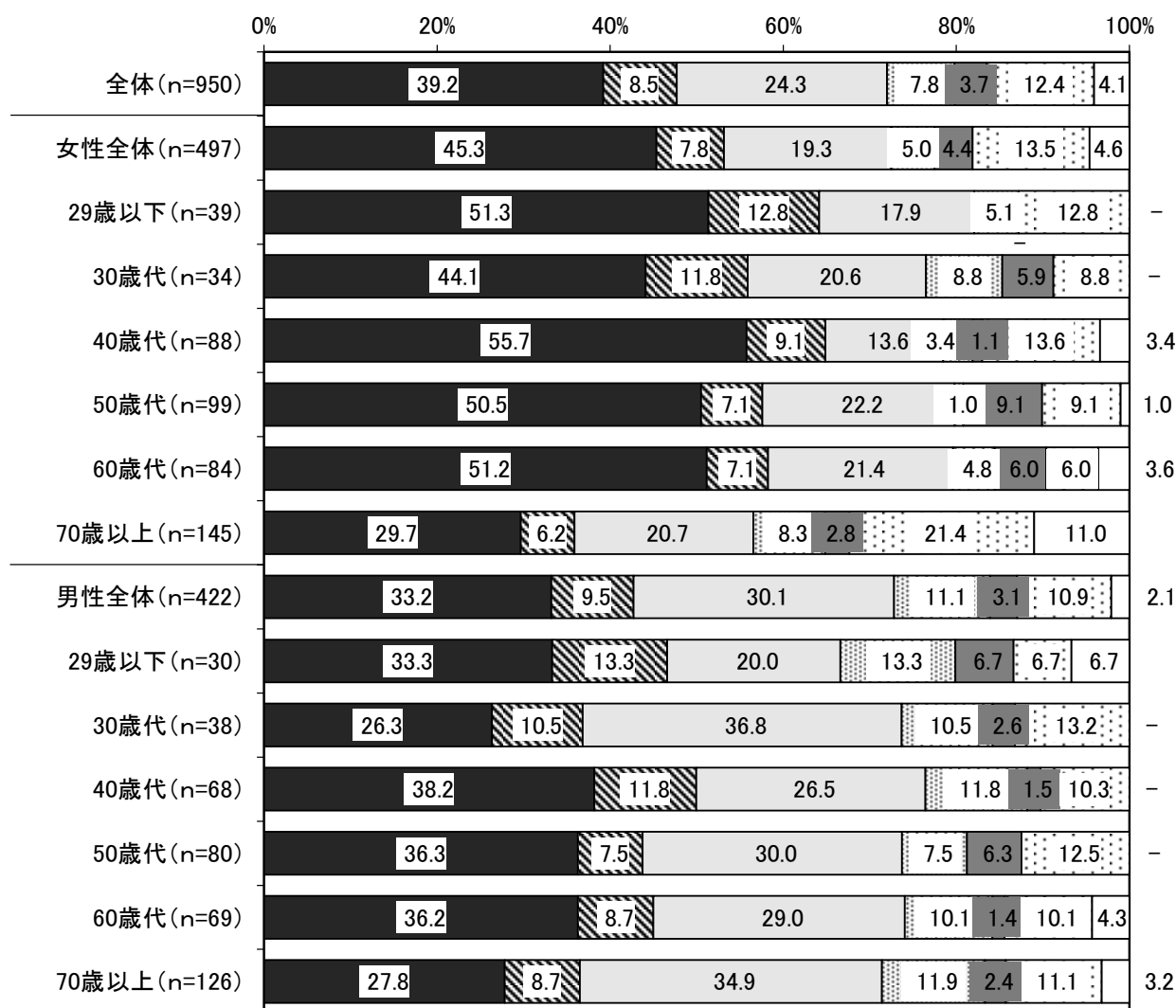
※〔男性29歳以下〕はn=0のため省略しています。

問 13 あなたは、配偶者やパートナーからの暴力についてどのようにお考えですか。(1つに○)

配偶者やパートナーからの暴力についての考え方は、全体で「100%加害者に責任があり、許せないものである」が39.2%と最も高く、次いで「加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」が24.3%、「わからない」が12.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「100%加害者に責任があり、許せないものである」が最も高く、女性で45.3%、男性で33.2%となっています。また、女性は男性に比べて「100%加害者に責任があり、許せないものである」が高く、男性は女性に比べて「加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」が高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代と70歳以上男性では「加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」、その他の年代では「100%加害者に責任があり、許せないものである」が最も高くなっています。

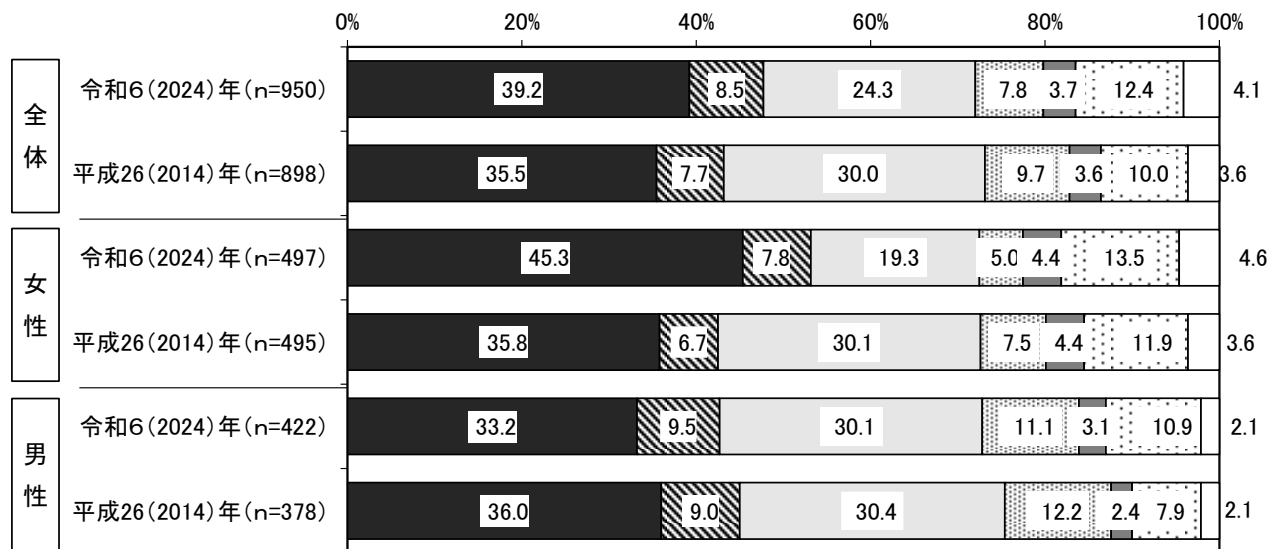


- 100%加害者に責任があり、許せないものである
- ▨ 加害者の責任はもちろんだが、つい手が出てしまうという気持ちもわかる
- ▤ 加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う
- ▦ 双方の関係の問題であり、周りがとやかく言うべきではない
- その他
- わからない
- 不明・無回答

経年比較 問 13

前回調査と比較すると、「加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性では「100%加害者に責任があり、許せないものである」が 9.5 ポイント高くなっています。



- 100%加害者に責任があり、許せないものである
- ▨ 加害者の責任はもちろんだが、つい手が出てしまうという気持ちもわかる
- 加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う
- ▤ 双方の関係の問題であり、周りがとやかく言うべきではない
- その他
- わからない
- 不明・無回答

性・年代別でみると、29歳以下女性では「犯罪の取り締まりを強化する」、その他の年代では「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」が最も高くなっています。

6 性と生殖に関する健康・権利について

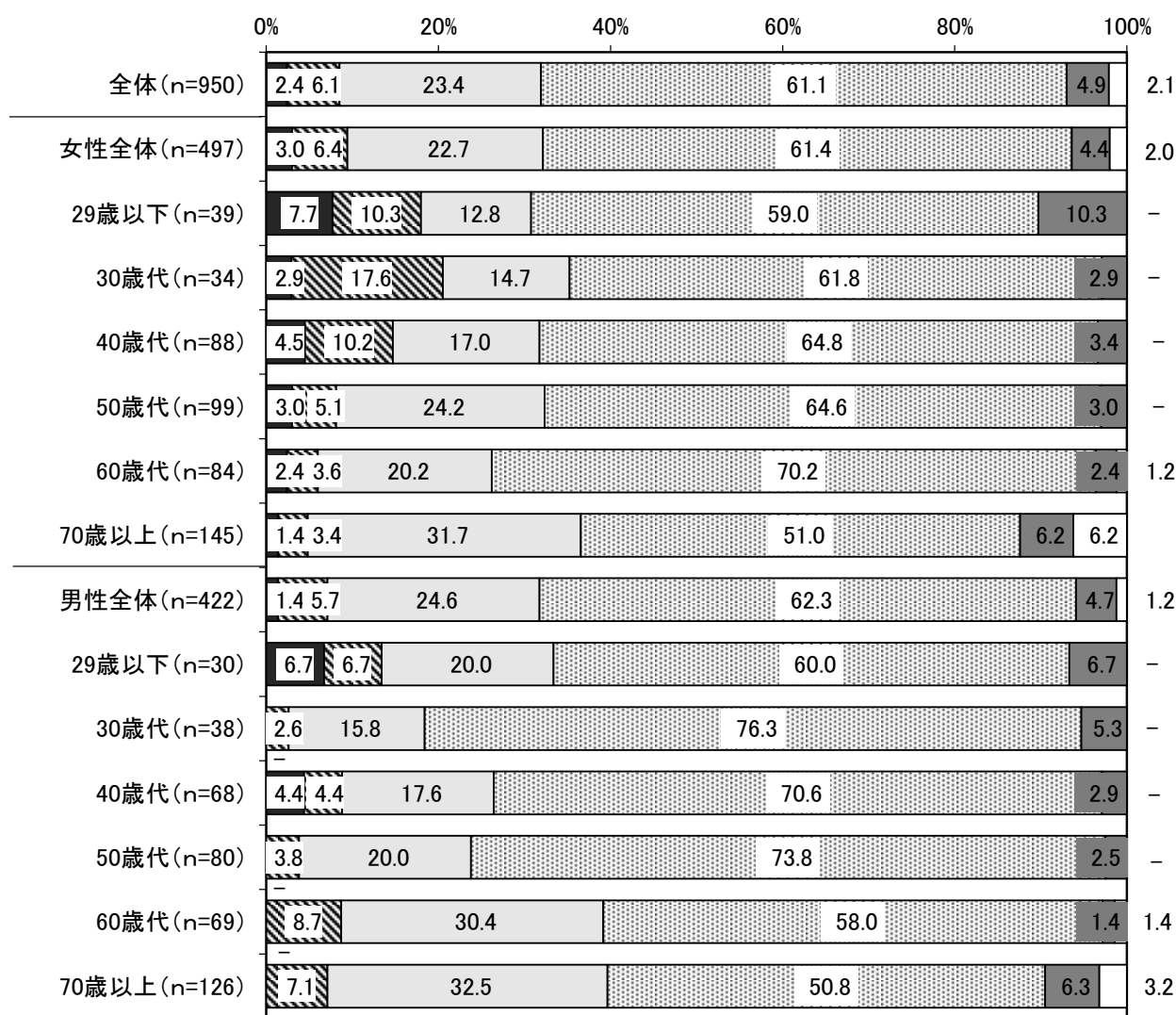
問 15 あなたは、自分の身体の性別や心の性について悩んだりしたことはありますか。(1つに○)

[共通設問：中学生調査…問11]

身体の性別や心の性について悩んだ経験の有無は、全体で「まったくない(一度もない)」が61.1%と最も高く、次いで「ほとんどない」が23.4%、「多少ある」が6.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「まったくない(一度もない)」が最も高く、女性で61.4%、男性で62.3%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「まったくない(一度もない)」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて20～40歳代女性と29歳以下男性では『ある』(「ある」と「多少ある」の合算)が高くなっています。



■ある ■多少ある □ほとんどない □まったくない(一度もない) ■わからない(どちらとも言えない) □不明・無回答

問 16 あなたは、女性の生涯にわたる健康を守るために、性や妊娠・出産に関して女性自身で決めるうえで、特に何が必要だと思いますか。（2つまで○）

性や妊娠・出産に関して女性自身で決めるうえで特に必要だと思うことは、全体で「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が50.9%と最も高く、次いで「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」が45.9%、「更年期についての情報提供・相談体制の充実」が18.9%となっています。

性別にみると、女性では「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が56.7%、男性では「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」が45.5%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代以下女性と50歳代以下男性では「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」、40歳以上女性と60歳以上男性では「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が最も高くなっています。

単位：%		子ども の成長 と発育 に応じ た男女	性 ・妊 娠・ 出産 につ いて の情 報提 供	喫 煙・ 薬物 など の情 報提 供・ 健康 体へ の制	ク ラミ シジ ン・ 感 染 症 な ど の 充 実	性 感 染 症 へ の 感 染 症 な ど の 充 実	更 年 期 に つ い て の 情 報 提 供 ・ 相 談	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=950)		50.9	45.9	15.3	14.6	18.9	1.9	16.9	2.1	
女性	女性全体(n=497)	56.7	46.5	13.3	15.3	20.9	2.2	14.1	1.6	
	29歳以下(n=39)	48.7	61.5	5.1	41.0	5.1	-	15.4	-	
	30歳代(n=34)	47.1	58.8	11.8	20.6	8.8	8.8	14.7	-	
	40歳代(n=88)	59.1	54.5	11.4	9.1	33.0	2.3	11.4	-	
	50歳代(n=99)	59.6	50.5	9.1	13.1	25.3	3.0	12.1	-	
	60歳代(n=84)	61.9	51.2	14.3	17.9	20.2	2.4	7.1	1.2	
	70歳以上(n=145)	54.5	30.3	19.3	11.7	18.6	0.7	20.0	4.8	
男性	男性全体(n=422)	45.3	45.5	18.2	13.3	17.8	1.2	19.9	1.4	
	29歳以下(n=30)	46.7	73.3	10.0	20.0	3.3	3.3	10.0	-	
	30歳代(n=38)	39.5	55.3	13.2	18.4	5.3	2.6	26.3	-	
	40歳代(n=68)	45.6	51.5	25.0	17.6	13.2	2.9	14.7	-	
	50歳代(n=80)	32.5	40.0	16.3	12.5	31.3	-	27.5	-	
	60歳代(n=69)	55.1	49.3	15.9	15.9	20.3	-	14.5	1.4	
	70歳以上(n=126)	50.0	35.7	21.4	7.9	18.3	-	19.8	4.0	

7 子育てや小中学校での教育について

問 17 学校教育の中で男女平等の意識を深めるためには、特に何が大切だと思いますか。

(3つまで○)

学校教育の中で男女平等の意識を深めるために特に大切だと思うことは、全体で「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」が53.6%と最も高く、次いで「相手へのいたわりや理解が増すような性教育をする」が45.5%、「男性女性が共に、経済的に自立できるような職業訓練や進路指導を受けられるようにする」が40.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」が最も高く、女性で56.5%、男性で51.2%となっています。また、女性は男性に比べて「男性女性が共に、経済的に自立できるような職業訓練や進路指導を受けられるようにする」「相手へのいたわりや理解が増すような性教育をする」が高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代以下男女では「相手へのいたわりや理解が増すような性教育をする」、40歳代女性では「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」「相手へのいたわりや理解が増すような性教育をする」、その他の年代では「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」が最も高くなっています。

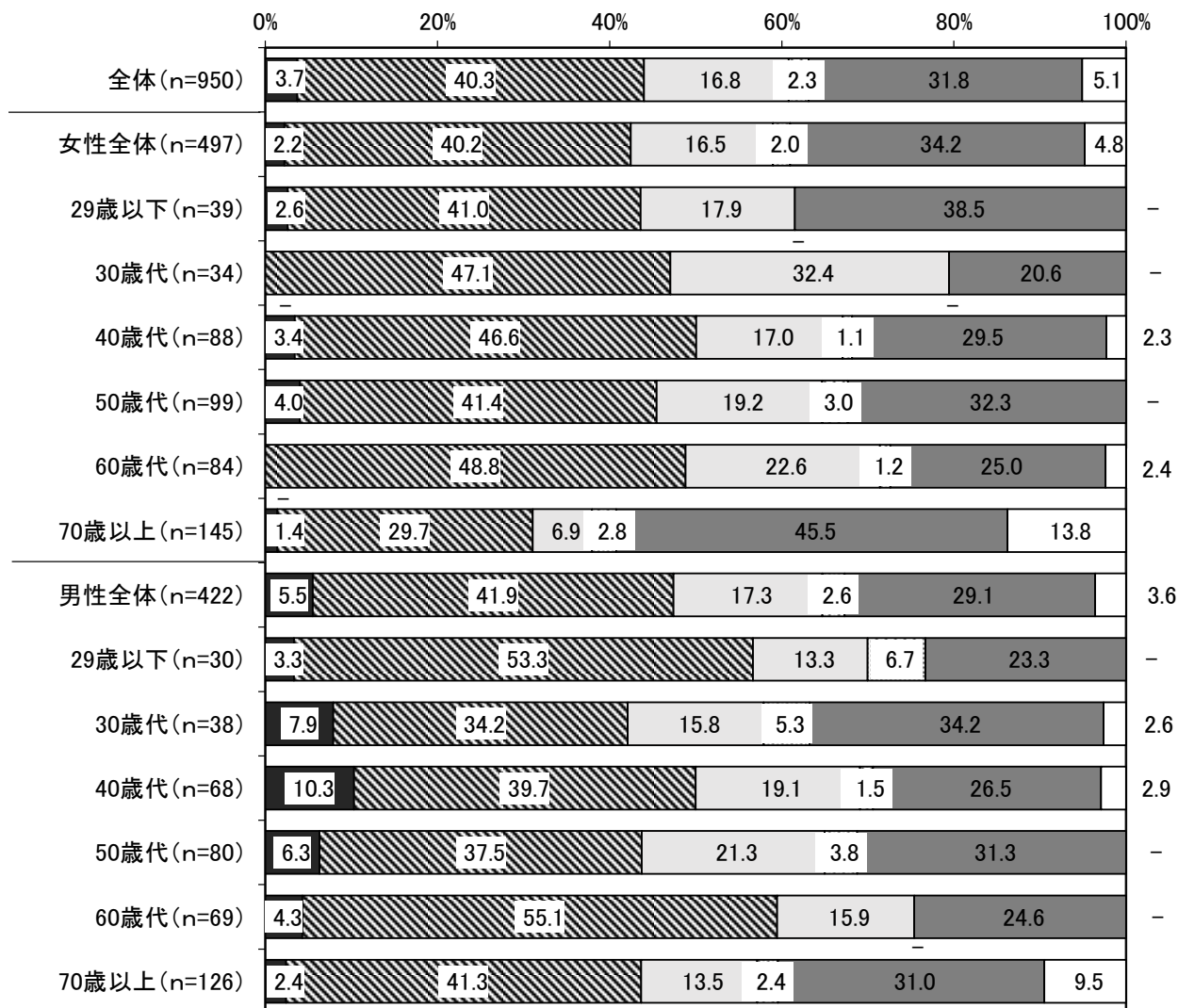
単位：％		会と男性が設ける	導き女性を受けられるよう	で女性性が共に、職業訓練や進路指導	よ相手へのいたわりや理解が増す	識性差別や人種差別などに問題意識	せる、国際交流や交換留学を学ば	する職員への男女平等研修を充実	め保護者や講演会を通して、深	その他	今のままでよい	わからない	不明・無回答
全体 (n=950)		53.6	40.8	45.5	36.2	18.0	16.7	10.9	1.9	1.8	7.1	2.7	
女性	女性全体 (n=497)	56.5	45.9	51.1	33.8	19.5	14.9	9.9	1.4	1.0	7.0	2.6	
	29歳以下 (n=39)	59.0	35.9	66.7	33.3	10.3	10.3	10.3	2.6	2.6	-	-	
	30歳代 (n=34)	47.1	47.1	50.0	41.2	17.6	8.8	11.8	-	-	14.7	-	
	40歳代 (n=88)	60.2	51.1	60.2	31.8	25.0	8.0	8.0	1.1	2.3	4.5	1.1	
	50歳代 (n=99)	57.6	47.5	44.4	35.4	17.2	14.1	14.1	3.0	-	7.1	-	
	60歳代 (n=84)	64.3	54.8	56.0	34.5	22.6	17.9	6.0	-	-	3.6	1.2	
	70歳以上 (n=145)	51.0	38.6	44.8	31.7	19.3	21.4	10.3	1.4	1.4	10.3	6.9	
男性	男性全体 (n=422)	51.2	35.8	40.3	40.0	15.9	19.0	12.3	2.4	2.8	6.6	1.2	
	29歳以下 (n=30)	50.0	23.3	70.0	36.7	10.0	16.7	13.3	3.3	-	3.3	-	
	30歳代 (n=38)	39.5	31.6	47.4	36.8	15.8	21.1	7.9	5.3	10.5	13.2	-	
	40歳代 (n=68)	52.9	38.2	42.6	41.2	20.6	17.6	13.2	1.5	2.9	2.9	-	
	50歳代 (n=80)	47.5	38.8	31.3	36.3	20.0	16.3	13.8	1.3	5.0	10.0	-	
	60歳代 (n=69)	58.0	31.9	39.1	56.5	10.1	15.9	11.6	1.4	1.4	4.3	-	
	70歳以上 (n=126)	51.6	38.1	38.1	36.5	15.1	23.8	11.9	2.4	0.8	6.3	4.0	

問 18 今の子どもたちには、男女平等の意識がどの程度浸透していると思いますか。(1つに○)

今の子どもたちに男女平等の意識がどの程度浸透していると思うかは、全体で「ある程度浸透している」が40.3%と最も高く、次いで「わからない」が31.8%、「あまり浸透していない」が16.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「ある程度浸透している」が最も高く、女性で40.2%、男性で41.9%となっています。

性・年代別でみると、70歳以上女性では「わからない」、30歳代男性では「ある程度浸透している」「わからない」、その他の年代では「ある程度浸透している」が最も高くなっています。



■十分に浸透している ■ある程度浸透している □あまり浸透していない □浸透していない ■わからない □不明・無回答

問 18で「十分浸透している」または「ある程度浸透している」と答えた方

問 18-1 浸透していると思う主な理由は、何ですか。(3つまで○)

浸透していると思う主な理由は、全体で「共働きが浸透したり、地域活動に男女関係なく参加したりするなど、親の意識が変わったから」が51.2%と最も高く、次いで「父親も家事・育児に参加するなど、父親の生き方や意識が変わったから」が40.9%、「技術科・家庭科を男女が共に学ぶようになるなど、授業で男女の不要な区別がなくなったから」が40.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「共働きが浸透したり、地域活動に男女関係なく参加したりするなど、親の意識が変わったから」が最も高く、女性で55.9%、男性で46.5%となっています。また、女性は男性に比べて「技術科・家庭科を男女が共に学ぶようになるなど、授業で男女の不要な区別がなくなったから」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性、30歳代以下男性では「テレビやインターネット等で、性別にとられず自分らしく生きる男女の情報が提供されるから」、30歳代女性では「父親も家事・育児に参加するなど、父親の生き方や意識が変わったから」「テレビやインターネット等で、性別にとられず自分らしく生きる男女の情報が提供されるから」、50歳代女性では「技術科・家庭科を男女が共に学ぶようになるなど、授業で男女の不要な区別がなくなったから」、40歳代男性では「父親も家事・育児に参加するなど、父親の生き方や意識が変わったから」、その他の年代では「共働きが浸透したり、地域活動に男女関係なく参加したりするなど、親の意識が変わったから」が最も高くなっています。

単位：％		区別がなくなつたから	共同・技術・家庭科を必要とする	が（学校での先生の接し方）	な上り下りの風潮がなく	混合名簿の採用で男子を	意識が変つたから	加活動に男女関係なく、親の参	域働きが浸透したり、	共同・活動に男女関係なく、親の参	や親も家事・育児に参加	父親など、父・親の生き方	情報・生活・文化・男女の	等で、性別にとらわれず	テレビやインターネット	し・自治体の啓発が浸透	国・自治体の啓発が浸透	男女が平等に担うように	な・生徒・生徒会役員	級長・部長・生徒会役員	男・女・等・在・方・海	国際化の浸透で、海外の	国際化の浸透で、海外の	その他
全体(n=418)		40.4	16.5	12.9	51.2	40.9	34.9	2.4	10.0	14.8	3.1													
女性	女性全体(n=211)	46.4	15.6	13.3	55.9	42.7	37.4	1.4	10.0	10.4	2.4													
	29歳以下(n=17)	52.9	17.6	17.6	35.3	23.5	58.8	-	17.6	5.9	-													
	30歳代(n=16)	18.8	25.0	6.3	43.8	56.3	56.3	6.3	6.3	12.5	-													
	40歳代(n=44)	29.5	20.5	11.4	50.0	34.1	45.5	-	13.6	11.4	2.3													
	50歳代(n=45)	55.6	13.3	17.8	53.3	35.6	33.3	-	8.9	13.3	2.2													
	60歳代(n=41)	61.0	17.1	12.2	75.6	61.0	24.4	-	9.8	2.4	4.9													
	70歳以上(n=45)	48.9	6.7	11.1	60.0	46.7	33.3	4.4	6.7	15.6	2.2													
男性	男性全体(n=200)	34.0	18.0	12.5	46.5	39.0	31.5	3.5	10.5	18.5	4.0													
	29歳以下(n=17)	29.4	41.2	11.8	23.5	23.5	47.1	17.6	5.9	-	5.9													
	30歳代(n=16)	31.3	12.5	6.3	37.5	25.0	43.8	6.3	18.8	12.5	-													
	40歳代(n=34)	26.5	14.7	8.8	38.2	41.2	29.4	2.9	2.9	11.8	5.9													
	50歳代(n=35)	37.1	20.0	17.1	40.0	37.1	31.4	2.9	14.3	14.3	2.9													
	60歳代(n=41)	41.5	14.6	12.2	61.0	31.7	29.3	-	9.8	29.3	4.9													
	70歳以上(n=55)	34.5	16.4	14.5	54.5	52.7	27.3	1.8	10.9	23.6	3.6													

単位：％		特に理由はない	わからない	不明・無回答
全体(n=418)		5.0	0.7	2.4
女性	女性全体(n=211)	4.3	0.5	2.4
	29歳以下(n=17)	5.9	-	-
	30歳代(n=16)	-	6.3	-
	40歳代(n=44)	9.1	-	-
	50歳代(n=45)	2.2	-	2.2
	60歳代(n=41)	-	-	2.4
	70歳以上(n=45)	4.4	-	6.7
男性	男性全体(n=200)	6.0	1.0	2.5
	29歳以下(n=17)	-	-	5.9
	30歳代(n=16)	12.5	-	-
	40歳代(n=34)	11.8	-	5.9
	50歳代(n=35)	8.6	-	-
	60歳代(n=41)	2.4	-	2.4
	70歳以上(n=55)	3.6	3.6	1.8

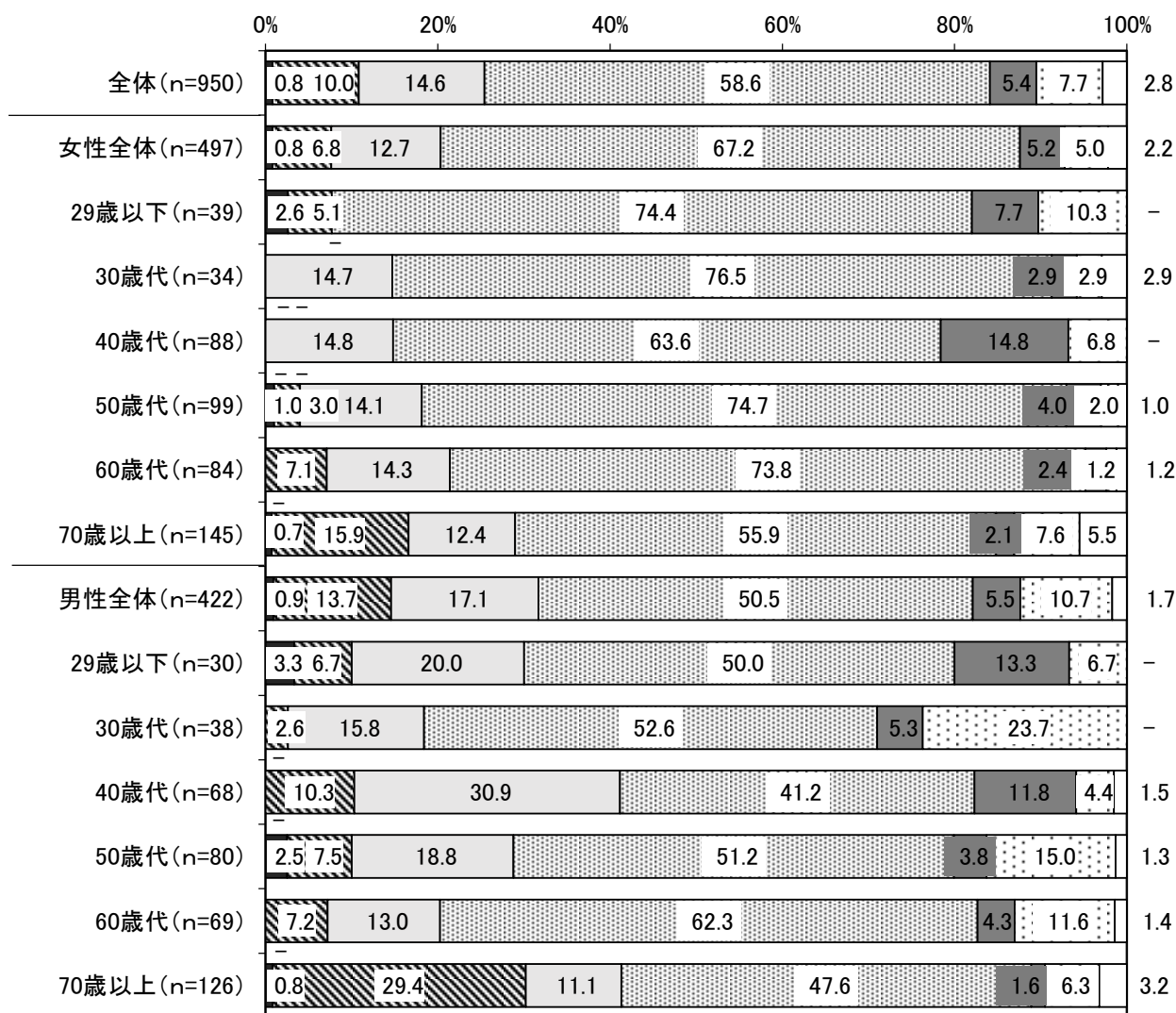
8 介護について

問 19 高齢者や病人の介護は、主として女性（妻、娘、息子の配偶者）の役割になりがちです。
このことについてあなたはどのように思いますか。（1つに○）

介護が主として女性の役割になりがちなことについてどう思うかは、全体で「男性も積極的に取り組む方がよい」が58.6%と最も高く、次いで「労働時間などの現状からみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない」が14.6%、「介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい」が10.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「男性も積極的に取り組む方がよい」が最も高く、女性で67.2%、男性で50.5%となっています。また、女性は男性に比べて「男性も積極的に取り組む方がよい」が高くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「男性も積極的に取り組む方がよい」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて40歳男性では「労働時間などの現状からみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない」、70歳以上男性では「介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい」が高くなっています。

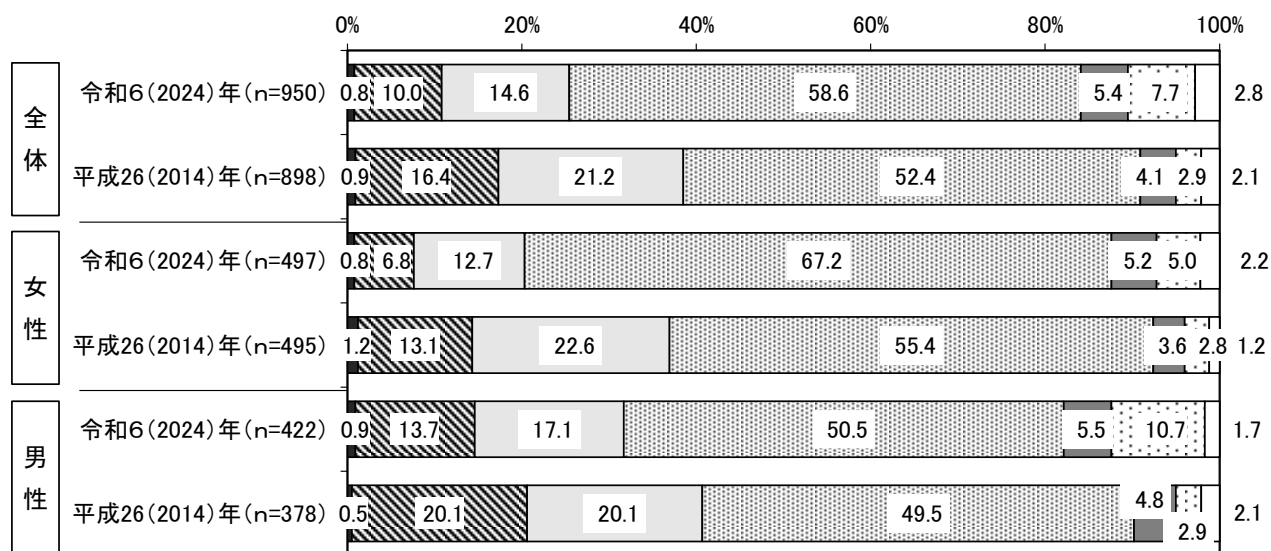


- 女性としての役割として当然だと思う
- 介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい
- 労働時間などの現状からみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない
- ▨ 男性も積極的に取り組む方がよい
- その他
- わからない
- 不明・無回答

◆経年比較 問 19

前回調査と比較すると、「男性も積極的に取り組む方がよい」が6.2ポイント高くなっています。また、「介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい」が6.4ポイント、「労働時間などの現状からみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない」が6.6ポイント低くなっています。

性別でみると、女性では「男性も積極的に取り組む方がよい」が11.8ポイント高くなっています。男性では「介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい」が6.4ポイント低くなっています。



- 女性の役割として当然だと思う
- 介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい
- 労働時間などの現状からみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない
- 男性も積極的に取り組む方がよい
- その他
- わからない
- 不明・無回答

問 20 男性の介護への参加を進めるために、特に必要だと思うことは何ですか。（2つまで○）

男性の介護への参加を進めるために特に必要だと思うことは、全体で「男性が取りやすいような介護休暇制度を企業等が整備する」が63.7%と最も高く、次いで「労働時間の短縮や、在宅勤務、フレックスタイムの導入などを企業等が導入する」が50.4%、「男性が気軽に参加できるような介護講座を開催する」が22.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「男性が取りやすいような介護休暇制度を企業等が整備する」が最も高く、女性で65.0%、男性で64.2%となっています。

性・年代別でみると、30歳代男性では「労働時間の短縮や、在宅勤務、フレックスタイムの導入などを企業等が導入する」、その他の年代では「男性が取りやすいような介護休暇制度を企業等が整備する」が最も高くなっています。

単位：％		男性が 介護 制度 を取り やすい よう な 介 護	男性が 介護 講座 に 参 加 で き る よ う	男性の 啓行 活動 と 協 力 を 得 る た め	労働 時間 の 短 縮 や 、 在 宅 勤 務 の 導 入	女性 が 男 性 に 介 護 へ の 参 加 を 望 む	介護 は 今 ま で 通 り き 、 女 性 が 中 心 と な っ て い る こ と は 必 ず な い	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=950)		63.7	22.0	17.2	50.4	4.2	0.9	4.1	7.4	2.1
女性	女性全体(n=497)	65.0	23.5	18.1	52.9	5.8	0.4	2.4	5.6	1.8
	29歳以下(n=39)	71.8	28.2	10.3	51.3	5.1	-	-	5.1	-
	30歳代(n=34)	76.5	23.5	5.9	73.5	-	-	-	5.9	-
	40歳代(n=88)	77.3	6.8	14.8	62.5	2.3	-	4.5	3.4	-
	50歳代(n=99)	63.6	24.2	19.2	57.6	8.1	-	3.0	4.0	-
	60歳代(n=84)	64.3	31.0	20.2	52.4	2.4	-	2.4	2.4	2.4
	70歳以上(n=145)	54.5	27.6	22.8	40.7	9.0	1.4	2.1	10.3	4.8
男性	男性全体(n=422)	64.2	20.9	16.6	48.6	2.6	1.4	5.9	8.8	0.7
	29歳以下(n=30)	63.3	10.0	16.7	53.3	-	3.3	10.0	3.3	-
	30歳代(n=38)	55.3	5.3	2.6	71.1	-	-	13.2	15.8	-
	40歳代(n=68)	73.5	14.7	8.8	60.3	1.5	-	7.4	10.3	-
	50歳代(n=80)	70.0	18.8	8.8	47.5	2.5	2.5	5.0	7.5	1.3
	60歳代(n=69)	63.8	29.0	20.3	47.8	4.3	-	4.3	7.2	1.4
	70歳以上(n=126)	60.3	27.8	25.4	37.3	3.2	2.4	4.0	8.7	0.8

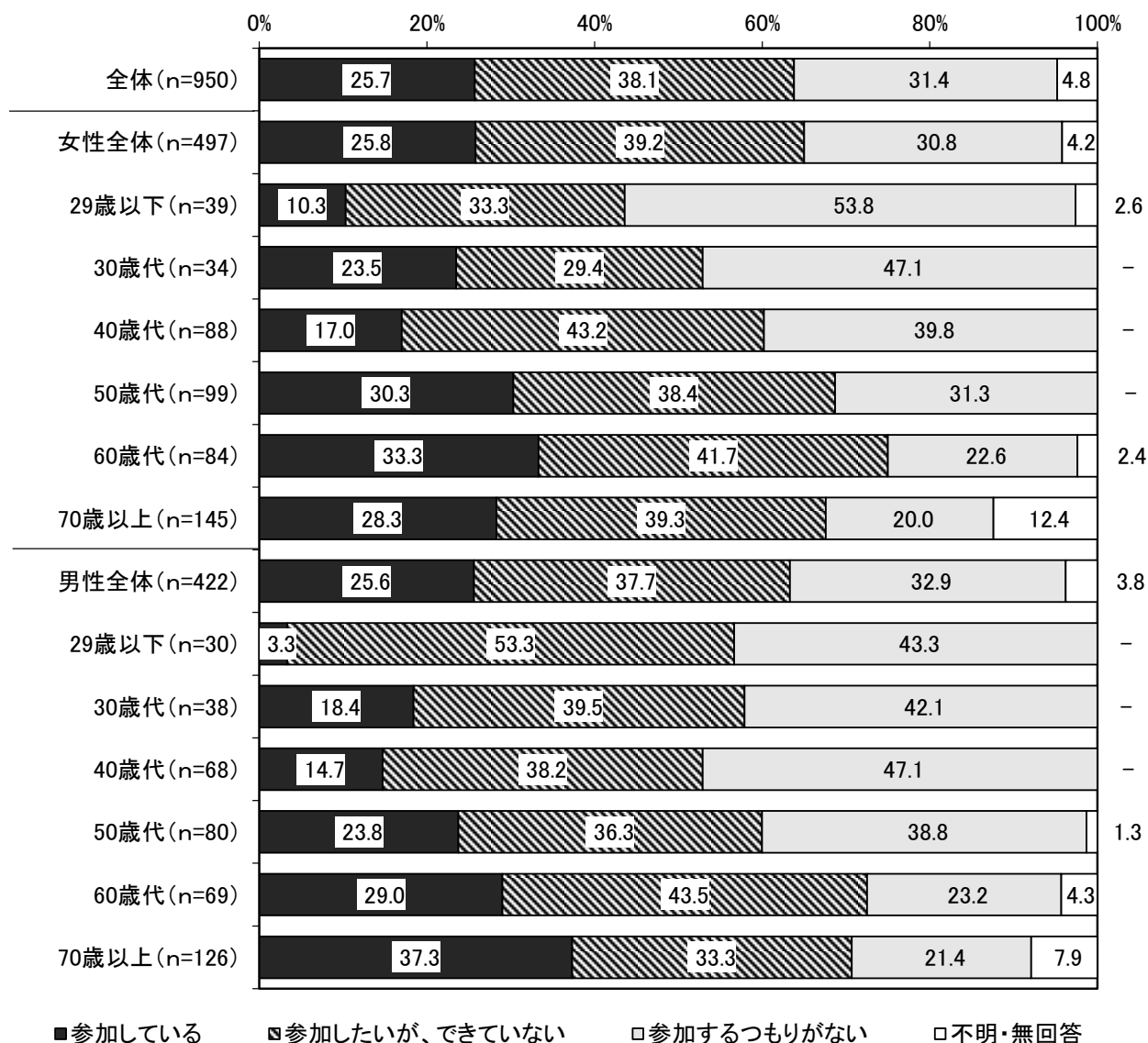
9 地域の活動について

問21 あなたの地域活動（自治会やボランティア等）への参加状況は、どれですか。（1つに○）

地域活動への参加状況は、全体で「参加したいが、できていない」が38.1%と最も高く、次いで「参加するつもりがない」が31.4%、「参加している」が25.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「参加したいが、できていない」が最も高く、女性で39.2%、男性で37.7%となっています。

性・年代別でみると、30歳代以下女性、30～50歳代男性では「参加するつもりがない」、70歳以上男性では「参加している」、その他の年代では「参加したいが、できていない」が最も高くなっています。また、40歳以上男性では年代が上がるにつれて「参加している」が高くなっています。



問 21 で「参加したいが、できていない」または「参加するつもりがない」と答えた方

問 21-1 地域活動（自治会やボランティア等）へ参加できない理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

地域活動へ参加できない理由は、全体で「時間が取れない」が 47.1%と最も高く、次いで「きっかけがない」が 32.0%、「人付き合いが苦手」が 25.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「時間が取れない」が最も高く、女性で 46.6%、男性で 47.3%となっています。

性・年代別でみると、60 歳代女性では「時間が取れない」「きっかけがない」、70 歳以上男女では「きっかけがない」、その他の年代では「時間が取れない」が最も高くなっています。

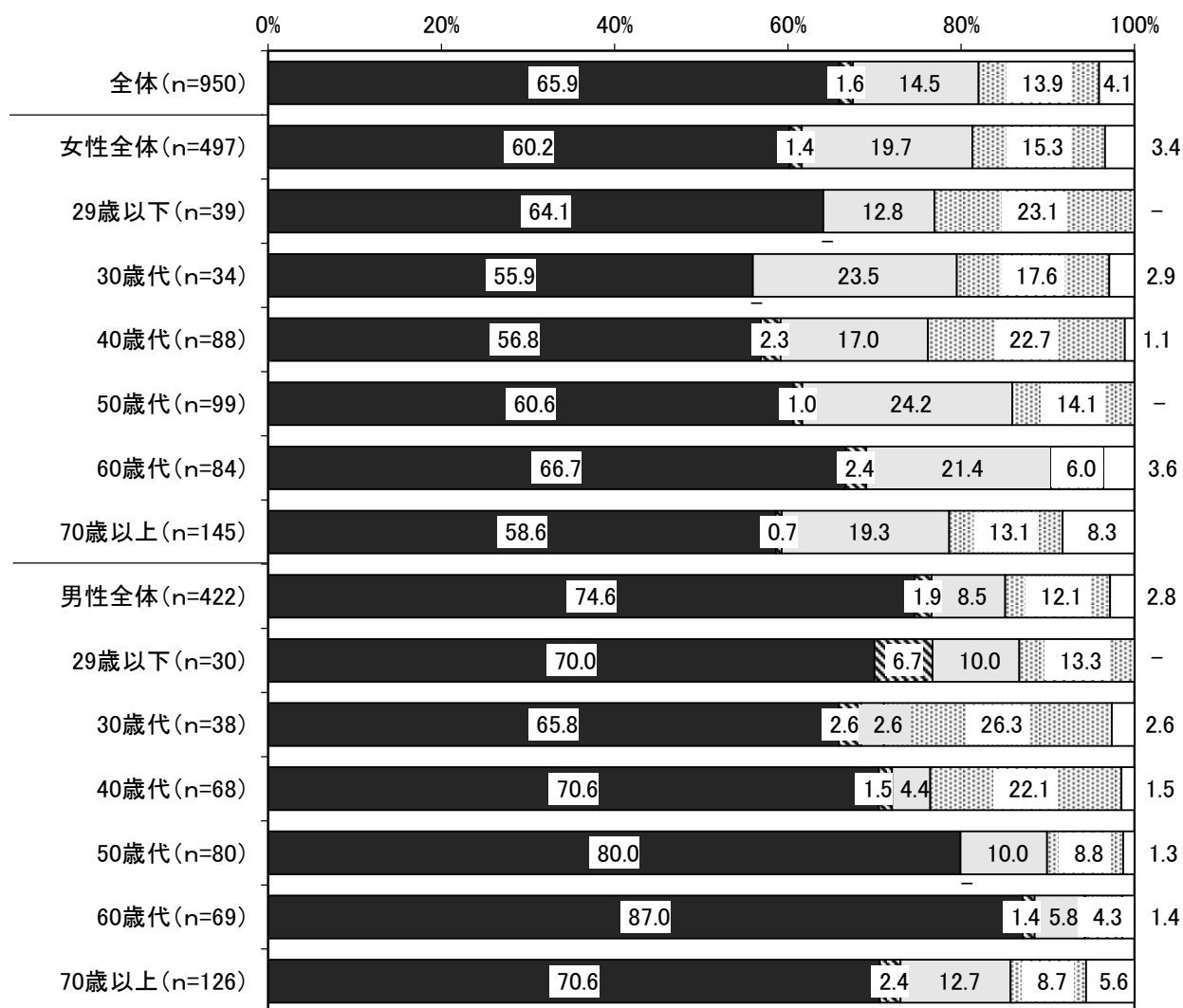
単位：％		時間が取れない	きっかけがない	情報が少ない	人付き合いが苦手	関心がない	その他	特に理由はない	わからない	不明・無回答
全体(n=660)		47.1	32.0	25.0	25.6	14.4	10.0	11.5	1.8	0.5
女性	女性全体(n=348)	46.6	32.5	24.4	24.7	9.8	12.1	13.5	1.4	0.9
	29歳以下(n=34)	70.6	32.4	23.5	26.5	29.4	2.9	5.9	-	-
	30歳代(n=26)	65.4	23.1	38.5	38.5	19.2	7.7	7.7	3.8	-
	40歳代(n=73)	58.9	37.0	28.8	30.1	12.3	6.8	11.0	-	-
	50歳代(n=69)	55.1	29.0	20.3	31.9	5.8	10.1	7.2	-	-
	60歳代(n=54)	40.7	40.7	25.9	20.4	7.4	9.3	13.0	-	1.9
	70歳以上(n=86)	16.3	29.1	20.9	11.6	2.3	24.4	26.7	3.5	2.3
男性	男性全体(n=298)	47.3	31.9	25.8	26.5	19.5	8.1	9.4	1.7	-
	29歳以下(n=29)	75.9	51.7	31.0	17.2	13.8	-	3.4	3.4	-
	30歳代(n=31)	67.7	29.0	35.5	22.6	19.4	12.9	6.5	3.2	-
	40歳代(n=58)	58.6	34.5	31.0	29.3	34.5	1.7	-	-	-
	50歳代(n=60)	58.3	25.0	28.3	30.0	23.3	1.7	6.7	1.7	-
	60歳代(n=46)	37.0	32.6	23.9	30.4	6.5	8.7	8.7	2.2	-
	70歳以上(n=69)	15.9	27.5	14.5	23.2	13.0	18.8	24.6	1.4	-

問 22 地域活動（自治会やボランティア等）に、女性がリーダーとして参画することについてどのようにお考えですか。（1つに○）

地域活動に女性がリーダーとして参画することについての考え方は、全体で「女性も積極的に参画するほうがよい」が65.9%と最も高く、次いで「女性が参画することには賛成だが、現実には難しい」が14.5%、「わからない」が13.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「女性も積極的に参画するほうがよい」が最も高く、女性で60.2%、男性で74.6%となっています。また、女性は男性に比べて「女性が参画することには賛成だが、現実には難しい」が高く、男性は女性に比べて「女性も積極的に参画するほうがよい」が高くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「女性も積極的に参画するほうがよい」が最も高くなっています。



- 女性も積極的に参画するほうがよい
- 女性が参画することには賛成だが、現実には難しい
- 不明・無回答
- ▨ 男性に任せたほうがよい
- ▨ わからない

10 防災・避難について

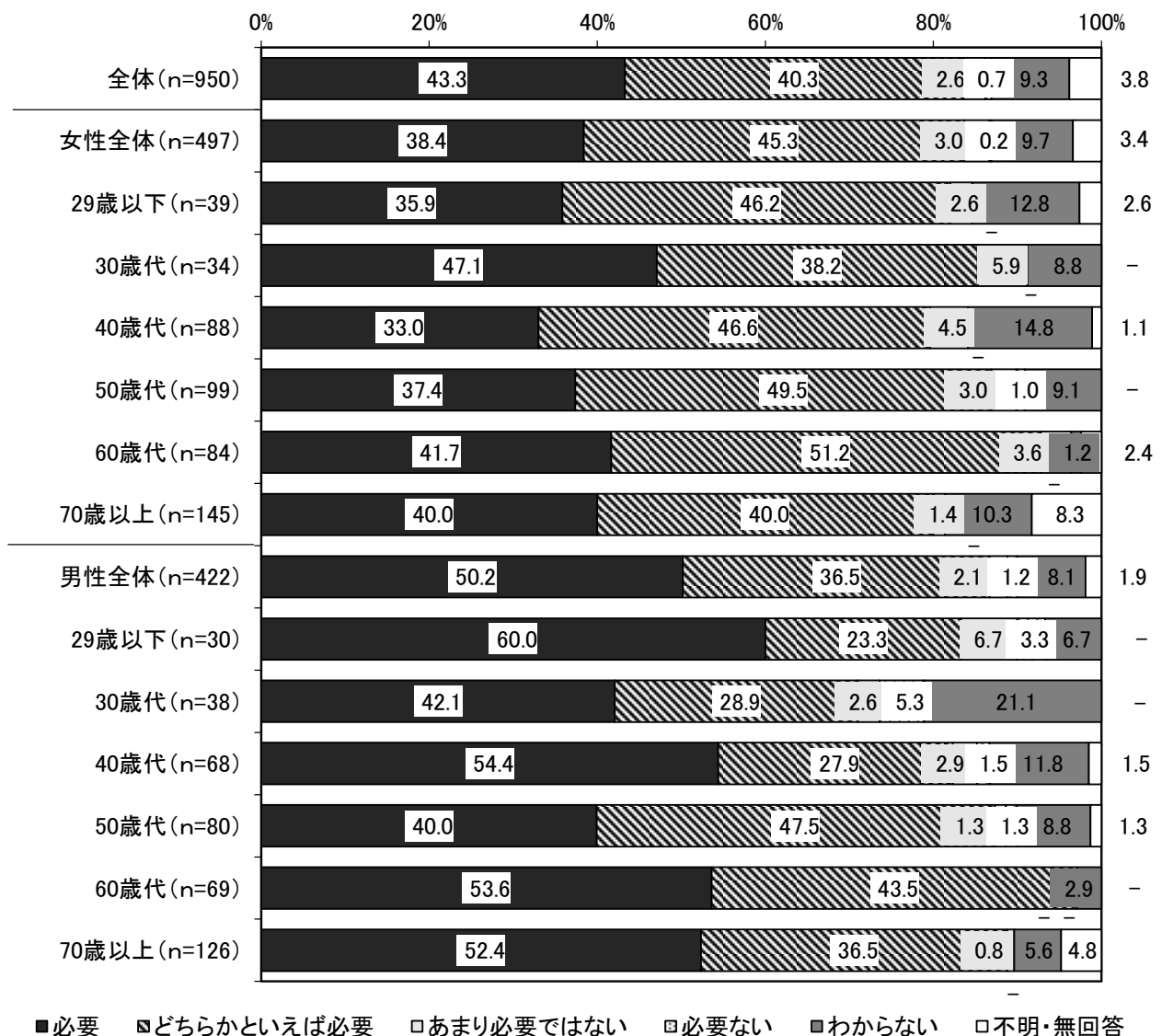
問 23 これまでの災害において、女性と男性のニーズの違いなどが配慮されないといった課題が生じましたが、防災（災害復興も含む）活動に関して男女共同参画を推進していくために、必要だと思うことはどれですか。

A 防災訓練や防災研修会への女性の積極的な参加に努める（1つに○）

防災訓練や防災研修会への女性の積極的な参加に努めることの必要性は、全体で「必要」が43.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば必要」が40.3%、「わからない」が9.3%となっています。

性別にみると、女性では「どちらかといえば必要」が45.3%、男性では「必要」が50.2%で最も高くなっています。また、男性は女性に比べて「必要」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下と40～60歳代女性、50歳代男性では「どちらかといえば必要」、70歳以上女性では「必要」「どちらかといえば必要」、その他の年代では「必要」が最も高くなっています。

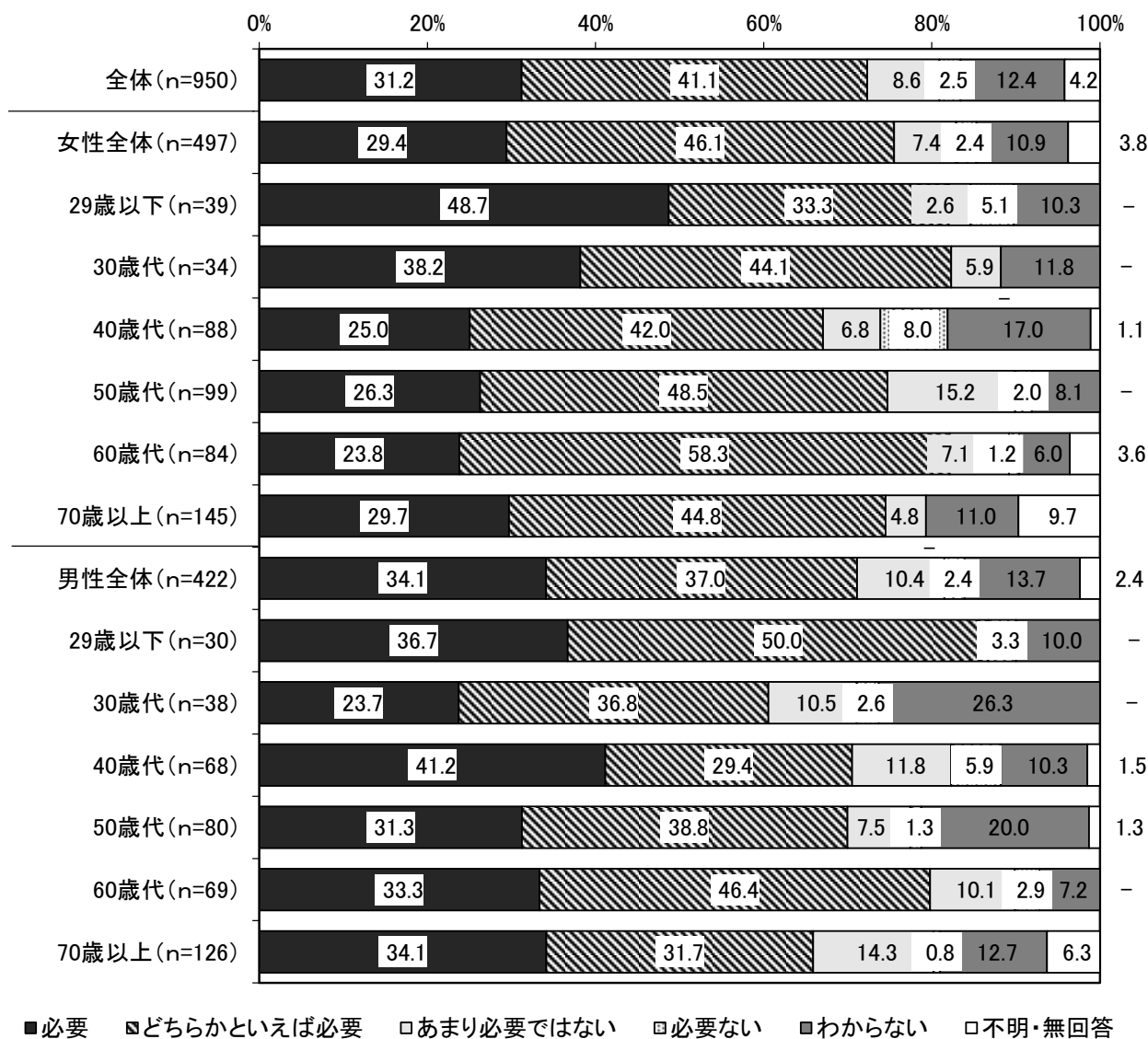


B 母親教室、乳幼児教室、PTA活動等、女性が多く集まる場での研修・訓練（1つに○）

母親教室、乳幼児教室、PTA活動等、女性が多く集まる場での研修・訓練の必要性は、全体で「どちらかといえば必要」が41.1%と最も高く、次いで「必要」が31.2%、「わからない」が12.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば必要」が最も高く、女性で46.1%、男性で37.0%となっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性、40歳代と70歳以上男性では「必要」、その他の年代では「どちらかといえば必要」が最も高くなっています。

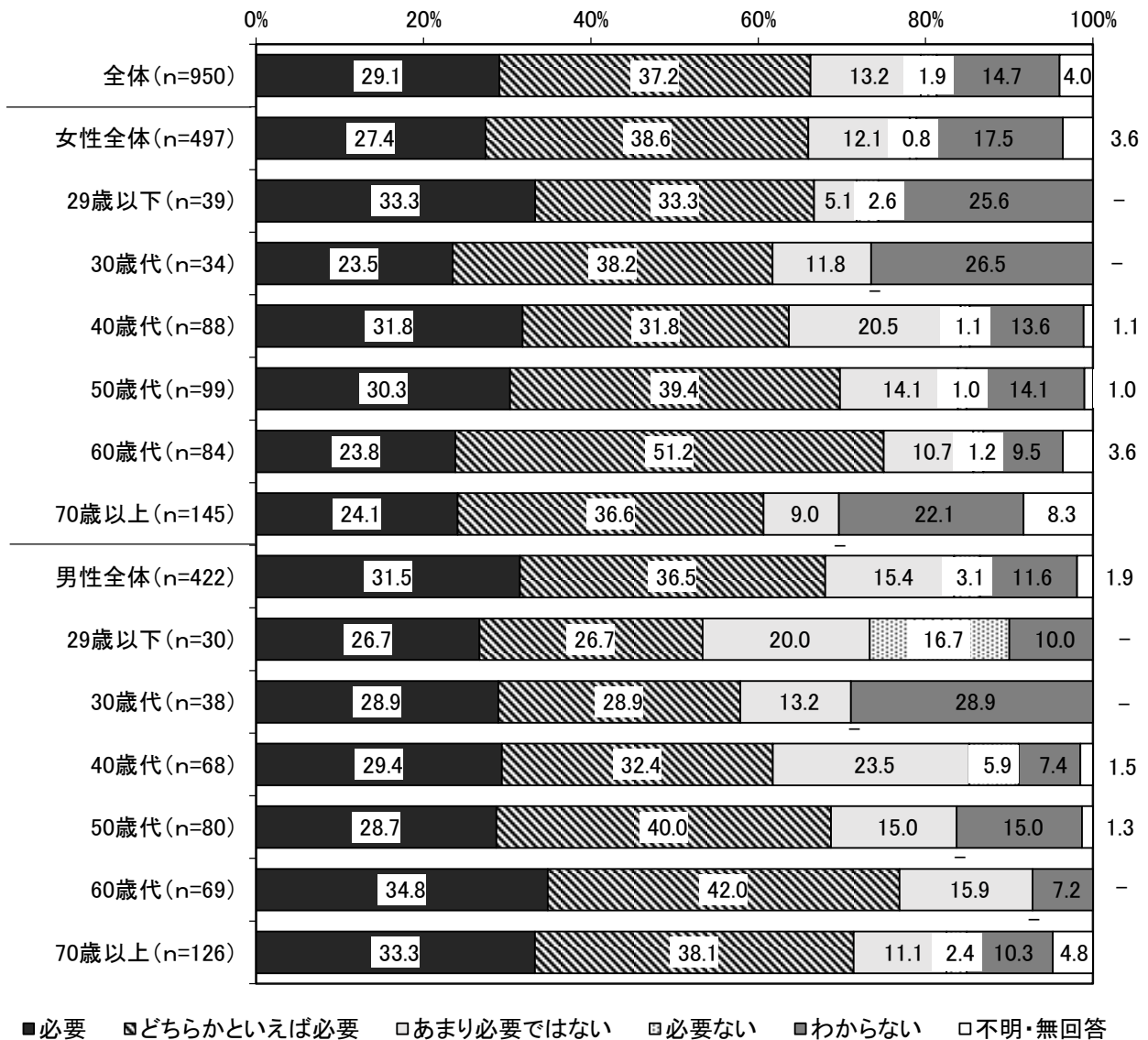


C 女性消防職員や女性消防団員の育成、役員への女性の登用（1つに○）

女性消防職員や女性消防団員の育成、役員への女性の登用の必要性は、全体で「どちらかといえば必要」が37.2%と最も高く、次いで「必要」が29.1%、「わからない」が14.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば必要」が最も高く、女性で38.6%、男性で36.5%となっています。

性・年代別でみると、29歳以下と40歳代女性、29歳下男性では「必要」「どちらかといえば必要」、30歳代男性では「必要」「どちらかといえば必要」「わからない」、その他の年代では「どちらかといえば必要」が最も高くなっています。

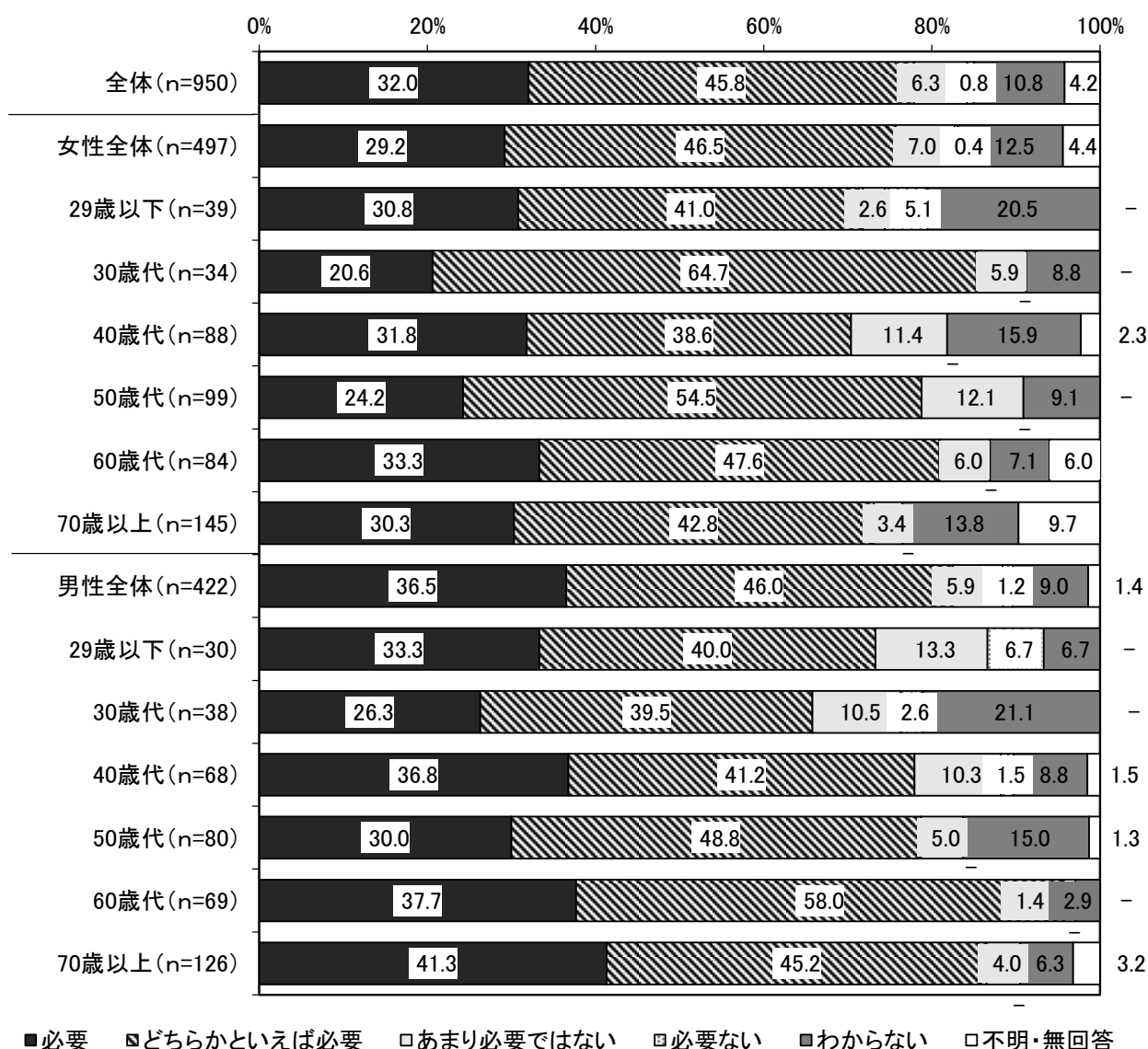


D 地域の自主防災活動の運営に関する女性の積極的な参加（1つに○）

地域の自主防災活動の運営に関する女性の積極的な参加の必要性は、全体で「どちらかといえば必要」が45.8%と最も高く、次いで「必要」が32.0%、「わからない」が10.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば必要」が最も高く、女性で46.5%、男性で46.0%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「どちらかといえば必要」が最も高くなっています。

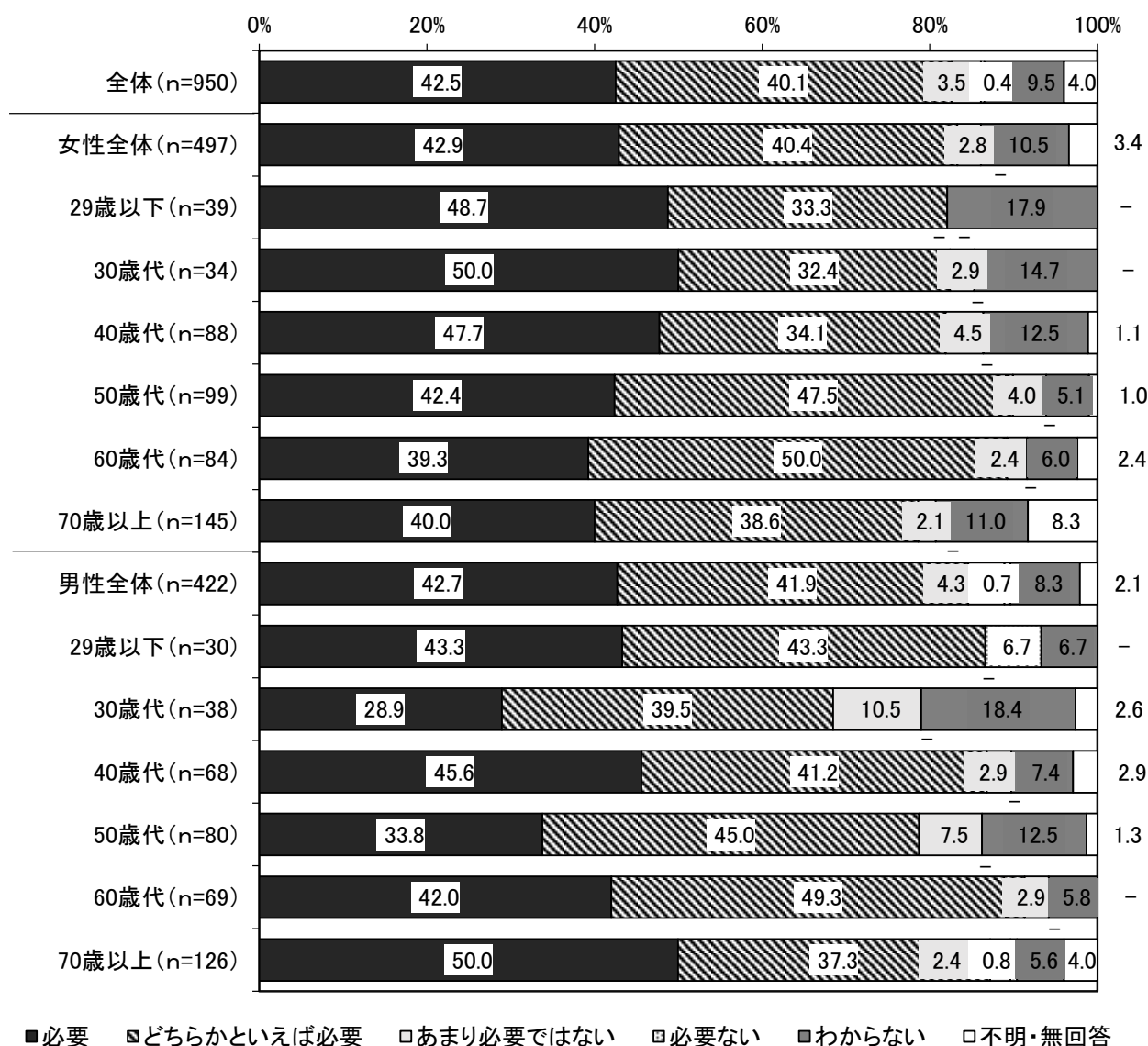


E 災害時ボランティア登録など多様な人材の確保（1つに○）

災害時ボランティア登録など多様な人材の確保の必要性は、全体で「必要」が42.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば必要」が40.1%、「わからない」が9.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「必要」が最も高く、女性で42.9%、男性で42.7%となっています。

性・年代別でみると、30歳代男性、50～60歳代男女では「どちらかといえば必要」、29歳以下男性では「必要」「どちらかといえば必要」、その他の年代では「必要」が最も高くなっています。

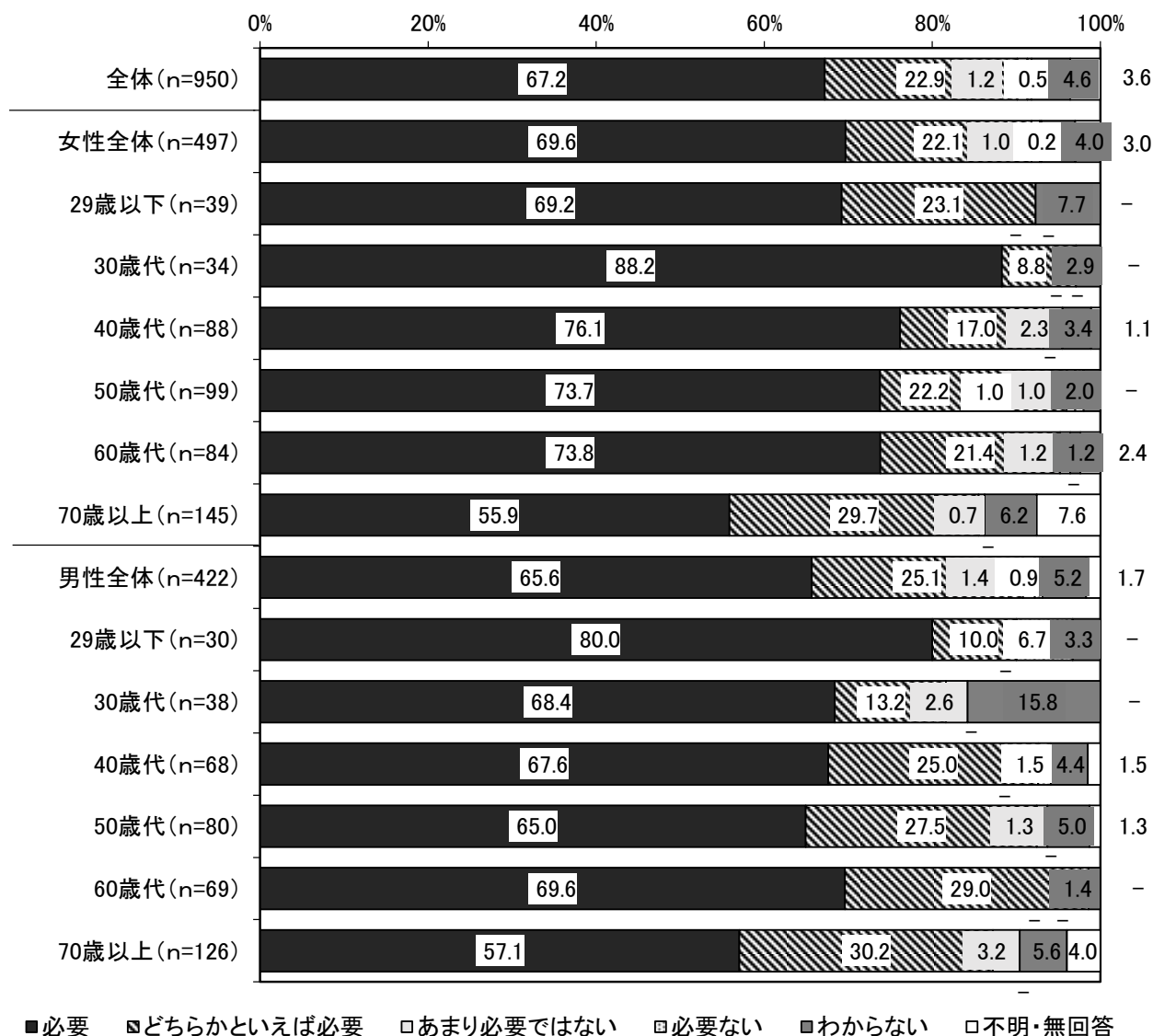


F 女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保（1つに○）

女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保の必要性は、全体で「必要」が67.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば必要」が22.9%、「わからない」が4.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「必要」が最も高く、女性で69.6%、男性で65.6%となっています。

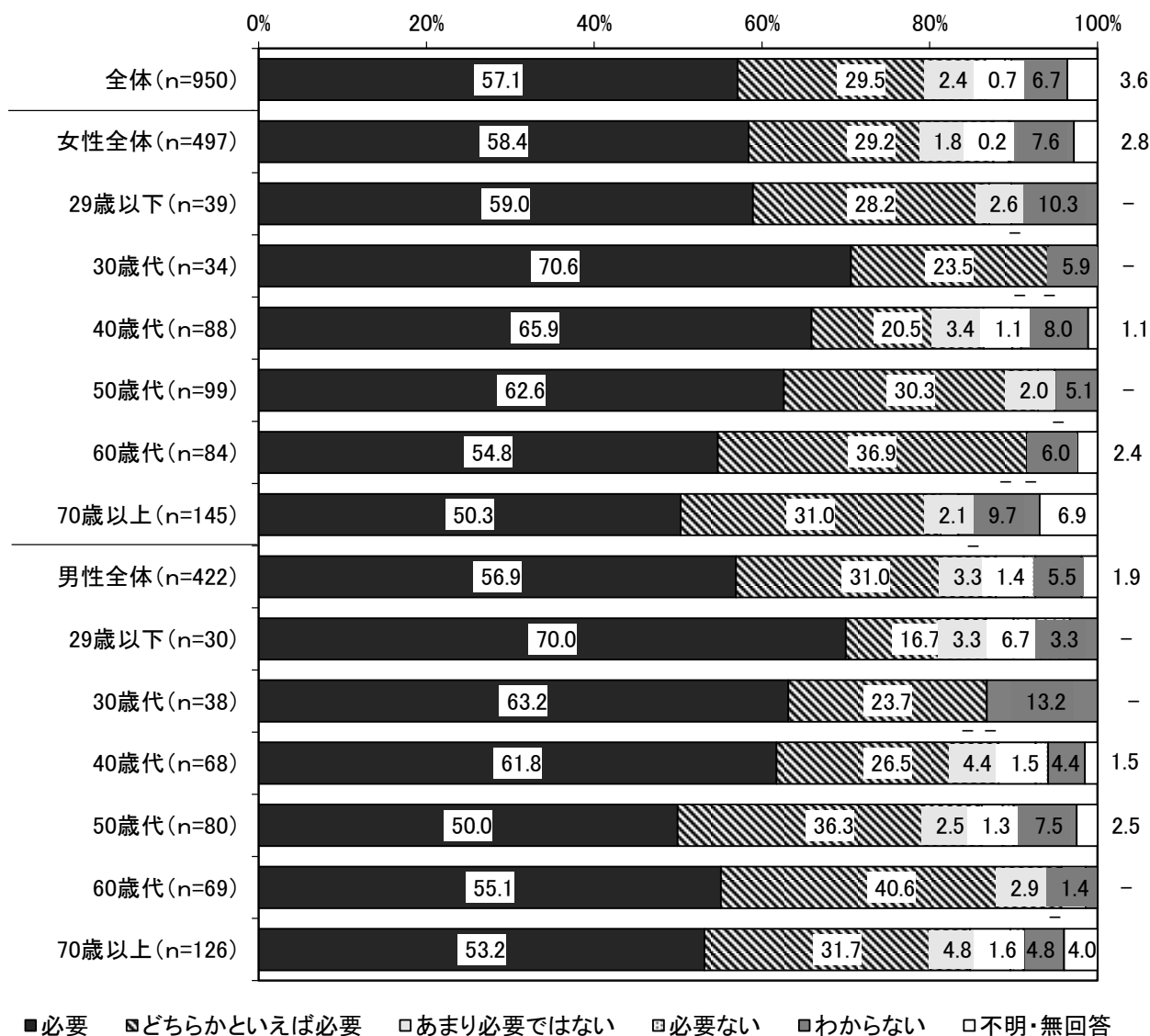
性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「必要」が最も高くなっており、30歳代女性で88.2%と高くなっています。



G 男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルの充実（1つに○）

男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルの充実の必要性は、全体で「必要」が57.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば必要」が29.5%、「わからない」が6.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「必要」が最も高く、女性で58.4%、男性で56.9%となっています。性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「必要」が最も高くなっています。

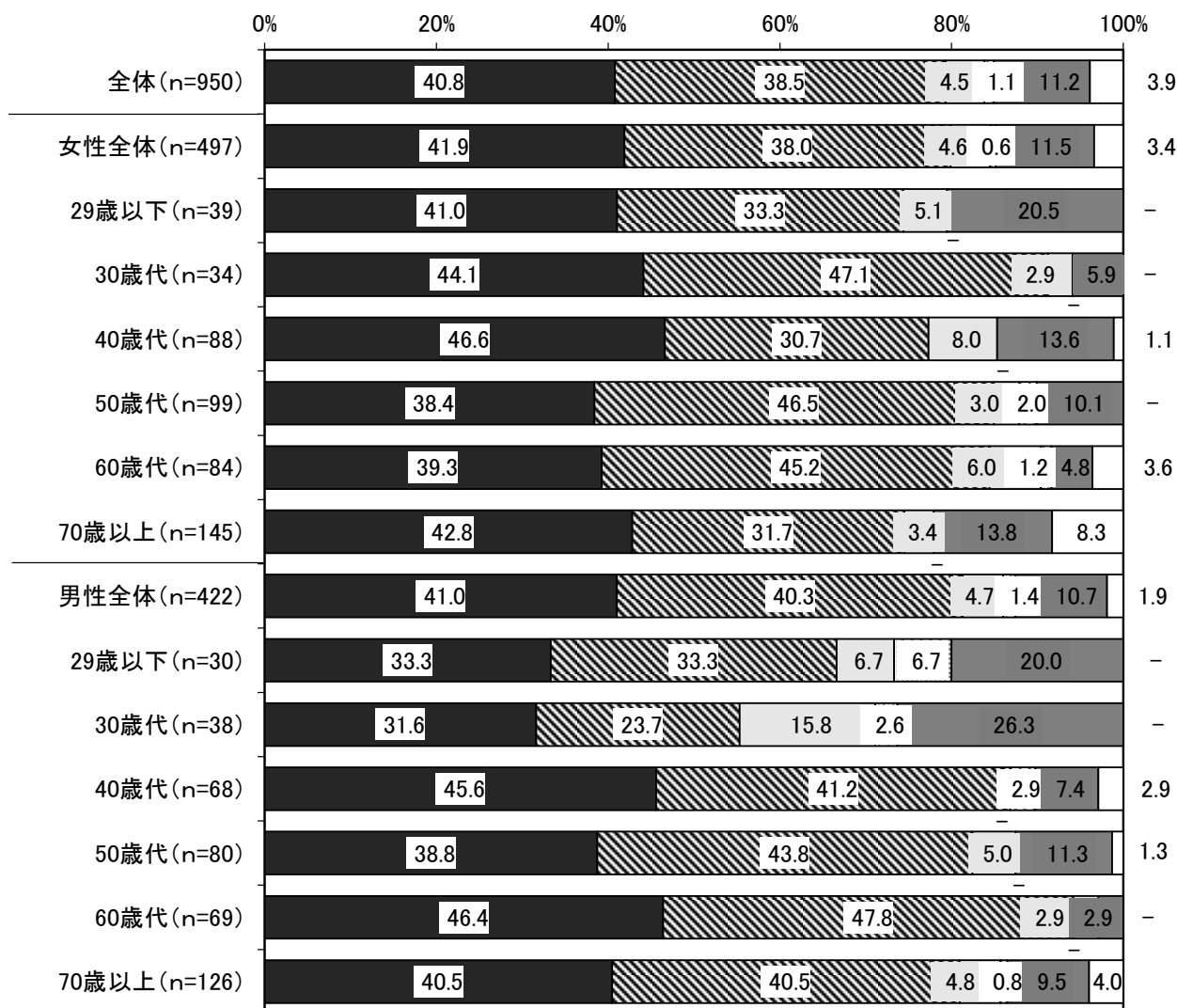


H 避難所運営の際の女性リーダーの配置（1つに○）

避難所運営の際の女性リーダーの配置の必要性は、全体で「必要」が40.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば必要」が38.5%、「わからない」が11.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「必要」が最も高く、女性で41.9%、男性で41.0%となっています。

性・年代別でみると、29歳以下と40歳代、70歳以上女性、30～40歳代男性では「必要」、29歳以下と70歳以上男性では「必要」「どちらかといえば必要」、30歳代女性、50～60歳代男女では「どちらかといえば必要」が最も高くなっています。



■必要 ■どちらかといえば必要 □あまり必要ではない □必要ない ■わからない □不明・無回答

11 白井市への要望について

問 24 男女の共同参画を進めるため、これから市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。(5つまで○) [共通設問：市内在勤者調査…問 23, 中学生調査…問 16]

男女の共同参画を進めるために市が特に力を入れて取り組むべきだと思うことは、全体で「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」が44.4%と最も高く、次いで「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が43.3%、「学校での男女平等教育を進める」が30.7%となっています。

性別にみると、女性では「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」が49.7%、男性では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が42.9%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」が高くなっています。

性・年代別でみると、50歳代と70歳以上女性、50歳以上男性では「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」、その他の年代では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が最も高くなっています。

単位：％		充実させる	男女共同参画の視点を	すべての施策に男女共同参画の視点を	市全体の男女共同参画の条	市全体の男女共同参画の条	パートナーシップ制度を導	増やす	市の審議会など、施策を決定	学校の男女平等教育を進め	女性の就労を支援するため、情報提供や職業訓練の場	保育所や学童保育など、地域の	訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サ	市に男女共同参画を推進する	関連ある情報を積極的に提供	相談やカウンセリング機能を
全体(n=950)		21.1	29.5	8.7	11.1	24.6	30.7	25.7	43.3	44.4	6.5	19.7	19.5			
女性	女性全体(n=497)	19.1	29.4	6.8	12.3	24.1	32.0	29.4	45.3	49.7	5.6	21.3	19.9			
	29歳以下(n=39)	15.4	33.3	15.4	38.5	15.4	30.8	28.2	51.3	23.1	-	7.7	23.1			
	30歳代(n=34)	8.8	23.5	17.6	29.4	23.5	41.2	20.6	64.7	41.2	2.9	8.8	8.8			
	40歳代(n=88)	9.1	34.1	8.0	11.4	25.0	33.0	33.0	46.6	45.5	9.1	17.0	19.3			
	50歳代(n=99)	21.2	33.3	7.1	8.1	26.3	25.3	33.3	38.4	54.5	1.0	32.3	23.2			
	60歳代(n=84)	21.4	33.3	3.6	9.5	27.4	33.3	29.8	60.7	56.0	7.1	23.8	22.6			
	70歳以上(n=145)	24.8	22.1	3.4	5.5	23.4	34.5	27.6	35.9	55.2	8.3	21.4	18.6			
男性	男性全体(n=422)	24.2	30.8	11.1	9.5	25.8	29.6	22.7	42.9	39.3	7.6	18.0	19.7			
	29歳以下(n=30)	26.7	13.3	16.7	20.0	16.7	36.7	13.3	50.0	26.7	3.3	20.0	33.3			
	30歳代(n=38)	18.4	28.9	5.3	18.4	13.2	21.1	13.2	50.0	18.4	5.3	18.4	23.7			
	40歳代(n=68)	16.2	32.4	16.2	13.2	25.0	32.4	22.1	42.6	33.8	10.3	11.8	17.6			
	50歳代(n=80)	17.5	35.0	10.0	11.3	22.5	25.0	28.7	36.3	38.8	6.3	17.5	18.8			
	60歳代(n=69)	23.2	29.0	10.1	2.9	36.2	27.5	18.8	52.2	53.6	4.3	26.1	20.3			
	70歳以上(n=126)	33.3	34.9	10.3	4.8	28.6	32.5	27.0	38.9	46.8	11.1	17.5	15.9			

単位：％		をひとり親（母子・父子）家庭	男性が地域活動に参加できなかったり	災害の視点を考慮した防災・	その他	要特がない（力を入れる必	わからない	不明・無回答
全体(n=950)		27.1	14.5	19.4	1.2	1.7	6.8	3.2
女性	女性全体(n=497)	26.4	17.1	21.7	1.2	0.4	6.8	2.6
	29歳以下(n=39)	30.8	20.5	23.1	-	-	7.7	-
	30歳代(n=34)	38.2	14.7	29.4	5.9	-	8.8	-
	40歳代(n=88)	29.5	13.6	23.9	1.1	1.1	5.7	-
	50歳代(n=99)	22.2	21.2	24.2	1.0	-	5.1	-
	60歳代(n=84)	20.2	19.0	13.1	2.4	-	2.4	3.6
	70歳以上(n=145)	26.2	15.9	22.1	-	0.7	11.0	6.2
男性	男性全体(n=422)	29.4	12.1	17.8	0.9	3.1	6.2	1.7
	29歳以下(n=30)	26.7	13.3	13.3	3.3	6.7	6.7	-
	30歳代(n=38)	28.9	5.3	10.5	2.6	7.9	10.5	-
	40歳代(n=68)	29.4	14.7	22.1	-	-	5.9	1.5
	50歳代(n=80)	27.5	12.5	22.5	1.3	6.3	3.8	1.3
	60歳代(n=69)	29.0	15.9	11.6	-	1.4	4.3	2.9
	70歳以上(n=126)	31.0	11.1	19.0	0.8	1.6	7.1	1.6

◆パートナーシップ宣誓制度とは

自治体が同性同士のカップルを婚姻に相当する関係と認め、証明する制度のこと

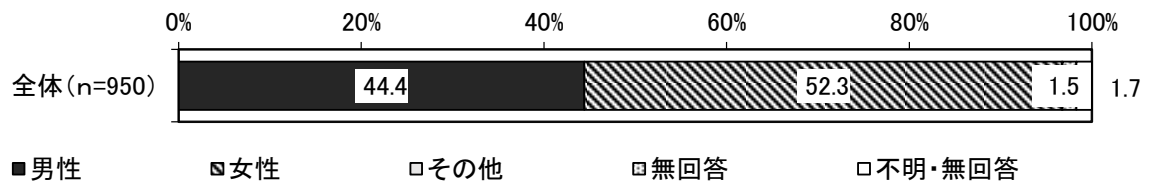
◆ファミリーシップ制度とは

パートナーシップ宣誓制度で証明されたカップルの子どもを家族として認定する制度のこと

12 回答者自身について

F 1 あなたの性別をお答えください。(1つに○) [共通設問：市内在勤者調査・中学生調査…F 1]

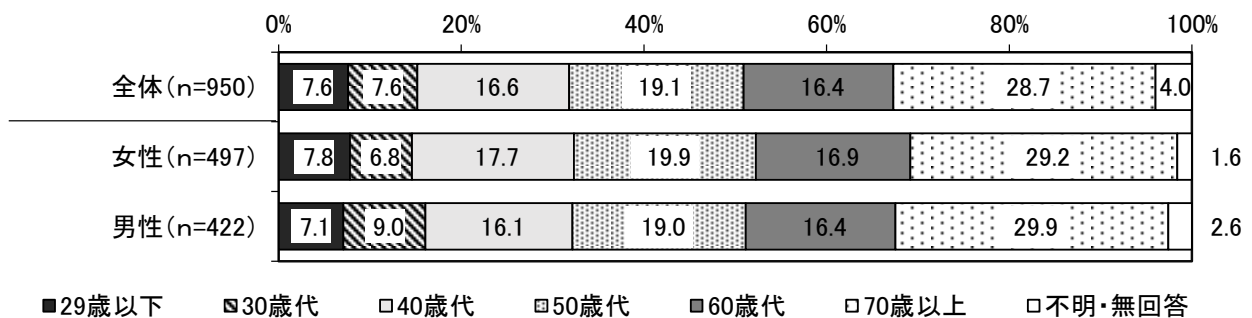
性別は、全体で「女性」が52.3%と最も高く、次いで「男性」が44.4%となっています。



F 2 あなたの年齢をお答えください。(数字をご記入ください。) [共通設問：市内在勤者調査…F 2]

年齢は、全体で「70歳以上」が28.7%と最も高く、次いで「50歳代」が19.1%、「40歳代」が16.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「70歳以上」が最も高く、女性で29.2%、男性で29.9%となっています。



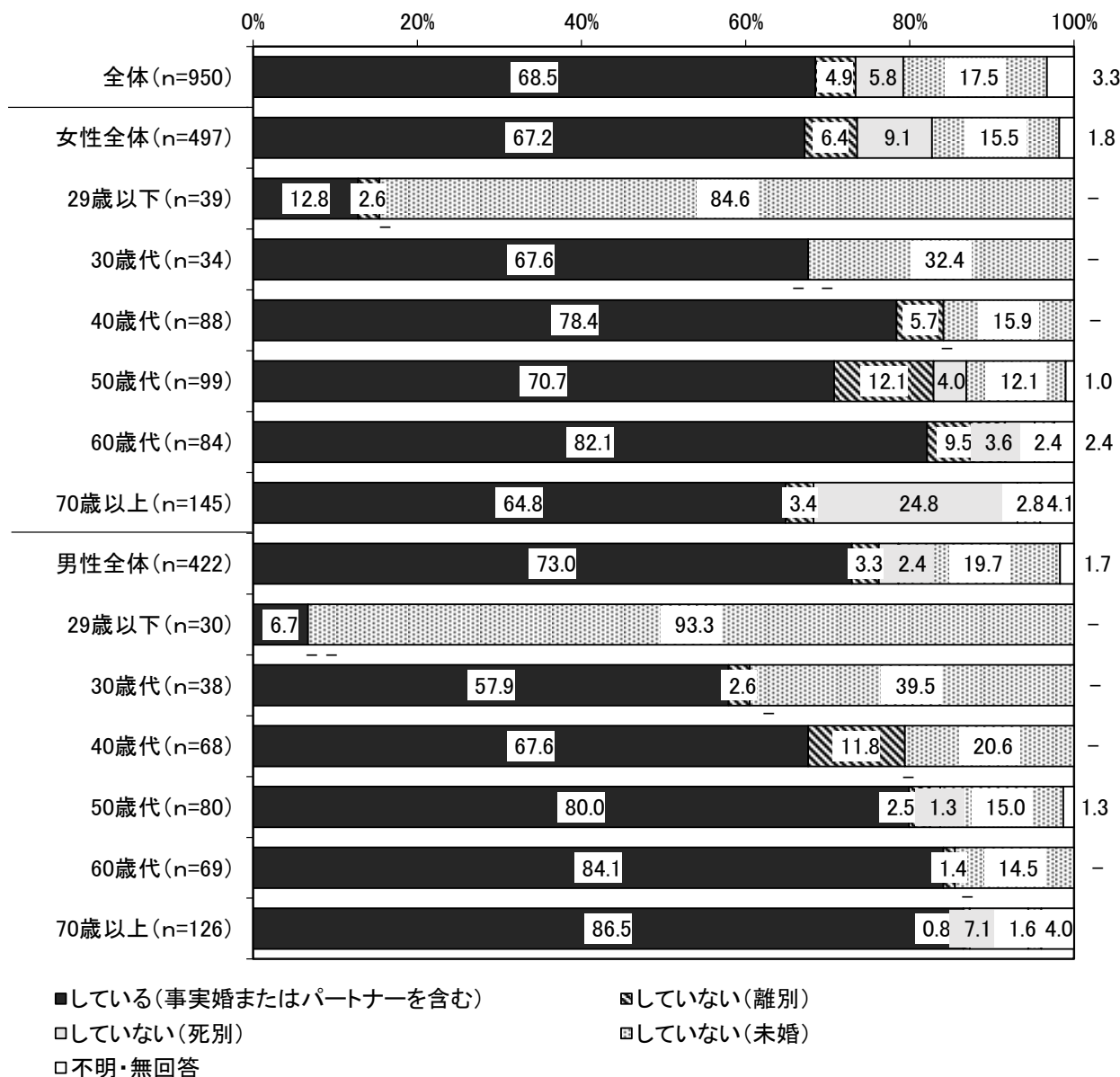
F 3 あなたは現在、結婚（事実婚を含む）していますか。（1つに○）

〔共通設問：市内在勤者調査…F 4〕

婚姻状況は、全体で「している（事実婚またはパートナーを含む）」が68.5%と最も高く、次いで「していない（未婚）」が17.5%、「していない（死別）」が5.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「している（事実婚またはパートナーを含む）」が最も高く、女性で67.2%、男性で73.0%となっています。

性・年代別でみると、29歳以下男女では「していない（未婚）」、その他の年代では「している（事実婚またはパートナーを含む）」が最も高くなっています。



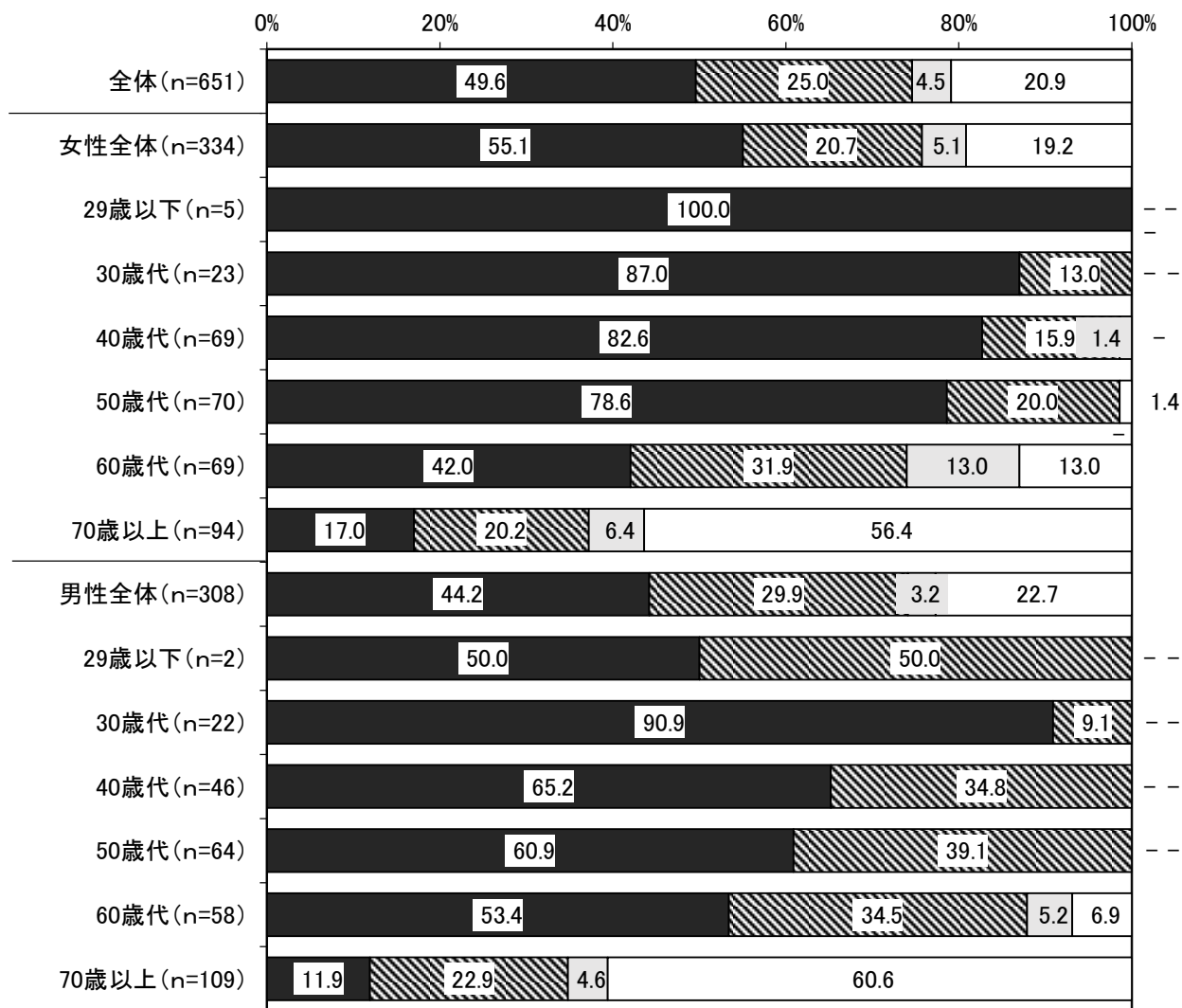
F 3で「している（事実婚またはパートナーを含む）」と答えた方

F 3-1 あなたの世帯は、共働きですか。（1つに○）〔共通設問：市内在勤者調査…F 4-1〕

共働きかは、全体で「共働き」が49.6%と最も高く、次いで「夫（またはパートナー）だけ働いている」が25.0%、「妻（またはパートナー）だけ働いている」が4.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「共働き」が最も高く、女性で55.1%、男性で44.2%となっています。

性・年代別でみると、30～60歳代男女では「共働き」、70歳以上男女では「夫（またはパートナー）だけ働いている」が最も高くなっています。



■共働き ■夫(またはパートナー)だけ働いている □妻(またはパートナー)だけ働いている □不明・無回答

F 4 あなたは、現在どちらの地区にお住まいですか。(わからない場合は、自宅から一番近い小学校に○をつけてください) (1つに○)

居住地区は、全体で「大山口小学校区」が 14.3%と最も高く、次いで「白井第三小学校区」が 12.5%、「桜台小学校区」が 12.2%となっています。

性別にみると、女性では「大山口小学校区」が 15.5%、男性では「南山小学校区」が 13.7%で最も高くなっています。

性・年代別でみると、29 歳代女性では「清水口小学校区」、30 歳代女性では「池の上小学校区」、50 歳代女性では「白井第三小学校区」、60 歳代男女では「桜台小学校区」、29 歳以下男性では「白井第一小学校区」、40 歳代男性では「南山小学校区」、50 歳代男性では「大山口小学校区」「清水口小学校区」、70 歳以上男性では「白井第三小学校区」「池の上小学校区」、その他の年代では「大山口小学校区」が最も高くなっています。

単位：%		白井第一小学校区	白井第二小学校区	白井第三小学校区	大山口小学校区	清水口小学校区	南山小学校区	七次台小学校区	池の上小学校区	桜台小学校区	不明・無回答
全体(n=950)		8.3	4.3	12.5	14.3	11.6	11.5	10.0	11.9	12.2	3.4
女性	女性全体(n=497)	7.6	3.6	13.9	15.5	11.7	9.9	10.7	12.1	12.9	2.2
	29歳以下(n=39)	5.1	-	15.4	17.9	23.1	12.8	7.7	10.3	7.7	-
	30歳代(n=34)	5.9	5.9	11.8	11.8	11.8	2.9	8.8	20.6	17.6	2.9
	40歳代(n=88)	6.8	2.3	17.0	18.2	8.0	11.4	14.8	14.8	6.8	-
	50歳代(n=99)	9.1	5.1	17.2	13.1	12.1	14.1	10.1	9.1	9.1	1.0
	60歳代(n=84)	8.3	3.6	8.3	14.3	11.9	2.4	10.7	9.5	28.6	2.4
	70歳以上(n=145)	8.3	4.1	13.8	17.2	10.3	11.7	9.7	11.7	9.0	4.1
男性	男性全体(n=422)	9.2	4.7	11.6	13.5	12.1	13.7	9.2	12.3	11.8	1.7
	29歳以下(n=30)	20.0	3.3	13.3	16.7	6.7	13.3	6.7	6.7	13.3	-
	30歳代(n=38)	5.3	2.6	10.5	23.7	15.8	10.5	10.5	15.8	5.3	-
	40歳代(n=68)	8.8	2.9	13.2	7.4	13.2	19.1	13.2	14.7	7.4	-
	50歳代(n=80)	10.0	6.3	11.3	16.3	16.3	12.5	10.0	7.5	10.0	-
	60歳代(n=69)	11.6	5.8	4.3	13.0	7.2	14.5	5.8	8.7	27.5	1.4
	70歳以上(n=126)	7.1	5.6	15.1	11.9	12.7	13.5	8.7	15.1	8.7	1.6

F 5 主なお仕事はどれですか。(1つに○)

仕事は、全体で「会社・商店・工場・サービス業などの勤め人」が25.7%と最も高く、次いで「無職」が19.9%、「パート、アルバイト、派遣、内職などの臨時的な仕事」が18.9%となっています。

性別にみると、女性では「パート、アルバイト、派遣、内職などの臨時的な仕事」が29.0%、男性では「会社・商店・工場・サービス業などの勤め人」が35.3%で最も高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「会社・商店・工場・サービス業などの勤め人」「学生」、40～60歳代女性では「パート、アルバイト、派遣、内職などの臨時的な仕事」、70歳以上男女では「無職」、29歳以下男性では「学生」、その他の年代では「会社・商店・工場・サービス業などの勤め人」が最も高くなっています。

単位：％		農 林 業	商 店・ 工 場・ サ ー ビ ス 業	会 社 ま た は 団 体 の 役 員	業 医 師 ・ 弁 護 士 な ど の 自 由	会 社・ 商 店・ 工 場・ サ ー ビ ス 業 な ど の 勤 め 人	員 官 公 庁・ 学 校 な ど の 公 務	仕 遣・ パ ー ト・ 内 職 な ど の 臨 時 的 な 派 遣	専 業 主 婦 (主 夫)	学 生	無 職	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=950)		2.0	3.2	7.2	0.4	25.7	3.7	18.9	9.7	3.2	19.9	3.4	2.8
女 性	女性全体(n=497)	2.2	1.6	3.8	0.6	18.1	3.2	29.0	18.3	2.8	16.1	2.8	1.4
	29歳以下(n=39)	2.6	2.6	7.7	-	33.3	5.1	7.7	-	33.3	2.6	5.1	-
	30歳代(n=34)	-	-	8.8	2.9	44.1	11.8	20.6	8.8	-	-	2.9	-
	40歳代(n=88)	-	2.3	2.3	-	29.5	4.5	44.3	10.2	-	2.3	4.5	-
	50歳代(n=99)	3.0	1.0	6.1	1.0	26.3	6.1	39.4	10.1	1.0	3.0	3.0	-
	60歳代(n=84)	1.2	3.6	3.6	1.2	10.7	-	40.5	26.2	-	10.7	1.2	1.2
	70歳以上(n=145)	4.1	0.7	1.4	-	0.7	-	11.7	32.4	-	42.8	2.1	4.1
男 性	男性全体(n=422)	1.4	5.0	11.4	0.2	35.3	4.5	8.1	-	3.8	24.9	4.0	1.4
	29歳以下(n=30)	-	-	10.0	-	23.3	-	6.7	-	53.3	3.3	3.3	-
	30歳代(n=38)	-	5.3	5.3	-	52.6	13.2	15.8	-	-	5.3	2.6	-
	40歳代(n=68)	-	4.4	20.6	-	63.2	4.4	1.5	-	-	2.9	2.9	-
	50歳代(n=80)	2.5	8.8	17.5	-	57.5	6.3	1.3	-	-	3.8	2.5	-
	60歳代(n=69)	2.9	7.2	14.5	-	31.9	2.9	13.0	-	-	20.3	7.2	-
	70歳以上(n=126)	1.6	3.2	3.2	0.8	6.3	3.2	11.9	-	-	61.9	4.8	3.2

F 6 主な仕事場（学校）はどちらですか。（1つに○）

仕事場（学校）は、全体で「東京都」が17.4%と最も高く、次いで「その他の県内」が17.1%、「白井市内」が16.5%となっています。

性別にみると、女性では「白井市内」が23.1%、男性では「東京都」が26.3%で最も高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代女性では「その他の県内」、40～60歳代女性では「白井市内」、70歳以上女性では「自宅」「白井市内」、30歳代と70歳以上代男性では「その他の県内」「東京都」、その他の年代では「東京都」が最も高くなっています。

単位：％		自宅	白井市内	白井市以外の 印旛郡市	その他の県内	東京都	東京都を除く 県外	その他	不明・無回答
全体(n=950)		9.1	16.5	7.6	17.1	17.4	2.0	4.4	26.0
女性	女性全体(n=497)	10.3	23.1	10.1	16.5	9.9	0.6	4.4	25.2
	29歳以下(n=39)	5.1	12.8	7.7	28.2	33.3	5.1	2.6	5.1
	30歳代(n=34)	5.9	17.6	11.8	38.2	17.6	-	-	8.8
	40歳代(n=88)	2.3	29.5	11.4	25.0	15.9	-	3.4	12.5
	50歳代(n=99)	6.1	33.3	16.2	22.2	11.1	-	2.0	9.1
	60歳代(n=84)	19.0	25.0	16.7	10.7	3.6	-	3.6	21.4
	70歳以上(n=145)	15.9	15.9	1.4	2.1	0.7	0.7	9.0	54.5
男性	男性全体(n=422)	7.3	9.2	4.7	18.5	26.3	3.8	4.5	25.6
	29歳以下(n=30)	-	-	10.0	23.3	50.0	10.0	3.3	3.3
	30歳代(n=38)	10.5	21.1	5.3	23.7	23.7	5.3	2.6	7.9
	40歳代(n=68)	8.8	8.8	4.4	29.4	36.8	4.4	2.9	4.4
	50歳代(n=80)	10.0	10.0	6.3	22.5	38.8	3.8	3.8	5.0
	60歳代(n=69)	4.3	10.1	5.8	14.5	29.0	5.8	5.8	24.6
	70歳以上(n=126)	7.1	7.9	2.4	8.7	8.7	0.8	6.3	57.9

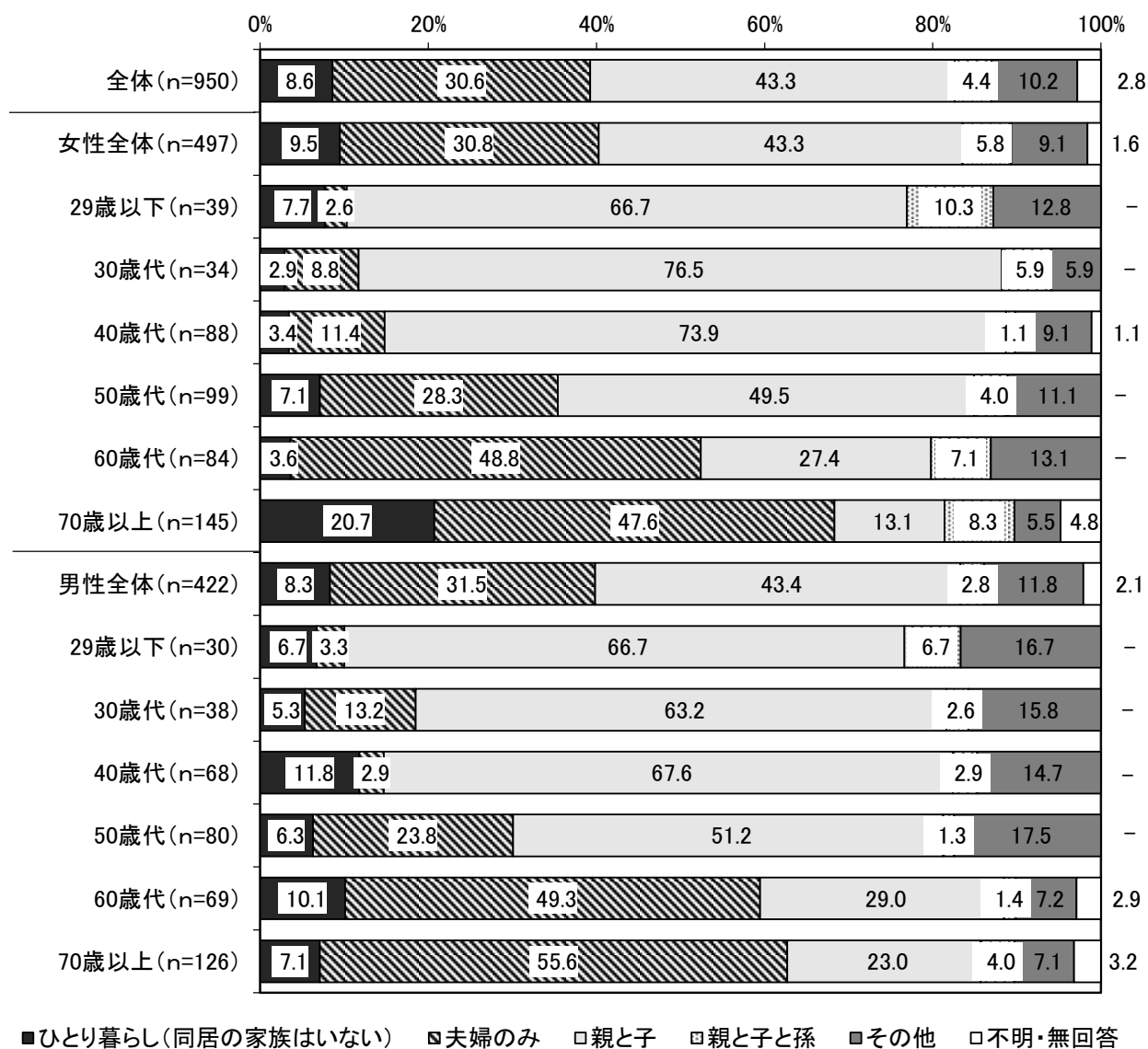
F 7 あなたの同居している家族の構成をお答えください。(1つに○)

〔共通設問：市内在勤者調査…F 6〕

家族構成は、全体で「親と子」が43.3%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が30.6%、「ひとり暮らし（同居の家族はいない）」が8.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「親と子」が最も高く、女性で43.3%、男性で43.4%となっています。

性・年代別でみると、60歳以上男女では「夫婦のみ」、その他の年代では「親と子」が最も高くなっています。



F 7で「夫婦のみ」～「親と子と孫」と答えた方

F 7-1 同居されている方に、次のような方はいますか。(あてはまるものすべてに○)

[共通設問：市内在勤者調査…F 6-1]

同居者に次の方がいるかは、全体で「同居者にあてはまるものはいない」が33.7%と最も高く、次いで「介護を必要としない65歳以上の方」が27.7%、「中学生・高校生の子ども」が13.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「同居者にあてはまるものはいない」が最も高く、女性で31.2%、男性で36.9%となっています。

性・年代別でみると、30歳代男女では「就学前の子ども」、40歳代男女では「小学生の子ども」、60歳以上女性、70歳以上男性では「介護を必要としない65歳以上の方」、その他の年代では「同居者にあてはまるものはいない」が最も高くなっています。

単位：%		就学前の子ども	小学生の子ども	中学生・高校生の子ども	介護を必要とする方	介護を必要としない65歳以上の方	同居者にあてはまるものはいない	不明・無回答
全体(n=744)		9.5	11.2	13.6	6.6	27.7	33.7	9.3
女性	女性全体(n=397)	10.3	12.6	14.4	7.3	29.0	31.2	9.1
	29歳以下(n=31)	12.9	6.5	9.7	-	9.7	64.5	-
	30歳代(n=31)	61.3	25.8	3.2	3.2	16.1	16.1	-
	40歳代(n=76)	17.1	42.1	40.8	5.3	13.2	14.5	2.6
	50歳代(n=81)	-	4.9	17.3	7.4	18.5	44.4	13.6
	60歳代(n=70)	4.3	2.9	-	5.7	42.9	37.1	14.3
	70歳以上(n=100)	2.0	1.0	5.0	14.0	51.0	23.0	12.0
男性	男性全体(n=328)	8.5	10.1	12.8	5.8	25.3	36.9	9.5
	29歳以下(n=23)	4.3	-	34.8	4.3	13.0	43.5	-
	30歳代(n=30)	43.3	16.7	3.3	3.3	20.0	33.3	-
	40歳代(n=50)	20.0	36.0	28.0	4.0	20.0	12.0	2.0
	50歳代(n=61)	3.3	13.1	24.6	9.8	11.5	45.9	4.9
	60歳代(n=55)	1.8	1.8	3.6	3.6	20.0	61.8	9.1
	70歳以上(n=104)	1.0	-	1.9	6.7	42.3	30.8	20.2

第4章 市内在勤者調査の結果・分析

Ⅰ 家庭生活について

問Ⅰ あなたが理想とする男女の役割分担に、最も近いものはどれですか。また、現在のご家庭の状況（一人暮らしの人は、これまでの家庭での状況）に、最も近いものはどれですか。※家事には、育児・介護を含みます。

A 理想は（Ⅰつに○）[共通設問：一般市民調査…問Ⅰ A]

理想とする男女の役割分担は、全体で「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が59.6%と最も高く、次いで「特に何も決めず、できる人ができることをする」が23.5%、「男性が働き、女性が家事全般をする」が8.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が最も高く、女性で66.7%、男性で54.4%となっています。

性・年代別でみると、60歳以上女性では「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」「特に何も決めず、できる人ができることをする」、その他の年代では「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が最も高くなっています。

単位：％		全男性が働き、女性が家事	全女性が働き、男性が家事	男性が主として働き、女性が家事	女性が主として働き、男性が家事	男性女性が共に働き、共に家事	特に何も決めず、できる人ができることをする	わからない	不明・無回答
全体(n=230)		8.7	0.4	4.8	0.9	59.6	23.5	2.2	-
女性	女性全体(n=117)	5.1	-	1.7	-	66.7	24.8	1.7	-
	29歳以下(n=10)	10.0	-	-	-	60.0	30.0	-	-
	30歳代(n=23)	13.0	-	-	-	73.9	13.0	-	-
	40歳代(n=38)	2.6	-	5.3	-	60.5	31.6	-	-
	50歳代(n=31)	3.2	-	-	-	83.9	12.9	-	-
	60歳以上(n=13)	-	-	-	-	46.2	46.2	7.7	-
男性	男性全体(n=103)	13.6	1.0	7.8	1.9	54.4	19.4	1.9	-
	29歳以下(n=9)	-	-	11.1	-	44.4	44.4	-	-
	30歳代(n=18)	5.6	5.6	5.6	5.6	55.6	16.7	5.6	-
	40歳代(n=31)	16.1	-	6.5	-	64.5	12.9	-	-
	50歳代(n=28)	25.0	-	7.1	-	50.0	14.3	3.6	-
	60歳以上(n=15)	6.7	-	6.7	6.7	53.3	26.7	-	-

B 現実（１つに○）〔共通設問：一般市民調査…問Ⅰ B〕

現実の男女の役割分担は、全体で「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が53.0%と最も高く、次いで「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が18.3%、「特に何も決めず、できる人ができることをする」が13.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が最も高く、女性で63.2%、男性で42.7%となっています。

性・年代別でみると、30歳代男性では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」「特に何も決めず、できる人ができることをする」、60歳以上男性では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」「特に何も決めず、できる人ができることをする」、その他の年代では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が最も高くなっています。

単位：％		全男性が働き、女性が家事	全女性が働き、男性が家事	す事男性全般女性は主として働き、性が家	す事男性全般女性は主として働き、性が家	す事男性全般女性も男性が共に働き、共に家	人特に何も決めず、できる	わからない	不明・無回答
全体(n=230)		8.7	-	53.0	3.5	18.3	13.9	2.2	0.4
女性	女性全体(n=117)	5.1	-	63.2	3.4	17.9	8.5	0.9	0.9
	29歳以下(n=10)	-	-	60.0	-	20.0	10.0	10.0	-
	30歳代(n=23)	13.0	-	69.6	4.3	8.7	4.3	-	-
	40歳代(n=38)	2.6	-	68.4	7.9	15.8	5.3	-	-
	50歳代(n=31)	3.2	-	61.3	-	25.8	9.7	-	-
	60歳以上(n=13)	7.7	-	53.8	-	15.4	15.4	-	7.7
男性	男性全体(n=103)	13.6	-	42.7	1.9	19.4	18.4	3.9	-
	29歳以下(n=9)	22.2	-	33.3	-	11.1	11.1	22.2	-
	30歳代(n=18)	11.1	-	27.8	-	27.8	27.8	5.6	-
	40歳代(n=31)	3.2	-	58.1	-	25.8	12.9	-	-
	50歳代(n=28)	21.4	-	42.9	7.1	14.3	10.7	3.6	-
	60歳以上(n=15)	20.0	-	33.3	-	13.3	33.3	-	-

2 仕事について

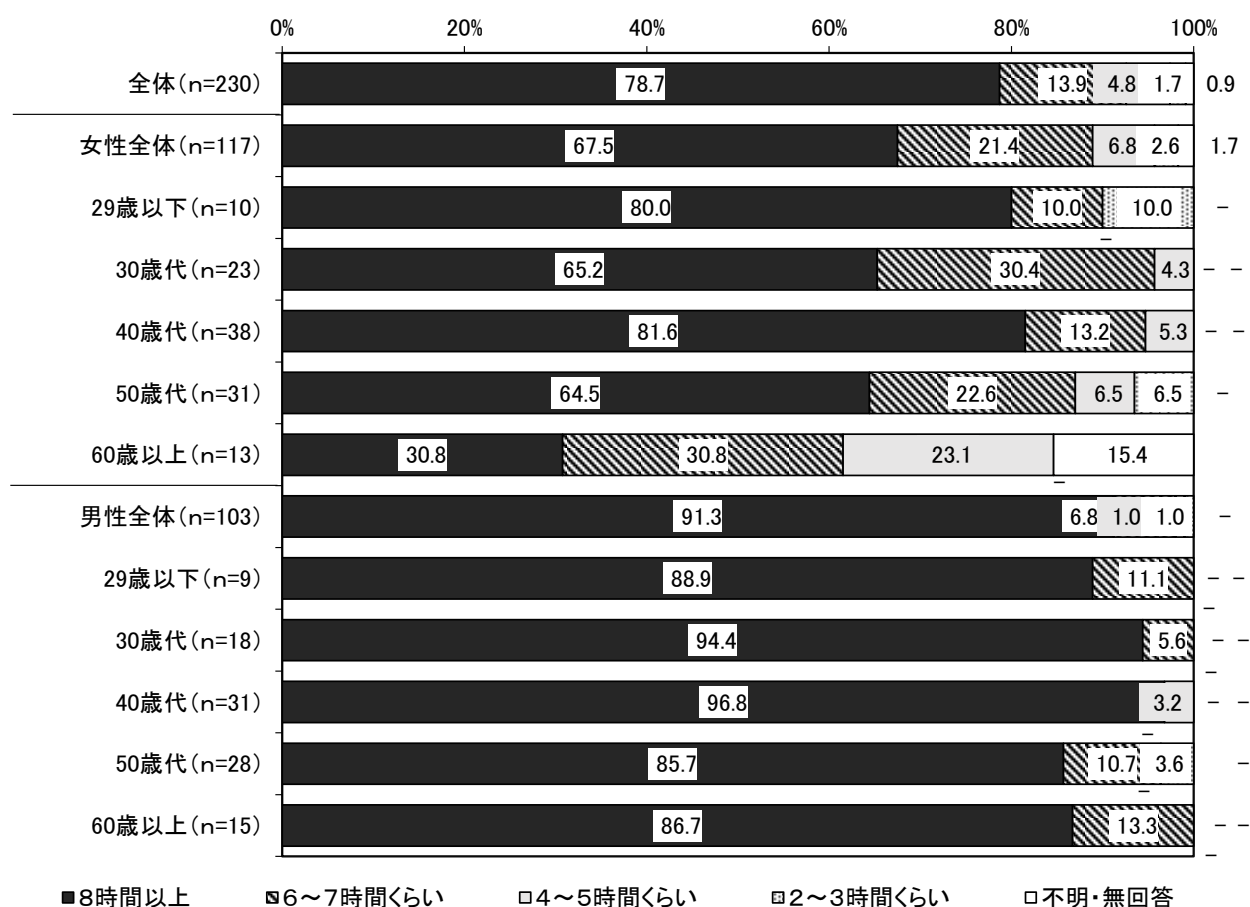
問2 あなたは、収入の得られる仕事や、家庭内における家事（育児・介護を含む）などに1日平均どのくらい時間をあてていますか。

A 収入の得られる仕事（1つに○）[共通設問：一般市民調査…問2 A]

収入の得られる仕事の1日平均時間は、全体で「8時間以上」が78.7%と最も高く、次いで「6～7時間くらい」が13.9%、「4～5時間くらい」が4.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「8時間以上」が最も高く、女性で67.5%、男性で91.3%となっています。また、女性は男性に比べて「6～7時間くらい」が高く、男性は女性に比べて「8時間以上」が高くなっています。

性・年代別でみると、60歳以上女性では「8時間以上」「6～7時間くらい」、その他の年代では「8時間以上」が最も高くなっています。



◆経年比較 問2 A 収入の得られる仕事

前回調査と比較すると、大きな差は見られません。

性別でみると、女性では「8時間以上」が6.4ポイント低くなっています。

単位：％		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	不明・無回答
全体	令和6(2024)年(n=230)	78.7	13.9	4.8	1.7	0.9
	平成26(2014)年(n=173)	81.5	10.4	5.2	0.6	1.7
女性	令和6(2024)年(n=117)	67.5	21.4	6.8	2.6	1.7
	平成26(2014)年(n=92)	73.9	14.1	7.6	1.1	2.2
男性	令和6(2024)年(n=103)	91.3	6.8	1.0	1.0	-
	平成26(2014)年(n=79)	91.1	5.1	2.5	-	1.3

※今回調査では「1時間くらい」「30分くらい」「15分くらい」「ほとんどしない」の選択肢を削除した。

B 家庭内の家事（育児・介護を含む）など【平日】（1つに○）[共通設問：一般市民調査…問2 B]

平日の家庭内の家事などの1日平均時間は、全体で「1時間くらい」が26.5%と最も高く、次いで「2～3時間くらい」が24.8%、「4～5時間くらい」が16.5%となっています。

性別にみると、女性では「2～3時間くらい」が33.3%、男性では「1時間くらい」が34.0%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「4～5時間くらい」「2～3時間くらい」が高く、男性は女性に比べて「1時間くらい」「30分未満」「していない、ほとんどしない」が高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代と50歳代女性では「4～5時間くらい」、40歳代と60歳以上女性では「2～3時間くらい」、30歳代男性では「30分未満」、その他の年代では「1時間くらい」が最も高くなっています。

単位：%		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどしない	不明・無回答
全体(n=230)		4.3	4.8	16.5	24.8	26.5	13.5	9.6	-
女性	女性全体(n=117)	6.0	6.8	28.2	33.3	20.5	3.4	1.7	-
	29歳以下(n=10)	-	-	-	30.0	40.0	20.0	10.0	-
	30歳代(n=23)	8.7	17.4	39.1	13.0	17.4	4.3	-	-
	40歳代(n=38)	2.6	7.9	21.1	44.7	21.1	-	2.6	-
	50歳代(n=31)	6.5	3.2	38.7	32.3	19.4	-	-	-
	60歳以上(n=13)	15.4	-	30.8	38.5	15.4	-	-	-
男性	男性全体(n=103)	1.9	1.9	2.9	17.5	34.0	24.3	17.5	-
	29歳以下(n=9)	-	-	-	11.1	33.3	55.6	-	-
	30歳代(n=18)	-	5.6	5.6	27.8	16.7	33.3	11.1	-
	40歳代(n=31)	-	3.2	3.2	22.6	38.7	12.9	19.4	-
	50歳代(n=28)	3.6	-	-	10.7	39.3	25.0	21.4	-
	60歳以上(n=15)	6.7	-	6.7	13.3	33.3	20.0	20.0	-

◆経年比較 問2 B 家庭内の家事（育児・介護を含む）など【平日】

前回調査と比較すると、「していない、ほとんどしていない」が12.4ポイント低くなっています。
性別で見ると、男性では「1時間くらい」が最も高くなっています。また、「していない、ほとんどしていない」が20.5ポイント低くなっています。

単位：％		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどし	不明・無回答
全体	令和6(2024)年(n=230)	4.3	4.8	16.5	24.8	26.5	13.5	9.6	-
	平成26(2014)年(n=173)	1.7	5.2	10.4	24.3	19.7	12.7	22.0	4.0
女性	令和6(2024)年(n=117)	6.0	6.8	28.2	33.3	20.5	3.4	1.7	-
	平成26(2014)年(n=92)	2.2	9.8	17.4	38.0	16.0	6.5	8.7	1.1
男性	令和6(2024)年(n=103)	1.9	1.9	2.9	17.5	34.0	24.3	17.5	-
	平成26(2014)年(n=79)	1.3	-	2.5	7.6	22.8	20.3	38.0	7.8

※前回調査では「30分くらい」「15分くらい」となっていた選択肢を、今回調査では「30分未満」とした。

C 家庭内の家事（育児・介護を含む）など【休日】（1つに○）[共通設問：一般市民調査…問2 C]

休日の家庭内の家事などの1日平均時間は、全体で「2～3時間くらい」が25.7%と最も高く、次いで「4～5時間くらい」が15.7%、「8時間以上」が15.2%となっています。

性別にみると、女性では「4～5時間くらい」「2～3時間くらい」が24.8%、男性では「2～3時間くらい」が28.2%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「8時間以上」「4～5時間くらい」が高く、男性は女性に比べて「1時間くらい」「30分未満」「していない、ほとんどしない」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性、40歳代男性では「2～3時間くらい」、30歳代女性では「8時間以上」、40歳代と60歳以上女性では「4～5時間くらい」、50歳代女性では「6～7時間くらい」、30歳代男性では「8時間以上」「2～3時間くらい」、50歳代男性では「30分未満」、60歳以上男性では「1時間くらい」が最も高くなっています。

単位：%		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどしない	不明・無回答
全体(n=230)		15.2	13.0	15.7	25.7	14.3	8.3	7.8	-
女性	女性全体(n=117)	22.2	17.1	24.8	24.8	7.7	1.7	1.7	-
	29歳以下(n=10)	-	-	-	70.0	10.0	10.0	10.0	-
	30歳代(n=23)	47.8	13.0	13.0	17.4	8.7	-	-	-
	40歳代(n=38)	18.4	18.4	31.6	21.1	7.9	-	2.6	-
	50歳代(n=31)	19.4	25.8	22.6	22.6	9.7	-	-	-
	60歳以上(n=13)	15.4	15.4	46.2	23.1	-	-	-	-
男性	男性全体(n=103)	6.8	9.7	4.9	28.2	21.4	14.6	14.6	-
	29歳以下(n=9)	-	-	11.1	33.3	44.4	11.1	-	-
	30歳代(n=18)	22.2	16.7	-	22.2	16.7	11.1	11.1	-
	40歳代(n=31)	3.2	9.7	9.7	41.9	12.9	6.5	16.1	-
	50歳代(n=28)	-	7.1	3.6	21.4	21.4	28.6	17.9	-
	60歳以上(n=15)	13.3	13.3	-	13.3	33.3	6.7	20.0	-

◆経年比較 問2 C 家庭内の家事（育児・介護を含む）など【休日】

前回調査と比較すると、「6～7時間くらい」が6.1ポイント高くなっています。

性別で見ると、女性では「6～7時間くらい」が5.1ポイント高くなっています。男性では「2～3時間くらい」が最も高くなっています。また、「8時間以上」～「2～3時間くらい」を合わせた『2時間以上』が9.0ポイント高くなっています。

単位：％		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどし	不明・無回答
全体	令和6(2024)年(n=230)	15.2	13.0	15.7	25.7	14.3	8.3	7.8	-
	平成26(2014)年(n=173)	12.1	6.9	20.8	24.9	12.7	12.1	6.4	4.0
女性	令和6(2024)年(n=117)	22.2	17.1	24.8	24.8	7.7	1.7	1.7	-
	平成26(2014)年(n=92)	18.5	12.0	29.3	25.0	4.3	6.5	2.2	2.2
男性	令和6(2024)年(n=103)	6.8	9.7	4.9	28.2	21.4	14.6	14.6	-
	平成26(2014)年(n=79)	5.1	1.3	11.4	22.8	22.8	20.0	11.4	6.3

※前回調査では「30分くらい」「15分くらい」となっていた選択肢を、今回調査では「30分未満」とした。

問3 あなたが仕事をしている理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

仕事をしている理由は、全体で「家族の生活を支えるため」が63.0%と最も高く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」が62.2%、「家計を補うため」が53.5%となっています。

性別にみると、女性では「将来に備えて貯蓄するため」が70.1%、男性では「家族の生活を支えるため」が75.7%で最も高くなっています。また、男性は女性に比べて「家族の生活を支えるため」「社会に貢献したいため」「働くことは当たり前だと思うため」が高くなっています。

性・年代別でみると、50歳代女性では「家計を補うため」、30歳以上男性では「家族の生活を支えるため」、その他の年代では「将来に備えて貯蓄するため」が最も高くなっています。

単位：％		家族の生活を支えるため	家計を補うため	た親めから家業を受け継いだ	趣味や余暇活動を充実させるため	自分だけの小遣いがほしい	将来に備えて貯蓄するため	仕事が好き、楽しく、気に入っている	自分の技能や知識などを活かすため	自分の夢や目標のために	社会との関わりを持ちたい	社会に貢献したい	働くことは当たり前だと思う
全体(n=230)		63.0	53.5	8.7	33.9	16.5	62.2	19.6	16.1	10.9	27.0	17.8	41.7
女性	女性全体(n=117)	51.3	63.2	5.1	32.5	21.4	70.1	24.8	16.2	8.5	34.2	10.3	31.6
	29歳以下(n=10)	10.0	60.0	-	50.0	20.0	70.0	30.0	10.0	20.0	-	10.0	40.0
	30歳代(n=23)	73.9	65.2	4.3	34.8	30.4	87.0	26.1	17.4	21.7	34.8	4.3	39.1
	40歳代(n=38)	57.9	57.9	2.6	31.6	15.8	63.2	18.4	10.5	2.6	34.2	7.9	31.6
	50歳代(n=31)	54.8	83.9	3.2	32.3	32.3	77.4	32.3	19.4	6.5	48.4	9.7	25.8
	60歳以上(n=13)	23.1	30.8	23.1	23.1	-	46.2	23.1	30.8	-	30.8	30.8	30.8
男性	男性全体(n=103)	75.7	43.7	12.6	34.0	11.7	56.3	14.6	15.5	13.6	20.4	28.2	54.4
	29歳以下(n=9)	44.4	55.6	11.1	44.4	11.1	66.7	22.2	22.2	33.3	33.3	55.6	55.6
	30歳代(n=18)	66.7	61.1	5.6	16.7	11.1	61.1	11.1	11.1	16.7	16.7	27.8	55.6
	40歳代(n=31)	83.9	48.4	12.9	38.7	12.9	61.3	22.6	12.9	19.4	9.7	16.1	61.3
	50歳代(n=28)	71.4	32.1	10.7	42.9	10.7	39.3	14.3	10.7	7.1	25.0	25.0	46.4
	60歳以上(n=15)	93.3	33.3	26.7	26.7	13.3	60.0	-	33.3	-	33.3	40.0	60.0

単位：％		が他にすることがなく時間	その他	不明・無回答
全体(n=230)		2.6	3.0	0.4
女性	女性全体(n=117)	4.3	4.3	0.9
	29歳以下(n=10)	10.0	-	-
	30歳代(n=23)	-	-	-
	40歳代(n=38)	2.6	5.3	-
	50歳代(n=31)	6.5	-	-
	60歳以上(n=13)	7.7	23.1	-
男性	男性全体(n=103)	1.0	1.0	-
	29歳以下(n=9)	11.1	-	-
	30歳代(n=18)	-	-	-
	40歳代(n=31)	-	3.2	-
	50歳代(n=28)	-	-	-
	60歳以上(n=15)	-	-	-

問4 女性の働き方についてあなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。(1つに○)

【共通設問：一般市民調査…問3】

女性の働き方に対する考え方は、全体で「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい」が42.6%と最も高く、次いで「出産や育児にかかわらず、仕事を継続した方がよい」が30.4%、「必要に応じて、臨時にパートやアルバイトをするのがよい」が8.7%となっています。

性別にみると、女性では「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい」「出産や育児にかかわらず、仕事を継続した方がよい」が40.2%、男性では「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい」が46.6%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「出産や育児にかかわらず、仕事を継続した方がよい」が高くなっています。

性・年代別でみると、40～50歳代女性では「出産や育児にかかわらず、仕事を継続した方がよい」、その他の年代では「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい」が最も高くなっています。

単位：%		に 結 い、 婚 た 女 性 が は よ い	事 や 産 育 児 に 専 念 し た 退 職 が し よ い	な 休 家 っ・ 事 て 退 職 や か 職 育 児 が 再 び 子 忙 し い 時 期 が 大 き い く	事 を 産 持 ち 育 児 に た か か わ ら ず 、 仕	や 必 要 に バ イ ト を 、 臨 時 に パ ー ト	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=230)		0.9	4.3	42.6	30.4	8.7	9.6	2.2	1.3
女 性	女性全体(n=117)	0.9	2.6	40.2	40.2	7.7	5.1	1.7	1.7
	29歳以下(n=10)	-	-	50.0	40.0	-	10.0	-	-
	30歳代(n=23)	-	-	56.5	39.1	4.3	-	-	-
	40歳代(n=38)	2.6	5.3	28.9	39.5	10.5	7.9	5.3	-
	50歳代(n=31)	-	3.2	29.0	48.4	12.9	3.2	-	3.2
	60歳以上(n=13)	-	-	61.5	30.8	-	-	-	7.7
男 性	男性全体(n=103)	1.0	5.8	46.6	21.4	9.7	12.6	1.9	1.0
	29歳以下(n=9)	-	11.1	33.3	33.3	11.1	11.1	-	-
	30歳代(n=18)	-	5.6	50.0	5.6	11.1	22.2	5.6	-
	40歳代(n=31)	-	6.5	48.4	16.1	12.9	12.9	3.2	-
	50歳代(n=28)	3.6	7.1	50.0	28.6	7.1	3.6	-	-
	60歳以上(n=15)	-	-	40.0	33.3	6.7	13.3	-	6.7

問5 育児や介護があっても仕事を継続できるようにするにはどのような援助や対策が望まれると思いますか。(あてはまるものすべてに○) [共通設問：一般市民調査…問4]

育児や介護があっても仕事を継続できるようにするために望まれる援助や対策は、全体で「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」が85.2%と最も高く、次いで「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」が75.2%、「保育・介護施設や保育・介護制度が充実していること」が66.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」が最も高く、女性で86.3%、男性で86.4%となっています。また、女性は男性に比べて「出産や育児、介護を機に家族のうちだれかが仕事を辞めることのないようにすること」「育児休業や介護休業等が取りやすいこと」が高く、男性は女性に比べて「待遇（給与、昇進）に他の従業員と差がないようにすること」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」「育児休業や介護休業等が取りやすいこと」、50歳以上女性では「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」、その他の年代では「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」が最も高くなっています。

単位：%		解 育 児 や 介 護 の 時 に 家 族 の 理 解 が 得 ら れ る こ と	解 育 児 や 介 護 の 時 に 家 族 の 理 解 が 得 ら れ る こ と	配 属 や 仕 事 の 内 容 に 他 の 従 業 員 と の 差 が な い こ と	待 遇 （ 給 与 ・ 昇 進 ） に 他 の 従 業 員 と の 差 が な い こ と	機 育 児 や 介 護 の 時 に 家 族 の 理 解 が 得 ら れ る こ と	保 育 ・ 介 護 施 設 や 保 育 ・ 介 護 制 度 が 充 実 し て い る こ と	病 人 や 高 齢 者 の 世 話 が 家 族 の 力 で な さ れ る こ と	出 産 や 育 児 、 介 護 を 機 に 家 族 の 中 の 一 人 が し を 辞 め る こ と	育 児 休 業 や 介 護 休 業 等 が 取 り や す い こ と	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=230)		75.2	85.2	19.1	35.7	22.6	66.5	54.8	45.2	63.9	7.0	1.3	-
女 性	女性全体(n=117)	81.2	86.3	19.7	29.9	20.5	67.5	58.1	51.3	70.9	7.7	0.9	-
	29歳以下(n=10)	80.0	90.0	20.0	50.0	30.0	80.0	60.0	30.0	90.0	10.0	-	-
	30歳代(n=23)	78.3	91.3	17.4	21.7	26.1	82.6	69.6	56.5	82.6	4.3	-	-
	40歳代(n=38)	78.9	89.5	28.9	31.6	23.7	68.4	42.1	52.6	68.4	13.2	2.6	-
	50歳代(n=31)	90.3	83.9	9.7	29.0	16.1	61.3	74.2	54.8	67.7	3.2	-	-
	60歳以上(n=13)	84.6	69.2	23.1	15.4	7.7	38.5	53.8	53.8	53.8	7.7	-	-
男 性	男性全体(n=103)	71.8	86.4	20.4	44.7	27.2	68.9	54.4	40.8	58.3	3.9	1.0	-
	29歳以下(n=9)	77.8	88.9	22.2	33.3	33.3	44.4	44.4	22.2	77.8	-	-	-
	30歳代(n=18)	72.2	83.3	22.2	38.9	27.8	77.8	66.7	44.4	55.6	5.6	-	-
	40歳代(n=31)	77.4	87.1	25.8	51.6	22.6	74.2	58.1	51.6	61.3	3.2	-	-
	50歳代(n=28)	60.7	89.3	14.3	42.9	25.0	64.3	39.3	32.1	50.0	3.6	3.6	-
	60歳以上(n=15)	73.3	80.0	20.0	53.3	33.3	73.3	66.7	46.7	60.0	6.7	-	-

3 ワーク・ライフ・バランスについて

問6 生活の中での、仕事・家事（育児・介護を含む）・プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度について、「理想」と「現実」のそれぞれの視点で、あなたのお考えや現状に最も近いものはどれですか。

A 理想は（1つに○）[共通設問：一般市民調査…問5 A]

理想のワーク・ライフ・バランスは、全体で「仕事・家事・プライベートを両立」が59.6%と最も高く、次いで「プライベートな時間優先」が12.2%、「家事とプライベート優先」が9.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「仕事・家事・プライベートを両立」が最も高く、女性で64.1%、男性で56.3%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「仕事・家事・プライベートを両立」が最も高くなっています。

単位：％		仕事優先	家事優先	プライベートな時間優先	仕事と家事優先	仕事とプライベート優先	家事とプライベート優先	仕事を両立・家事・プライベート	わからない	不明・無回答
全体(n=230)		3.0	2.2	12.2	2.6	8.3	9.1	59.6	2.2	0.9
女性	女性全体(n=117)	-	1.7	12.8	1.7	5.1	9.4	64.1	3.4	1.7
	29歳以下(n=10)	-	-	40.0	-	-	10.0	50.0	-	-
	30歳代(n=23)	-	-	8.7	-	8.7	21.7	60.9	-	-
	40歳代(n=38)	-	5.3	15.8	2.6	2.6	5.3	65.8	-	2.6
	50歳代(n=31)	-	-	9.7	-	6.5	6.5	74.2	3.2	-
	60歳以上(n=13)	-	-	-	7.7	7.7	-	61.5	15.4	7.7
男性	男性全体(n=103)	4.9	1.0	11.7	3.9	11.7	9.7	56.3	1.0	-
	29歳以下(n=9)	11.1	-	33.3	-	-	-	55.6	-	-
	30歳代(n=18)	-	5.6	11.1	-	5.6	16.7	61.1	-	-
	40歳代(n=31)	3.2	-	3.2	6.5	9.7	19.4	58.1	-	-
	50歳代(n=28)	10.7	-	17.9	3.6	17.9	3.6	46.4	-	-
	60歳以上(n=15)	-	-	6.7	6.7	20.0	-	60.0	6.7	-

◆経年比較 問6 A 理想は

前回調査と比較すると、大きな差は見られません。

性別でみると、男性では「仕事・家事・プライベートを両立」が8.2ポイント高くなっています。

単位：％		仕事優先	家事優先	プライベートな時間優先	仕事と家事優先	仕事とプライベート優先	家事とプライベート優先	仕事・家事・プライベートを両立	わからない	不明・無回答
全体	令和6(2024)年(n=230)	3.0	2.2	12.2	2.6	8.3	9.1	59.6	2.2	0.9
	平成26(2014)年(n=173)	4.6	1.7	12.7	7.5	10.4	7.5	54.9	-	0.6
女性	令和6(2024)年(n=117)	-	1.7	12.8	1.7	5.1	9.4	64.1	3.4	1.7
	平成26(2014)年(n=92)	1.1	-	10.9	6.5	8.7	10.9	60.9	-	1.1
男性	令和6(2024)年(n=103)	4.9	1.0	11.7	3.9	11.7	9.7	56.3	1.0	-
	平成26(2014)年(n=79)	8.9	3.8	13.9	8.9	12.7	3.8	48.1	-	-

※「わからない」は、今回調査より追加。

B 現実（１つに○）〔共通設問：一般市民調査…問５ B〕

現実のワーク・ライフ・バランスは、全体で「仕事優先」が39.1%と最も高く、次いで「仕事と家事優先」が27.8%、「仕事・家事・プライベートを両立」が14.3%となっています。

性別にみると、女性では「仕事と家事優先」が41.9%、男性では「仕事優先」が51.5%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「仕事と家事優先」が高く、男性は女性に比べて「仕事優先」が高くなっています。

性・年代別でみると、30～50歳代女性では「仕事と家事優先」、その他の年代では「仕事優先」が最も高くなっています。

単位：％		仕事優先	家事優先	プライベートな時間優先	仕事と家事優先	仕事とプライベート優先	家事とプライベート優先	仕事を両立 仕事・家事・プライベート	わからない	不明・無回答
全体(n=230)		39.1	0.4	0.4	27.8	13.5	1.7	14.3	1.7	0.9
女性	女性全体(n=117)	26.5	0.9	-	41.9	10.3	2.6	15.4	0.9	1.7
	29歳以下(n=10)	40.0	-	-	10.0	20.0	10.0	20.0	-	-
	30歳代(n=23)	30.4	-	-	52.2	8.7	-	8.7	-	-
	40歳代(n=38)	23.7	2.6	-	42.1	10.5	2.6	15.8	-	2.6
	50歳代(n=31)	19.4	-	-	54.8	3.2	3.2	19.4	-	-
	60歳以上(n=13)	38.5	-	-	23.1	15.4	-	15.4	-	7.7
男性	男性全体(n=103)	51.5	-	1.0	11.7	18.4	1.0	13.6	2.9	-
	29歳以下(n=9)	44.4	-	-	11.1	33.3	-	-	11.1	-
	30歳代(n=18)	50.0	-	5.6	22.2	5.6	-	16.7	-	-
	40歳代(n=31)	54.8	-	-	12.9	12.9	3.2	12.9	3.2	-
	50歳代(n=28)	46.4	-	-	10.7	28.6	-	14.3	-	-
	60歳以上(n=15)	66.7	-	-	-	13.3	-	20.0	-	-

◆経年比較 問6 B 現実

前回調査と比較すると、「仕事優先」が16.4ポイント低くなっています。また、「仕事と家事優先」が6.4ポイント、「仕事・家事・プライベートを両立」が6.8ポイント高くなっています。

性別でみると、女性では「仕事優先」が19.2ポイント減少しています。また、「仕事と家事優先」が11.5ポイント高くなっています。男性では「仕事優先」が15.6ポイント低くなっています。また、「仕事・家事・プライベートを両立」が11.1ポイント高くなっています。

単位：％		仕事優先	家事優先	プライベートな時間優先	仕事と家事優先	仕事とプライベート優先	家事とプライベート優先	仕事・家事・プライベートを両立	わからない	不明・無回答
全体	令和6(2024)年(n=230)	39.1	0.4	0.4	27.8	13.5	1.7	14.3	1.7	0.9
	平成26(2014)年(n=173)	55.5	2.3	-	21.4	11.6	1.7	7.5	-	-
女性	令和6(2024)年(n=117)	26.5	0.9	-	41.9	10.3	2.6	15.4	0.9	1.7
	平成26(2014)年(n=92)	45.7	2.2	-	30.4	8.7	1.1	12.0	-	-
男性	令和6(2024)年(n=103)	51.5	-	1.0	11.7	18.4	1.0	13.6	2.9	-
	平成26(2014)年(n=79)	67.1	2.5	-	11.4	13.9	2.5	2.5	-	-

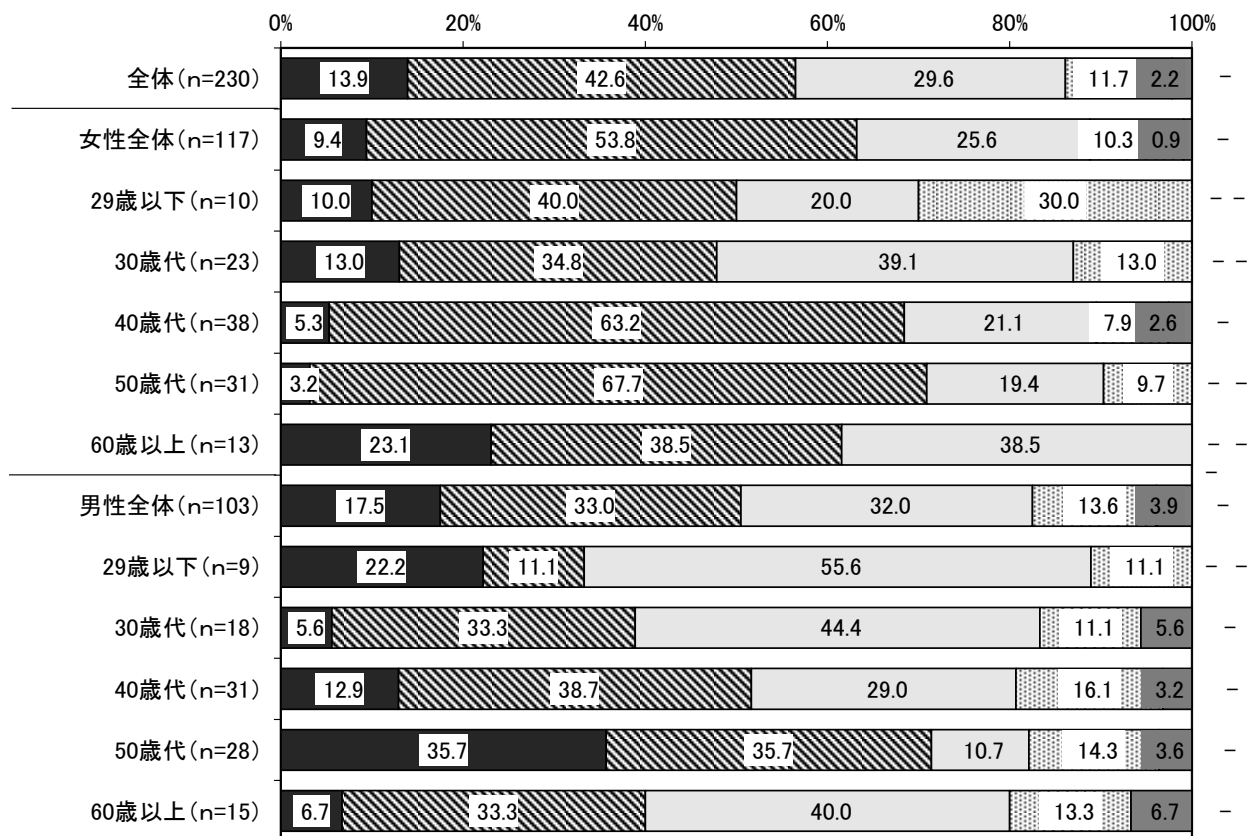
※「わからない」は、今回調査より追加。

問7 あなたにとって、仕事・家事（育児・介護を含む）・プライベートな時間のバランスは、うまくとれていると思いますか。（1つに○）[共通設問：一般市民調査…問6]

ワーク・ライフ・バランスがうまくとれていると思うかは、全体で「ややとれている」が42.6%と最も高く、次いで「あまりとれていない」が29.6%、「うまくとれている」が13.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「ややとれている」が最も高く、女性で53.8%、男性で33.0%となっています。

性・年代別でみると、30歳代男女、60歳以上男性では「あまりとれていない」、60歳以上女性では「ややとれている」「あまりとれていない」、50歳代男性では「うまくとれている」「ややとれている」、その他の年代では「ややとれている」が最も高くなっています。

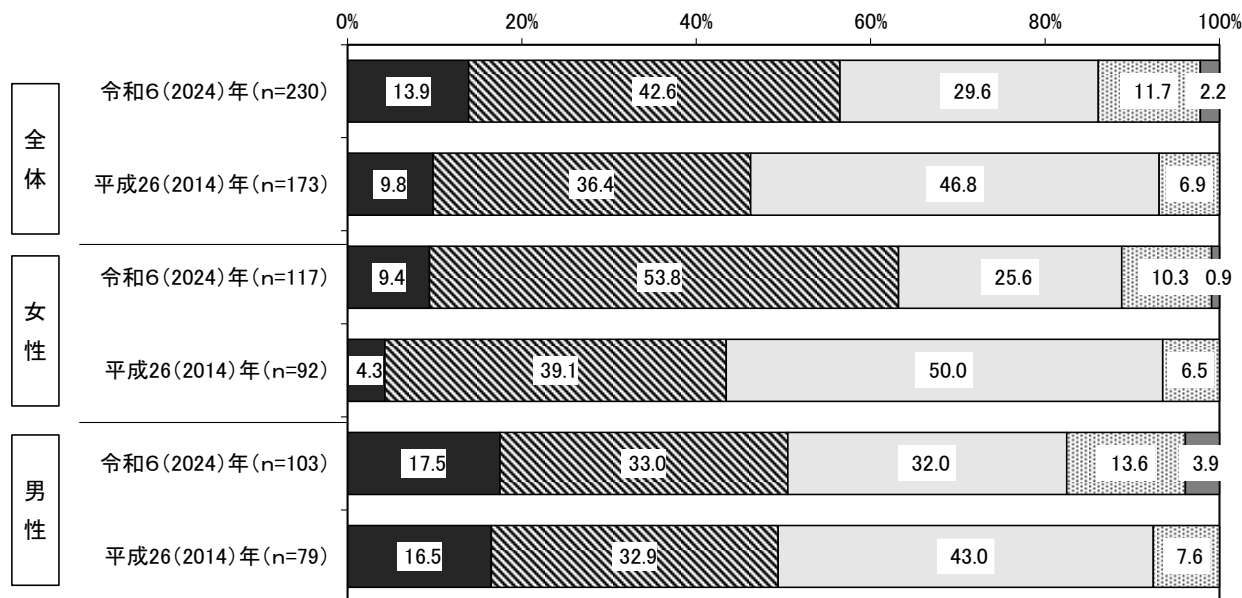


■うまくとれている ■ややとれている □あまりとれていない □まったくとれていない ■わからない □不明・無回答

◆経年比較 問7

前回調査と比較すると、「うまくとれている」と「ややとれている」を合わせた『とれている』が10.3ポイント高くなっています。

性別でみると、女性では『とれている』が19.8ポイント高くなっています。男性では「まったくとれていない」が6.0ポイント高くなっています。



■うまくとれている ▨ややとれている □あまりとれていない ▤まったくとれていない ■わからない □不明・無回答

※「わからない」は、今回調査より追加。

問8 あなたの在宅勤務（テレワーク）の実施状況はどれですか。※直近3か月（令和6年8月～10月）を想定してお答えください。（1つに○）[共通設問：一般市民調査…問2-3]

在宅勤務（テレワーク）の実施状況は、全体で「テレワークをしていない、できない」が89.1%と最も高く、次いで「それ以下の頻度」が4.3%、「週に4日以上」が2.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「テレワークをしていない、できない」が最も高く、女性で92.3%、男性で87.4%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「テレワークをしていない、できない」が最も高くなっています。

単位：%		週に4日以上	週に3日程程度	週に1～2日程程度	月に1～2日程程度	それ以下の頻度	テレワークをしていない	その他	不明・無回答
全体(n=230)		2.2	0.4	1.3	0.9	4.3	89.1	0.9	0.9
女性	女性全体(n=117)	1.7	0.9	-	-	1.7	92.3	1.7	1.7
	29歳以下(n=10)	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	30歳代(n=23)	-	4.3	-	-	-	95.7	-	-
	40歳代(n=38)	-	-	-	-	5.3	92.1	2.6	-
	50歳代(n=31)	3.2	-	-	-	-	93.5	3.2	-
	60歳以上(n=13)	7.7	-	-	-	-	76.9	-	15.4
男性	男性全体(n=103)	2.9	-	1.9	-	7.8	87.4	-	-
	29歳以下(n=9)	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	30歳代(n=18)	-	-	11.1	-	22.2	66.7	-	-
	40歳代(n=31)	-	-	-	-	6.5	93.5	-	-
	50歳代(n=28)	3.6	-	-	-	3.6	92.9	-	-
	60歳以上(n=15)	13.3	-	-	-	6.7	80.0	-	-

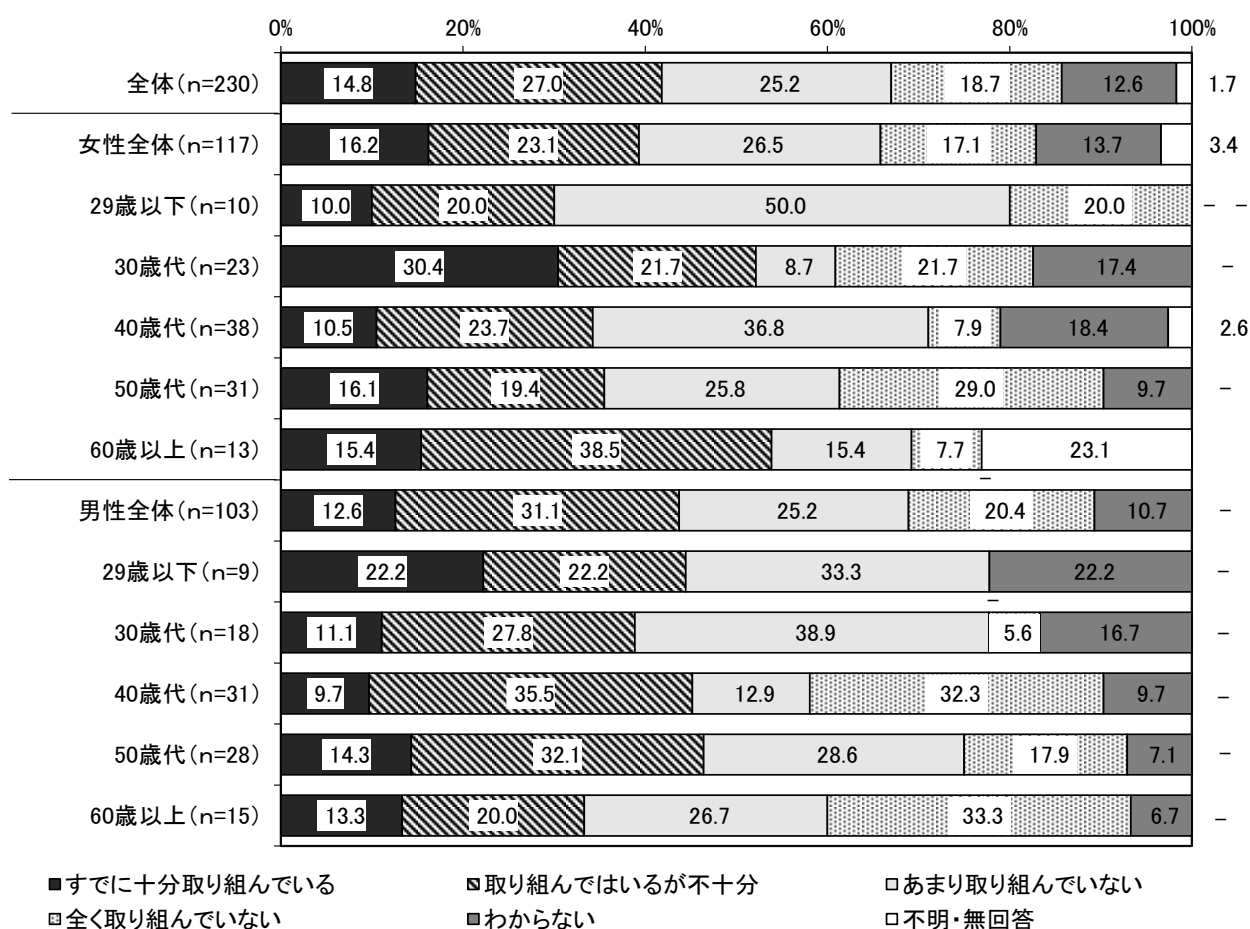
問9 あなたの職場でのワーク・ライフ・バランスの取り組みについて、どのように認識していますか。

①現状（1つに○）

ワーク・ライフ・バランスの取り組みの現状は、全体で「取り組んではいるが不十分」が27.0%と最も高く、次いで「あまり取り組んでいない」が25.2%、「全く取り組んでいない」が18.7%となっています。

性別にみると、女性では「あまり取り組んでいない」が26.5%、男性では「取り組んではいるが不十分」が31.1%で最も高くなっています。

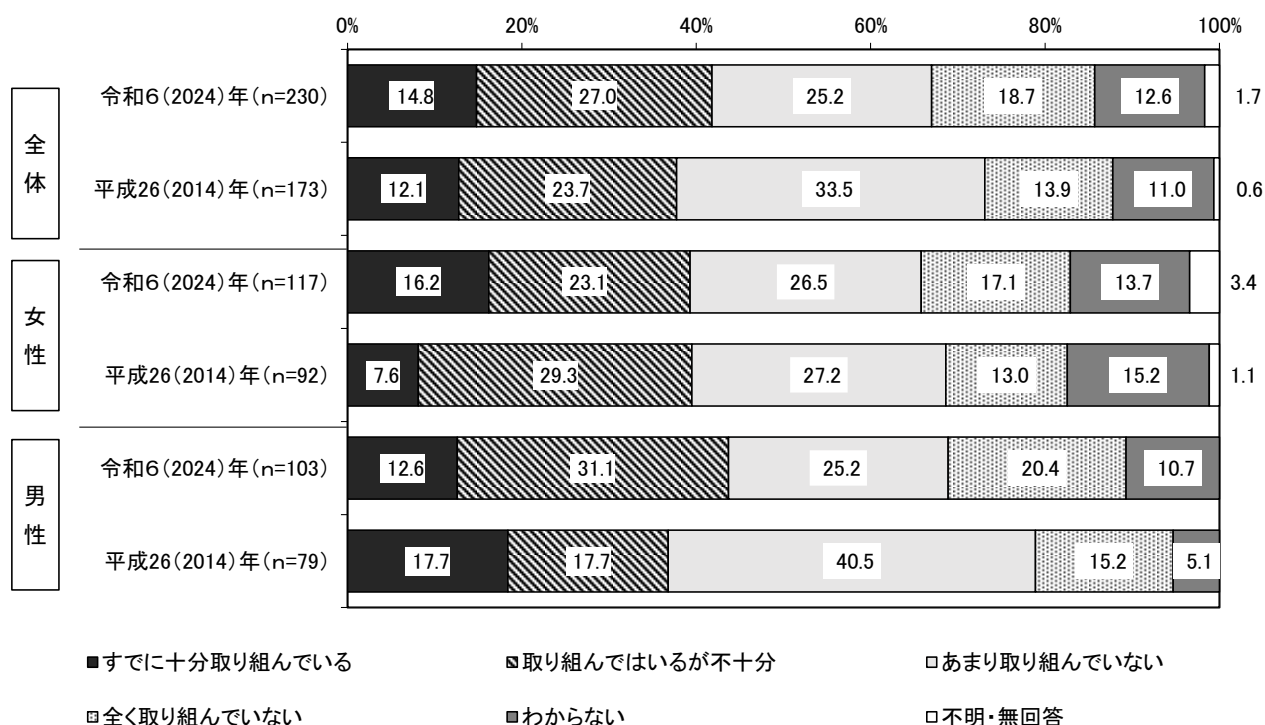
性・年代別でみると、29歳以下と40歳代女性、30歳代男性では「あまり取り組んでいない」、30歳代女性では「すでに十分取り組んでいる」、50歳代女性、60歳以上男性では「全く取り組んでいない」、60歳以上女性、40～50歳代男性では「取り組んではいるが不十分」が最も高くなっています。



◆経年比較 問9 ①現状

前回調査と比較すると、「すでに十分取り組んでいる」と「取り組んではいるが不十分」を合わせた『取り組んでいる』が6.0ポイント高くなっています。

性別でみると、男性では『取り組んでいる』が8.3ポイント高くなっています。



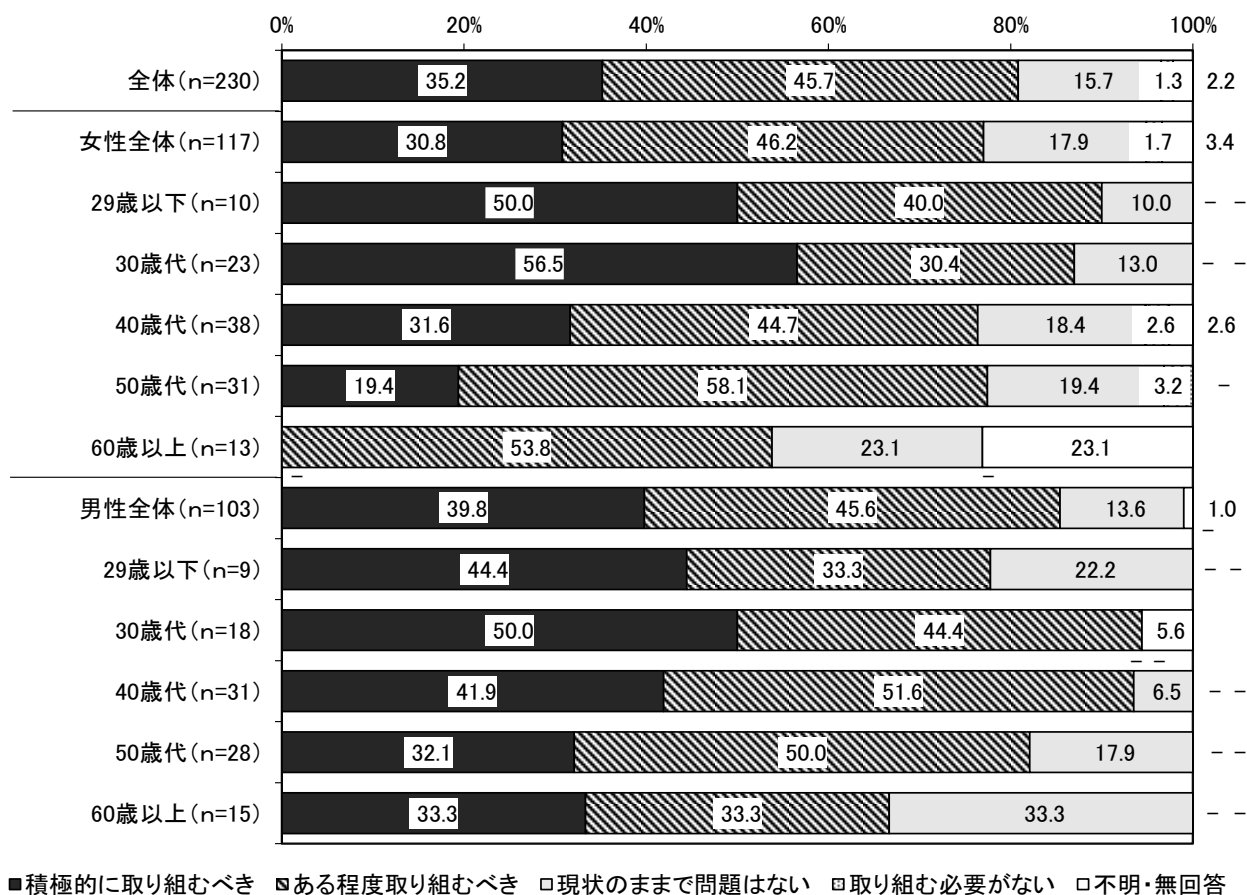
※今回調査では「取り組む必要性を感じない」の選択肢を削除した。

②今後の必要性（1つに○）

ワーク・ライフ・バランスの取り組みの今後の必要性は、全体で「ある程度取り組むべき」が45.7%と最も高く、次いで「積極的に取り組むべき」が35.2%、「現状のままで問題はない」が15.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「ある程度取り組むべき」が最も高く、女性で46.2%、男性で45.6%となっています。

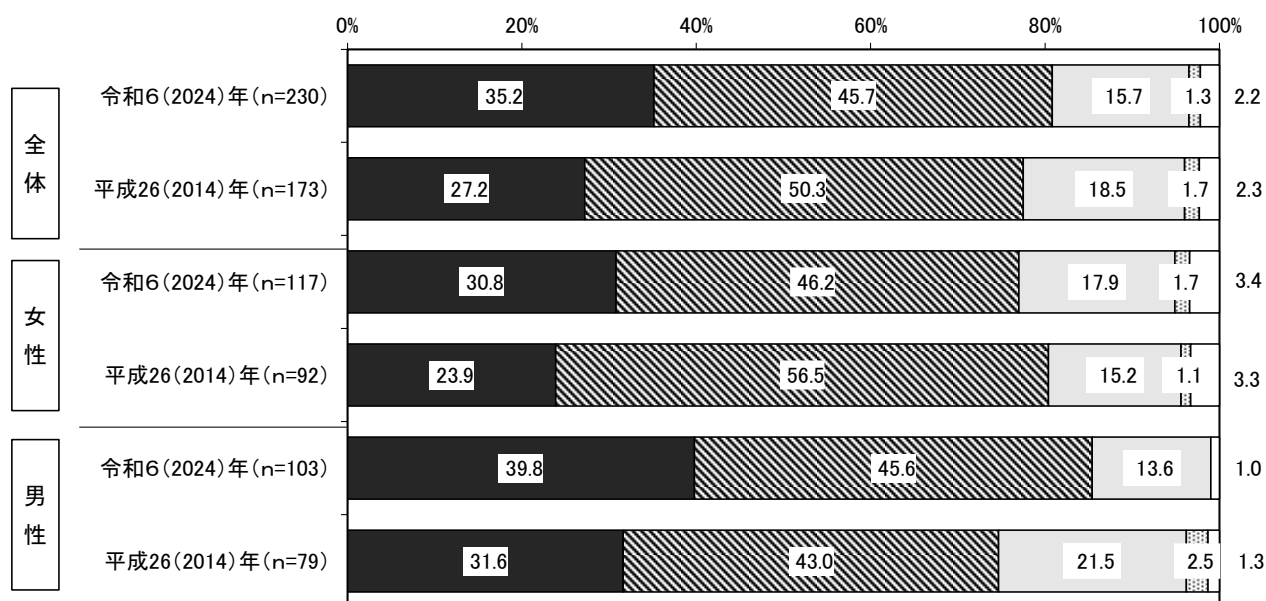
性・年代別でみると、30歳代以下女性、30歳代男性では「積極的に取り組むべき」、60歳以上男性では「積極的に取り組むべき」「ある程度取り組むべき」「現状のままで問題はない」、その他の年代では「ある程度取り組むべき」が最も高くなっています。



◆経年比較 問9 ②今後の必要性

前回調査と比較すると、大きな差は見られません。

性別でみると、男性では『取り組むべき』（「積極的に取り組むべき」と「ある程度取り組むべき」の合算）が10.8ポイント高くなっています。



■積極的に取り組むべき ■ある程度取り組むべき □現状のままで問題はない □取り組む必要がない □不明・無回答

問 10 あなたの勤めているところでは、ワーク・ライフ・バランスの取り組みとして、どのようなことを実施していますか。また、実施できれば効果のある取り組みだと思われるものは何ですか。

①実施している取り組み（あてはまるものすべてに○）

実施しているワーク・ライフ・バランスの取り組みは、全体で「従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行している」が41.3%と最も高く、次いで「従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫している」が40.0%、「ノー残業デーを設けている」が24.8%となっています。

性別にみると、女性では「従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫している」が41.9%、男性では「従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行している」が45.6%で最も高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「ノー残業デーを設けている」、30歳代女性では「従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行している」「従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫している」、40歳以上男性では「従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行している」、その他の年代では「従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫している」が最も高くなっています。

単位：%		リフ経 込・営 パ戦 ラ略 ン等 をに 進め る趣 ・ラ イ盛	用育 児休 業や 短時 間勤 務制 度な 利	織する ・担情 当報を 提供 ・設 け・相 談を 行 う組 に 関	を家 庭の 事情 によ って は、 勤務 地	ノー 残 業 デー を設 けて いる	てく ・従 業 員 に 対 し て、 早 く 帰 る よ う に 作 業 の 無 駄 行 を し な	き る ・従 業 員 が 休 み を と り や す い よ う に 工 夫 し て い る	期 従 業 員 一 人 ひ と に 対 し て、 定	し管 理職 を対 象と した 研 修 を 実 施	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=230)		5.7	21.7	7.4	17.4	24.8	41.3	40.0	20.9	12.6	2.2	17.8	2.6
女 性	女性全体(n=117)	0.9	17.9	6.0	15.4	21.4	37.6	41.9	18.8	7.7	2.6	18.8	3.4
	29歳以下(n=10)	-	-	-	20.0	40.0	20.0	20.0	-	-	-	30.0	-
	30歳代(n=23)	-	30.4	8.7	21.7	8.7	43.5	43.5	21.7	8.7	8.7	30.4	-
	40歳代(n=38)	2.6	21.1	10.5	21.1	26.3	42.1	44.7	21.1	7.9	2.6	7.9	5.3
	50歳代(n=31)	-	12.9	3.2	3.2	22.6	32.3	38.7	19.4	6.5	-	22.6	-
	60歳以上(n=13)	-	15.4	-	7.7	15.4	46.2	53.8	15.4	15.4	-	15.4	15.4
男 性	男性全体(n=103)	9.7	25.2	9.7	20.4	26.2	45.6	40.8	23.3	17.5	1.9	16.5	1.9
	29歳以下(n=9)	-	11.1	-	22.2	33.3	44.4	44.4	22.2	11.1	-	11.1	11.1
	30歳代(n=18)	16.7	33.3	27.8	27.8	44.4	44.4	55.6	27.8	22.2	5.6	5.6	-
	40歳代(n=31)	16.1	32.3	12.9	16.1	22.6	41.9	38.7	25.8	25.8	3.2	12.9	3.2
	50歳代(n=28)	3.6	17.9	-	17.9	21.4	42.9	35.7	17.9	10.7	-	32.1	-
	60歳以上(n=15)	-	20.0	-	20.0	13.3	60.0	33.3	20.0	-	-	13.3	-

◆経年比較 問 10 ①実施している取り組み

前回調査と比較すると、「育児休業や短時間勤務制度を利用して評価の際に不利益にならないことをルール化している」が 8.4 ポイント、「家庭の事情によっては、勤務地を考慮している」が 8.2 ポイント、「従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫している」が 10.5 ポイント、「従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施している」が 5.3 ポイント、「管理職を対象とした研修を実施している」が 6.2 ポイント高くなっています。また、「特にない」が 11.7 ポイント低くなっています。

性別でみると、女性では「従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫している」が最も高くなっています。

単位：％		経営戦略などにワーク・ライフ・バランスを進める趣旨を盛り込んでいる	育児休業や短時間勤務制度を利用しても評価の際に不利益にならないことをルール化している	ワーク・ライフ・バランスに関する情報提供・相談を行う組織・担当を設けている	家庭の事情によっては、勤務地を考慮している	ノー残業デーを設けている	従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように無駄をなくしている	従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫している	従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施している	管理職を対象とした研修を実施している	その他	特にない	不明・無回答
全体	令和6(2024)年(n=230)	5.7	21.7	7.4	17.4	24.8	41.3	40.0	20.9	12.6	2.2	17.8	2.6
	平成26(2014)年(n=173)	3.5	13.3	3.5	9.2	23.1	38.2	29.5	15.6	6.4	2.9	29.5	-
女性	令和6(2024)年(n=117)	0.9	17.9	6.0	15.4	21.4	37.6	41.9	18.8	7.7	2.6	18.8	3.4
	平成26(2014)年(n=92)	2.2	14.1	3.3	6.5	20.7	31.5	27.2	16.3	5.4	3.3	33.7	-
男性	令和6(2024)年(n=103)	9.7	25.2	9.7	20.4	26.2	45.6	40.8	23.3	17.5	1.9	16.5	1.9
	平成26(2014)年(n=79)	5.1	12.7	3.8	12.7	26.6	46.8	32.9	15.2	7.6	2.5	22.8	-

②効果のあると思われる取り組み（あてはまるものすべてに○）

効果のあると思われるワーク・ライフ・バランスの取り組みは、全体で「従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫する」が61.7%と最も高く、次いで「従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行する」が46.5%、「育児休業や短時間勤務制度を利用しても評価の際に不利益にならないことをルール化する」が36.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫する」が最も高く、女性で64.1%、男性で62.1%となっています。また、男性は女性に比べて「管理職を対象とした研修を実施する」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「家庭の事情によっては、勤務地を考慮する」「ノー残業デーを設ける」、60歳以上男性では「従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行する」「従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫する」、その他の年代では「従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫する」が最も高くなっています。

単位：％		フリー・パート・アルバイトなどによるワーク・ライフ・バランスの推進を盛んにする	育児休業や短時間勤務制度を積極的に活用する	ワーク・ライフ・バランスに関する情報提供・相談を行う組織・担当を設ける	家庭の事情によっては、勤務地を考慮する	ノー残業デーを設ける	従業員に対して早く帰るように励行する	従業員が休みをとりやすいよう、従業員相互で業務を共有できるように工夫する	従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施する	管理職を対象とした研修を実施する	その他	特にな	不明・無回答
全体(n=230)		19.1	36.5	19.6	23.0	30.4	46.5	61.7	28.3	15.2	3.5	7.0	2.6
女性	女性全体(n=117)	14.5	35.0	17.9	23.9	29.9	45.3	64.1	27.4	10.3	1.7	6.0	4.3
	29歳以下(n=10)	20.0	40.0	10.0	50.0	50.0	40.0	30.0	10.0	-	-	20.0	10.0
	30歳代(n=23)	21.7	43.5	17.4	26.1	30.4	43.5	69.6	39.1	4.3	4.3	-	-
	40歳代(n=38)	15.8	42.1	23.7	23.7	31.6	55.3	65.8	34.2	15.8	-	7.9	-
	50歳代(n=31)	6.5	25.8	19.4	16.1	29.0	45.2	71.0	22.6	9.7	3.2	6.5	3.2
	60歳以上(n=13)	15.4	15.4	7.7	15.4	15.4	30.8	61.5	15.4	15.4	-	-	15.4
男性	男性全体(n=103)	24.3	38.8	22.3	23.3	30.1	49.5	62.1	32.0	20.4	5.8	7.8	-
	29歳以下(n=9)	11.1	33.3	11.1	22.2	33.3	44.4	55.6	33.3	22.2	-	11.1	-
	30歳代(n=18)	22.2	38.9	27.8	27.8	38.9	50.0	72.2	33.3	27.8	22.2	5.6	-
	40歳代(n=31)	32.3	48.4	25.8	29.0	32.3	58.1	74.2	38.7	25.8	6.5	-	-
	50歳代(n=28)	17.9	42.9	25.0	25.0	32.1	39.3	50.0	32.1	21.4	-	10.7	-
	60歳以上(n=15)	26.7	13.3	6.7	6.7	13.3	46.7	46.7	13.3	-	-	20.0	-

問11 一般的に仕事と生活の両立をよりよくするために必要と思われるものは何ですか。
(3つまで○)

仕事と生活の両立をよりよくするために必要と思われるものは、全体で「男女が共に家事等の家庭的責任を負うという意識改革」が44.3%と最も高く、次いで「管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境の整備」「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」が30.9%となっています。

性別にみると、女性では「男女が共に家事等の家庭的責任を負うという意識改革」が50.4%、男性では「管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境の整備」が40.8%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「男女が共に家事等の家庭的責任を負うという意識改革」「ライフスタイルに対する意識改革」「家事等に対する社会通念の変化」が高く、男性は女性に比べて「管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境の整備」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度」、60歳以上女性では「男女が共に家事等の家庭的責任を負うという意識改革」「地域や職場内の保育所、学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容の充実」、30歳代男性では「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」、40歳代男性では「管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境の整備」、その他の年代では「男女が共に家事等の家庭的責任を負うという意識改革」が最も高くなっています。

単位：％		男女が共に家事等の家庭的責任を負うという意識の改革	ライフスタイルに対する意識の改革	育児・介護休業を取得できる期間を延ばすなど、制度の充実	職場環境の整備、代替要員の確保などの意識、利用しやすい職場の制度、利用しやすい職場の整備	育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること	地域や職場内の保育所、学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容の充実	家事等の支援サービスの充実	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度	残業を減らすこと、年間労働時間を短縮すること	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの禁止	パートタイムなど非正規職員の労働条件の改善	男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対する理解、職場・家族など周囲の理解
全体 (n=230)		44.3	17.8	18.7	30.9	30.9	27.8	6.5	25.2	20.9	6.5	10.9	30.4
女性	女性全体 (n=117)	50.4	22.2	18.8	23.1	31.6	29.1	6.0	28.2	17.9	6.8	9.4	35.0
	29歳以下 (n=10)	40.0	20.0	10.0	-	50.0	10.0	-	50.0	40.0	10.0	-	20.0
	30歳代 (n=23)	65.2	17.4	34.8	39.1	34.8	30.4	4.3	34.8	8.7	-	8.7	39.1
	40歳代 (n=38)	47.4	26.3	13.2	21.1	34.2	36.8	13.2	26.3	21.1	7.9	13.2	44.7
	50歳代 (n=31)	51.6	22.6	19.4	22.6	25.8	19.4	-	22.6	16.1	12.9	6.5	32.3
	60歳以上 (n=13)	46.2	23.1	7.7	23.1	15.4	46.2	7.7	15.4	15.4	-	15.4	23.1
男性	男性全体 (n=103)	39.8	11.7	20.4	40.8	31.1	29.1	7.8	23.3	26.2	6.8	13.6	28.2
	29歳以下 (n=9)	11.1	11.1	44.4	22.2	-	33.3	11.1	55.6	11.1	-	11.1	22.2
	30歳代 (n=18)	33.3	16.7	5.6	44.4	55.6	33.3	11.1	16.7	27.8	-	11.1	11.1
	40歳代 (n=31)	38.7	9.7	25.8	54.8	35.5	35.5	-	22.6	19.4	9.7	9.7	29.0
	50歳代 (n=28)	42.9	7.1	17.9	32.1	28.6	25.0	14.3	25.0	35.7	10.7	10.7	28.6
	60歳以上 (n=15)	60.0	13.3	20.0	26.7	20.0	20.0	6.7	13.3	33.3	6.7	26.7	46.7

単位：％		家事等に対する社会通念の変化	わからない	その他	不明・無回答
全体(n=230)		15.2	2.2	2.6	1.3
女性	女性全体(n=117)	19.7	2.6	0.9	1.7
	29歳以下(n=10)	-	10.0	-	-
	30歳代(n=23)	8.7	-	-	-
	40歳代(n=38)	23.7	2.6	2.6	-
	50歳代(n=31)	32.3	-	-	-
	60歳以上(n=13)	15.4	7.7	-	7.7
男性	男性全体(n=103)	9.7	1.0	1.9	-
	29歳以下(n=9)	22.2	11.1	-	-
	30歳代(n=18)	5.6	-	5.6	-
	40歳代(n=31)	9.7	-	3.2	-
	50歳代(n=28)	3.6	-	-	-
	60歳以上(n=15)	20.0	-	-	-

4 職場について

問 12 あなたは職場で次のような不満やストレスを感じることがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

職場での不満やストレスは、全体で「自分の理想よりも収入が低い」が42.6%と最も高く、次いで「自分の理想よりも労働時間や残業時間が長い」が27.0%、「休暇が取りにくい」が26.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「自分の理想よりも収入が低い」が最も高く、女性で38.5%、男性で46.6%となっています。また、女性は男性に比べて「不満やストレスを感じることはない」が高く、男性は女性に比べて「休暇が取りにくい」「職場での人間関係がうまくいかない」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「自分の理想よりも労働時間や残業時間が長い」「自分の理想よりも収入が低い」「仕事や通勤で疲労がたまる」「不満やストレスを感じることはない」、30歳代女性では「仕事や通勤で疲労がたまる」、60歳以上女性では「不満やストレスを感じることはない」、30歳代男性では「自分の理想よりも労働時間や残業時間が長い」、その他の年代では「自分の理想よりも収入が低い」が最も高くなっています。

単位：％		間自 や分の 残の理 業想時 時間 より 長い 労働 時	低自 分の 理 想 より も 収 入 が	雇 用 が 不 安 定 か ら な い 解	休 暇 が 取 り に く い	る 仕 事 や 通 勤 で 疲 労 が た ま	く 職 場 で の 人 間 関 係 が う ま	ら 仕 事 へ の や り が い が 感 じ	面 男 女 に よ る 格 差 （ 待 遇	こ と は な い ス ト レ ス を 感 じ る	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=230)		27.0	42.6	2.2	26.5	22.2	13.5	13.5	12.6	16.5	4.3	3.9
女 性	女性全体(n=117)	23.9	38.5	2.6	18.8	24.8	8.5	10.3	13.7	23.1	4.3	6.0
	29歳以下(n=10)	40.0	40.0	10.0	20.0	40.0	20.0	-	10.0	40.0	-	-
	30歳代(n=23)	26.1	30.4	-	17.4	34.8	4.3	26.1	8.7	17.4	-	4.3
	40歳代(n=38)	23.7	47.4	2.6	18.4	26.3	7.9	5.3	13.2	18.4	2.6	2.6
	50歳代(n=31)	22.6	45.2	3.2	22.6	9.7	12.9	9.7	22.6	19.4	12.9	6.5
	60歳以上(n=13)	15.4	15.4	-	15.4	23.1	-	7.7	7.7	38.5	-	23.1
男 性	男性全体(n=103)	31.1	46.6	1.9	35.9	21.4	19.4	18.4	11.7	9.7	2.9	1.0
	29歳以下(n=9)	44.4	44.4	11.1	44.4	33.3	11.1	22.2	-	11.1	-	-
	30歳代(n=18)	50.0	44.4	5.6	27.8	16.7	22.2	16.7	5.6	-	11.1	-
	40歳代(n=31)	29.0	45.2	-	41.9	32.3	16.1	29.0	6.5	16.1	-	-
	50歳代(n=28)	17.9	53.6	-	39.3	17.9	14.3	10.7	14.3	14.3	-	3.6
	60歳以上(n=15)	33.3	40.0	-	26.7	6.7	33.3	6.7	26.7	-	6.7	-

問 13 あなたの職場には次のような男女差や性差がありますか。(あてはまるものすべてに○)

職場での男女差や性差は、全体で「男女格差は何もない」が36.5%と最も高く、次いで「配属や仕事内容に男女差がある」が24.8%、「待遇（給与・昇進）に男女差がある」が17.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女格差は何もない」が最も高く、女性で39.3%、男性で35.9%となっています。また、男性は女性に比べて「配属や仕事内容に男女差がある」が高くなっています。

性・年代別でみると、50歳代女性では「待遇（給与・昇進）に男女差がある」「男女格差は何もない」、60歳以上男性では「採用数や採用基準などに男女差がある」「配属や仕事内容に男女差がある」、その他の年代では「男女格差は何もない」が最も高くなっています。

単位：％		男女採用数や採用基準などに	配属や仕事内容に男女差がある	待遇（給与・昇進）に男女差がある	男性にだけ残業や休日出勤がある	出産や育児、介護を機に退社する女性が多い	女性には雑用や補助的な仕事が多い	セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）がある	男女格差は何もない	その他	わからない	不明・無回答
全体(n=230)		12.6	24.8	17.0	5.2	3.9	16.1	2.6	36.5	3.0	13.5	5.2
女性	女性全体(n=117)	14.5	17.9	17.9	3.4	5.1	17.9	2.6	39.3	3.4	12.0	6.8
	29歳以下(n=10)	-	20.0	10.0	-	10.0	30.0	-	50.0	-	10.0	-
	30歳代(n=23)	13.0	13.0	8.7	4.3	8.7	17.4	8.7	52.2	-	13.0	4.3
	40歳代(n=38)	18.4	21.1	21.1	2.6	5.3	21.1	2.6	36.8	2.6	10.5	7.9
	50歳代(n=31)	19.4	19.4	29.0	6.5	3.2	16.1	-	29.0	6.5	16.1	6.5
	60歳以上(n=13)	7.7	15.4	7.7	-	-	7.7	-	38.5	7.7	-	15.4
男性	男性全体(n=103)	10.7	32.0	16.5	7.8	2.9	15.5	2.9	35.9	1.9	13.6	1.9
	29歳以下(n=9)	22.2	22.2	11.1	-	-	22.2	-	33.3	-	11.1	-
	30歳代(n=18)	5.6	38.9	5.6	11.1	-	33.3	-	50.0	-	-	-
	40歳代(n=31)	12.9	35.5	9.7	16.1	6.5	6.5	3.2	38.7	3.2	22.6	3.2
	50歳代(n=28)	-	28.6	28.6	-	3.6	10.7	3.6	35.7	-	14.3	3.6
	60歳以上(n=15)	26.7	26.7	20.0	6.7	-	20.0	6.7	13.3	6.7	13.3	-

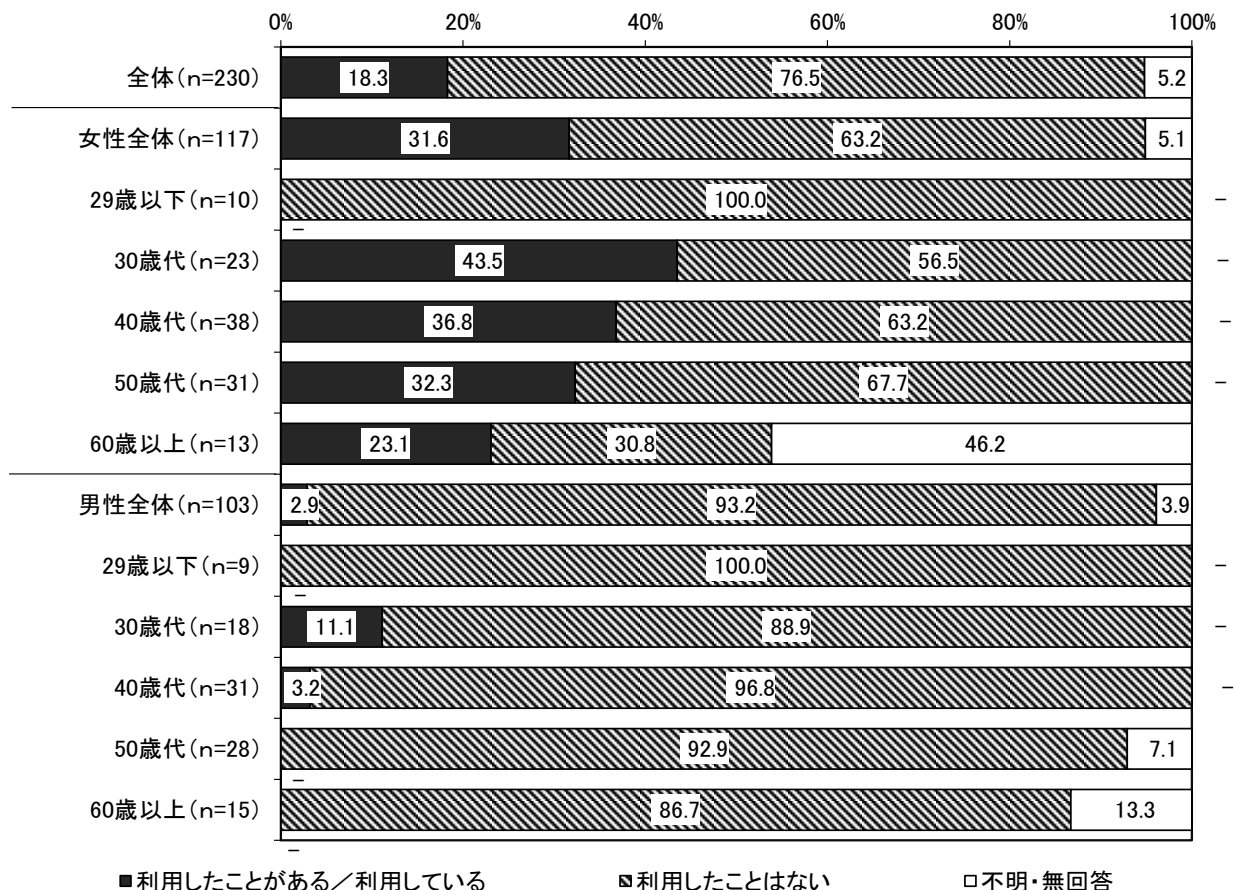
問 14 次の A～O の各制度について、あなたは現在までに利用経験がありますか。また、今後の利用／導入をしてほしいと思いますか。

①利用経験 A 産前産後休暇（1つに○）

産前産後休暇の利用経験は、全体で「利用したことはない」が 76.5%と、「利用したことがある／利用している」の 18.3%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で 63.2%、男性で 93.2%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が 30 歳代女性で 43.5%、40～50 歳代女性で 3 割台と他の年代と比べて高くなっています。

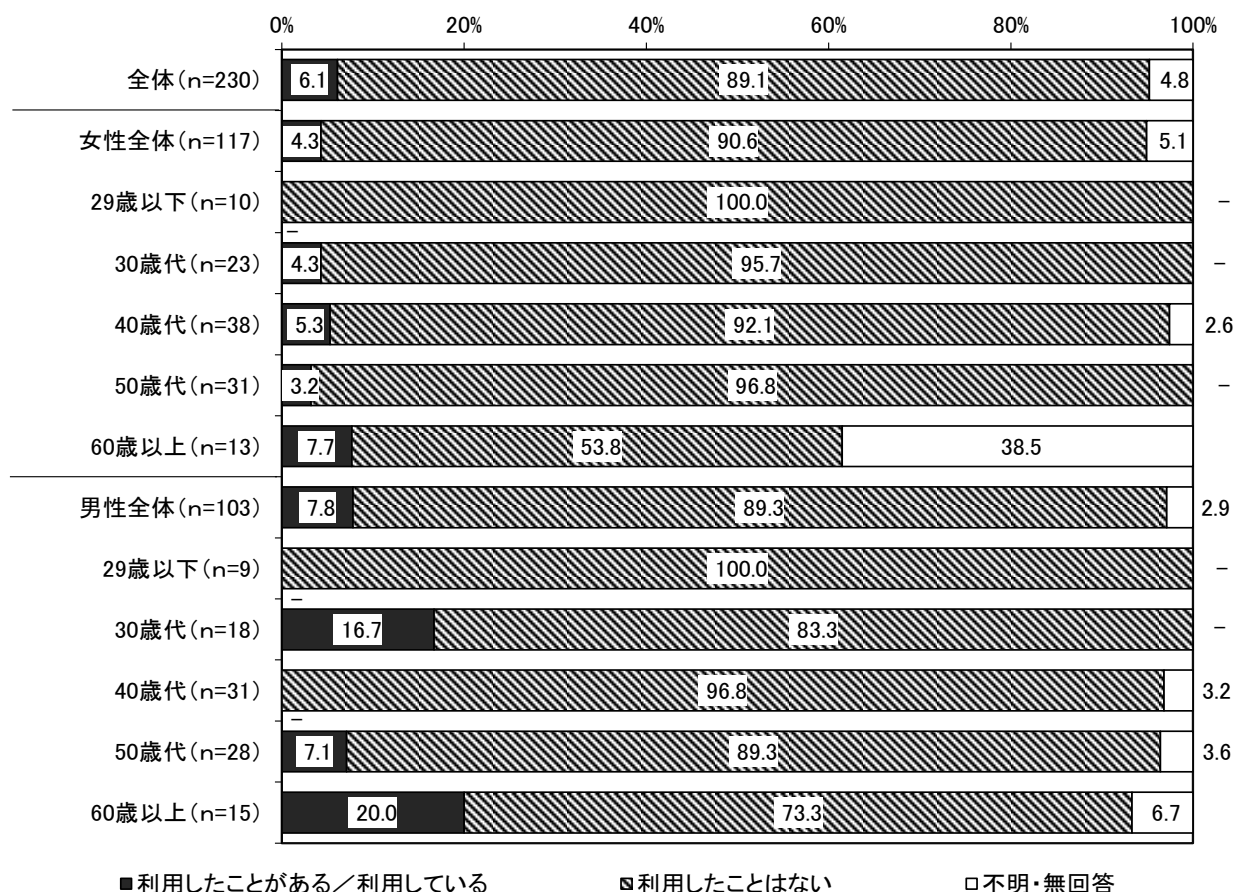


①利用経験 B 通院休暇制度（1つに○）

通院休暇制度の利用経験は、全体で「利用したことはない」が89.1%と、「利用したことがある／利用している」の6.1%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で90.6%、男性で89.3%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が60歳以上男性で20.0%、30歳代男性で16.7%と他の年代と比べて高くなっています。

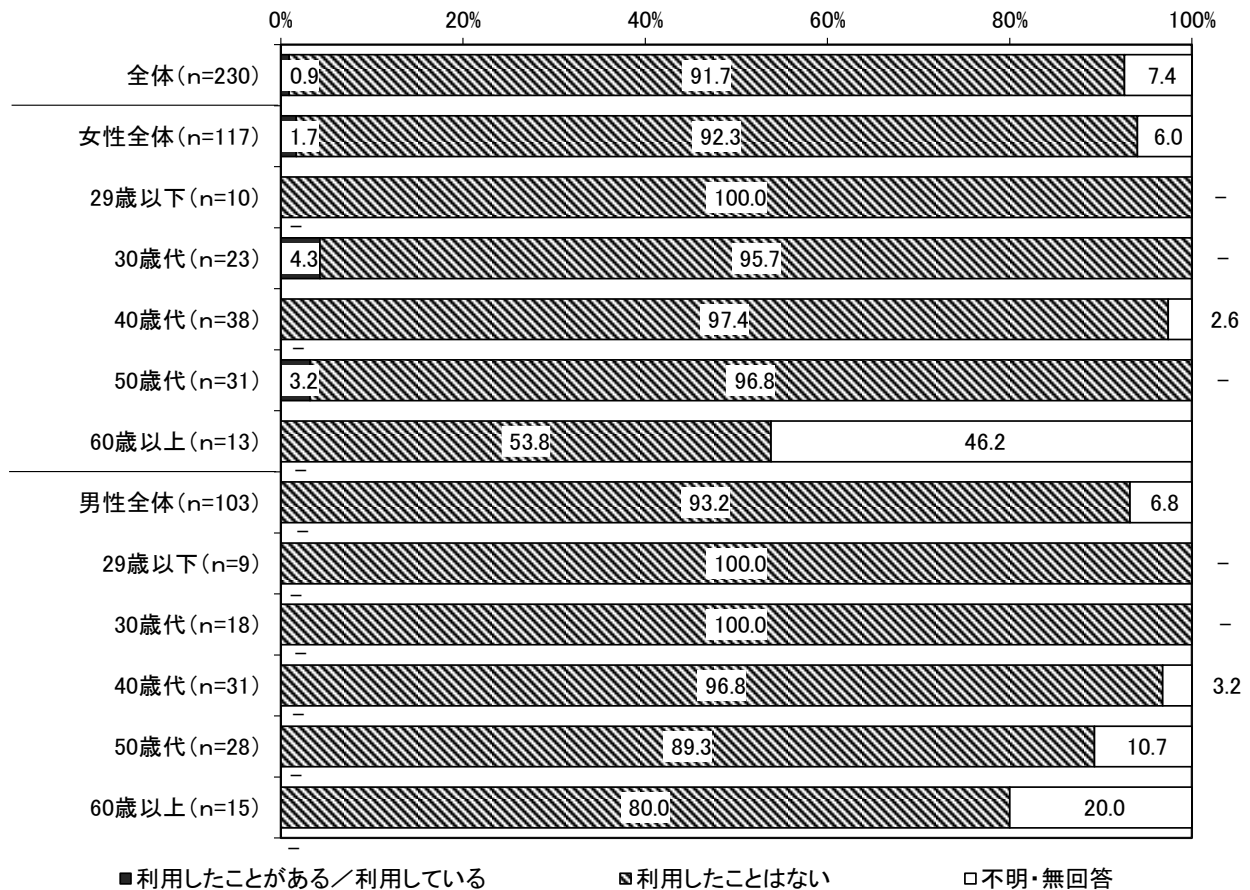


①利用経験 C 妊婦の通勤緩和措置（1つに○）

妊婦の通勤緩和措置の利用経験は、全体で「利用したことはない」が91.7%と、「利用したことがある／利用している」の0.9%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で92.3%、男性で93.2%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が男女ともにすべての年代で1割未満となっています。

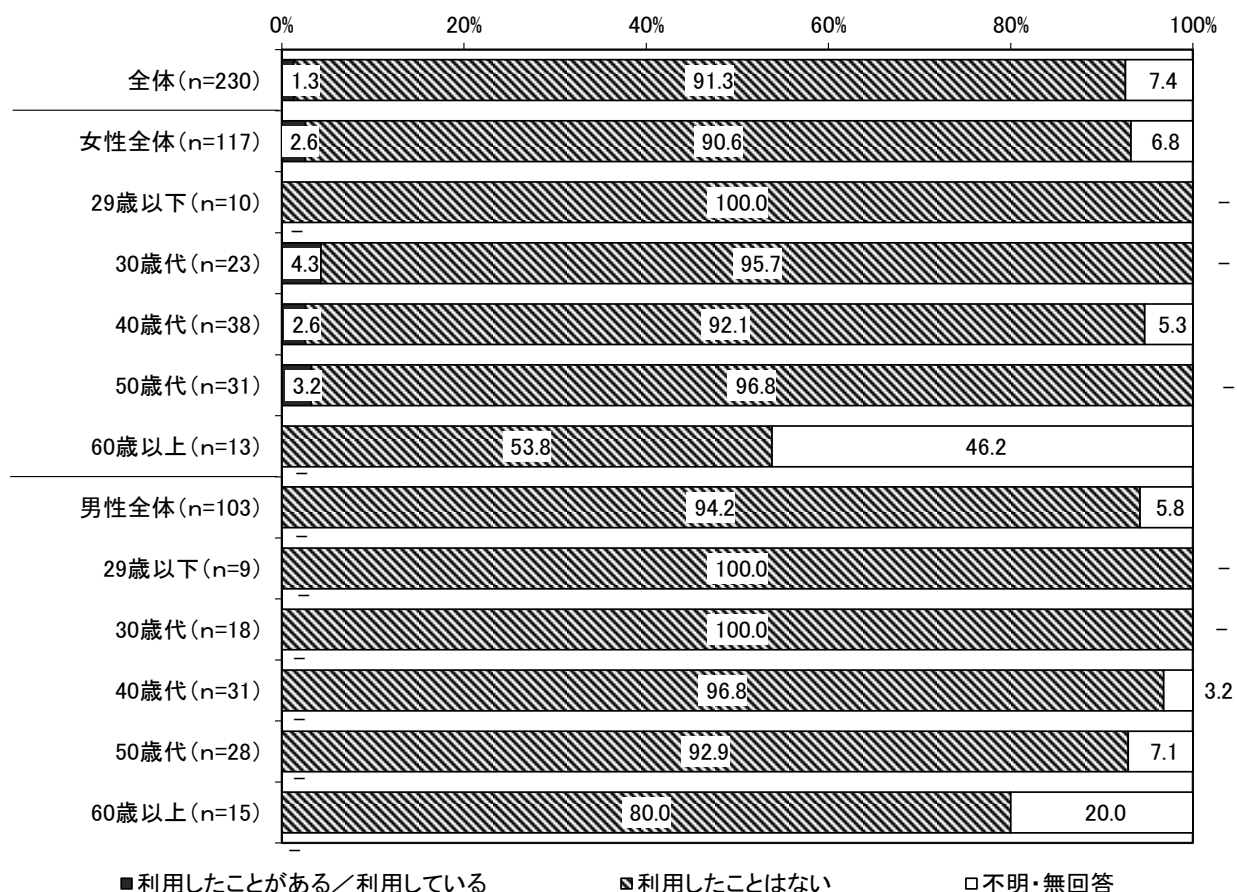


①利用経験 D 妊娠障害休暇（つわり休暇）（1つに○）

妊娠障害休暇（つわり休暇）は、全体で「利用したことはない」が91.3%と、「利用したことがある／利用している」の1.3%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で90.6%、男性で94.2%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が男女ともにすべての年代で1割未満となっています。

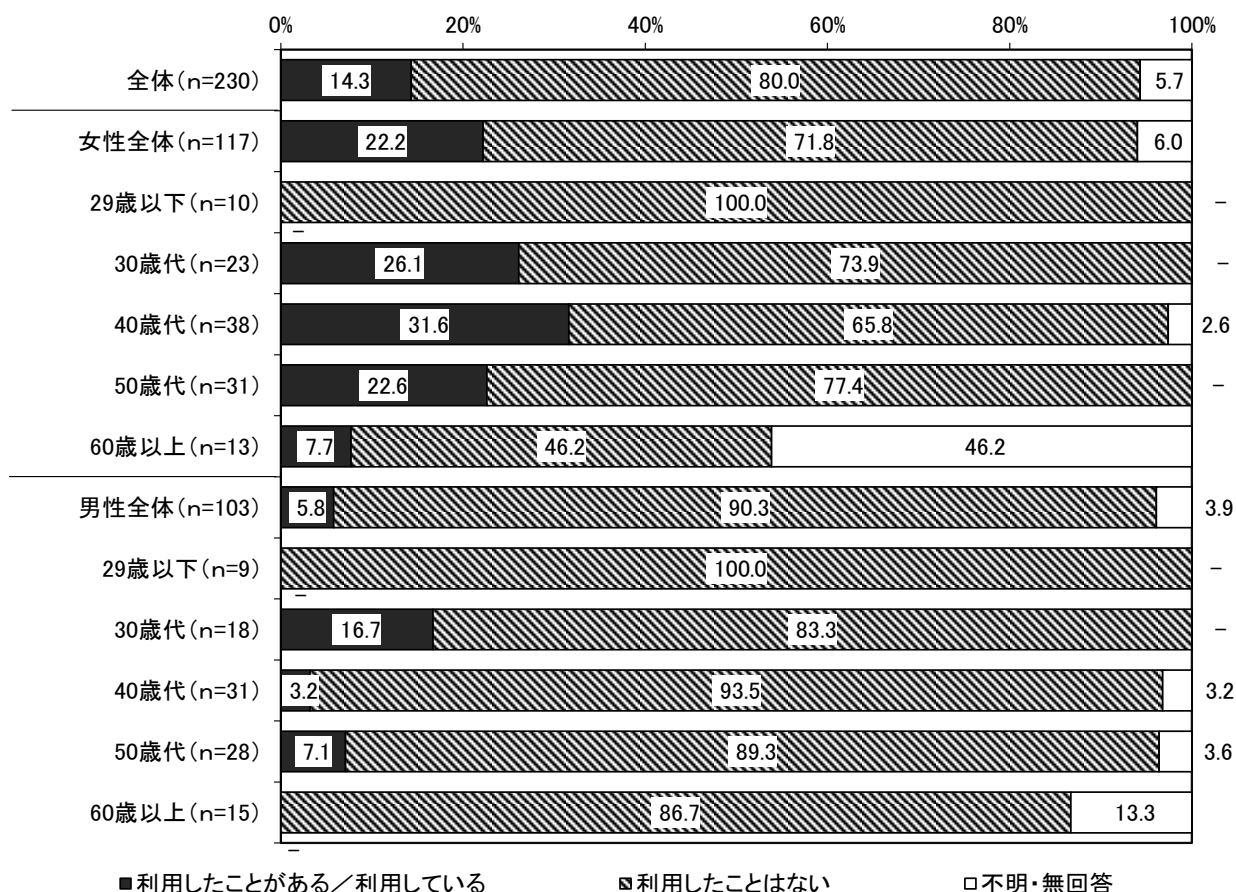


①利用経験 E 育児休業制度、出生時育児休業（産後パパ育休）（1つに○）

育児休業制度、出生時育児休業（産後パパ育休）の利用経験は、全体で「利用したことはない」が80.0%と、「利用したことがある／利用している」の14.3%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で71.8%、男性で90.3%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が40歳代女性で31.6%、30歳代と50歳代女性で2割台と他の年代と比べて高くなっています。

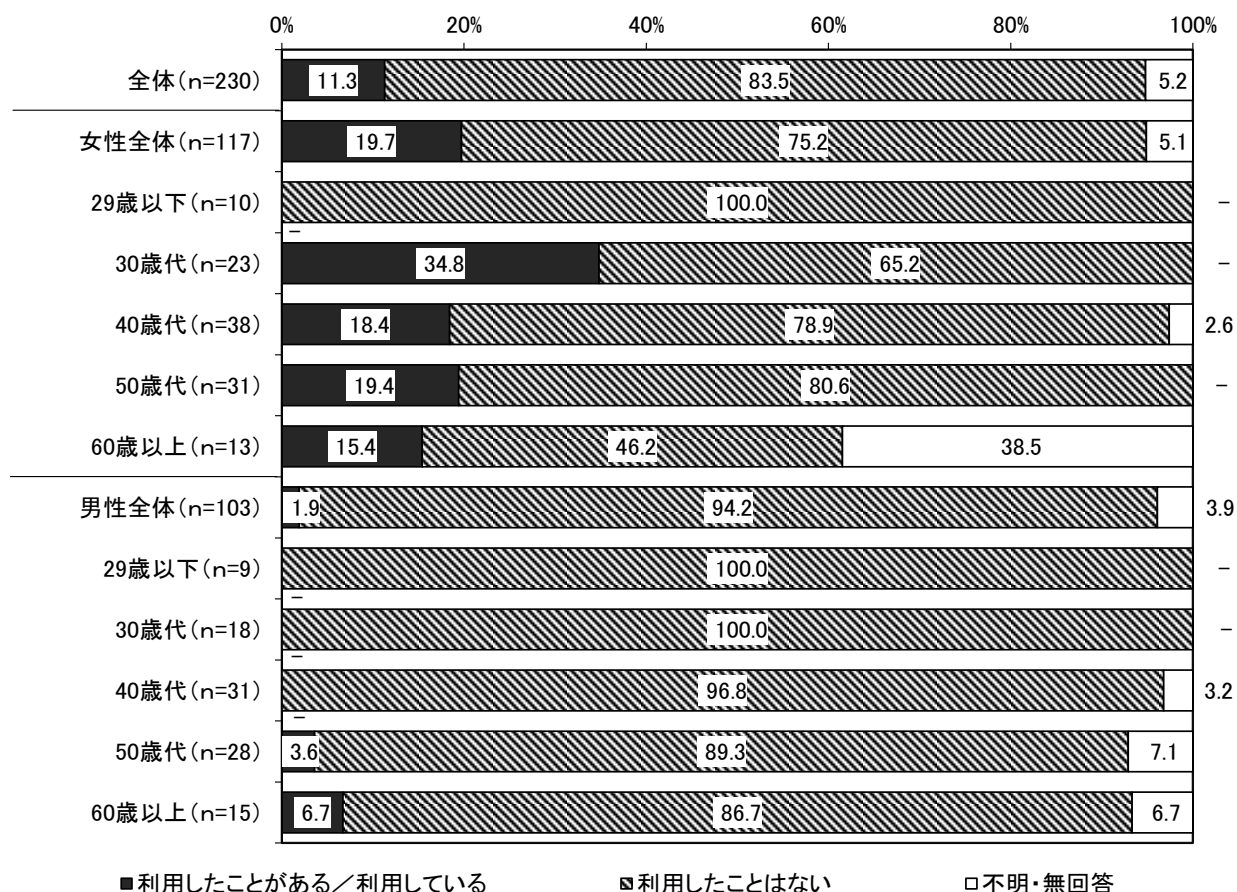


①利用経験 F 短時間勤務制度（1つに○）

短時間勤務制度の利用経験は、全体で「利用したことはない」が83.5%と、「利用したことがある／利用している」の11.3%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で75.2%、男性で94.2%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が30歳代女性で34.8%、40歳以上女性で1割台と他の年代と比べて高くなっています。

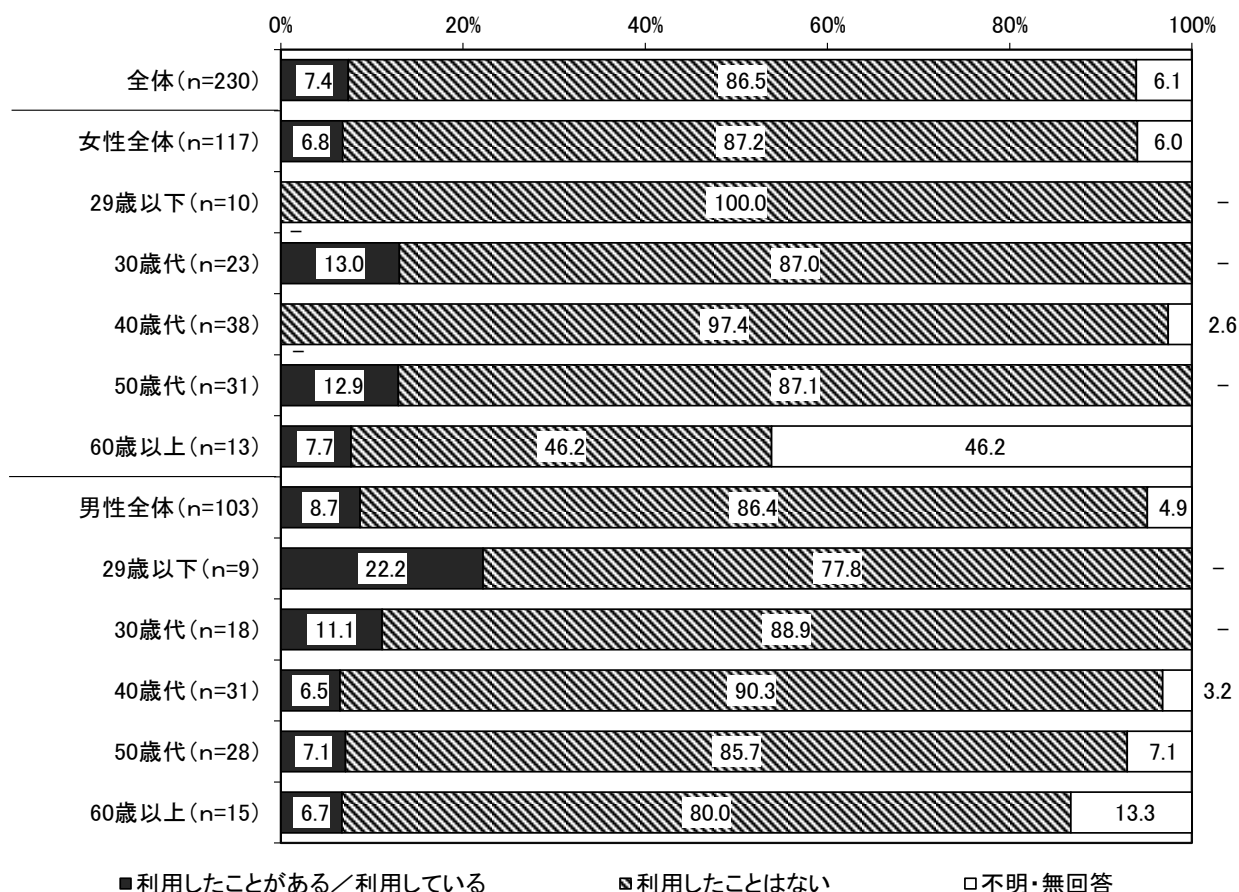


①利用経験 G フレックスタイム勤務制度（1つに○）

フレックスタイム勤務制度の利用経験は、全体で「利用したことはない」が86.5%と、「利用したことがある／利用している」の7.4%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で87.2%、男性で86.4%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」がすべての年代で1割台以下となっています。

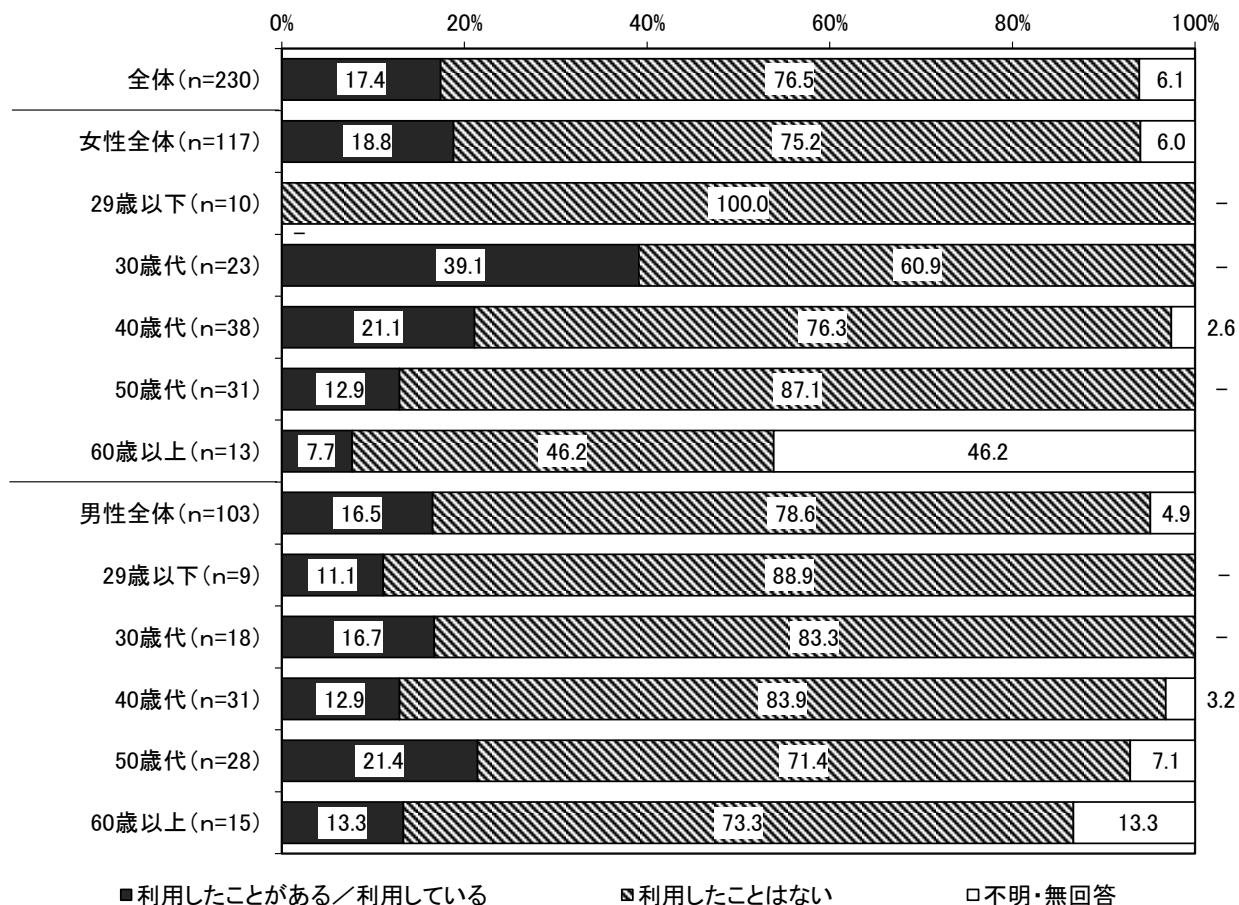


①利用経験 H 始終業時刻の繰り上げ・繰り下げ（1つに○）

始終業時刻の繰り上げ・繰り下げの利用経験は、全体で「利用したことはない」が76.5%と、「利用したことがある／利用している」の17.4%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で75.2%、男性で78.6%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が30歳代女性で39.1%と他の年代と比べて高くなっています。

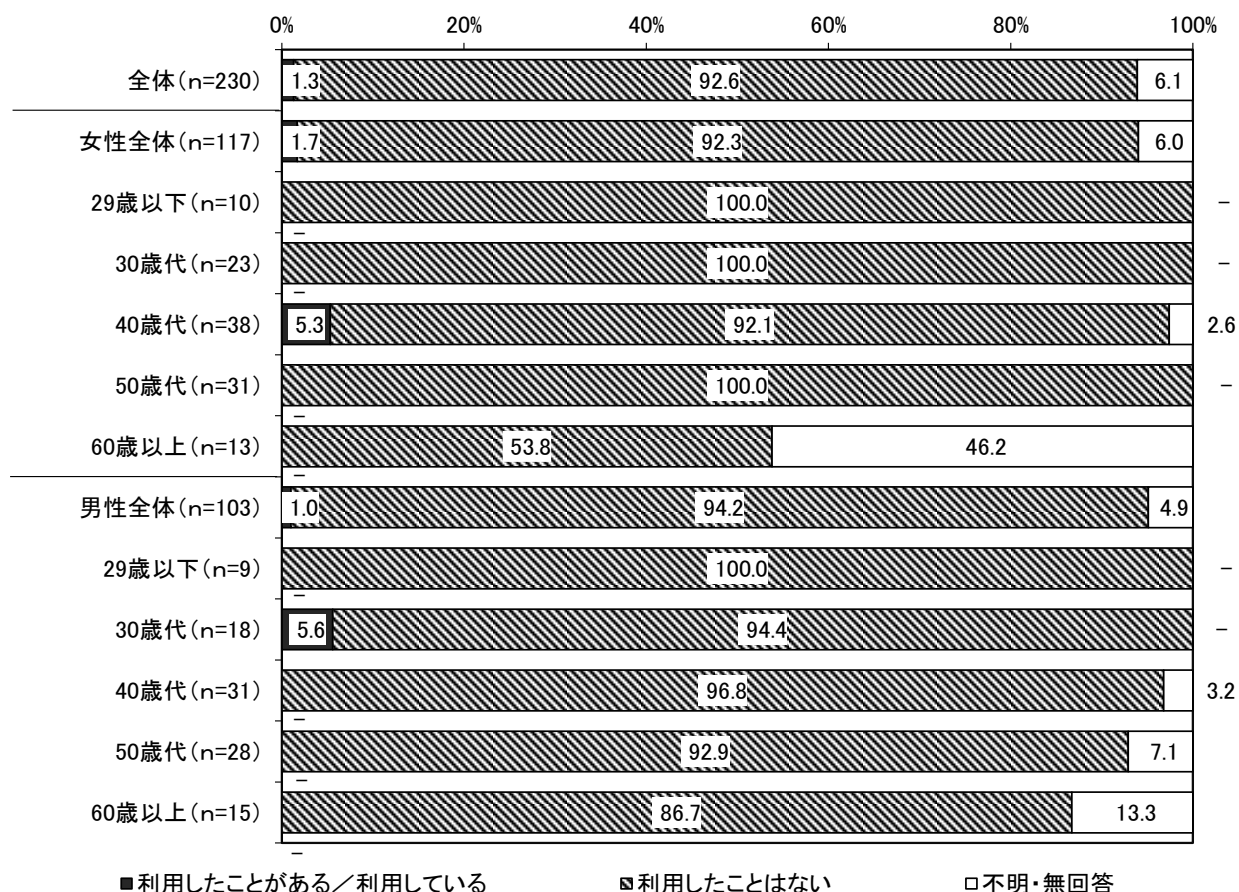


①利用経験 I 育児のためのテレワーク導入（1つに○）

育児のためのテレワーク導入の利用経験は、全体で「利用したことはない」が92.6%と、「利用したことがある／利用している」の1.3%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で92.3%、男性で94.2%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が男女ともにすべての年代で1割未満となっています。

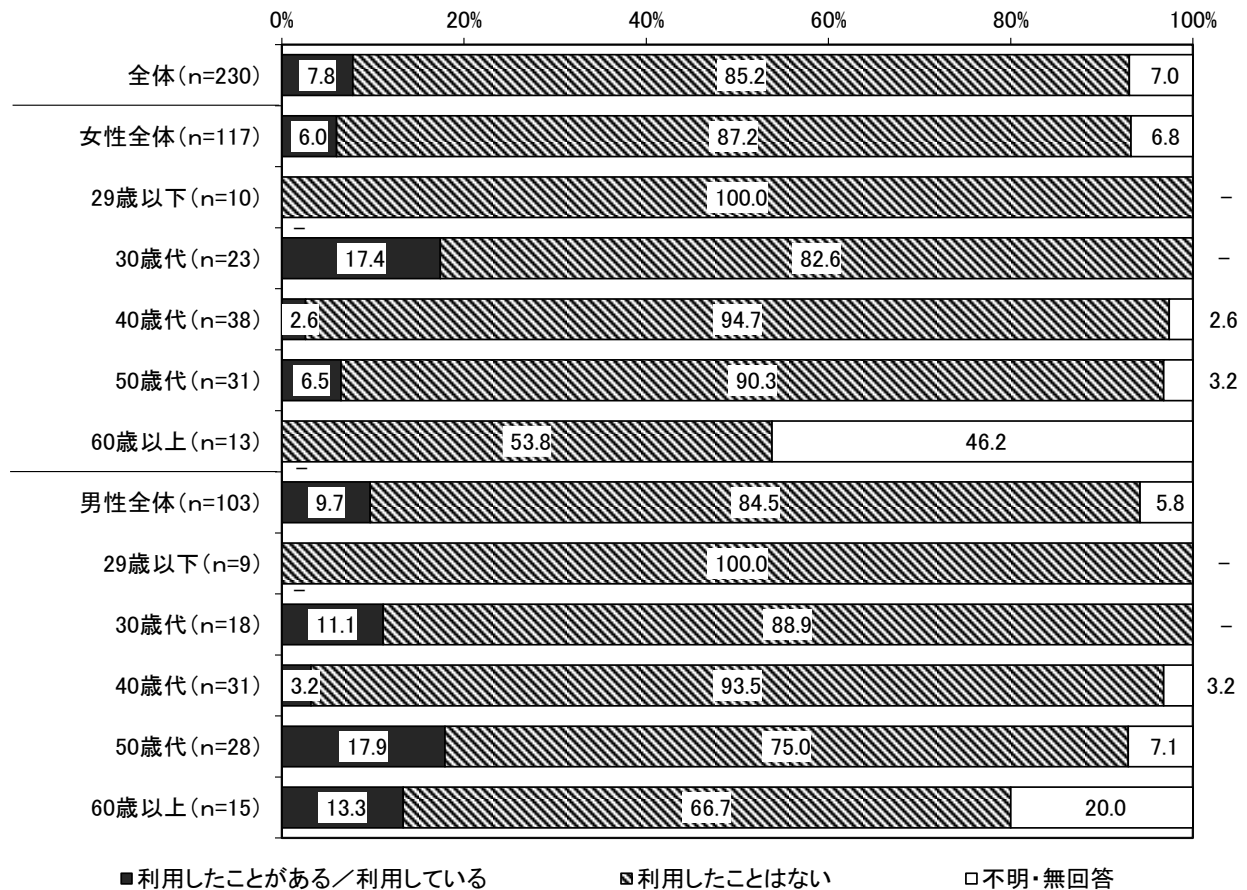


①利用経験 J 所定外時間の労働の制限（1つに○）

所定外時間の労働の制限の利用経験は、全体で「利用したことはない」が85.2%と、「利用したことがある／利用している」の7.8%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で87.2%、男性で84.5%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が30歳代女性、50歳以上男性で1割台と他の年代と比べて高くなっています。

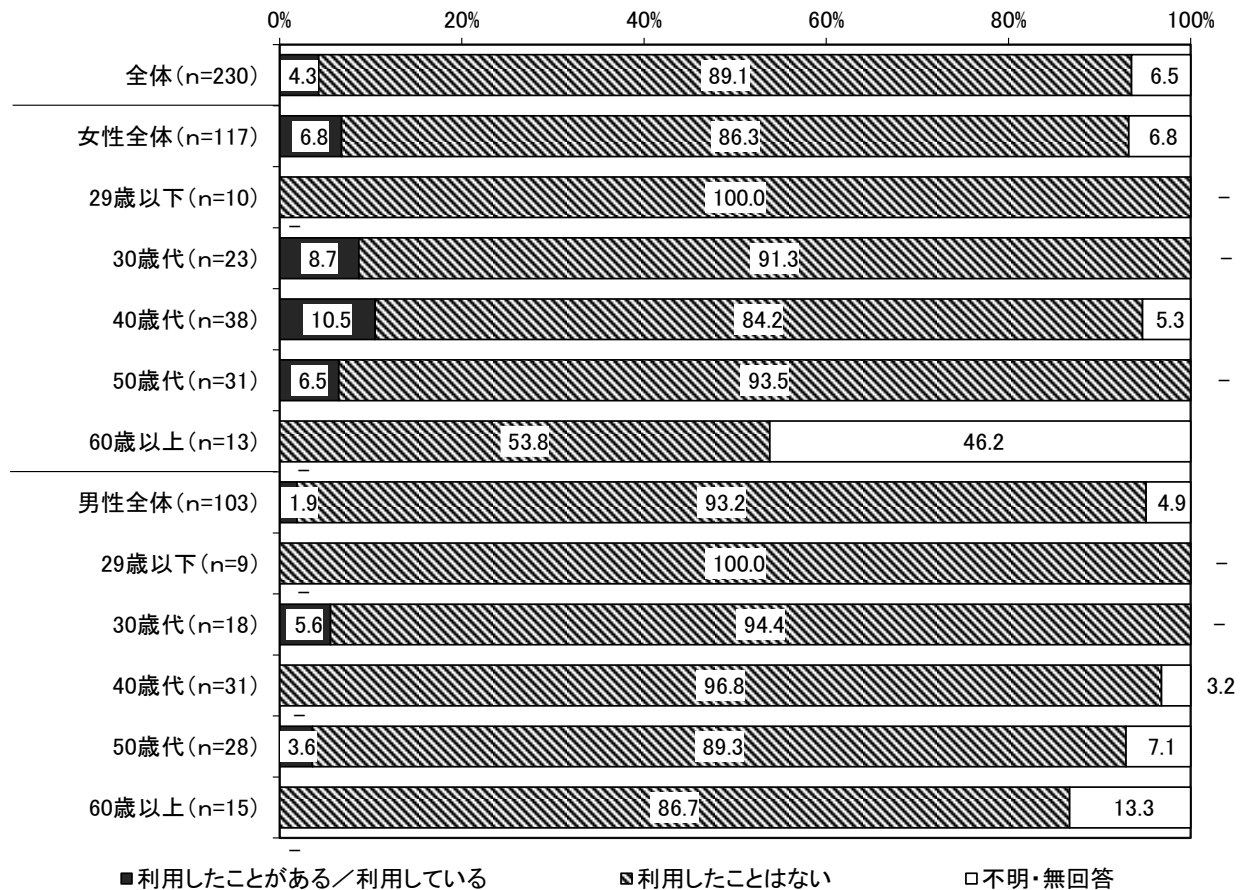


①利用経験 K 育児時間（1つに○）

育児時間の利用経験は、全体で「利用したことはない」が89.1%と、「利用したことがある／利用している」の4.3%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で86.3%、男性で93.2%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が男女ともにすべての年代で1割台以下となっています。

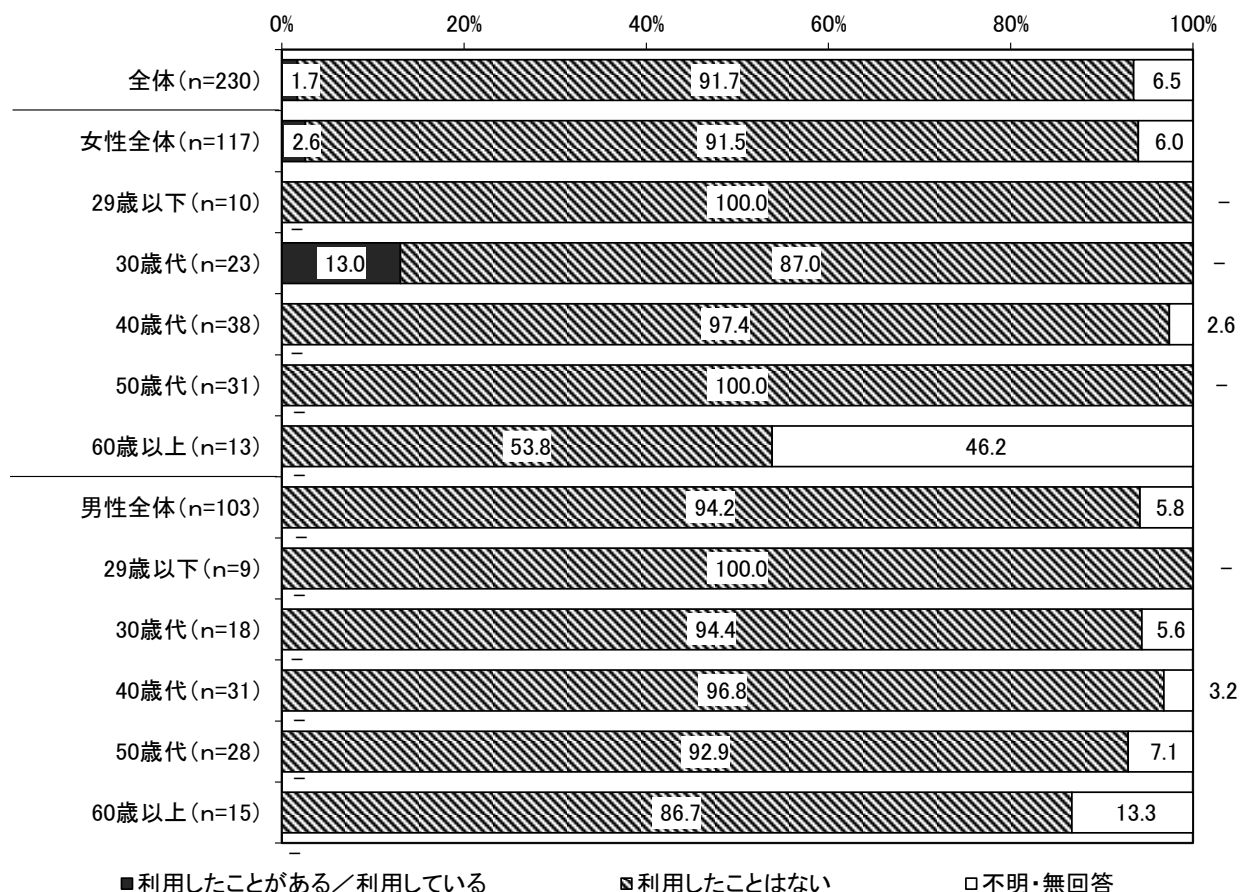


①利用経験 L 企業内保育（1つに○）

企業内保育の利用経験は、全体で「利用したことはない」が91.7%と、「利用したことがある／利用している」の1.7%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で91.5%、男性で94.2%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が30歳代女性で13.0%と他の年代と比べて高くなっています。

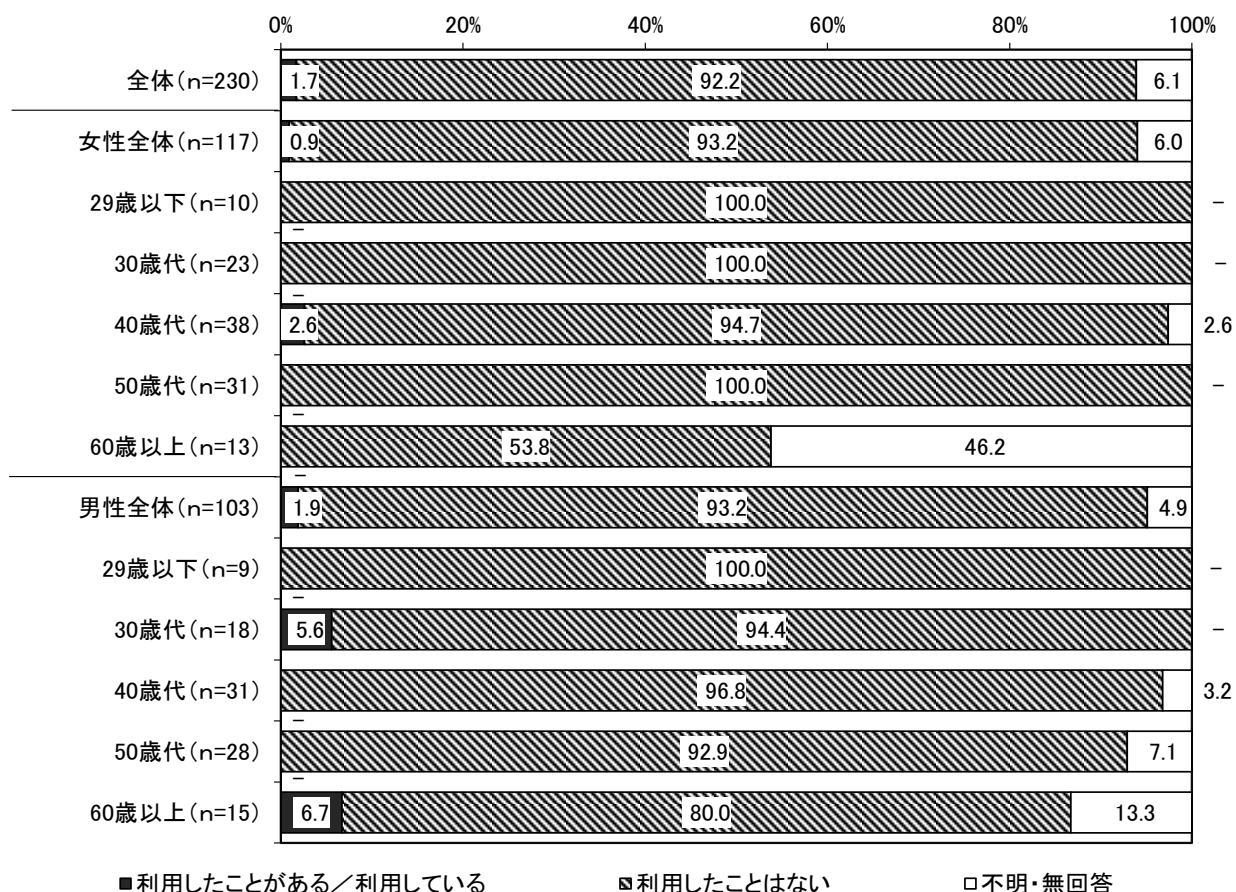


①利用経験 M 介護休業制度（1つに○）

介護休業制度の利用経験は、全体で「利用したことはない」が92.2%と、「利用したことがある／利用している」の1.7%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で93.2%、男性で93.2%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が男女ともにすべての年代で1割未満となっています。

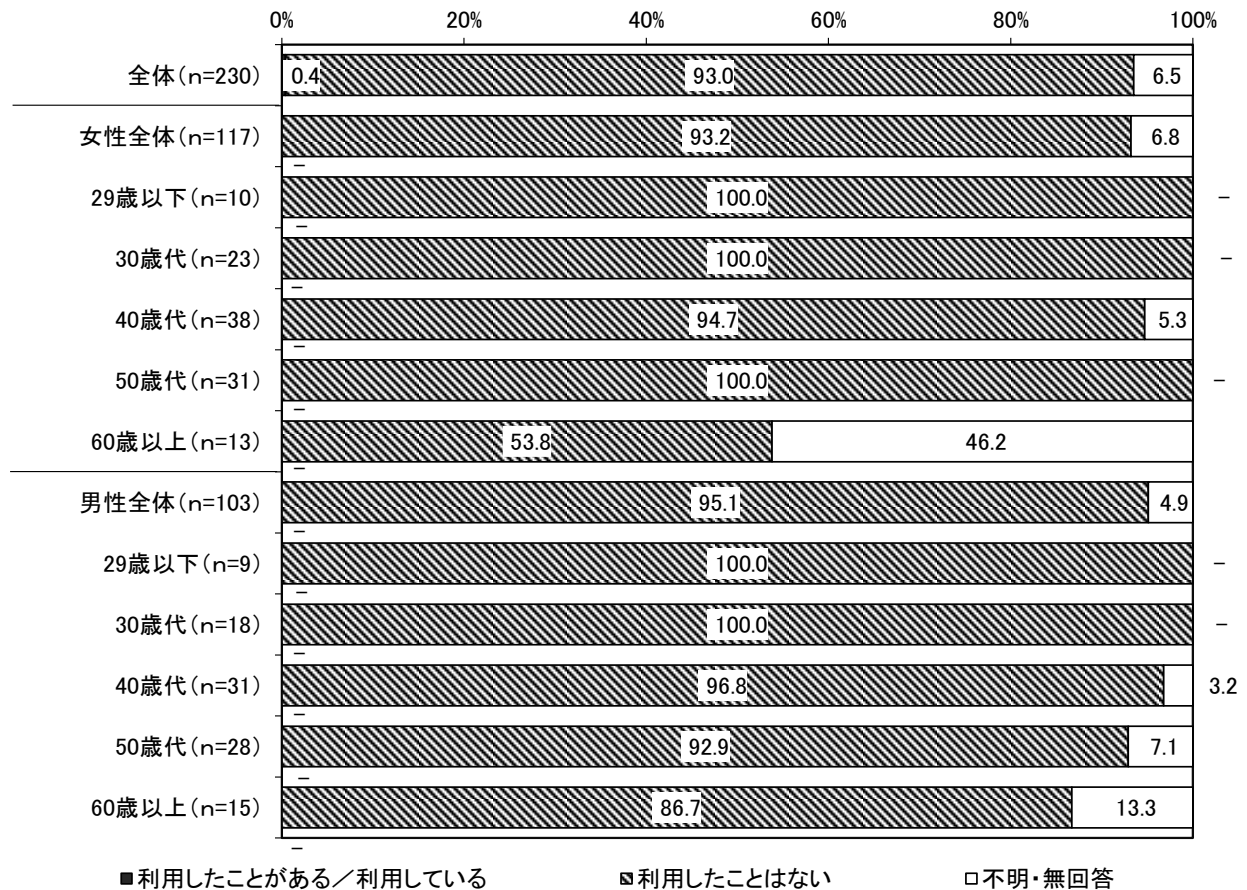


①利用経験 N ボランティア休暇制度（1つに○）

ボランティア休暇制度の利用経験は、全体で「利用したことはない」が93.0%と、「利用したことがある／利用している」の0.4%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で93.2%、男性で95.1%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が男女ともにすべての年代で1割未満となっています。

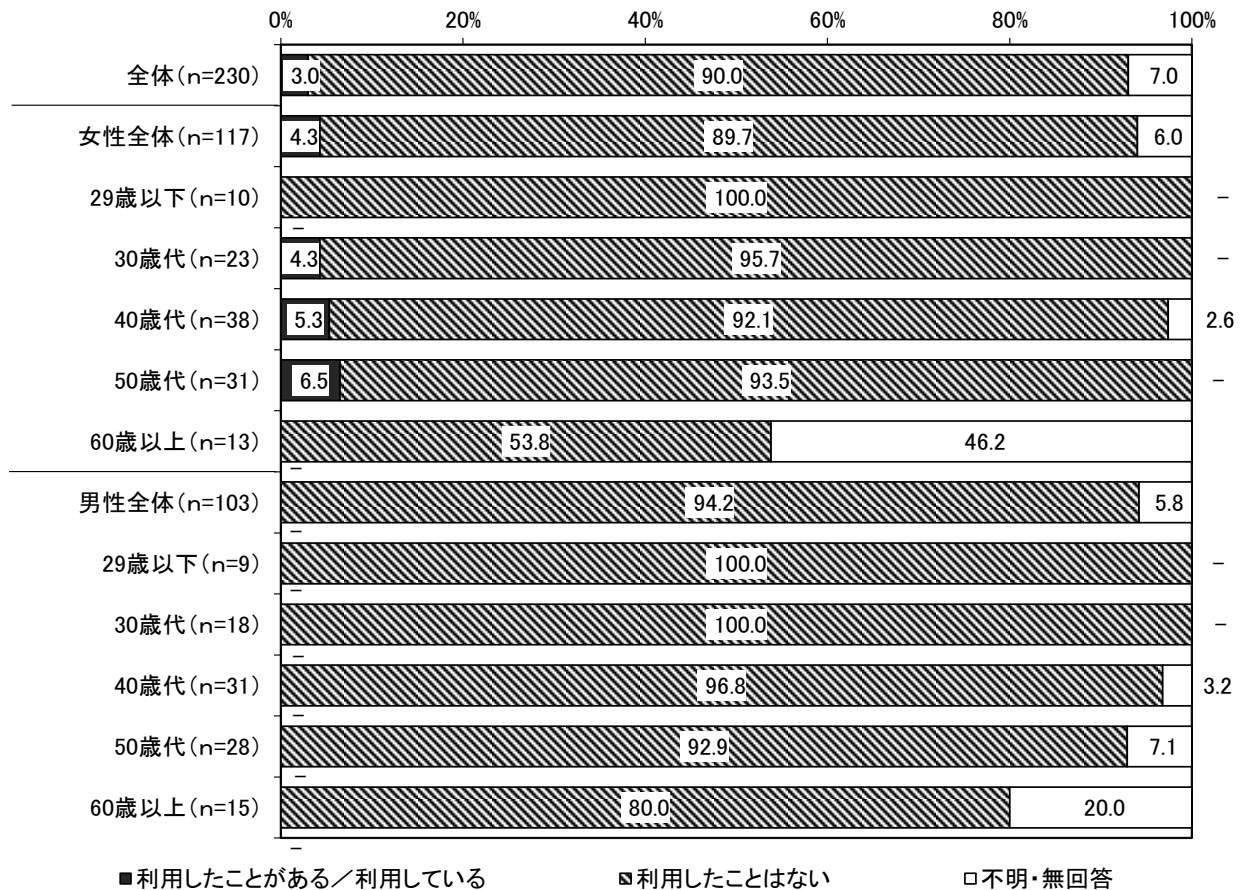


①利用経験 ○ 生理休暇（1つに○）

生理休暇の利用経験は、全体で「利用したことはない」が90.0%と、「利用したことがある／利用している」の3.0%を上回っています。

性別にみると、「利用したことはない」が女性で89.7%、男性で94.2%と、男女ともに「利用したことがある／利用している」を上回っています。

性・年代別でみると、「利用したことがある／利用している」が男女ともにすべての年代で1割未満となっています。

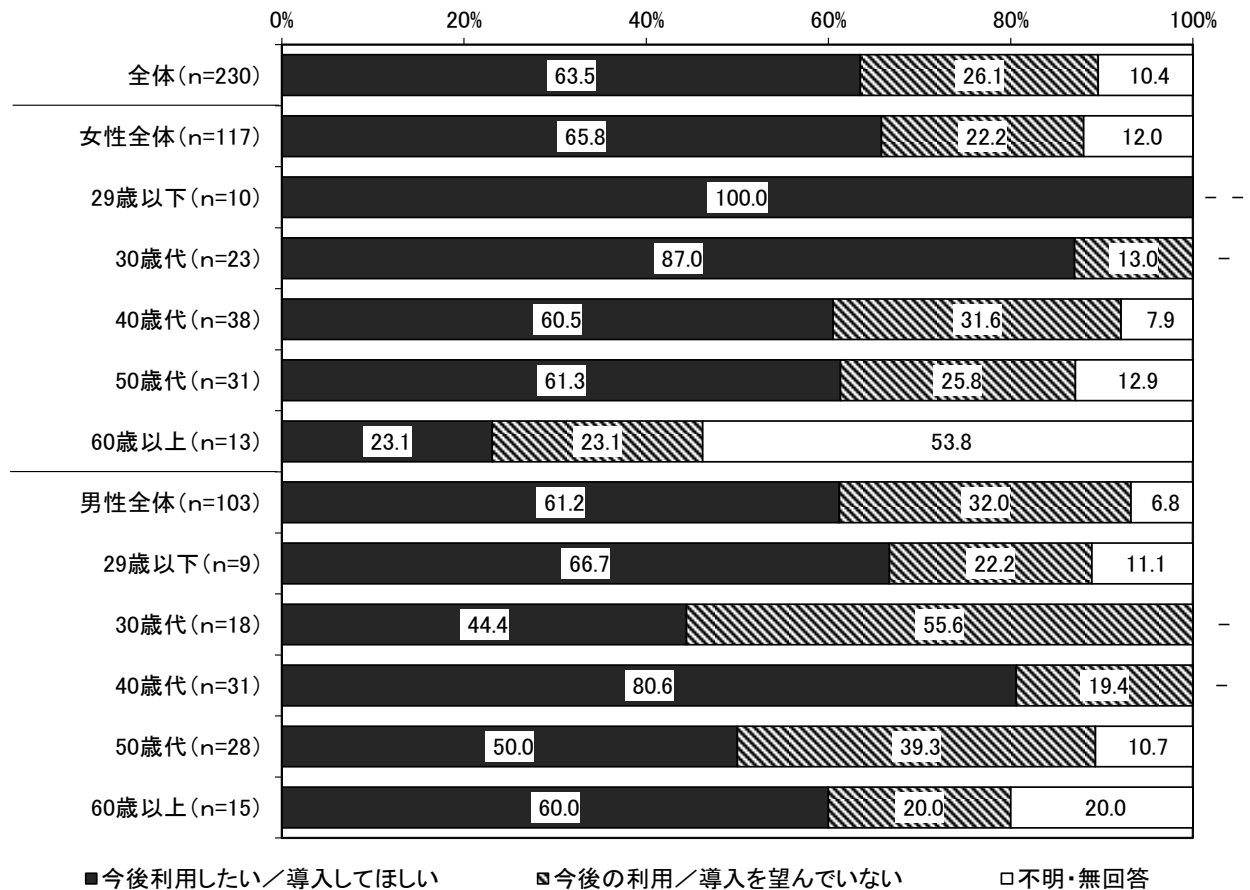


②今後の利用／導入 A 産前産後休暇（1つに○）

産前産後休暇の今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が63.5%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の26.1%を上回っています。

性別にみると、「今後利用したい／導入してほしい」が女性で65.8%、男性で61.2%と、男女ともに「今後の利用／導入を望んでいない」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性で100.0%、30歳代女性、40歳代男性で8割台と他の年代と比べて高くなっています。

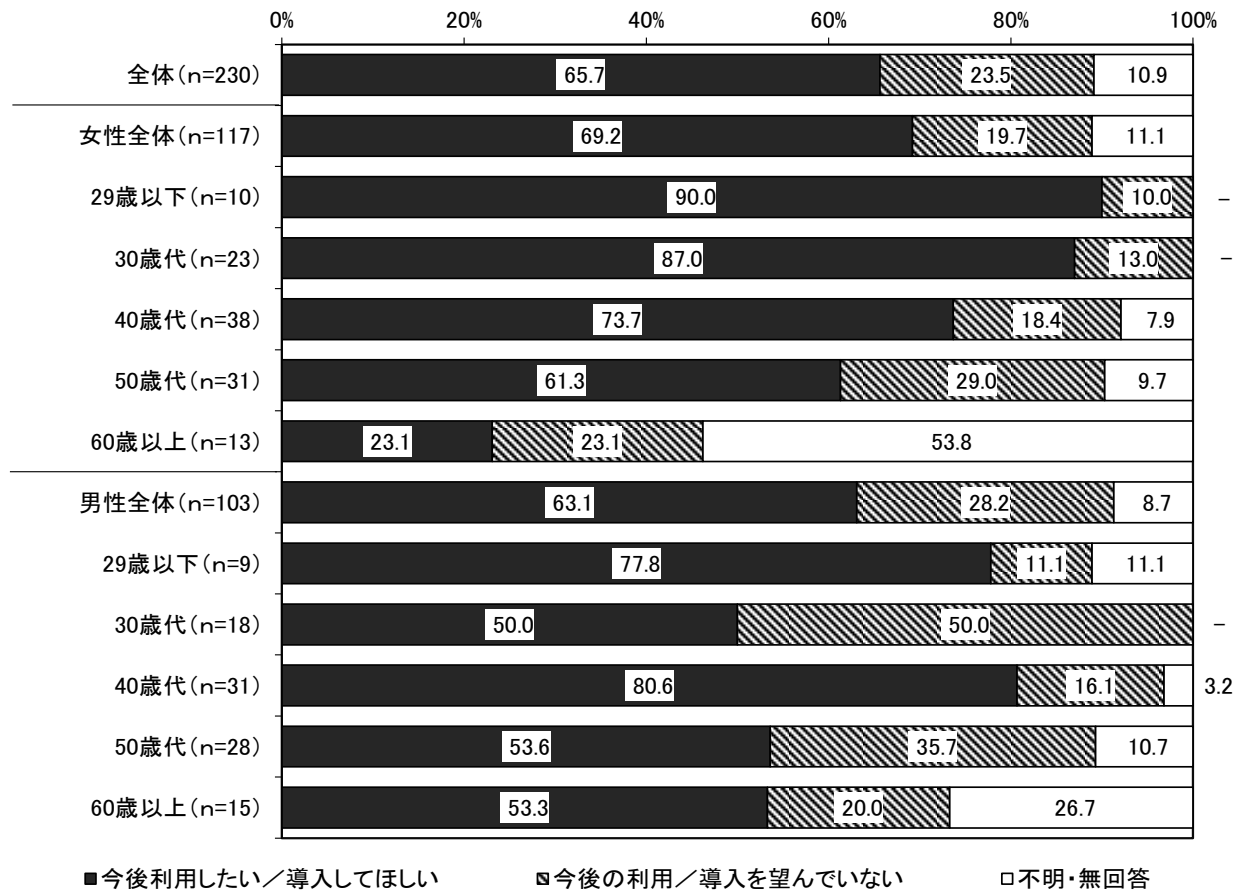


②今後の利用／導入 B 通院休暇制度（1つに○）

通院休暇制度の今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が65.7%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の23.5%を上回っています。

性別にみると、「今後利用したい／導入してほしい」が女性で69.2%、男性で63.1%と、男女ともに「今後の利用／導入を望んでいない」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性で90.0%、30歳代女性、40歳代男性で8割台と他の年代と比べて高くなっています。

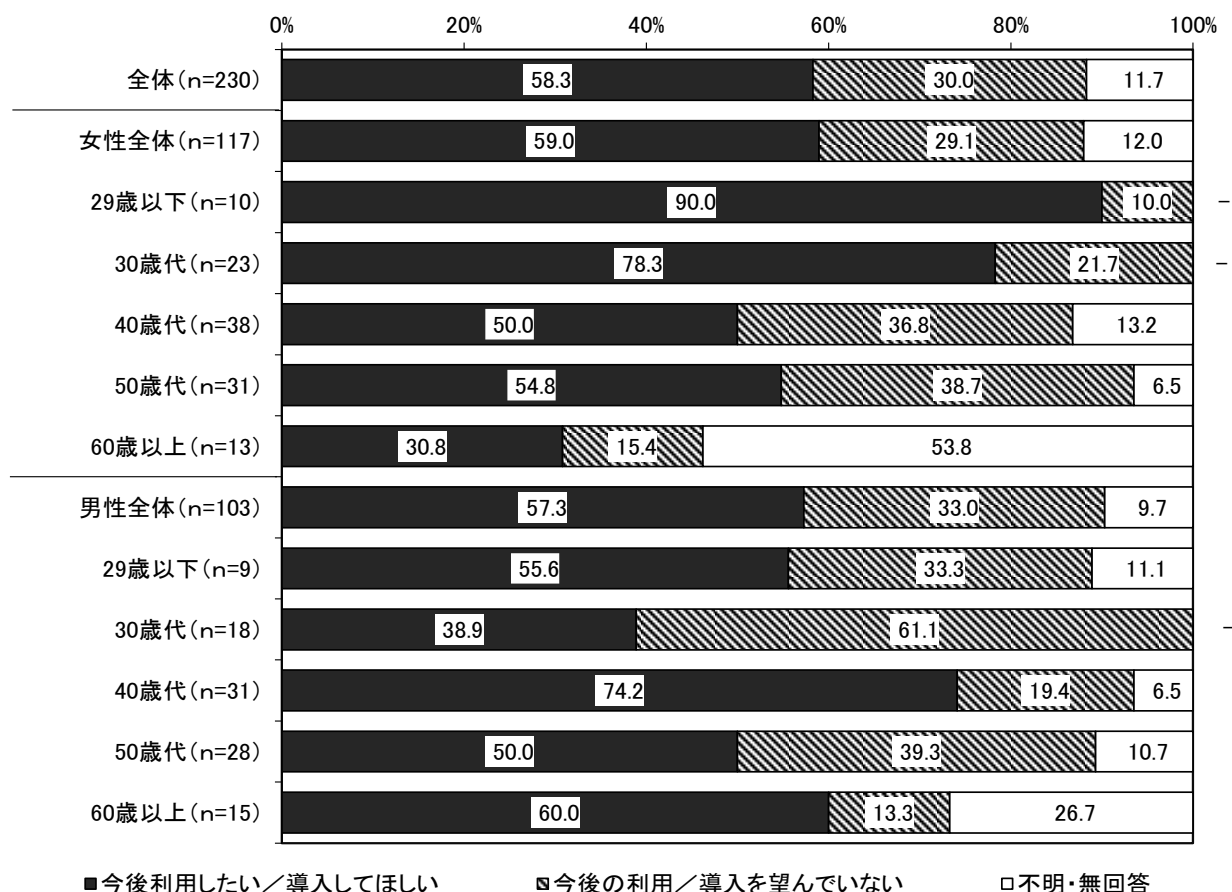


②今後の利用／導入 C 妊婦の通勤緩和措置（1つに○）

妊婦の通勤緩和措置の今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が58.3%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の30.0%を上回っています。

性別にみると、「今後利用したい／導入してほしい」が女性で59.0%、男性で57.3%と、男女ともに「今後の利用／導入を望んでいない」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性で90.0%、30歳代女性、40歳代男性で7割台と他の年代と比べて高くなっています。

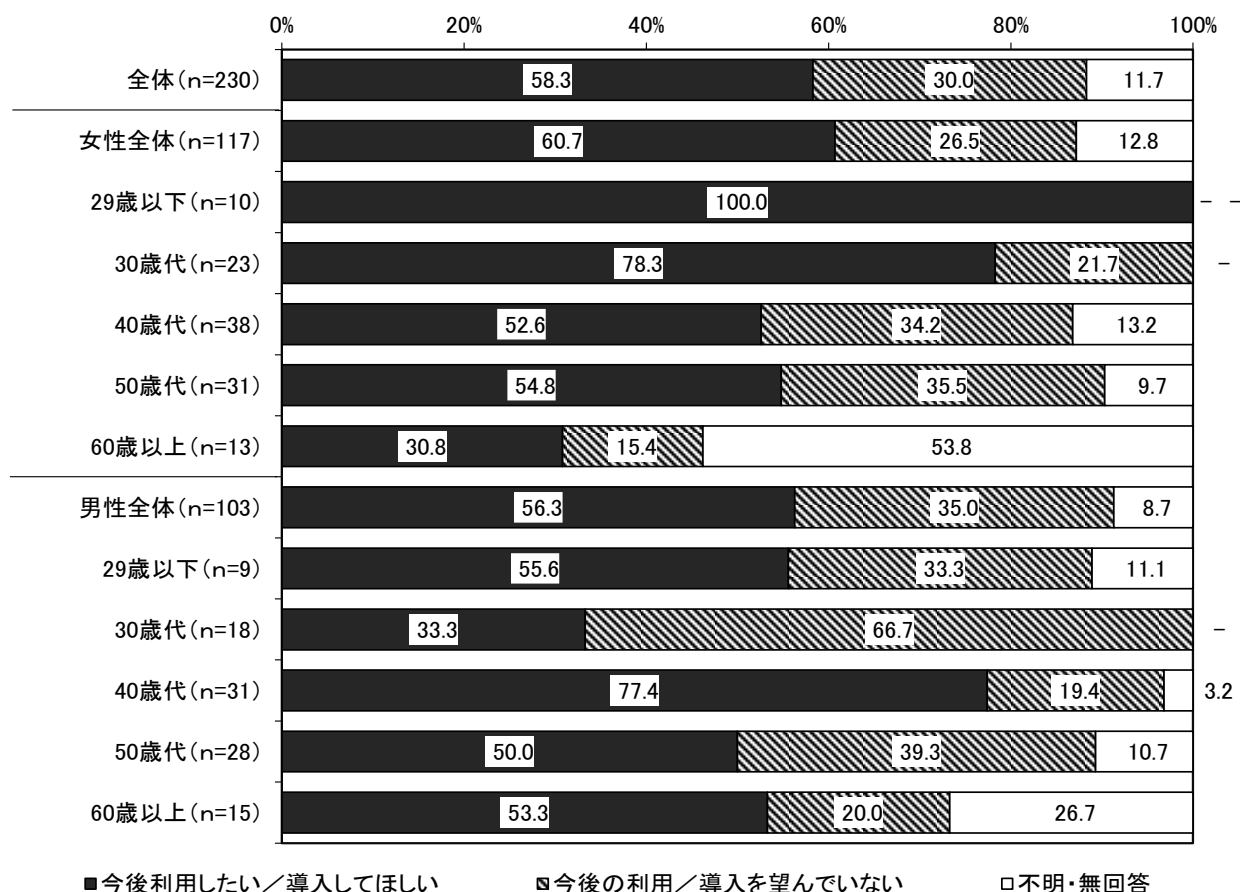


②今後の利用／導入 D 妊娠障害休暇（つわり休暇）（1つに○）

妊娠障害休暇（つわり休暇）の今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が58.3%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の30.0%を上回っています。

性別にみると、「今後利用したい／導入してほしい」が女性で60.7%、男性で56.3%と、男女ともに「今後の利用／導入を望んでいない」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性で100.0%、30歳代女性、40歳代男性で7割台と他の年代と比べて高くなっています。

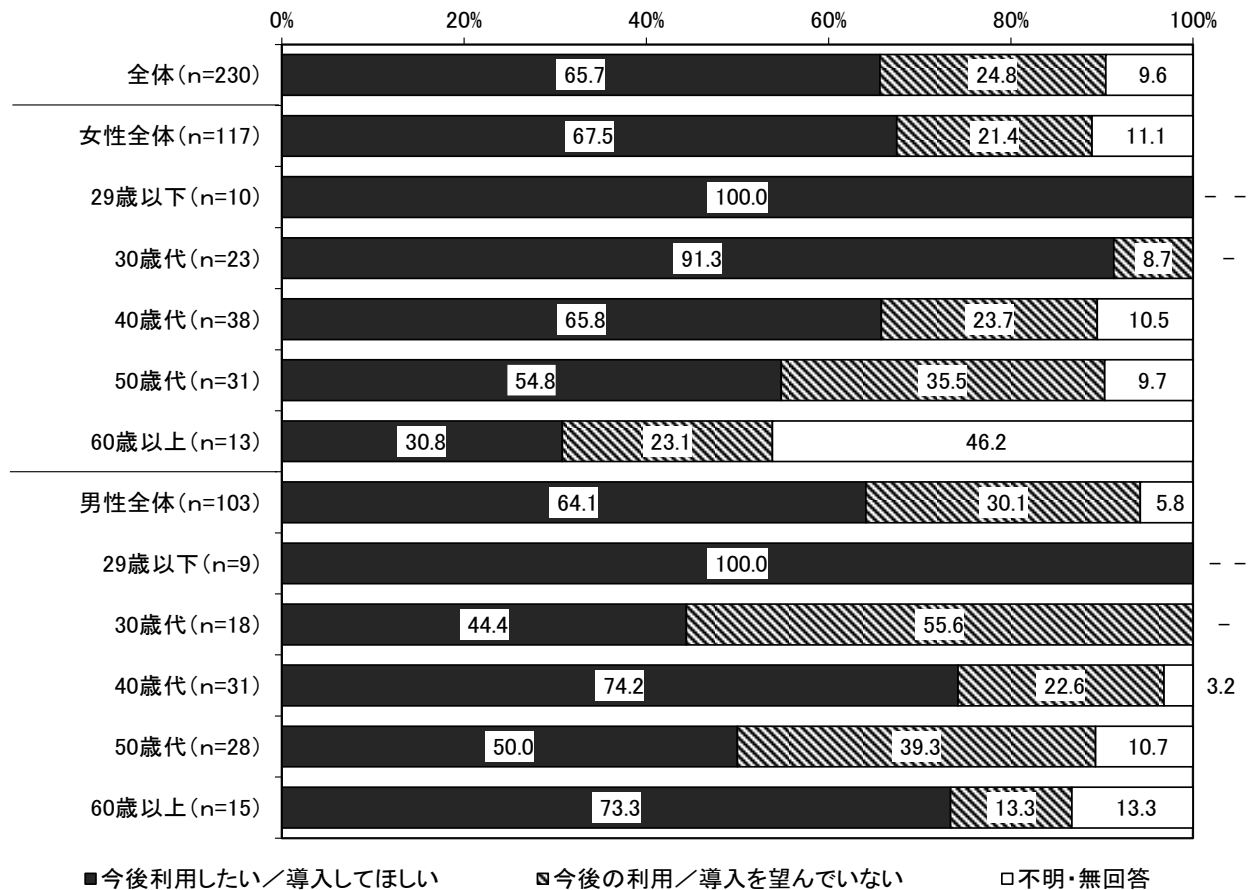


②今後の利用／導入 E 育児休業制度、出生時育児休業（産後パパ育休）（1つに○）

育児休業制度、出生時育児休業（産後パパ育休）の今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が65.7%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の24.8%を上回っています。

性別にみると、「今後利用したい／導入してほしい」が女性で67.5%、男性で64.1%と、男女ともに「今後の利用／導入を望んでいない」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性で100.0%、30歳代女性で91.3%と他の年代と比べて高くなっています。

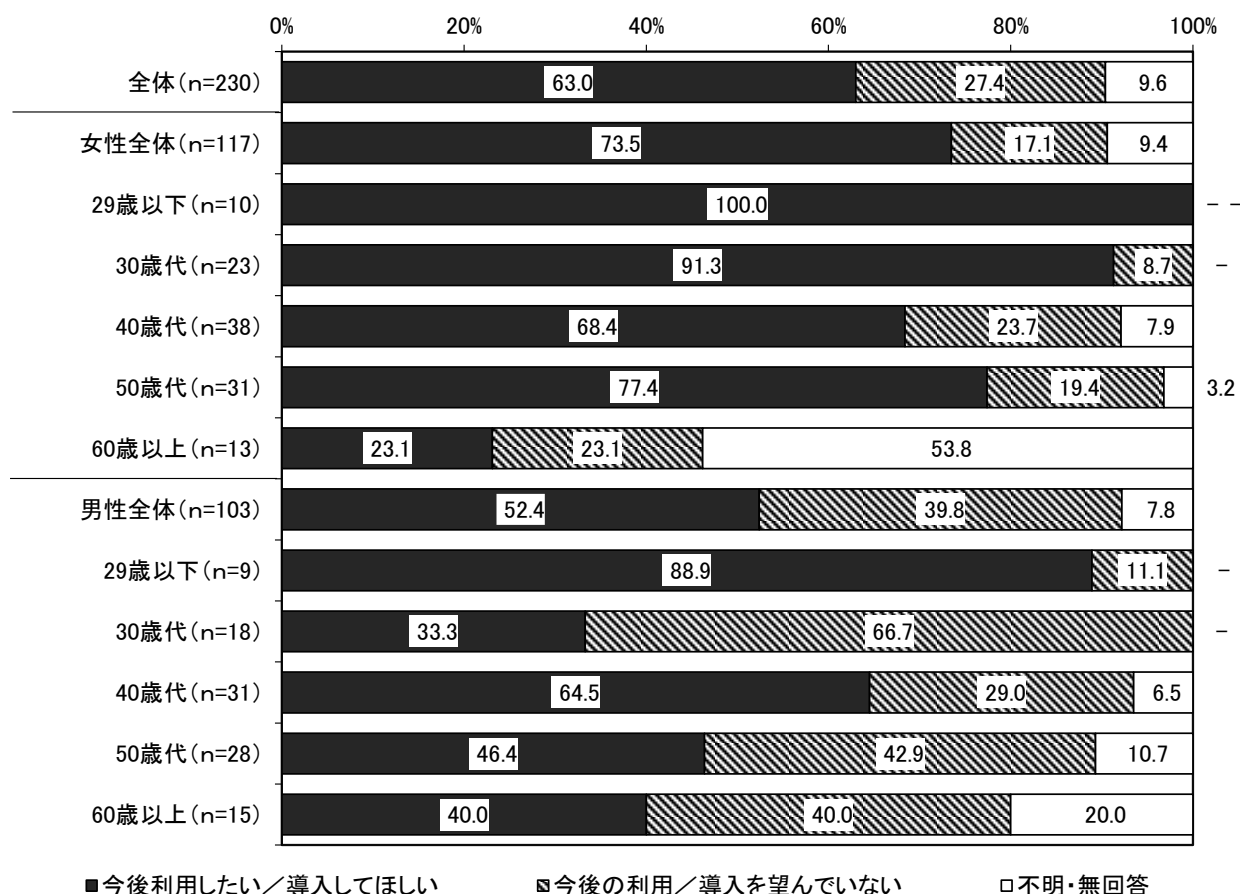


②今後の利用／導入 F 短時間勤務制度（1つに○）

短時間勤務制度の今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が63.0%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の27.4%を上回っています。

性別にみると、「今後利用したい／導入してほしい」が女性で73.5%、男性で52.4%と、男女ともに「今後の利用／導入を望んでいない」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性で100.0%、30歳代女性で91.3%、50歳代女性で77.4%と他の年代と比べて高くなっています。

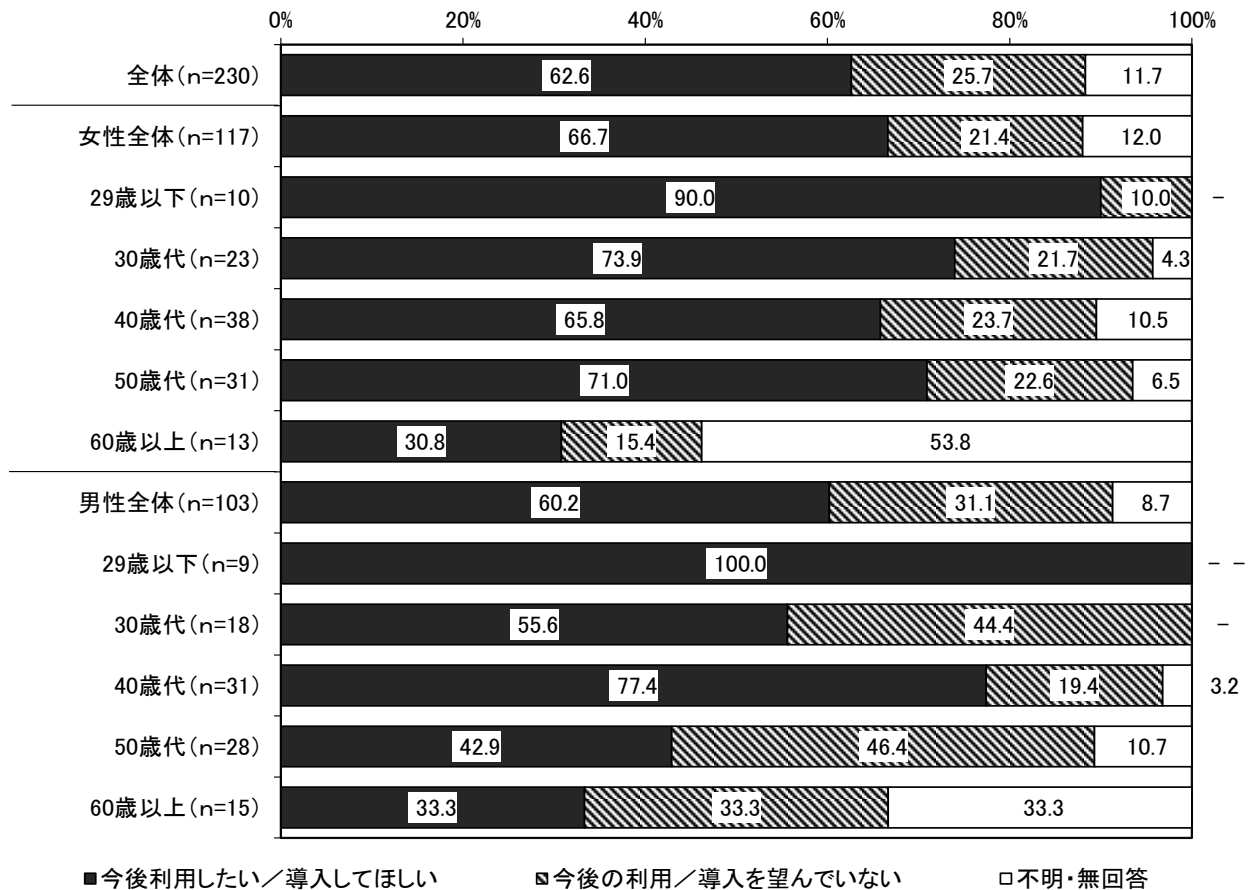


②今後の利用／導入 G フレックスタイム勤務制度（1つに○）

フレックスタイム勤務制度の今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が62.6%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の25.7%を上回っています。

性別にみると、「今後利用したい／導入してほしい」が女性で66.7%、男性で60.2%と、男女ともに「今後の利用／導入を望んでいない」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性で90.0%と他の年代と比べて高くなっています。

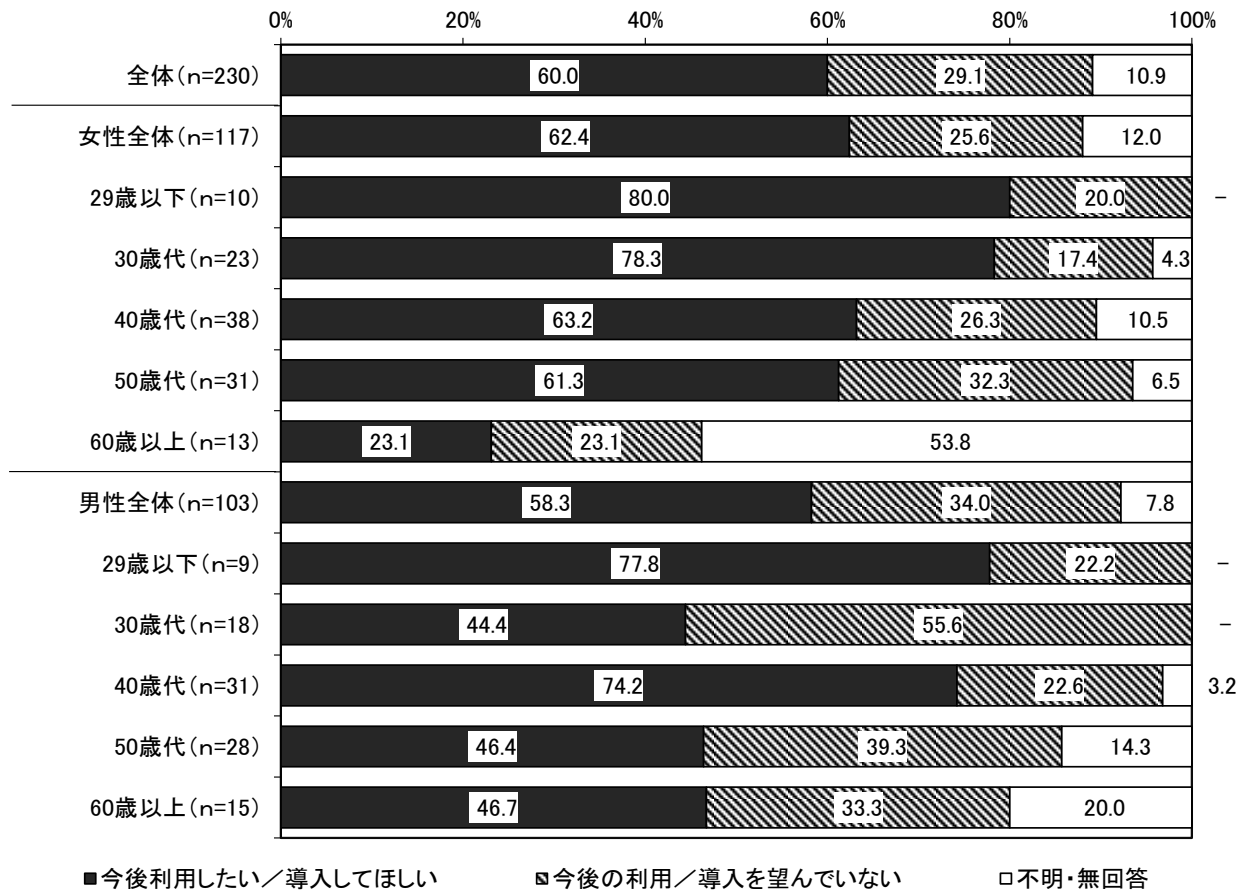


②今後の利用／導入 H 始終業時刻の繰り上げ・繰り下げ（1つに○）

始終業時刻の繰り上げ・繰り下げの今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が60.0%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の29.1%を上回っています。

性別にみると、「今後利用したい／導入してほしい」が女性で62.4%、男性で58.3%と、男女ともに「今後の利用／導入を望んでいない」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性で80.0%、30歳代女性、40歳代男性で7割台と他の年代と比べて高くなっています。

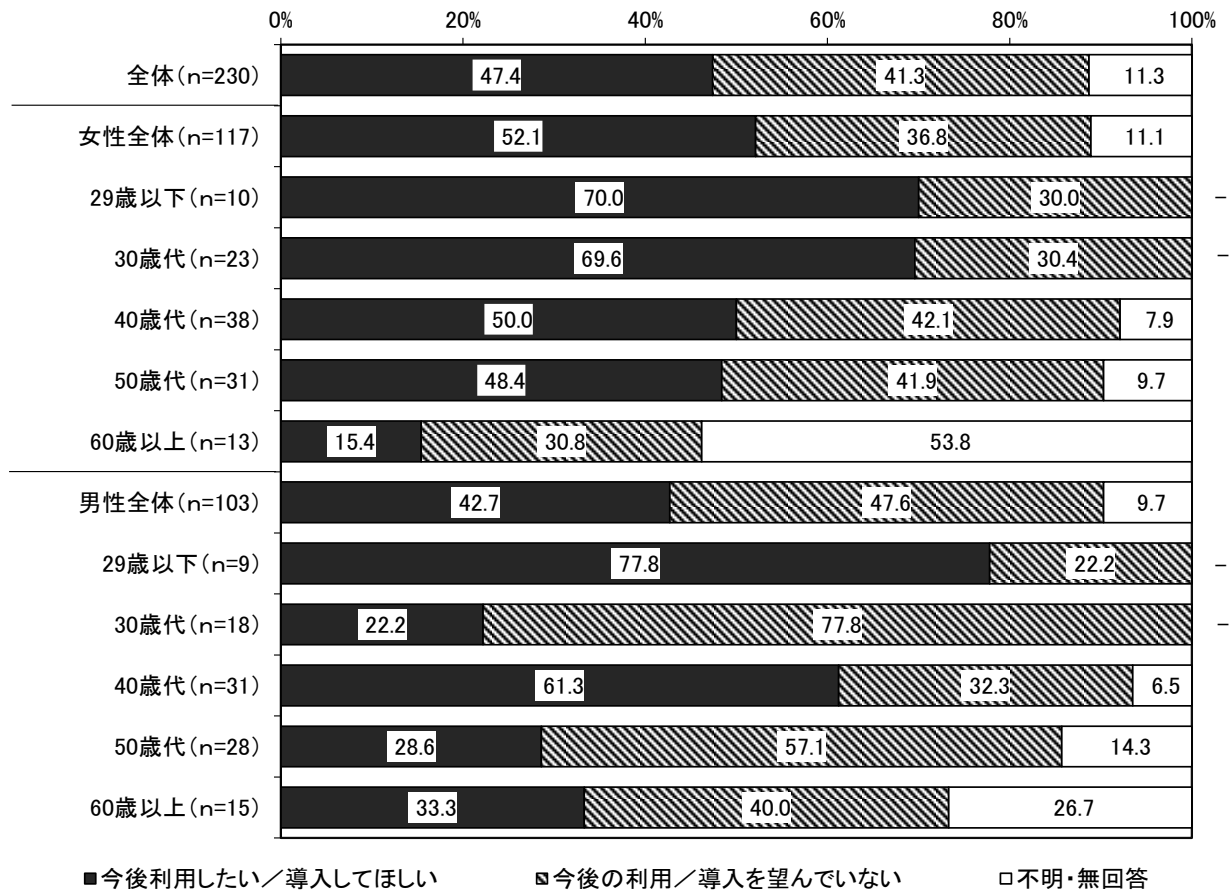


②今後の利用／導入 I 育児のためのテレワーク導入（1つに○）

育児のためのテレワーク導入の今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が47.4%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の41.3%を上回っています。

性別にみると、女性では「今後利用したい／導入してほしい」が52.1%、男性では「今後の利用／導入を望んでいない」が47.6%ともう一方を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性で70.0%、30歳代女性、40歳代男性で6割台と他の年代と比べて高くなっています。

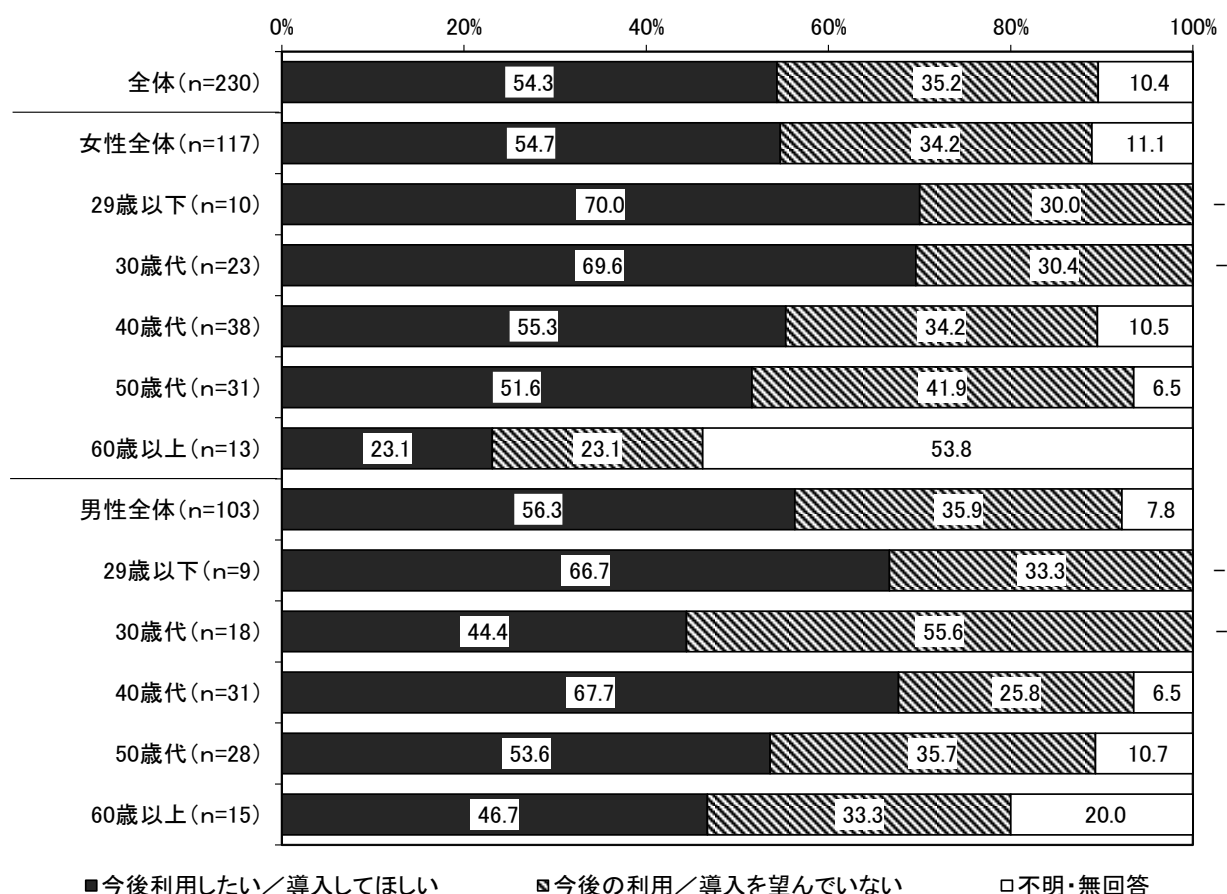


②今後の利用／導入 J 所定外時間の労働の制限（1つに○）

所定外時間の労働の制限の今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が54.3%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の35.2%を上回っています。

性別にみると、「今後利用したい／導入してほしい」が女性で54.7%、男性で56.3%と、男女ともに「今後の利用／導入を望んでいない」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性で70.0%、30歳代女性、40歳代男性で6割台と他の年代と比べて高くなっています。

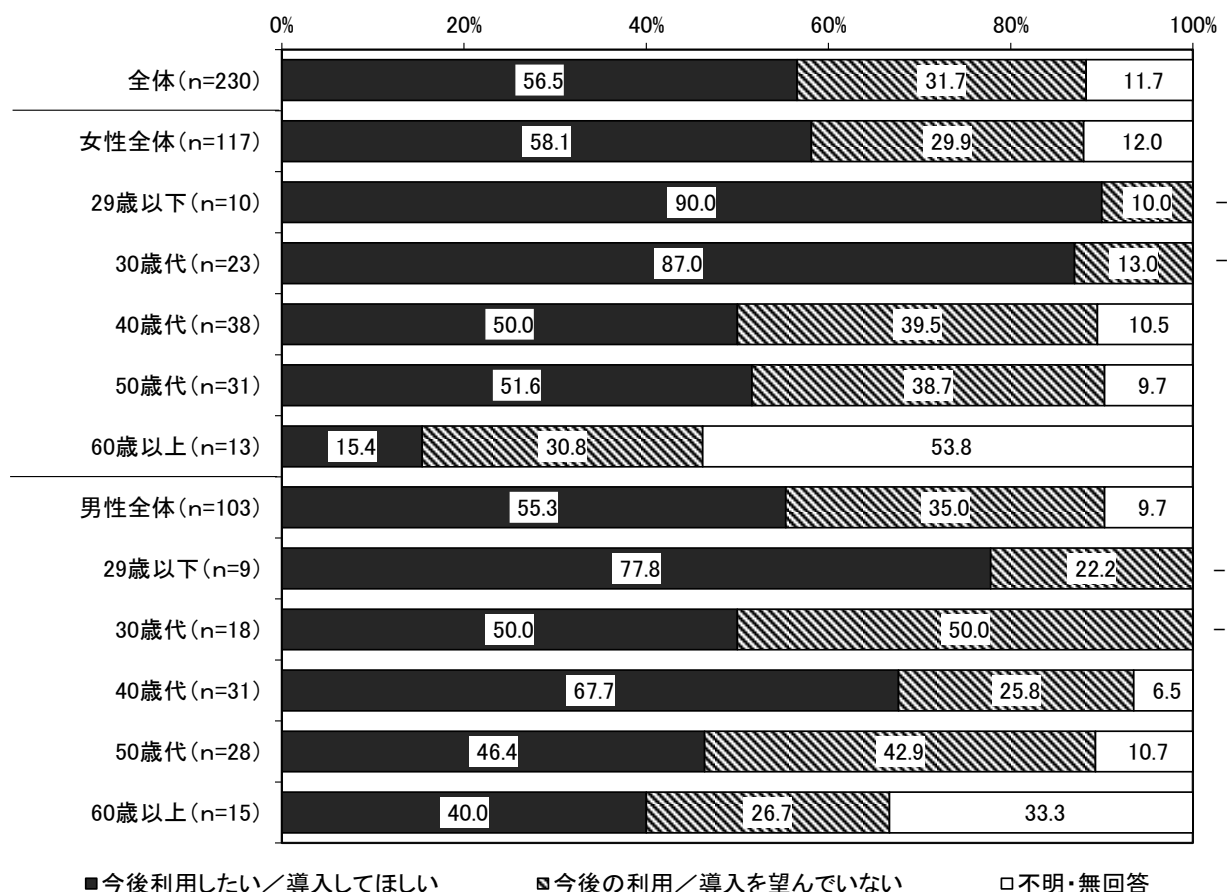


②今後の利用／導入 K 育児時間（1つに○）

育児時間の今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が56.5%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の31.7%を上回っています。

性別にみると、「今後利用したい／導入してほしい」が女性で58.1%、男性で55.3%と、男女ともに「今後の利用／導入を望んでいない」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性で90.0%、30歳代女性で87.0%と他の年代と比べて高くなっています。

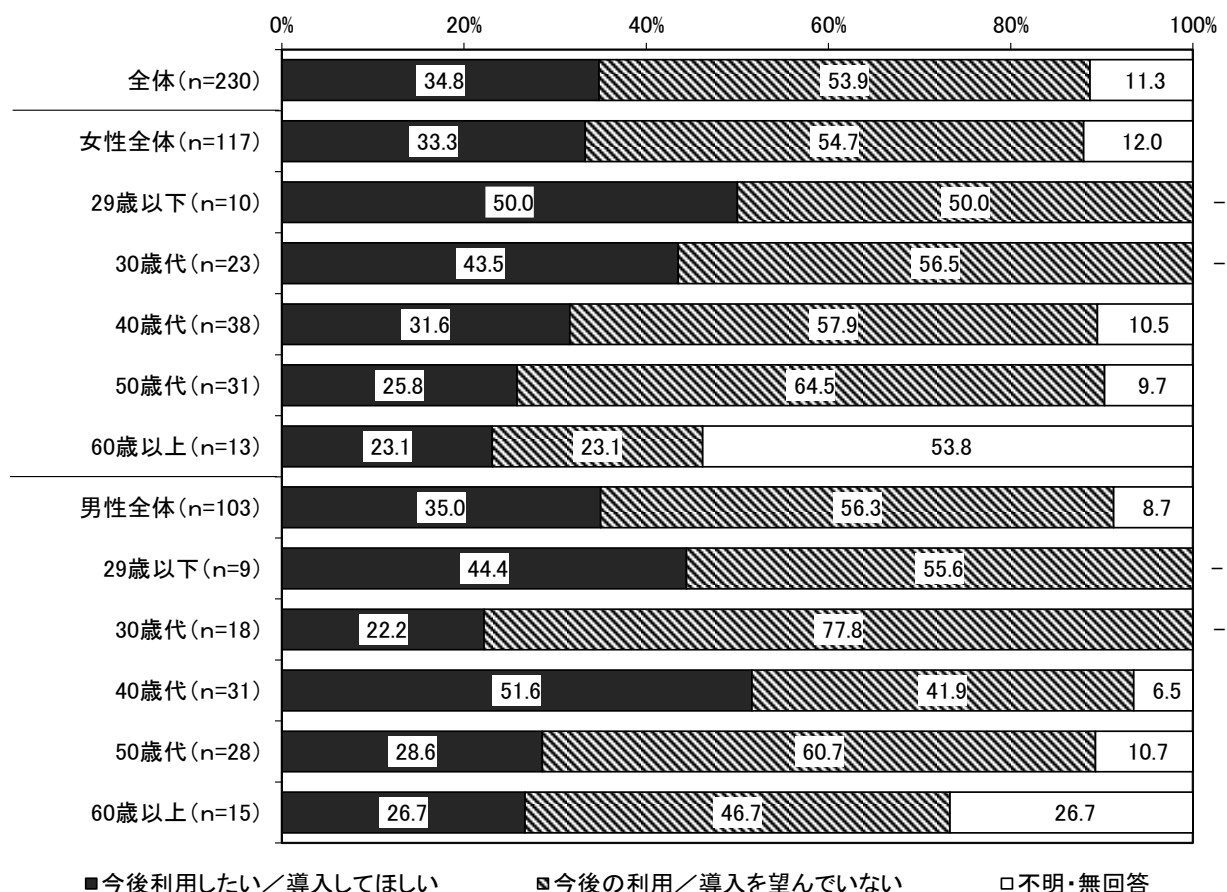


②今後の利用／導入 L 企業内保育（1つに○）

企業内保育の今後の利用は、全体で「今後の利用／導入を望んでいない」が53.9%と、「今後利用したい／導入してほしい」の34.8%を上回っています。

性別にみると、「今後の利用／導入を望んでいない」が女性で54.7%、男性で56.3%と、男女ともに「今後利用したい／導入してほしい」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性、40歳代男性で5割台、30歳代女性で43.5%と他の年代と比べて高くなっています。

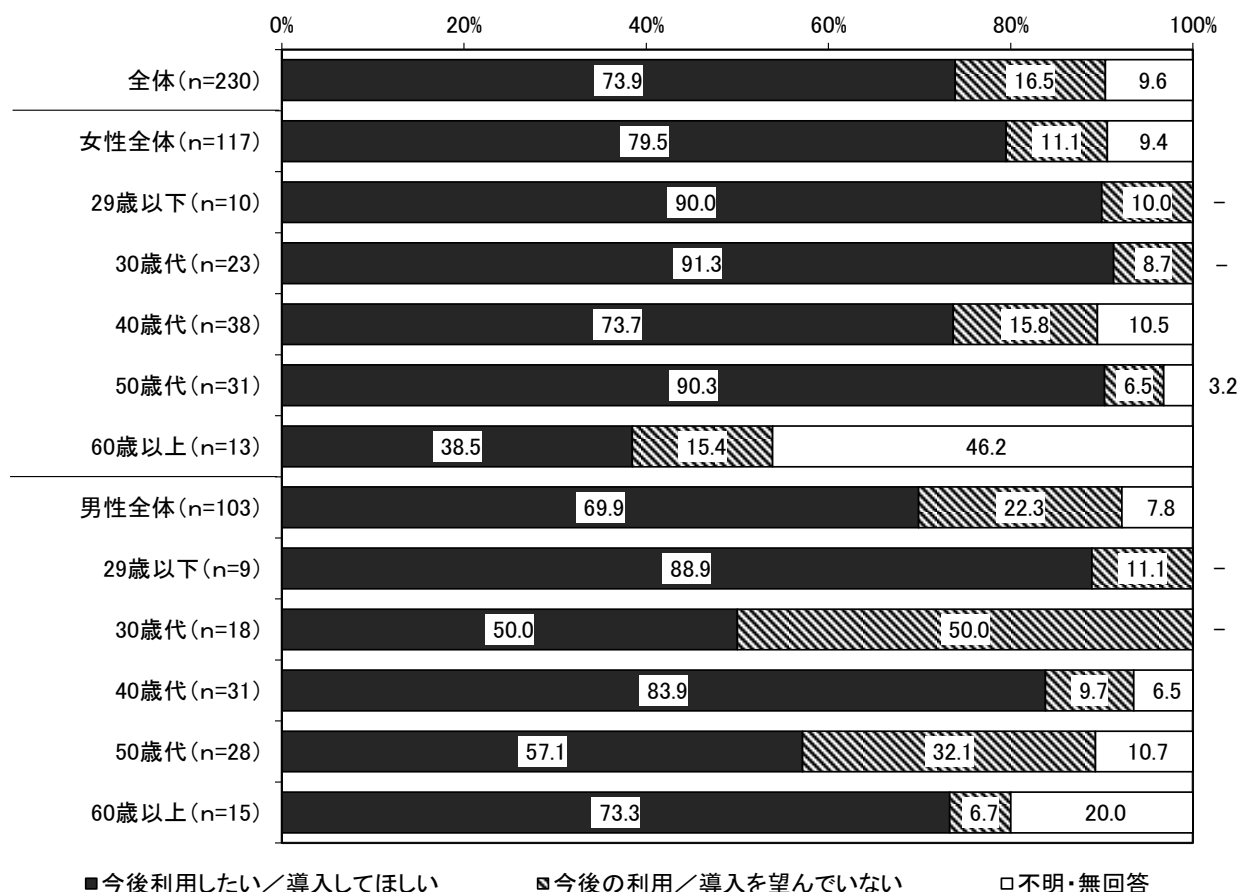


②今後の利用／導入 M 介護休業制度（1つに○）

介護休業制度の今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が73.9%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の16.5%を上回っています。

性別にみると、「今後利用したい／導入してほしい」が女性で79.5%、男性で69.9%と、男女ともに「今後の利用／導入を望んでいない」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が60歳以上女性で38.5%、30歳代と50歳代男性で5割台と他の年代と比べて低くなっています。

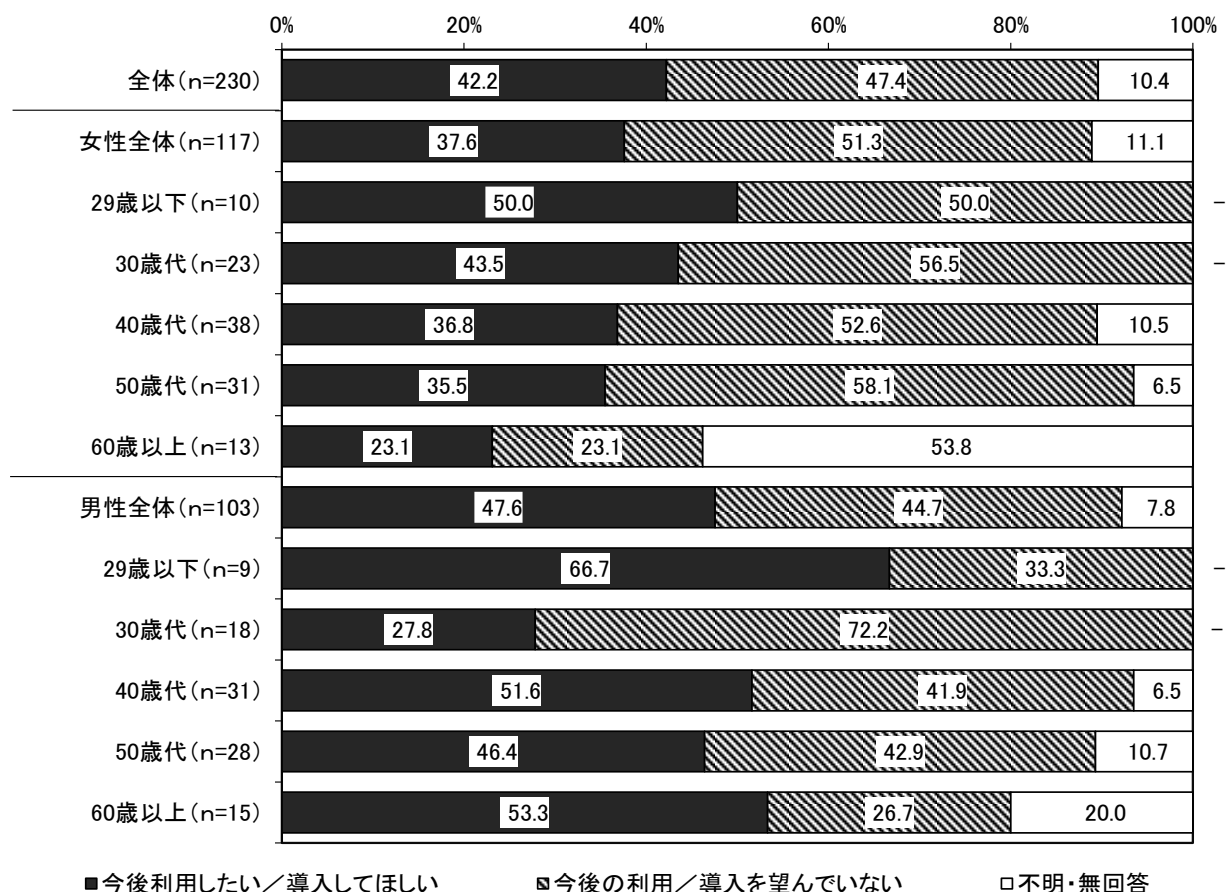


②今後の利用／導入 N ボランティア休暇制度（1つに○）

ボランティア休暇制度の今後の利用は、全体で「今後の利用／導入を望んでいない」が47.4%と、「今後利用したい／導入してほしい」の42.2%を上回っています。

性別にみると、女性では「今後の利用／導入を望んでいない」が51.3%、男性では「今後利用したい／導入してほしい」が47.6%ともう一方を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が60歳以上女性、30歳代男性で2割台と他の年代と比べて低くなっています。

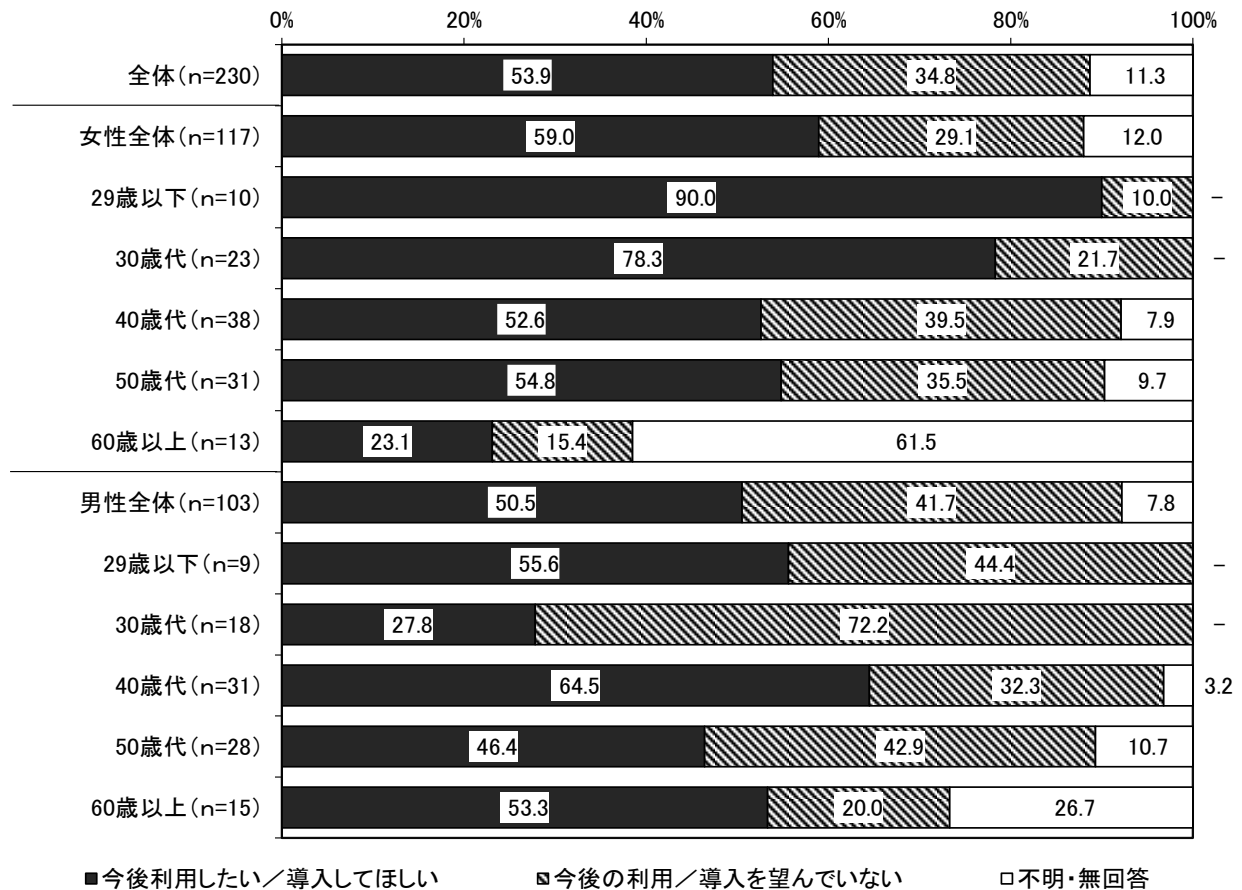


②今後の利用／導入 ○ 生理休暇（1つに○）

生理休暇の今後の利用は、全体で「今後利用したい／導入してほしい」が53.9%と、「今後の利用／導入を望んでいない」の34.8%を上回っています。

性別にみると、「今後利用したい／導入してほしい」が女性で59.0%、男性で50.5%と、男女ともに「今後の利用／導入を望んでいない」を上回っています。

性・年代別でみると、「今後利用したい／導入してほしい」が29歳以下女性で90.0%、30歳代女性で78.3%と他の年代と比べて高くなっています。

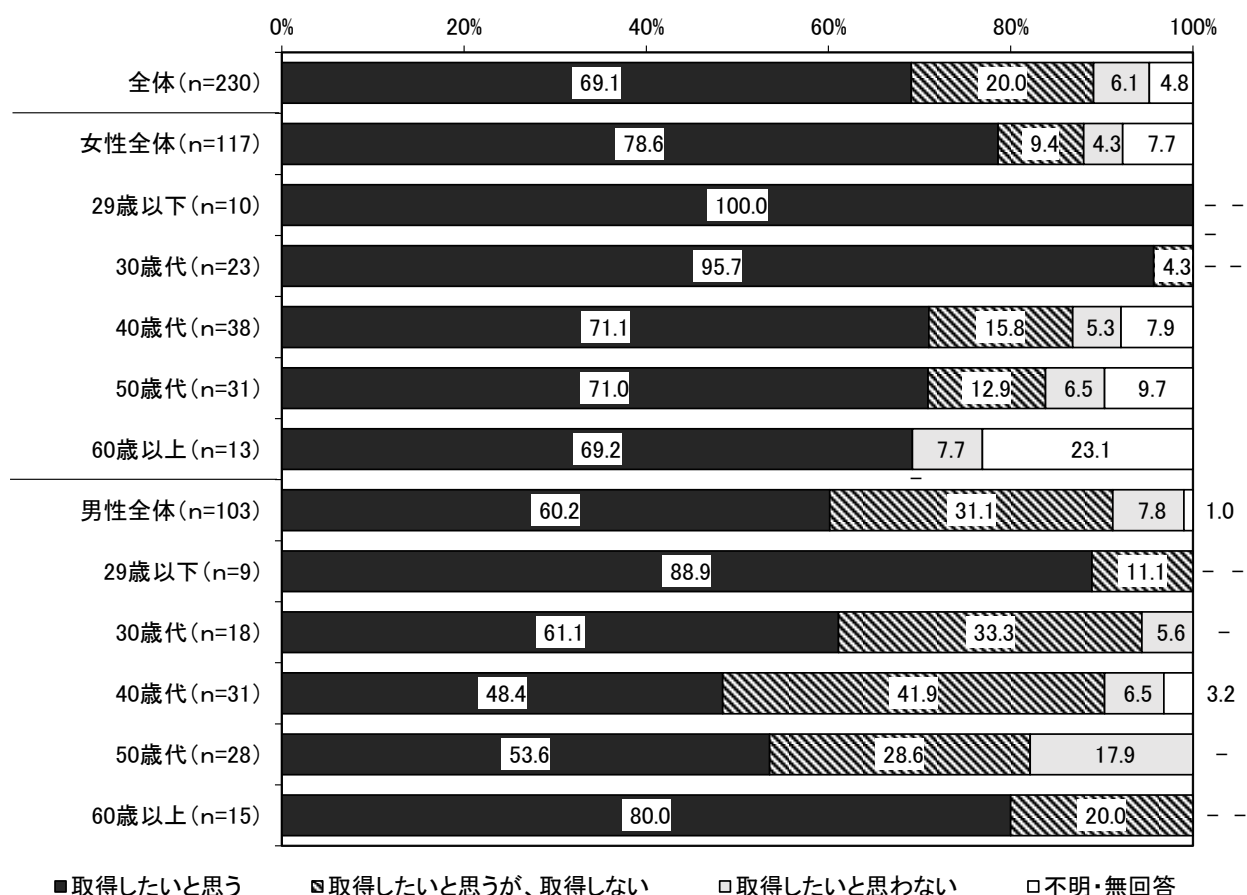


問 15 今、あなたに子どもが生まれたとしたら、育児休業を取得したいと思いますか。また、家族等の介護が必要になったとしたら、介護休業を取得したいと思いますか。(1つに○)

育児休業や介護休業の取得希望は、全体で「取得したいと思う」が69.1%と最も高く、次いで「取得したいと思うが、取得しない」が20.0%、「取得したいと思わない」が6.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「取得したいと思う」が最も高く、女性で78.6%、男性で60.2%となっています。また、女性は男性に比べて「取得したいと思う」が高く、男性は女性に比べて「取得したいと思うが、取得しない」が高くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「取得したいと思う」が最も高くなっています。



問 15 で「取得したいと思うが、取得しない」～「取得したいと思わない」と答えた方

問 15-1 育児休業および介護休業を取得しない主な理由は何ですか。（3 つまで○）

育児休業および介護休業を取得しない主な理由は、全体で「職場の同僚の負担が増えて迷惑がかかると思うから」が 55.0%と最も高く、次いで「仕事が忙しく取得できる状況にないから」が 43.3%、「取得すると経済的に苦しくなると思うから」が 21.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「職場の同僚の負担が増えて迷惑がかかると思うから」が最も高く、女性で 56.3%、男性で 60.0%となっています。

性・年代別でみると、40 歳代男性では「仕事が忙しく取得できる状況にないから」、50 歳代男性では「職場の同僚の負担が増えて迷惑がかかると思うから」が最も高くなっています。

単位：％		らて職 場の 迷惑 が同 僚の 負担 が思 う増 え	状仕 況事 にが 忙い しく 取 得 で き る	場取 に得 あし にく い 雰 囲 気 が 職	思化 うに 対の 応で き な く 仕 事 の と 変	と昇 思任 うや か評 ら価 等 に 影 響 す る	に上 な司 いの か理 解 が 得 られ そう	ら制 度な いを 利用 でき る かわ か	いる 事 に や り が い を 感 じ て	く取 得 す る と 思 う 経 済 的 に 苦 し	が周 囲 か ら の サ ポ ー ト 体 制	とまた は 介 護 に 適 し て い る 方 が 子 育 て	家 族 に 反 対 さ れる から
全体 (n=60)		55.0	43.3	8.3	11.7	8.3	3.3	6.7	8.3	21.7	6.7	3.3	-
女性	女性全体 (n=16)	56.3	18.8	6.3	12.5	-	6.3	6.3	6.3	37.5	18.8	-	-
	30歳代 (n=1)	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	40歳代 (n=8)	50.0	-	-	25.0	-	12.5	12.5	12.5	50.0	12.5	-	-
	50歳代 (n=6)	66.7	33.3	16.7	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-
	60歳以上 (n=1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
男性	男性全体 (n=40)	60.0	52.5	10.0	10.0	12.5	2.5	7.5	10.0	15.0	2.5	5.0	-
	29歳以下 (n=1)	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	30歳代 (n=7)	42.9	42.9	-	-	14.3	-	-	-	14.3	-	-	-
	40歳代 (n=15)	53.3	60.0	13.3	13.3	13.3	-	6.7	6.7	13.3	6.7	-	-
	50歳代 (n=13)	76.9	46.2	15.4	15.4	15.4	7.7	15.4	15.4	23.1	-	15.4	-
	60歳以上 (n=3)	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

単位：％		そ 他	特 に 理 由 は な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=60)		1.7	13.3	-	-
女性	女性全体 (n=16)	-	6.3	-	-
	30歳代 (n=1)	-	-	-	-
	40歳代 (n=8)	-	-	-	-
	50歳代 (n=6)	-	16.7	-	-
	60歳以上 (n=1)	-	-	-	-
男性	男性全体 (n=40)	2.5	15.0	-	-
	29歳以下 (n=1)	-	-	-	-
	30歳代 (n=7)	-	42.9	-	-
	40歳代 (n=15)	-	6.7	-	-
	50歳代 (n=13)	7.7	7.7	-	-
	60歳以上 (n=3)	-	33.3	-	-

※〔女性 29 歳以下〕は n = 0 のため省略しています。

問 16 家事（育児・介護を含む）への関わりが少ない男性が、より関わるようになるためには、特に何が必要だと思いますか。（3つまで○）

男性が家事（育児・介護を含む）へより関わるようになるために必要なことは、全体で「男性が育児・介護休暇を取りやすくすること」が52.2%と最も高く、次いで「男性自身の意識を高めること」が43.0%、「仕事中心という社会全体のしきりを改めること」が40.9%となっています。

性別にみると、女性では「男性自身の意識を高めること」が53.8%、男性では「男性が育児・介護休暇を取りやすくすること」が56.3%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「男性自身の意識を高めること」「男性の育児や介護参加を妨げる社会通念やしきたりを改めること」が高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代女性では「男性が育児・介護休暇を取りやすくすること」「男性自身の意識を高めること」、40歳代女性では「男性自身の意識を高めること」、50歳代女性では「男性の育児や介護参加を妨げる社会通念やしきたりを改めること」、40歳代男性では「男性が育児・介護休暇を取りやすくすること」「仕事を持ちながら利用しやすい保育・介護施設を整えること」、その他の年代では「男性が育児・介護休暇を取りやすくすること」が最も高くなっています。

単位：％		の仕事中心を改める社会全体	男性が育児・介護休暇を取りやすくすること	男性の育児や介護参加を妨げる社会通念やしきたりを改めること	労働時間の短縮や、ワーク・ライフ・バランスの推進	男性自身の意識を高めること	男性が育児・介護休暇を取りやすくすること	男性自身の意識を高めること	男性が育児・介護休暇を取りやすくすること	男性が育児・介護休暇を取りやすくすること	男性が育児・介護休暇を取りやすくすること	男性が育児・介護休暇を取りやすくすること	男性が育児・介護休暇を取りやすくすること
全体(n=230)		40.9	52.2	16.5	10.0	43.0	11.7	38.3	5.2	17.8	31.7	2.2	
女性	女性全体(n=117)	37.6	51.3	18.8	14.5	53.8	10.3	35.9	4.3	21.4	36.8	1.7	
	29歳以下(n=10)	40.0	70.0	10.0	40.0	60.0	-	30.0	-	10.0	10.0	-	
	30歳代(n=23)	52.2	56.5	13.0	13.0	56.5	13.0	34.8	-	17.4	43.5	4.3	
	40歳代(n=38)	36.8	57.9	23.7	5.3	63.2	13.2	31.6	5.3	18.4	36.8	2.6	
	50歳代(n=31)	38.7	35.5	29.0	16.1	48.4	9.7	45.2	3.2	29.0	51.6	-	
	60歳以上(n=13)	7.7	46.2	-	23.1	38.5	7.7	38.5	15.4	30.8	7.7	-	
男性	男性全体(n=103)	45.6	56.3	15.5	5.8	34.0	13.6	42.7	6.8	13.6	26.2	1.9	
	29歳以下(n=9)	44.4	66.7	33.3	-	22.2	44.4	22.2	-	22.2	33.3	-	
	30歳代(n=18)	50.0	61.1	16.7	5.6	44.4	-	33.3	5.6	11.1	33.3	5.6	
	40歳代(n=31)	51.6	54.8	12.9	6.5	32.3	16.1	54.8	9.7	9.7	29.0	-	
	50歳代(n=28)	42.9	53.6	21.4	10.7	28.6	14.3	39.3	3.6	10.7	17.9	3.6	
	60歳以上(n=15)	33.3	60.0	-	-	40.0	6.7	53.3	13.3	13.3	20.0	-	

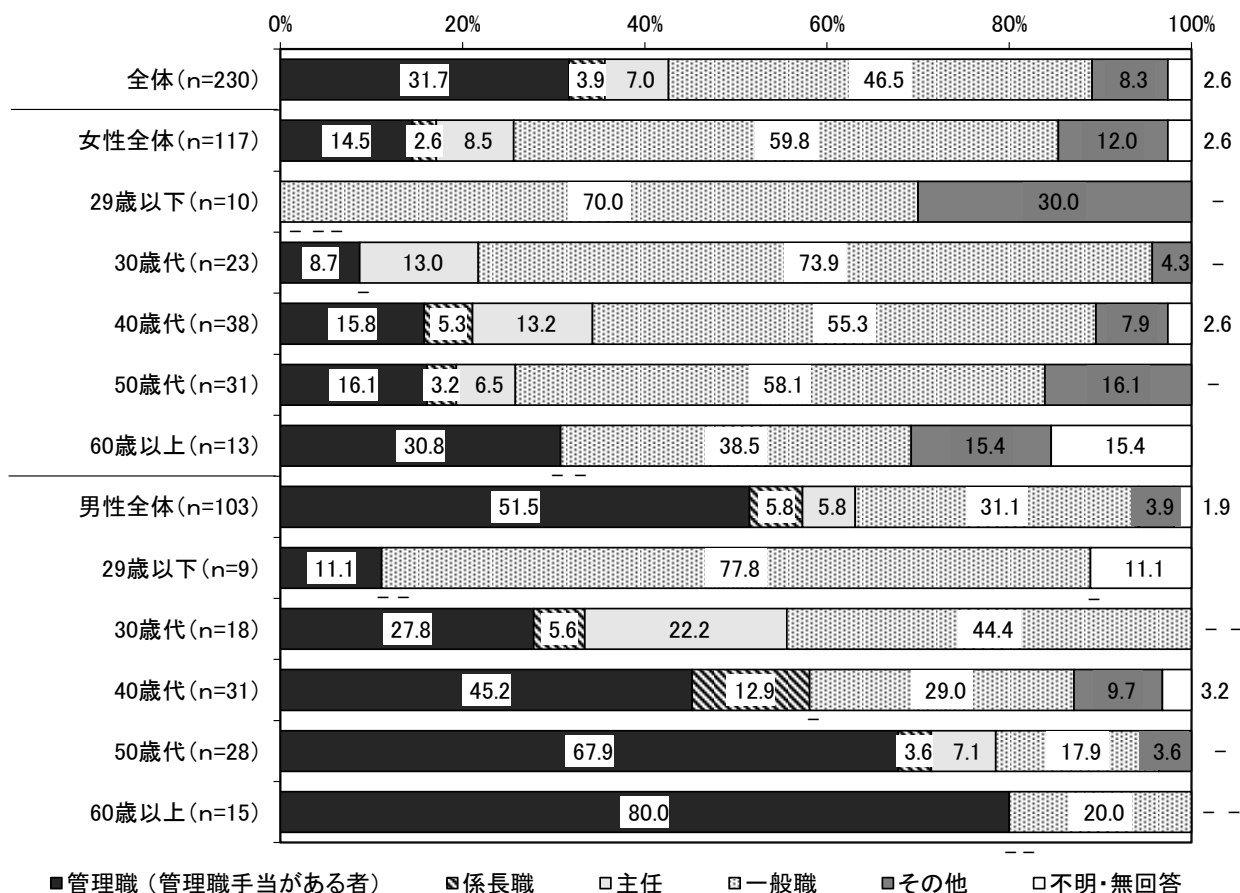
単位：％		わからない	不明・無回答
全体(n=230)		2.2	3.0
女性	女性全体(n=117)	1.7	1.7
	29歳以下(n=10)	-	-
	30歳代(n=23)	-	-
	40歳代(n=38)	2.6	-
	50歳代(n=31)	-	-
	60歳以上(n=13)	-	15.4
男性	男性全体(n=103)	1.9	2.9
	29歳以下(n=9)	-	-
	30歳代(n=18)	-	5.6
	40歳代(n=31)	-	-
	50歳代(n=28)	-	7.1
	60歳以上(n=15)	13.3	-

問 17 あなたの現在の職層はどれですか。(1つに○)

職層は、全体で「一般職」が46.5%と最も高く、次いで「管理職(管理職手当がある者)」が31.7%、「主任」が7.0%となっています。

性別にみると、女性では「一般職」が59.8%、男性では「管理職(管理職手当がある者)」が51.5%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「一般職」が高く、男性は女性に比べて「管理職(管理職手当がある者)」が高くなっています。

性・年代別でみると、40歳以上男性では「管理職(管理職手当がある者)」、その他の年代では「一般職」が最も高くなっています。

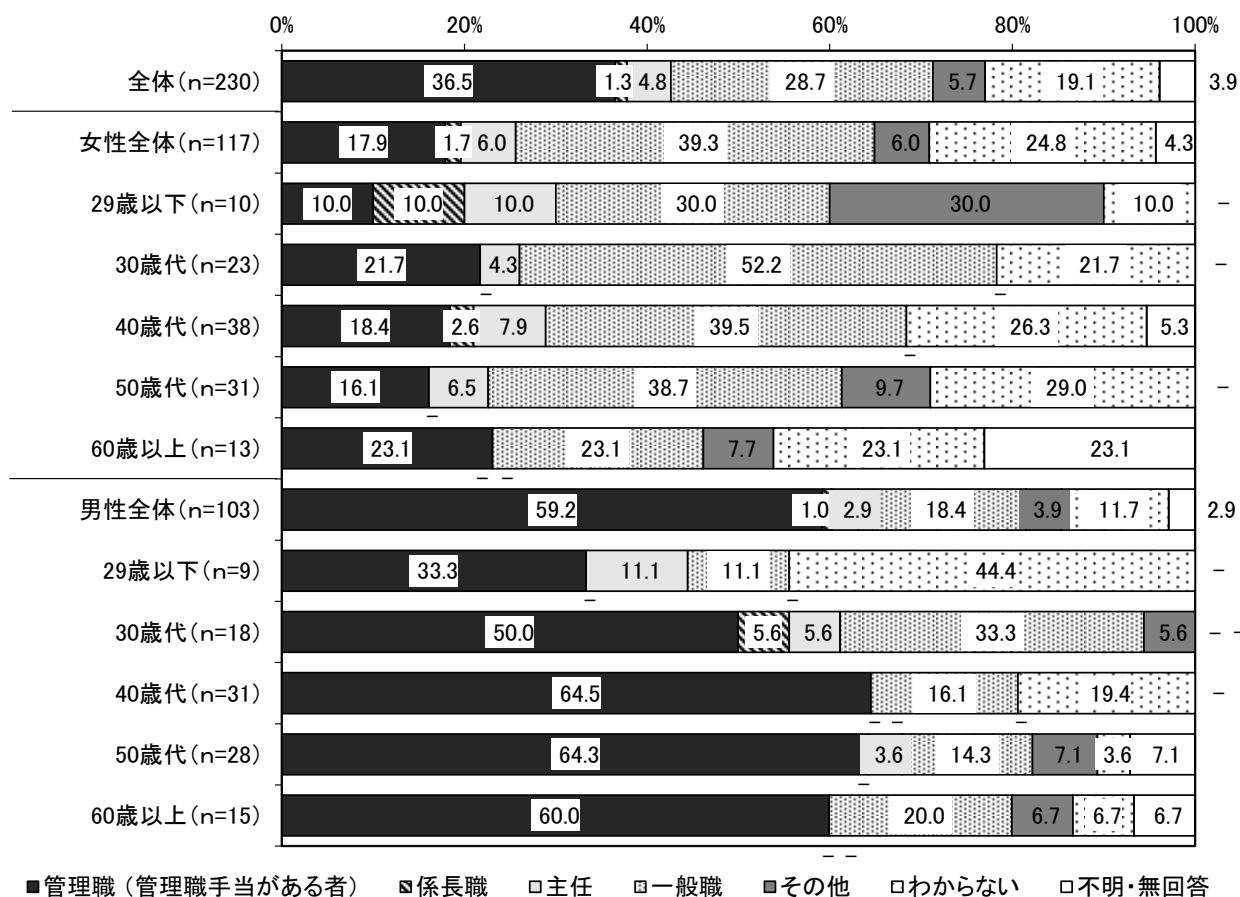


問 18 あなたは、将来的にはどのような職層で働きたいと思いますか。(1つに○)

将来的に働きたい職層は、全体で「管理職（管理職手当がある者）」が 36.5%と最も高く、次いで「一般職」が 28.7%、「わからない」が 19.1%となっています。

性別にみると、女性では「一般職」が 39.3%、男性では「管理職（管理職手当がある者）」が 59.2%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「一般職」「わからない」が高く、男性は女性に比べて「管理職（管理職手当がある者）」が高くなっています。

性・年代別でみると、50 歳以下女性では「一般職」、60 歳以上女性では「管理職（管理職手当がある者）」「一般職」「わからない」、30 歳以上男性では「管理職（管理職手当がある者）」が最も高くなっています。



問18で「係長職」～「その他」と答えた方

問18-1 管理職になりたくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

管理職になりたくない理由は、全体で「管理職になると、責任が重くなるから」が43.0%と最も高く、次いで「家庭生活と両立しにくいから」が39.8%、「現在の地位が自分に適しているから」が35.5%となっています。

性別にみると、女性では「管理職になると、責任が重くなるから」「現在の地位が自分に適しているから」が43.5%、男性では「管理職になると、責任が重くなるから」が40.7%で最も高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代女性では「管理職になると、責任が重くなるから」「家庭生活と両立しにくいから」、40～50歳代女性では「現在の地位が自分に適しているから」が最も高くなっています。

単位：％		い頻異 や繁動 だにな かつ幅 が広が ったの り、	も勤務 取時に 間が安 定せず 休暇	理管理 職が煩 わしな るから 、人事 管	重管 理職 になる と、責 任が	わ第一 ない線 から活 躍した いと思	て現在 の地位 が自分 に適し	か家庭 生活と 両立し にくい	両地域 活動に く興味 の活動 と	から自 分の能 力に不 安があ る	きた配 偶者よ り高い 地位に つ	その他	特に理 由はな い
全体(n=93)		12.9	33.3	26.9	43.0	20.4	35.5	39.8	15.1	29.0	2.2	5.4	10.8
女性	女性全体(n=62)	11.3	32.3	24.2	43.5	22.6	43.5	40.3	8.1	30.6	1.6	4.8	6.5
	29歳以下(n=8)	25.0	50.0	25.0	62.5	50.0	25.0	75.0	12.5	37.5	-	12.5	-
	30歳代(n=13)	7.7	53.8	30.8	69.2	38.5	61.5	69.2	7.7	61.5	-	-	-
	40歳代(n=19)	10.5	26.3	26.3	31.6	10.5	42.1	21.1	5.3	15.8	5.3	-	10.5
	50歳代(n=17)	11.8	23.5	23.5	35.3	11.8	41.2	29.4	11.8	23.5	-	11.8	5.9
	60歳以上(n=4)	-	-	-	-	-	50.0	25.0	-	-	-	-	25.0
男性	男性全体(n=27)	14.8	37.0	37.0	40.7	18.5	18.5	33.3	25.9	29.6	3.7	7.4	22.2
	29歳以下(n=2)	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	100.0	-	-	-
	30歳代(n=9)	11.1	33.3	33.3	33.3	33.3	11.1	44.4	22.2	44.4	11.1	22.2	22.2
	40歳代(n=5)	-	60.0	40.0	80.0	-	-	40.0	20.0	-	-	-	20.0
	50歳代(n=7)	28.6	28.6	42.9	28.6	14.3	28.6	14.3	28.6	14.3	-	-	42.9
	60歳以上(n=4)	-	25.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-

単位：％		わから ない	不明・ 無回答
全体(n=93)		-	3.2
女性	女性全体(n=62)	-	4.8
	29歳以下(n=8)	-	-
	30歳代(n=13)	-	-
	40歳代(n=19)	-	10.5
	50歳代(n=17)	-	-
	60歳以上(n=4)	-	25.0
男性	男性全体(n=27)	-	-
	29歳以下(n=2)	-	-
	30歳代(n=9)	-	-
	40歳代(n=5)	-	-
	50歳代(n=7)	-	-
	60歳以上(n=4)	-	-

5 セクシュアル・ハラスメントについて

問 19 職場において、セクシュアル・ハラスメントが起こる原因は何だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

セクシュアル・ハラスメントが起こると思う原因は、全体で「一部にモラルの低い人がいるから」が63.5%と最も高く、次いで「性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから」が61.3%、「ハラスメントをする側に職業人としての自覚が足りないから」が41.3%となっています。

性別にみると、女性では「性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから」が68.4%、男性では「一部にモラルの低い人がいるから」が63.1%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから」、男性は女性に比べて「職場内の日常的なコミュニケーションが不足しているから」が高くなっています。

性・年代別でみると、40歳代女性、30～40歳代と60歳以上男性では「一部にモラルの低い人がいるから」、その他の年代では「性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから」が最も高くなっています。

単位：％		か ら ナ ー と 職 場 の み て 等 い な い	性 的 言 動 が 相 手 に 不 快 に 思 う こ と が わ か ら な い	識 定 的 な 性 格 差 に よ り 生 じ る こ と が あ る	職 場 内 の 日 常 的 な コ ミ ニ カ ー シ ョ ン が 不 足 し て い る	職 業 人 と し て の 自 覚 が 不 足 し て い る	受 け る 側 が 不 意 外 に 思 う こ と が あ る	一 部 に モ ラ ル の 低 い 人 が い る	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=230)		37.8	61.3	25.2	27.8	41.3	10.0	63.5	2.6	3.9	1.3
女 性	女性全体(n=117)	40.2	68.4	24.8	23.1	41.0	11.1	64.1	-	3.4	0.9
	29歳以下(n=10)	40.0	80.0	60.0	10.0	50.0	-	60.0	-	-	-
	30歳代(n=23)	34.8	69.6	17.4	21.7	34.8	-	65.2	-	4.3	-
	40歳代(n=38)	47.4	57.9	23.7	18.4	42.1	18.4	65.8	-	5.3	-
	50歳代(n=31)	38.7	77.4	19.4	25.8	38.7	6.5	67.7	-	3.2	-
	60歳以上(n=13)	30.8	61.5	23.1	30.8	46.2	23.1	53.8	-	-	7.7
男 性	男性全体(n=103)	37.9	54.4	26.2	35.0	45.6	9.7	63.1	5.8	2.9	1.0
	29歳以下(n=9)	22.2	55.6	44.4	22.2	22.2	11.1	66.7	-	-	-
	30歳代(n=18)	44.4	61.1	27.8	22.2	61.1	5.6	72.2	11.1	-	-
	40歳代(n=31)	41.9	54.8	29.0	41.9	48.4	6.5	67.7	6.5	6.5	-
	50歳代(n=28)	32.1	60.7	17.9	39.3	46.4	7.1	57.1	3.6	-	3.6
	60歳以上(n=15)	46.7	33.3	26.7	33.3	33.3	26.7	53.3	6.7	6.7	-

問 20 あなたはこの数年間に、次のようなセクシュアル・ハラスメントを受けて不快に思ったり、他の人から直接相談を受けたりした経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

セクシュアル・ハラスメントの経験は、全体で「受けた経験はない」が67.4%と最も高く、次いで「女性だからということでお茶くみや身の回りのことなどの雑用をさせられた」が10.0%、「容姿についてのからかいや性的な冗談、質問をされた」が9.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「受けた経験はない」が最も高く、女性で64.1%、男性で72.8%となっています。また、女性は男性に比べて「女性だからということでお茶くみや身の回りのことなどの雑用をさせられた」が高くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「受けた経験はない」が最も高くなっています。

単位：％		性的関係の誘いを受けた	体を触られたり、体をじろじろ見られた	容姿についてのからかいや性的な冗談、質問をされた	職場の飲み会などで、お酌やデューエツトを強要された	さんちゃん」「おじさん」「おばさん」などと呼ばれた	結婚しない理由など、私生活に過度に立ち入る質問をされた	職場のメールに「かわいいね」とか「食事に付き合ってください」といった内容が送られてきた	職場に水着やヌードの写真を貼ったり、パソコンの壁紙として利用していた	女性だからということでお茶くみや身の回りのことなどの雑用をさせられた	その他	受けた経験はない	不明・無回答
全体(n=230)		2.2	3.9	9.1	3.0	6.1	3.9	1.3	1.3	10.0	3.9	67.4	6.5
女性	女性全体(n=117)	2.6	4.3	7.7	3.4	6.8	5.1	0.9	-	17.9	4.3	64.1	5.1
	29歳以下(n=10)	10.0	10.0	20.0	-	10.0	30.0	-	-	20.0	-	70.0	-
	30歳代(n=23)	-	4.3	13.0	4.3	8.7	4.3	-	-	26.1	-	65.2	-
	40歳代(n=38)	2.6	2.6	5.3	-	5.3	2.6	2.6	-	13.2	5.3	57.9	13.2
	50歳代(n=31)	3.2	6.5	6.5	9.7	9.7	3.2	-	-	22.6	6.5	61.3	-
	60歳以上(n=13)	-	-	-	-	-	-	-	-	7.7	7.7	76.9	7.7
男性	男性全体(n=103)	1.9	2.9	10.7	2.9	5.8	2.9	1.9	2.9	1.0	3.9	72.8	6.8
	29歳以下(n=9)	-	11.1	22.2	11.1	-	11.1	22.2	-	-	11.1	55.6	11.1
	30歳代(n=18)	-	-	11.1	-	5.6	5.6	-	-	5.6	5.6	72.2	-
	40歳代(n=31)	3.2	6.5	12.9	3.2	12.9	3.2	-	3.2	-	3.2	77.4	-
	50歳代(n=28)	3.6	-	10.7	3.6	3.6	-	-	7.1	-	-	67.9	14.3
	60歳以上(n=15)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7	80.0	13.3

◆経年比較 問 20

前回調査と比較すると、大きな差は見られません。

性別でみると、女性では「「ちゃん」「おじさん」「おばさん」などと呼ばれた」が6.2ポイント低くなっています。男性では「受けた経験はない」が5.7ポイント低くなっています。また、「容姿についてのからかいや性的な冗談、質問をされた」が6.9ポイント高くなっています。

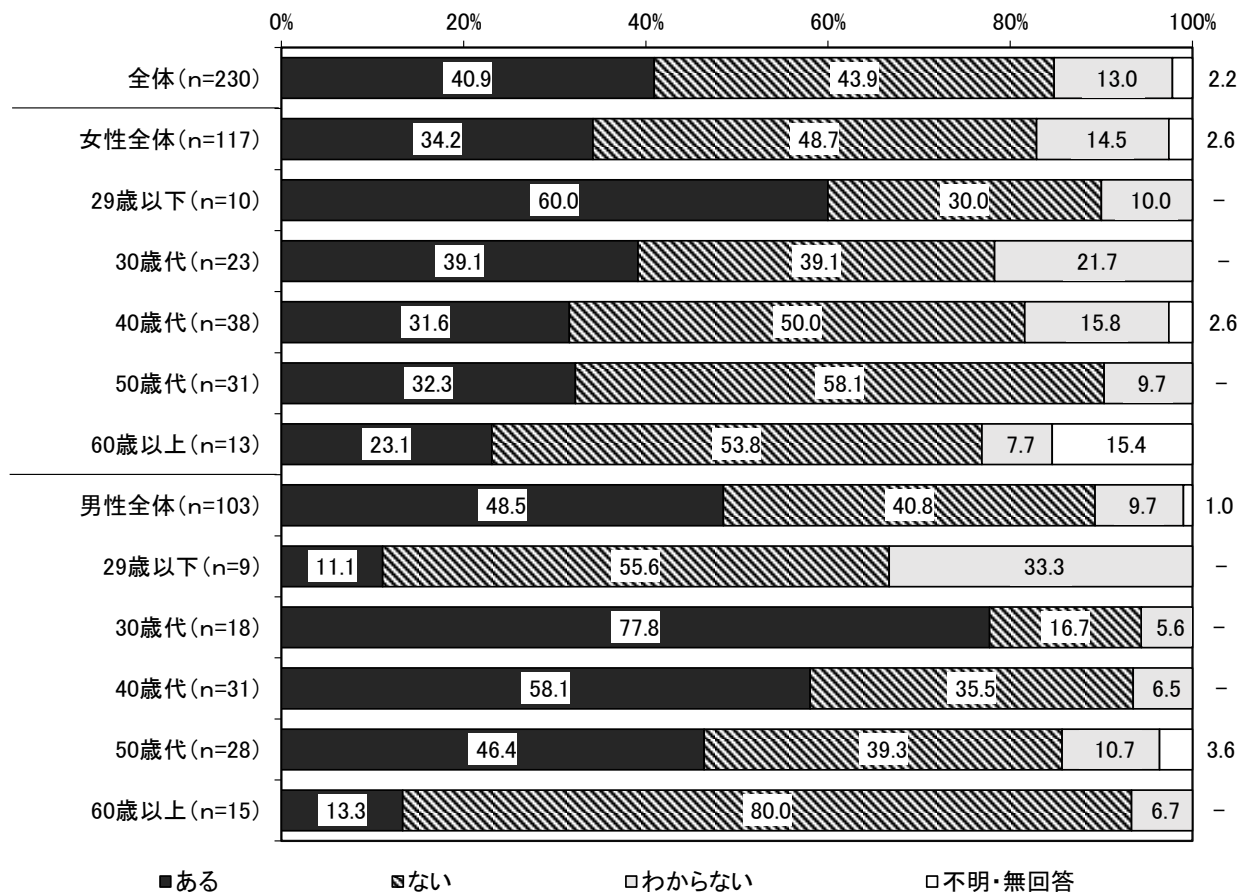
単位：％		性的関係の誘いを受けた	体を触られたり、体をじろじろ見られた	容姿についてのからかいや性的な冗談、質問をされた	職場の飲み会などで、お酌やデューエツトを強要された	さん「ちゃん」などと呼ばれた	結婚しない理由など、私生活に過度に立ち入る質問をされた	職場のメールに「かわいいね」とか「食事に付き合つて」といった内容が送られてきた	職場に水着やヌードの写真をして貼ったり、パソコンの壁紙として利用していた	女性だからということでお茶くみや身の回りのことなどの雑用をさせられた	その他	受けた経験はない	不明・無回答
全体	令和6(2024)年(n=230)	2.2	3.9	9.1	3.0	6.1	3.9	1.3	1.3	10.0	3.9	67.4	6.5
	平成26(2014)年(n=173)	1.2	4.6	8.1	4.0	9.2	5.2	0.6	-	8.1	2.3	69.4	8.1
女性	令和6(2024)年(n=117)	2.6	4.3	7.7	3.4	6.8	5.1	0.9	-	17.9	4.3	64.1	5.1
	平成26(2014)年(n=92)	2.2	5.4	12.0	5.4	13.0	7.6	-	-	13.0	4.3	60.9	7.6
男性	令和6(2024)年(n=103)	1.9	2.9	10.7	2.9	5.8	2.9	1.9	2.9	1.0	3.9	72.8	6.8
	平成26(2014)年(n=79)	-	3.8	3.8	2.5	5.1	2.5	1.3	-	2.5	-	78.5	8.9

問 21 あなたの職場には、セクシュアル・ハラスメントの相談を受け付ける窓口がありますか。
(1つに○)

セクシュアル・ハラスメントの相談を受け付ける窓口の有無は、全体で「ない」が43.9%と最も高く、次いで「ある」が40.9%、「わからない」が13.0%となっています。

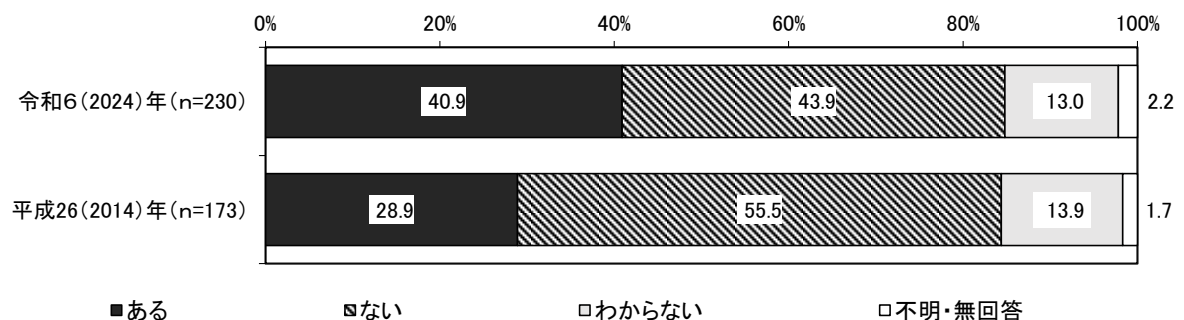
性別にみると、女性では「ない」が48.7%、男性では「ある」が48.5%で最も高くなっています。また、男性は女性に比べて「ある」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性と30～50歳代男性では「ある」、30歳代女性では「ある」「ない」、40歳以上女性、60歳以上男性では「ない」が最も高くなっています。



◆経年比較 問 21

前回調査と比較すると、「ある」が12.0ポイント高くなっています。



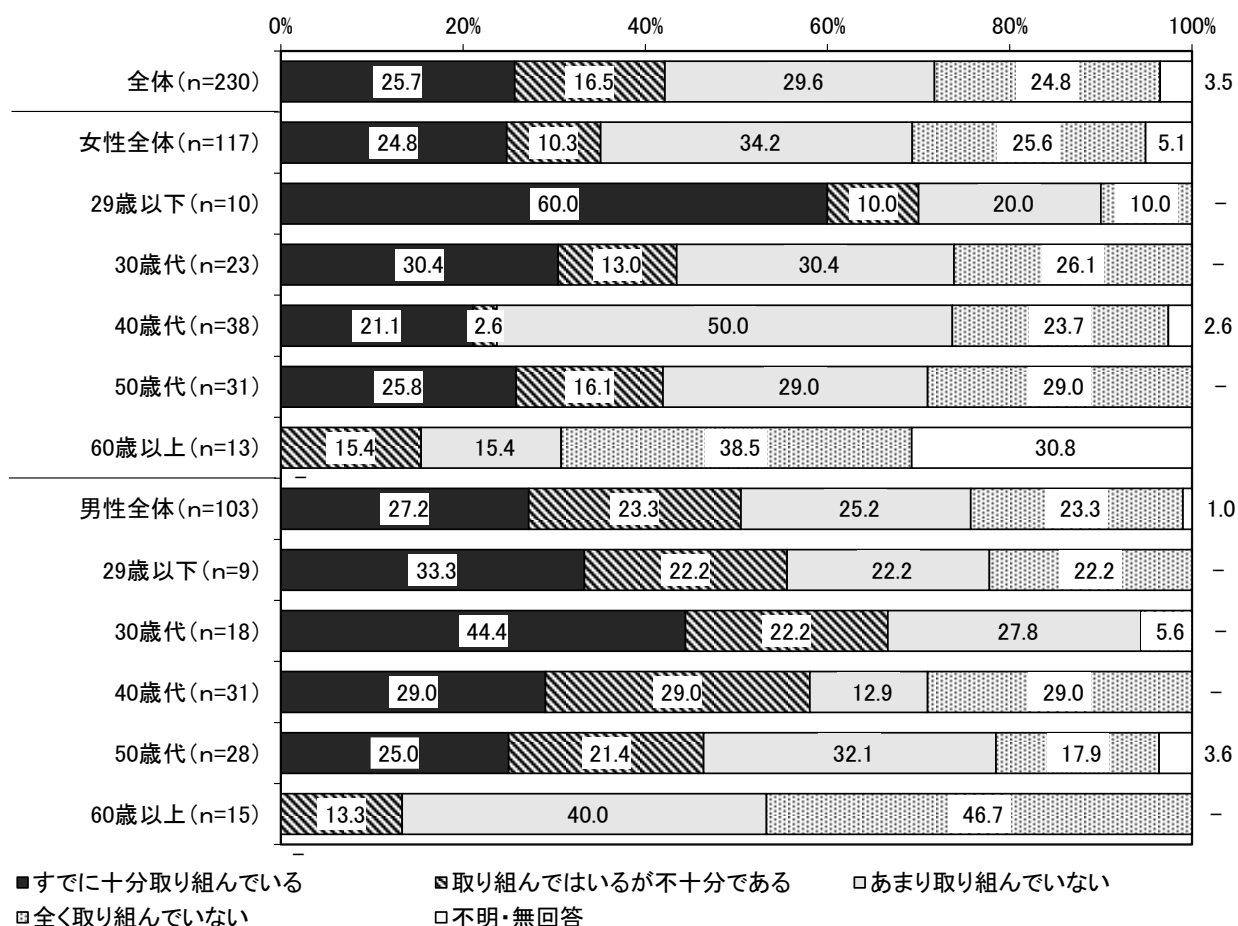
問 22 あなたの職場におけるセクシュアル・ハラスメント対策への取り組みについて、どのように認識していますか。現状及び今後の必要性についてお答えください。

①現状（1つに○）

セクシュアル・ハラスメント対策への取り組みの現状は、全体で「あまり取り組んでいない」が29.6%と最も高く、次いで「すでに十分取り組んでいる」が25.7%、「全く取り組んでいない」が24.8%となっています。

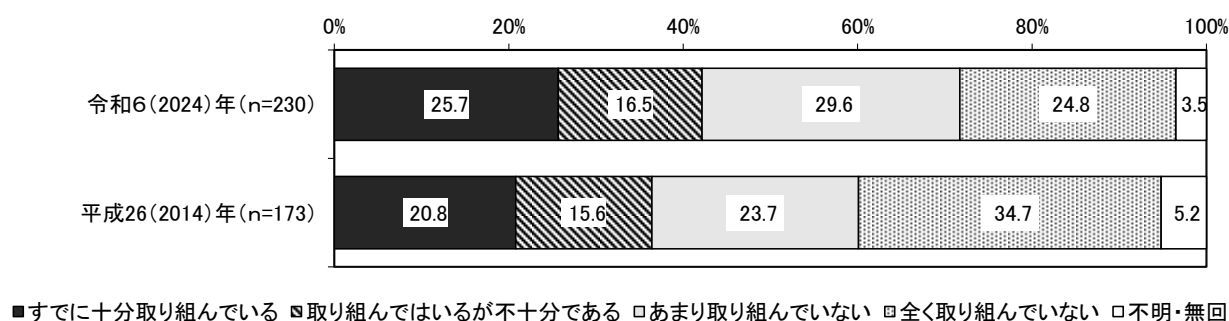
性別にみると、女性では「あまり取り組んでいない」が34.2%、男性では「すでに十分取り組んでいる」が27.2%で最も高くなっています。また、男性は女性に比べて「取り組んではいるが不十分である」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性、30歳代男性では「すでに十分取り組んでいる」、30歳代女性では「すでに十分取り組んでいる」「あまり取り組んでいない」、40歳代女性、50歳代男性では「あまり取り組んでいない」、50歳代女性では「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」、60歳以上男女では「全く取り組んでいない」が最も高くなっています。



◆経年比較 問 22 ①現状

前回調査と比較すると、「すでに十分取り組んでいる」と「取り組んではいるが不十分である」を合わせた『取り組んでいる』が5.8ポイント高くなっています。

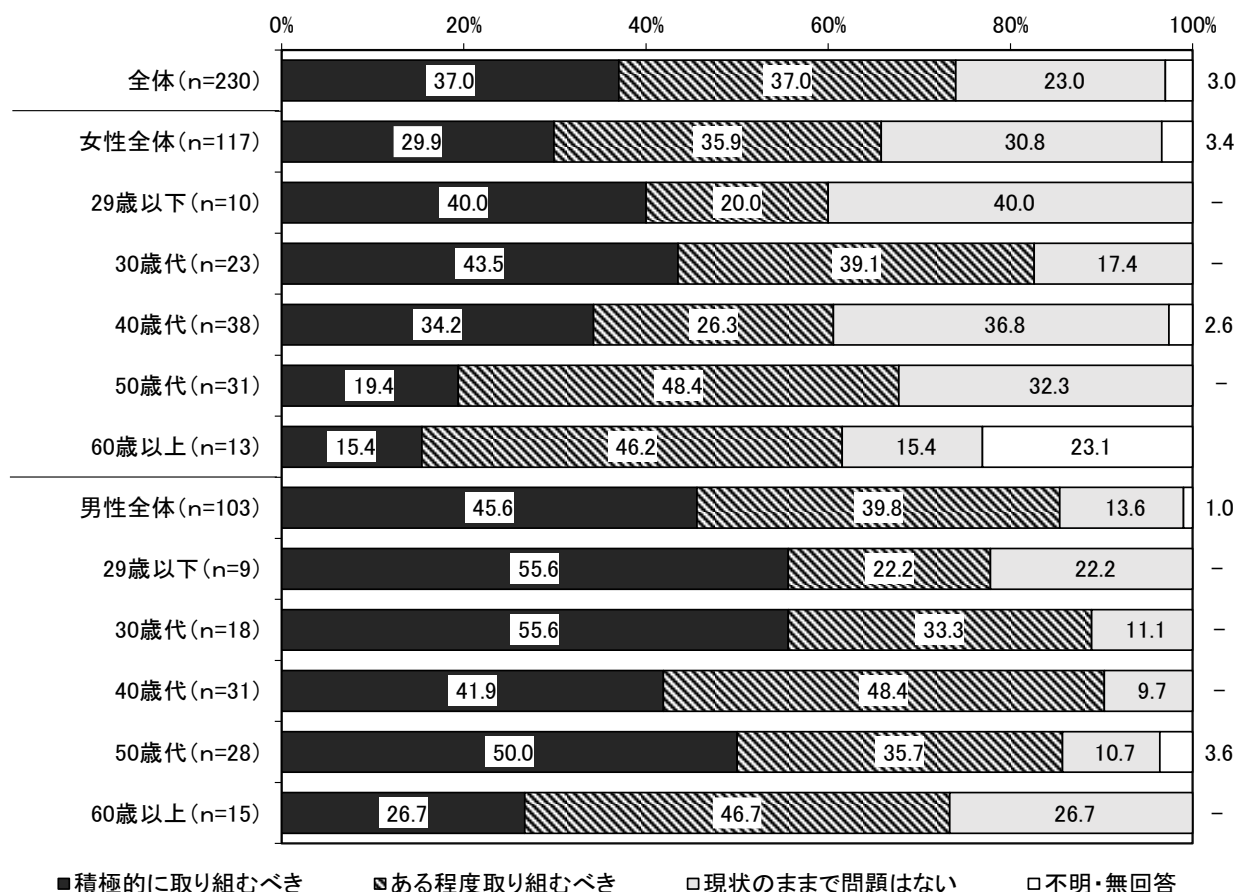


②今後の必要性（1つに○）

セクシュアル・ハラスメント対策への取り組みの今後の必要性は、全体で「積極的に取り組むべき」「ある程度取り組むべき」が37.0%と最も高く、次いで「現状のままで問題はない」が23.0%となっています。

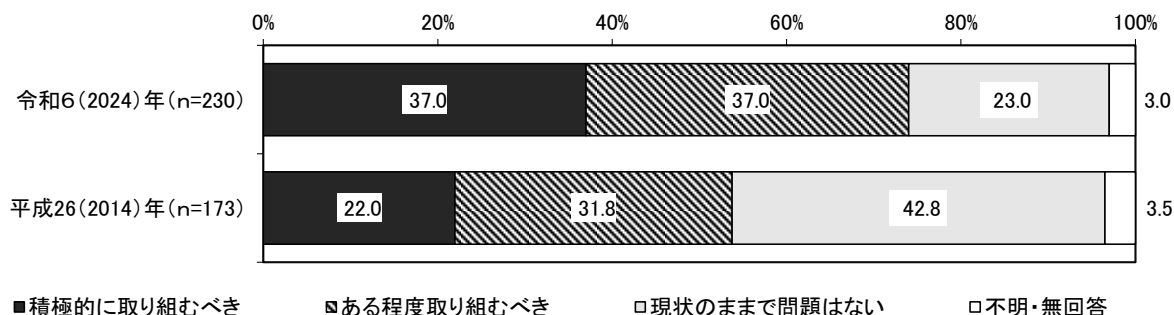
性別にみると、女性では「ある程度取り組むべき」が35.9%、男性では「積極的に取り組むべき」が45.6%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「現状のままで問題はない」が高く、男性は女性に比べて「積極的に取り組むべき」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「積極的に取り組むべき」「現状のままで問題はない」、40歳代女性では「現状のままで問題はない」、30歳代男女、50歳代男性では「積極的に取り組むべき」、その他の年代では「ある程度取り組むべき」が最も高くなっています。



◆経年比較 問22 ②今後の必要性

前回調査と比較すると、「積極的に取り組むべき」と「ある程度取り組むべき」を合わせた『取り組むべき』が20.2ポイント高くなっています。



6 白井市への要望について

問 23 男女の共同参画を進めるため、これから市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。(5つまで○) [共通設問：一般市民調査…問 24, 中学生調査…問 16]

男女の共同参画を進めるために市が特に力を入れて取り組むべきだと思うことは、全体で「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が 57.4%と最も高く、次いで「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」が 45.7%、「ひとり親（母子・父子）家庭を援助する」が 31.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が最も高く、女性で 61.5%、男性で 54.4%となっています。また、男性は女性に比べて「市全体の男女共同参画を推進するための条例を制定する」が高くなっています。

性・年代別でみると、29 歳以下女性では「すべての施策に男女共同参画の視点を取り入れる」「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」、60 歳以上女性、40 歳代男性では「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」、30 歳代男性では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」「ひとり親（母子・父子）家庭を援助する」、60 歳以上男性では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」、その他の年代では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が最も高くなっています。

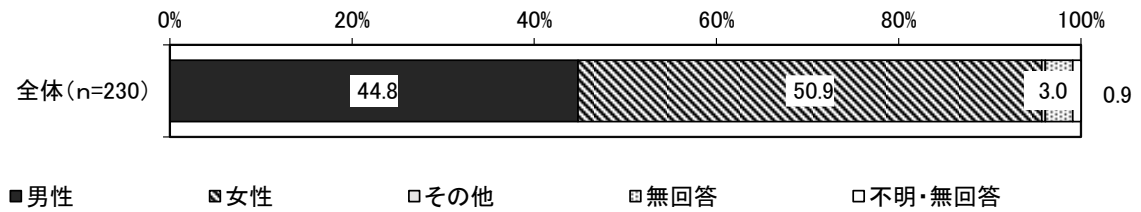
単位：％		講座を開くなど、社会教育を充実させる	男女共同参画についての学習	すべての施策に男女共同参画の視点を取り入れる	市全体の男女共同参画を推進するための条例を制定する	パートナーシップ制度を導入する	市の審議会など、施策を決定する場に女性の参加をもつと増やす	学校での男女平等教育を進める	女性の就労を支援するため、情報提供や職業訓練の場を充実させる	保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える	訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる	市に男女共同参画を推進するための専門部署を設置する	関連ある情報を積極的に提供する	相談やカウンセリング機能を充実する
全体 (n=230)		10.4	16.1	9.6	10.9	17.4	24.3	19.1	57.4	45.7	7.0	13.5	16.1	
女性	女性全体 (n=117)	12.0	17.1	5.1	13.7	16.2	25.6	20.5	61.5	47.0	3.4	12.8	17.1	
	29歳以下 (n=10)	20.0	60.0	10.0	30.0	20.0	10.0	10.0	60.0	20.0	10.0	10.0	10.0	
	30歳代 (n=23)	13.0	13.0	8.7	17.4	17.4	30.4	17.4	65.2	43.5	-	8.7	13.0	
	40歳代 (n=38)	13.2	18.4	5.3	15.8	15.8	23.7	26.3	65.8	44.7	7.9	10.5	18.4	
	50歳代 (n=31)	12.9	12.9	3.2	9.7	16.1	29.0	19.4	54.8	51.6	-	12.9	19.4	
	60歳以上 (n=13)	-	-	-	-	15.4	30.8	23.1	61.5	69.2	-	30.8	23.1	
男性	男性全体 (n=103)	9.7	16.5	15.5	8.7	19.4	25.2	18.4	54.4	47.6	10.7	15.5	15.5	
	29歳以下 (n=9)	22.2	11.1	33.3	-	-	11.1	-	66.7	33.3	11.1	11.1	11.1	
	30歳代 (n=18)	11.1	5.6	22.2	16.7	11.1	33.3	27.8	44.4	33.3	11.1	5.6	5.6	
	40歳代 (n=31)	6.5	25.8	19.4	6.5	16.1	25.8	12.9	64.5	67.7	6.5	19.4	12.9	
	50歳代 (n=28)	14.3	17.9	10.7	10.7	28.6	21.4	14.3	42.9	32.1	14.3	17.9	10.7	
	60歳以上 (n=15)	-	13.3	-	6.7	33.3	33.3	40.0	66.7	66.7	13.3	20.0	46.7	

単位：％		をひとり親（母子・父子）家庭	男性、性地域活動に参加できた	女性の視点を配慮した防災・	その他	要がない（力を入れる必要はない）	わからない	不明・無回答
全体(n=230)		31.7	10.0	14.3	5.2	2.6	6.1	1.7
女性	女性全体(n=117)	29.9	12.8	16.2	5.1	2.6	3.4	1.7
	29歳以下(n=10)	40.0	20.0	-	-	10.0	-	-
	30歳代(n=23)	34.8	4.3	17.4	4.3	-	-	4.3
	40歳代(n=38)	26.3	13.2	15.8	7.9	2.6	2.6	2.6
	50歳代(n=31)	22.6	16.1	25.8	3.2	3.2	3.2	-
	60歳以上(n=13)	46.2	15.4	7.7	7.7	-	7.7	-
男性	男性全体(n=103)	35.9	6.8	11.7	3.9	2.9	6.8	1.0
	29歳以下(n=9)	44.4	11.1	11.1	-	-	22.2	-
	30歳代(n=18)	44.4	11.1	11.1	5.6	-	5.6	-
	40歳代(n=31)	32.3	3.2	12.9	3.2	-	6.5	-
	50歳代(n=28)	35.7	3.6	14.3	-	7.1	7.1	3.6
	60歳以上(n=15)	33.3	13.3	-	6.7	-	-	-

7 回答者自身のことについて

F 1 あなたの性別をお答えください。(1つに○) [共通設問：一般市民調査・中学生調査…F 1]

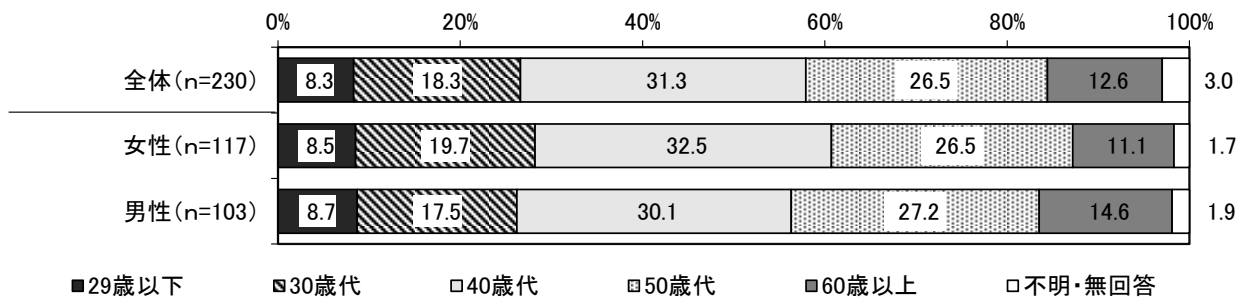
性別は、全体で「女性」が50.9%と最も高く、次いで「男性」が44.8%となっています。



F 2 あなたの年齢をお答えください。(数字をご記入ください。) [共通設問：一般市民調査…F 2]

年齢は、全体で「40 歳代」が31.3%と最も高く、次いで「50 歳代」が26.5%、「30 歳代」が18.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「40 歳代」が最も高く、女性で32.5%、男性で30.1%となっています。

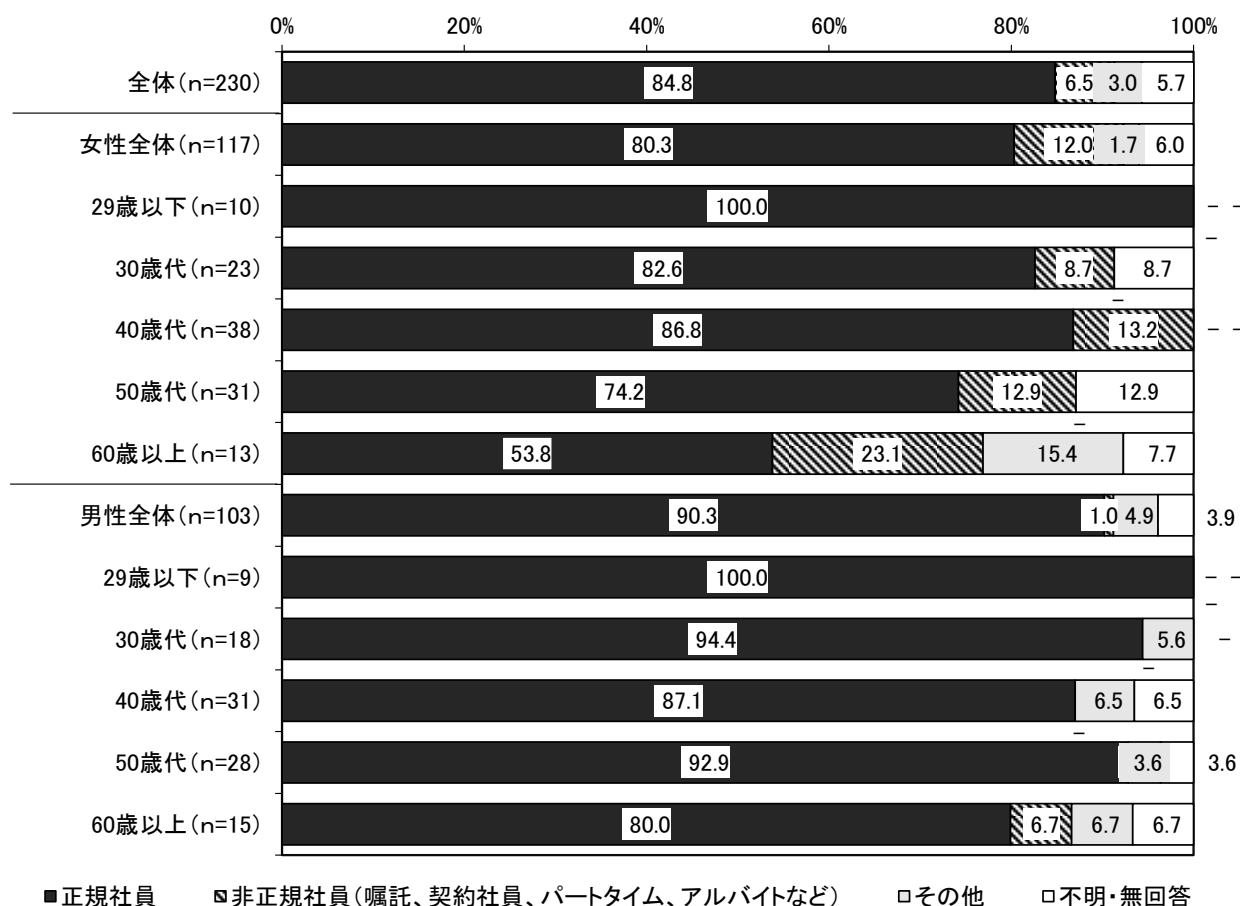


F 3 あなたの現在の就労形態をお答えください。(1つに○)

就労形態は、全体で「正規社員」が84.8%と最も高く、次いで「非正規社員（嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど）」が6.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「正規社員」が最も高く、女性で80.3%、男性で90.3%となっています。また、女性は男性に比べて「非正規社員（嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど）」が高く、男性は女性に比べて「正規社員」が高くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「正規社員」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて60歳以上女性では「非正規社員（嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど）」が高く、「正規社員」が低くなっています。



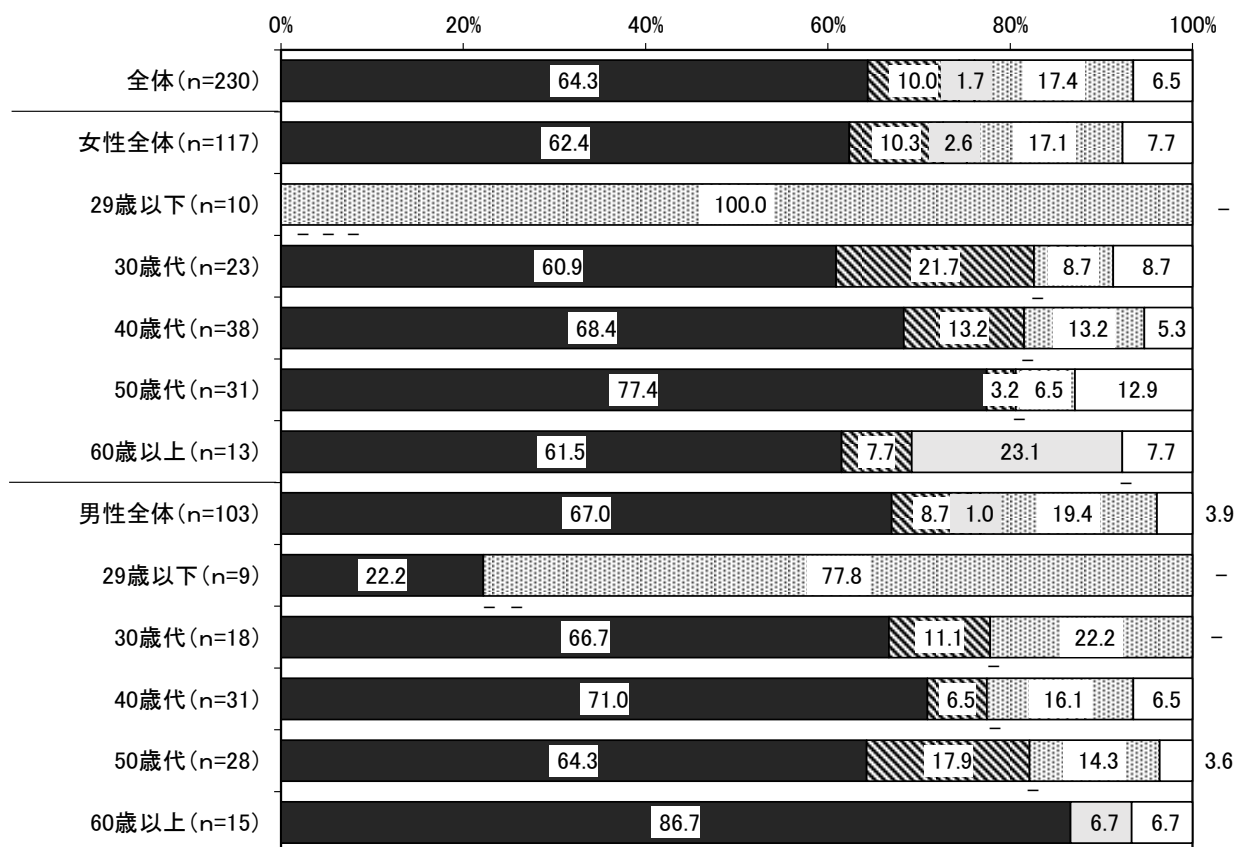
F 4 あなたは現在、結婚（事実婚を含む）していますか。（1つに○）

【共通設問：一般市民調査…F 3】

婚姻状況は、全体で「している（事実婚またはパートナーを含む）」が64.3%と最も高く、次いで「していない（未婚）」が17.4%、「していない（離別）」が10.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「している（事実婚またはパートナーを含む）」が最も高く、女性で62.4%、男性で67.0%となっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「していない（未婚）」、その他の年代では「している（事実婚またはパートナーを含む）」が最も高くなっています。



■している（事実婚またはパートナーを含む） ▨していない（離別） □していない（死別） ▤していない（未婚） □不明・無回答

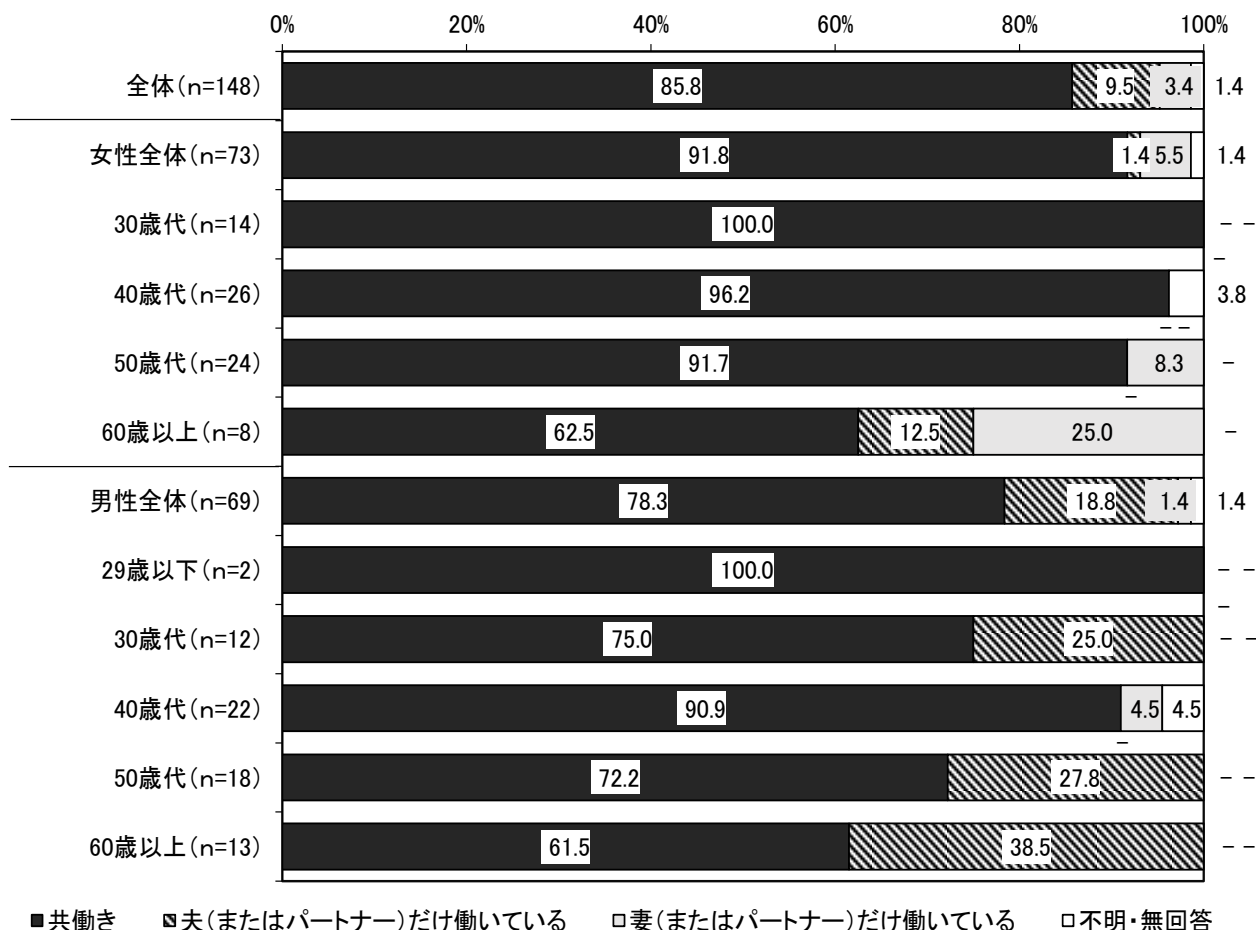
F 4で「している（事実婚またはパートナーを含む）」と答えた方

F 4-1 あなたの世帯は、共働きですか。（1つに○）〔共通設問：一般市民調査…F 3-1〕

共働きかは、全体で「共働き」が85.8%と最も高く、次いで「夫（またはパートナー）だけ働いている」が9.5%、「妻（またはパートナー）だけ働いている」が3.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「共働き」が最も高く、女性で91.8%、男性で78.3%となっています。また、女性は男性に比べて「共働き」が高く、男性は女性に比べて「夫（またはパートナー）だけ働いている」が高くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「共働き」が最も高くなっています。



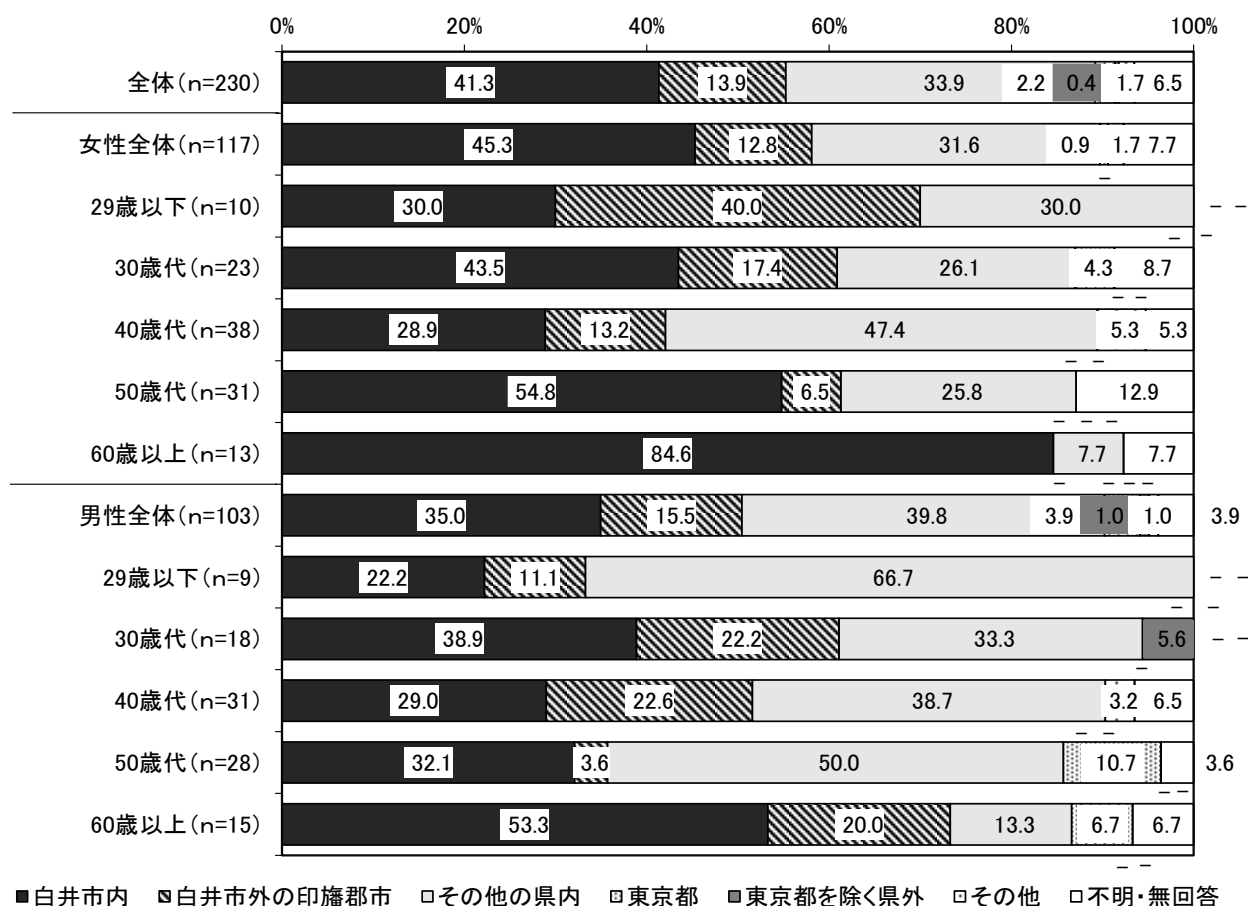
※〔女性29歳以下〕はn=0のため省略しています。

F 5 あなたの居住地をお答えください。(1つに○)

居住地は、全体で「白井市内」が41.3%と最も高く、次いで「その他の県内」が33.9%、「白井市外の印旛郡市」が13.9%となっています。

性別にみると、女性では「白井市内」が45.3%、男性では「その他の県内」が39.8%で最も高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「白井市外の印旛郡市」、40歳代女性、40～50歳代男性では「その他の県内」、その他の年代では「白井市内」が最も高くなっています。



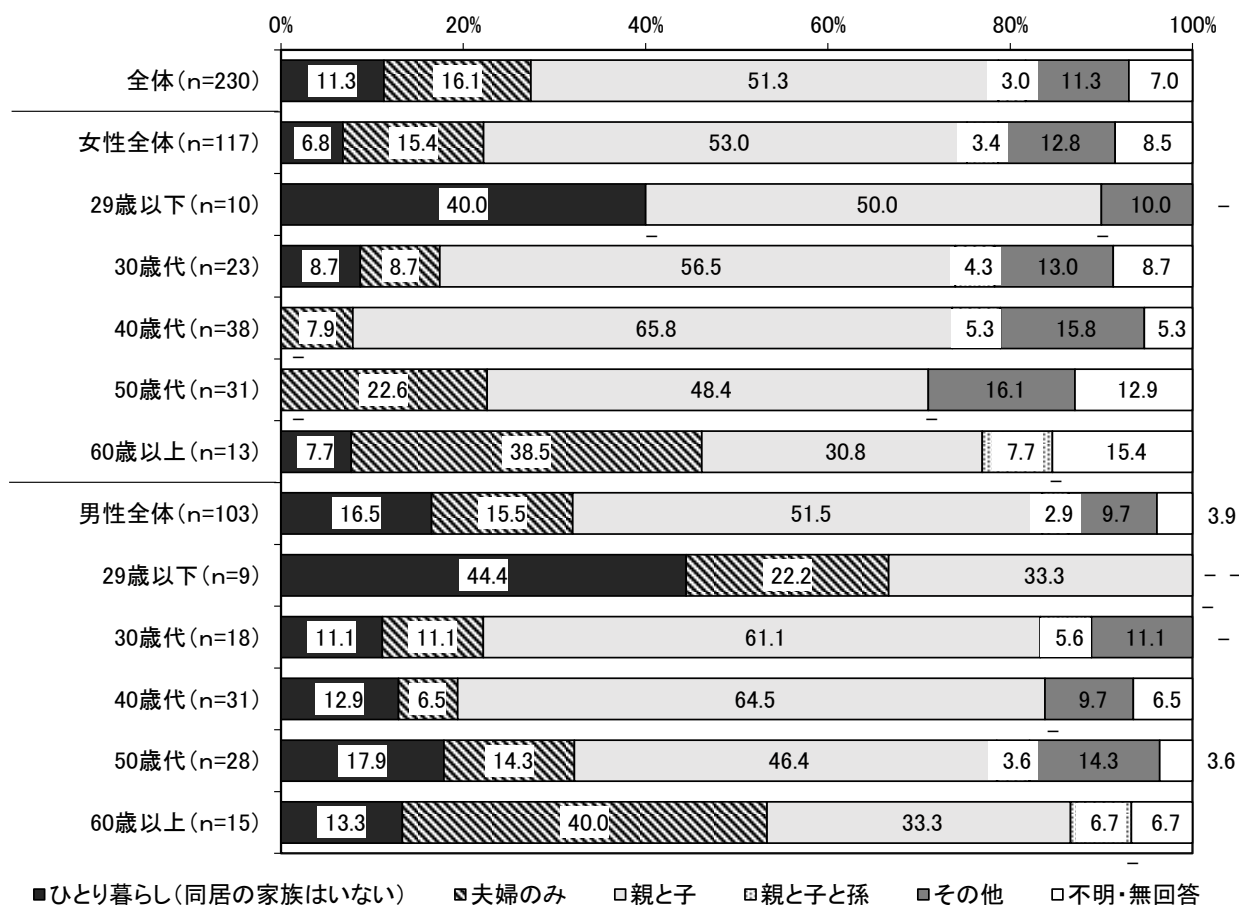
F 6 あなたの同居している家族の構成をお答えください。(1つに○)

[共通設問：一般市民調査…F 7]

家族構成は、全体で「親と子」が51.3%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が16.1%、「ひとり暮らし（同居の家族はいない）」が11.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「親と子」が最も高く、女性で53.0%、男性で51.5%となっています。

性・年代別でみると、60歳以上男女では「夫婦のみ」、その他の年代では「親と子」が最も高くなっています。



F 6で「夫婦のみ」～「親と子と孫」と答えた方

F 6-1 同居されている方に、次のような方はいますか。(あてはまるものすべてに○)

[共通設問：一般市民調査…F 7-1]

同居者に次の方がいるかは、全体で「同居者にあてはまるものはいない」が36.4%と最も高く、次いで「小学生の子ども」が21.6%、「中学生・高校生の子ども」が19.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「同居者にあてはまるものはいない」が最も高く、女性で38.1%、男性で33.3%となっています。

性・年代別でみると、30歳代男女では「就学前の子ども」、40歳代女性では「中学生・高校生の子ども」「介護を必要としない65歳以上の方」「同居者にあてはまるものはいない」、40歳代男性では「小学生の子ども」「中学生・高校生の子ども」、その他の年代では「同居者にあてはまるものはいない」が最も高くなっています。

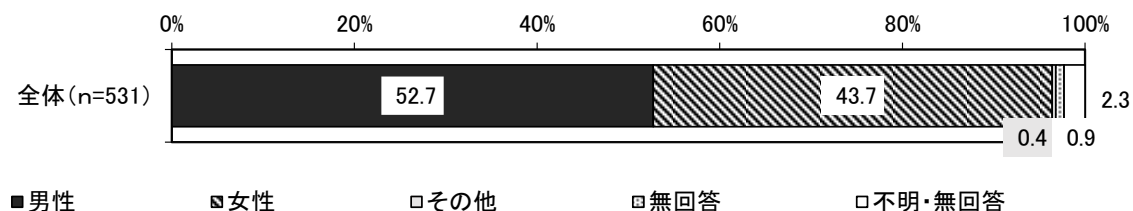
単位：%		就 学 前 の 子 ど も	小 学 生 の 子 ど も	中 学 生 ・ 高 校 生 の 子 ど も	介 護 を 必 要 と す る 方	65 歳 以 上 を 必 要 と し な い 方	同 居 者 に あ て は ま る も の い な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=162)		16.0	21.6	19.8	3.7	16.7	36.4	7.4
女 性	女性全体(n=84)	16.7	22.6	17.9	1.2	17.9	38.1	8.3
	29歳以下(n=5)	-	-	-	-	20.0	80.0	-
	30歳代(n=16)	68.8	50.0	6.3	-	6.3	12.5	-
	40歳代(n=30)	10.0	23.3	26.7	-	26.7	26.7	10.0
	50歳代(n=22)	-	13.6	22.7	-	13.6	59.1	4.5
	60歳以上(n=10)	-	10.0	10.0	10.0	20.0	40.0	30.0
男 性	男性全体(n=72)	15.3	22.2	23.6	6.9	13.9	33.3	6.9
	29歳以下(n=5)	-	-	-	-	20.0	80.0	-
	30歳代(n=14)	50.0	42.9	14.3	7.1	7.1	21.4	-
	40歳代(n=22)	18.2	36.4	36.4	9.1	13.6	13.6	4.5
	50歳代(n=18)	-	5.6	27.8	-	16.7	50.0	5.6
	60歳以上(n=12)	-	8.3	16.7	16.7	16.7	33.3	25.0

第5章 中学生調査の結果・分析

I 回答者自身のことについて

F I 性別〔共通設問：一般市民調査・市内在勤者調査…F I〕

性別は、全体で「男性」が52.7%と最も高く、次いで「女性」が43.7%となっています。



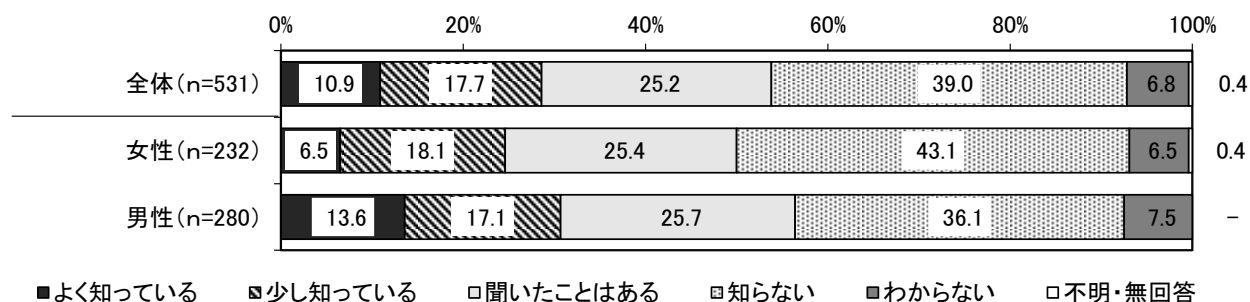
2 男女共同参画に関すること

問1 あなたは、次の男女共同参画に関する言葉のなかで、知っているものはありますか。

A 男女共同参画社会（1つに○）〔共通設問：一般市民調査…問9 C〕

男女共同参画社会の認知状況は、全体で「知らない」が39.0%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が25.2%、「少し知っている」が17.7%となっています。

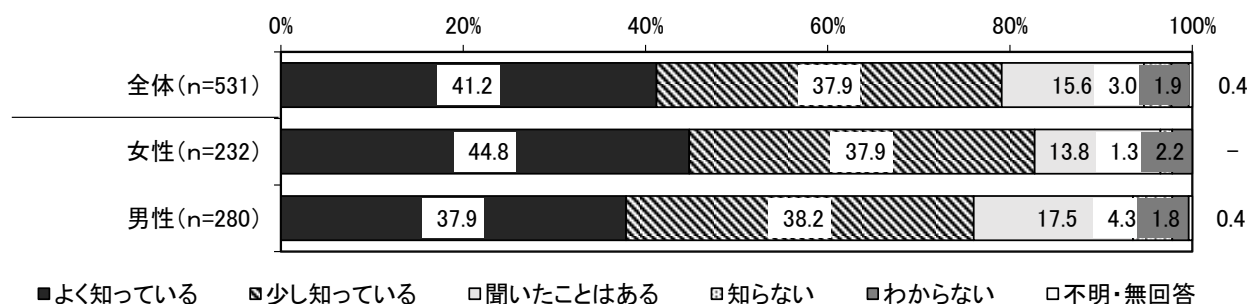
性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で43.1%、男性で36.1%となっています。



B ジェンダー（1つに○）〔共通設問：一般市民調査…問9 E〕

ジェンダーの認知状況は、全体で「よく知っている」が41.2%と最も高く、次いで「少し知っている」が37.9%、「聞いたことはある」が15.6%となっています。

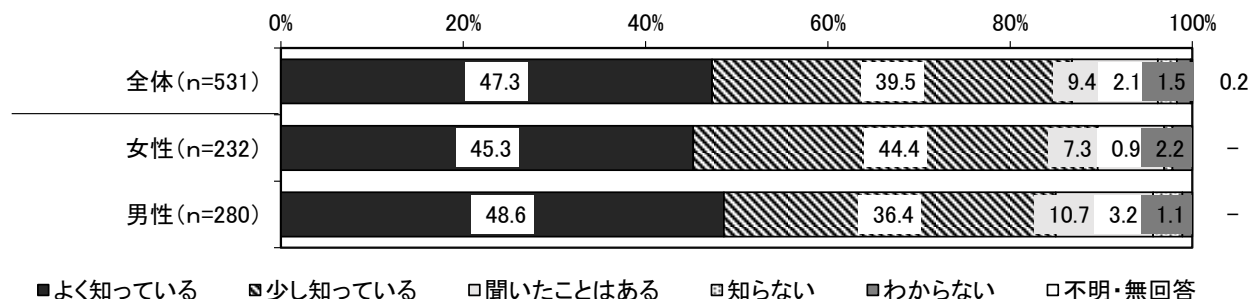
性別にみると、女性では「よく知っている」が44.8%、男性では「少し知っている」が38.2%で最も高くなっています。



C ハラスメント（1つに○）

ハラスメントの認知状況は、全体で「よく知っている」が47.3%と最も高く、次いで「少し知っている」が39.5%、「聞いたことはある」が9.4%となっています。

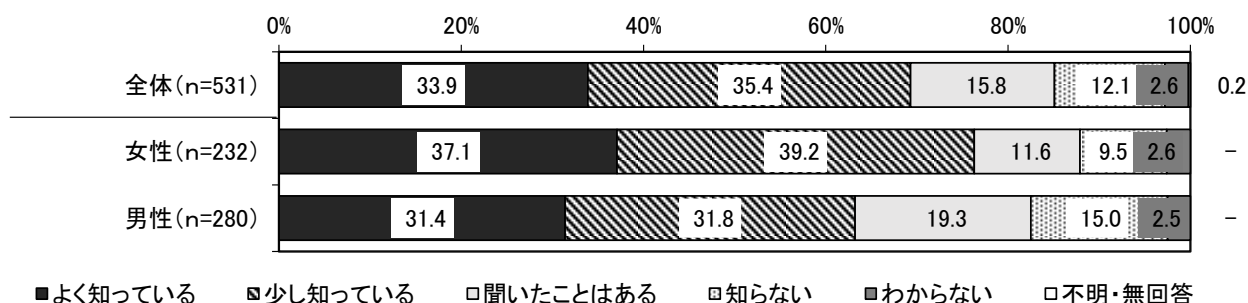
性別にみると、男女ともに「よく知っている」が最も高く、女性で45.3%、男性で48.6%となっています。



D LGBTQ+（1つに○）[共通設問：一般市民調査…問9 F]

LGBTQ+の認知状況は、全体で「少し知っている」が35.4%と最も高く、次いで「よく知っている」が33.9%、「聞いたことはある」が15.8%となっています。

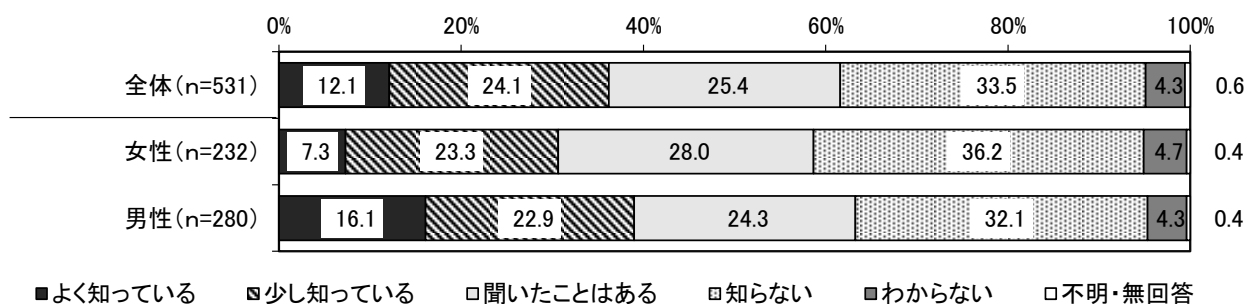
性別にみると、男女ともに「少し知っている」が最も高く、女性で39.2%、男性で31.8%となっています。



E ワーク・ライフ・バランス（1つに○）[共通設問：一般市民調査…問9 H]

ワーク・ライフ・バランスの認知状況は、全体で「知らない」が33.5%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が25.4%、「少し知っている」が24.1%となっています。

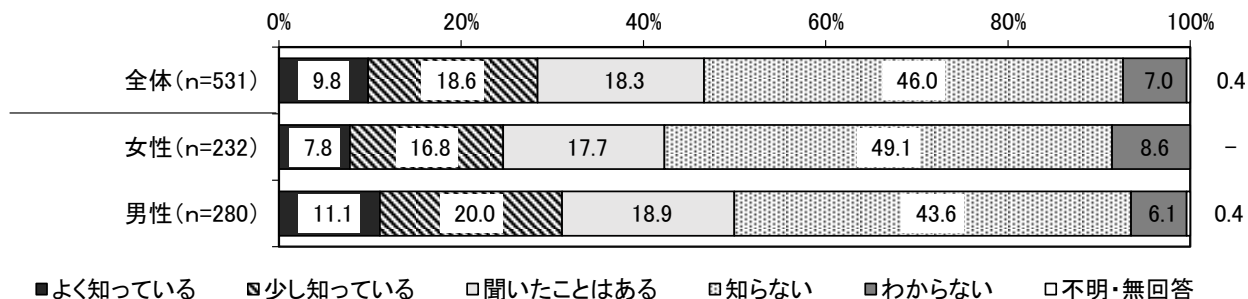
性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で36.2%、男性で32.1%となっています。



F アンコンシャス・バイアス（1つに○）[共通設問：一般市民調査…問9 J]

アンコンシャス・バイアスの認知状況は、全体で「知らない」が46.0%と最も高く、次いで「少し知っている」が18.6%、「聞いたことはある」が18.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で49.1%、男性で43.6%となっています。



問2 あなたは、次の場面で、男性と女性の立場や地位は、平等になっていると思いますか。

A 学校生活（1つに○） [共通設問：一般市民調査…問7 A]

学校生活における男性と女性の立場や地位は、全体で「平等だと思う」が60.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う」が25.4%、「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が7.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等だと思う」が最も高く、女性で64.2%、男性で58.9%となっています。

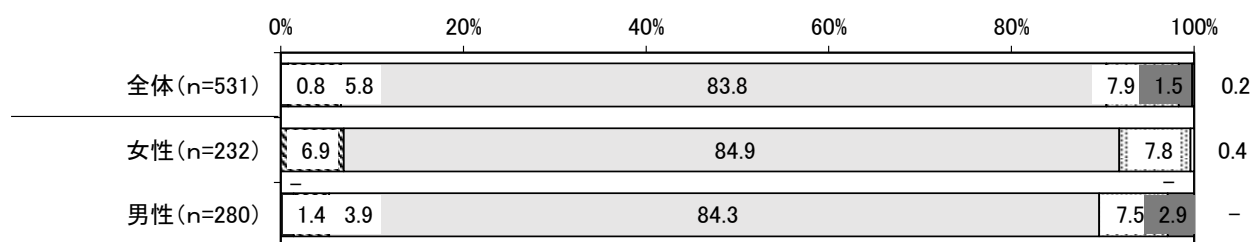


- 男性(男子)の方がかなり特別扱いされていると思う
- ▣どちらかといえば男性(男子)の方が特別扱いされていると思う
- 平等だと思う
- ▣どちらかといえば女性(女子)の方が特別扱いされていると思う
- 女性(女子)の方がかなり特別扱いされていると思う
- 不明・無回答

B 地域での活動やボランティア等（1つに○） [共通設問：一般市民調査…問7 B]

地域での活動やボランティア等における男性と女性の立場や地位は、全体で「平等だと思う」が83.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う」が7.9%、「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が5.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等だと思う」が最も高く、女性で84.9%、男性で84.3%となっています。

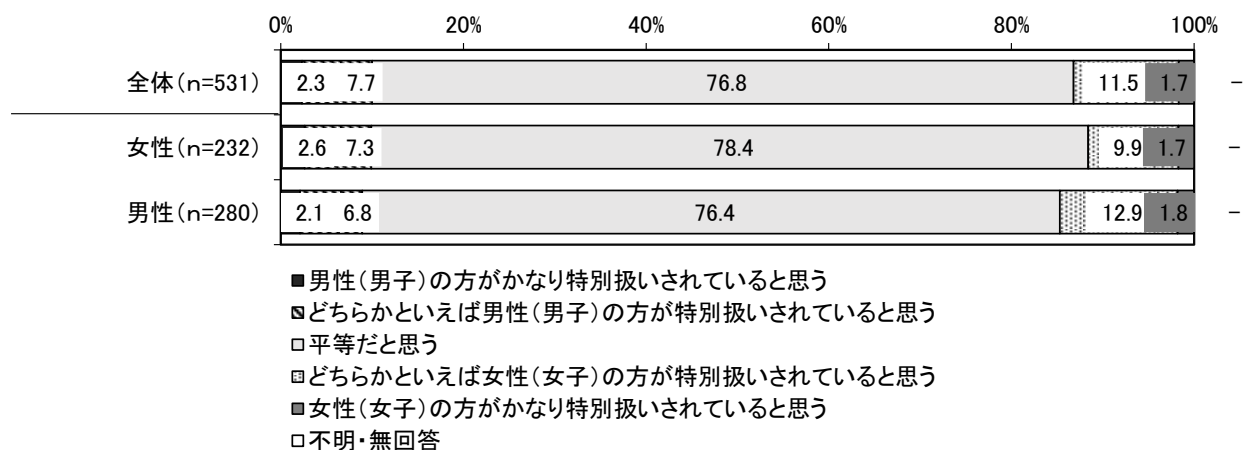


- 男性(男子)の方がかなり特別扱いされていると思う
- ▣どちらかといえば男性(男子)の方が特別扱いされていると思う
- 平等だと思う
- ▣どちらかといえば女性(女子)の方が特別扱いされていると思う
- 女性(女子)の方がかなり特別扱いされていると思う
- 不明・無回答

C 家庭生活（1つに○）【共通設問：一般市民調査…問7 C】

家庭生活における男性と女性の立場や地位は、全体で「平等だと思う」が76.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う」が11.5%、「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が7.7%となっています。

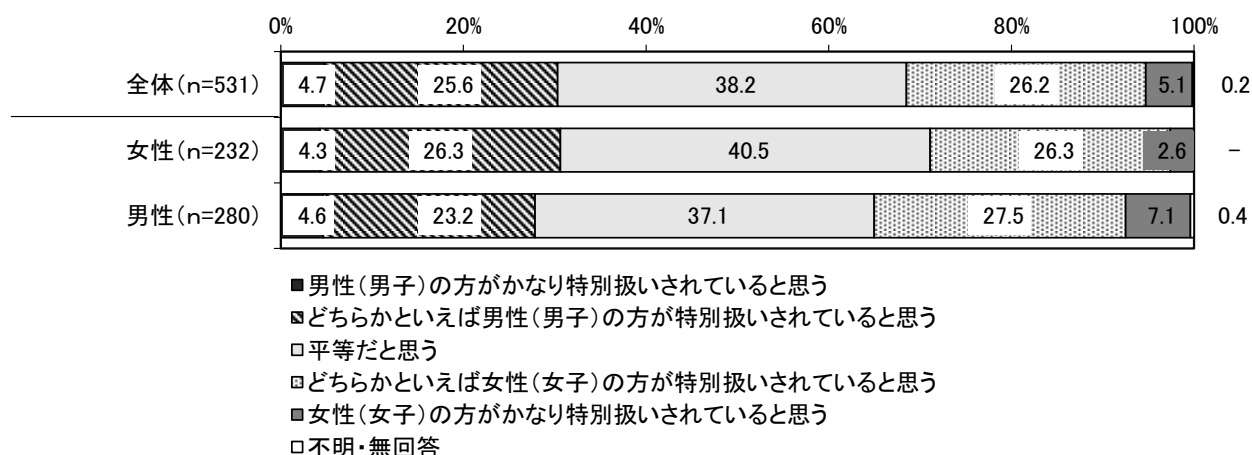
性別にみると、男女ともに「平等だと思う」が最も高く、女性で78.4%、男性で76.4%となっています。



D 世の中の考え（1つに○）【共通設問：一般市民調査…問7 E】

世の中の考えにおける男性と女性の立場や地位は、全体で「平等だと思う」が38.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う」が26.2%、「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が25.6%となっています。

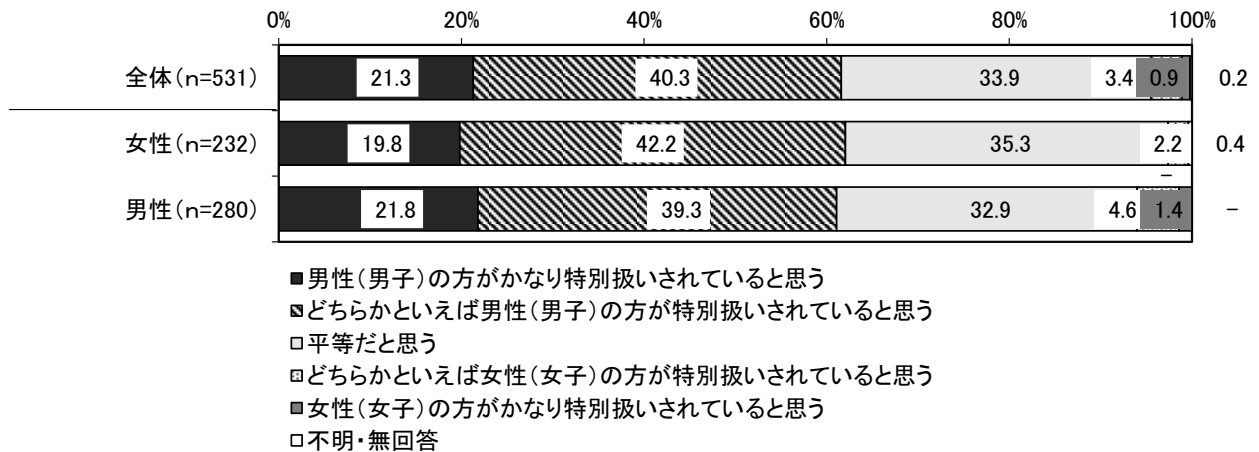
性別にみると、男女ともに「平等だと思う」が最も高く、女性で40.5%、男性で37.1%となっています。



E 政治の大臣や、政治上の物ごとの決め方（1つに○）〔共通設問：一般市民調査…問7 G〕

政治の大臣や、政治上の物ごとの決め方における男性と女性の立場や地位は、全体で「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が40.3%と最も高く、次いで「平等だと思う」が33.9%、「男性（男子）の方がかなり特別扱いされていると思う」が21.3%となっています。

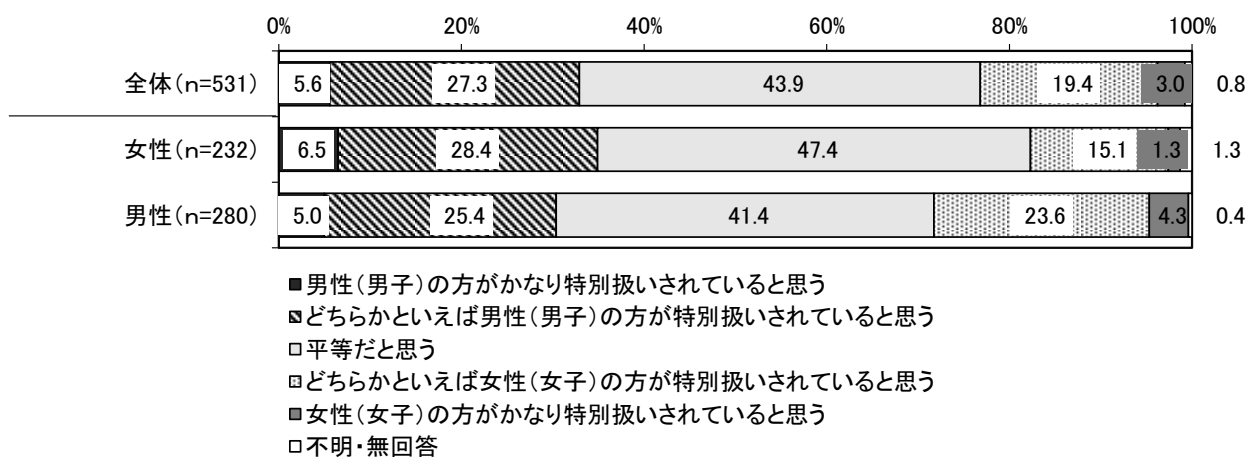
性別にみると、男女ともに「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が最も高く、女性で42.2%、男性で39.3%となっています。



F 全体として今の日本（1つに○）〔共通設問：一般市民調査…問7 H〕

全体として今の日本における男性と女性の立場や地位は、全体で「平等だと思う」が43.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が27.3%、「どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う」が19.4%となっています。

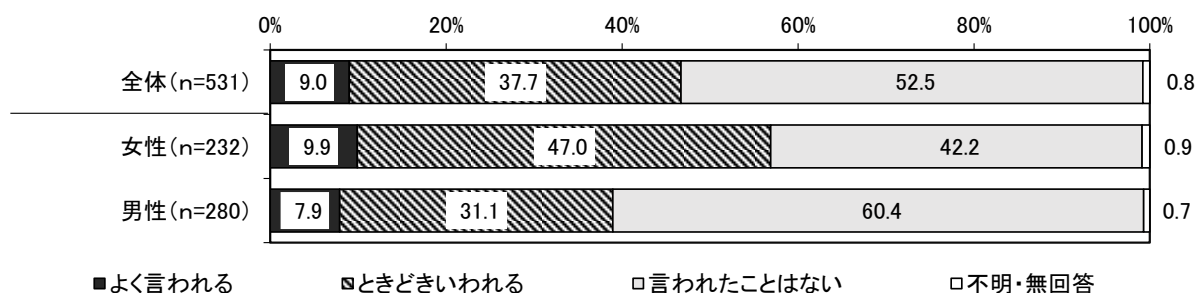
性別にみると、男女ともに「平等だと思う」が最も高く、女性で47.4%、男性で41.4%となっています。



問3 今までに「女の子だから～しなさい(しちゃダメ)」「男の子だから～しなさい(しちゃダメ)」のように言われたことはありますか。(1つに○)

「女の子だから～しなさい(しちゃダメ)」「男の子だから～しなさい(しちゃダメ)」のように言われた経験は、全体で「言われたことはない」が52.5%と最も高く、次いで「ときどきいわれる」が37.7%、「よく言われる」が9.0%となっています。

性別にみると、女性では「ときどきいわれる」が47.0%、男性では「言われたことはない」が60.4%で最も高くなっています。また、男性は女性に比べて「言われたことはない」が高くなっています。

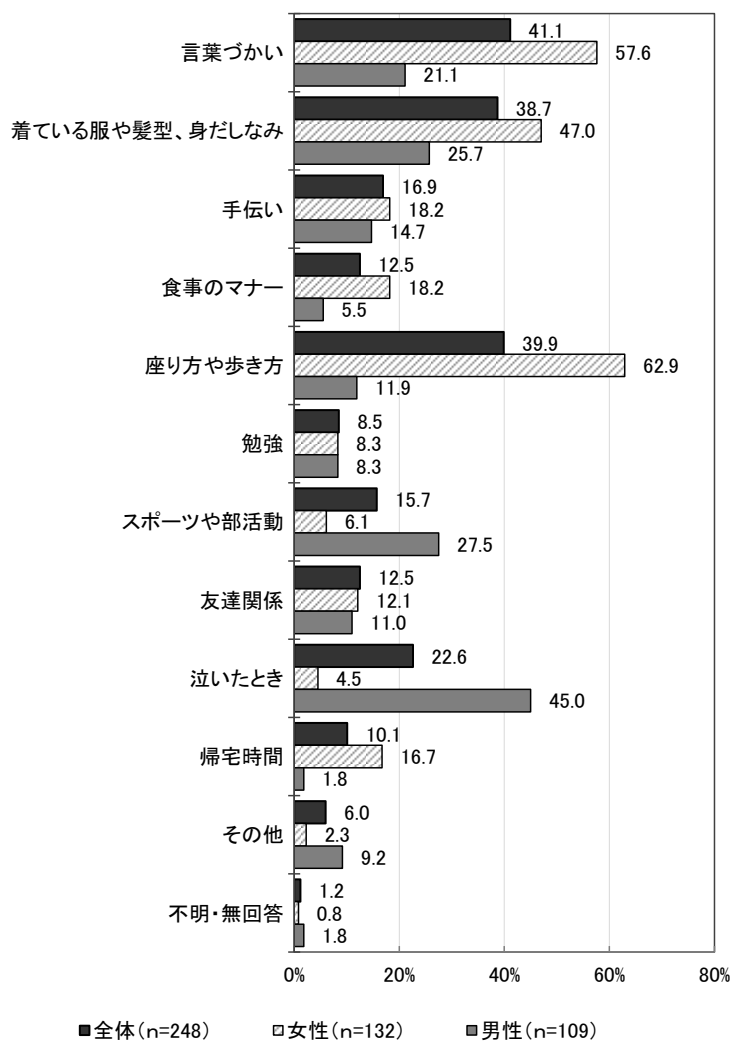


問3で「よく言われる」または「ときどきいわれる」と答えた方

問3-1 どんなことについて言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

言われた内容は、全体で「言葉づかい」が41.1%と最も高く、次いで「座り方や歩き方」が39.9%、「着ている服や髪型、身だしなみ」が38.7%となっています。

性別にみると、女性では「座り方や歩き方」が62.9%、男性では「泣いたとき」が45.0%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「言葉づかい」「着ている服や髪型、身だしなみ」「食事のマナー」「座り方や歩き方」「帰宅時間」が高く、男性は女性に比べて「スポーツや部活動」「泣いたとき」が高くなっています。

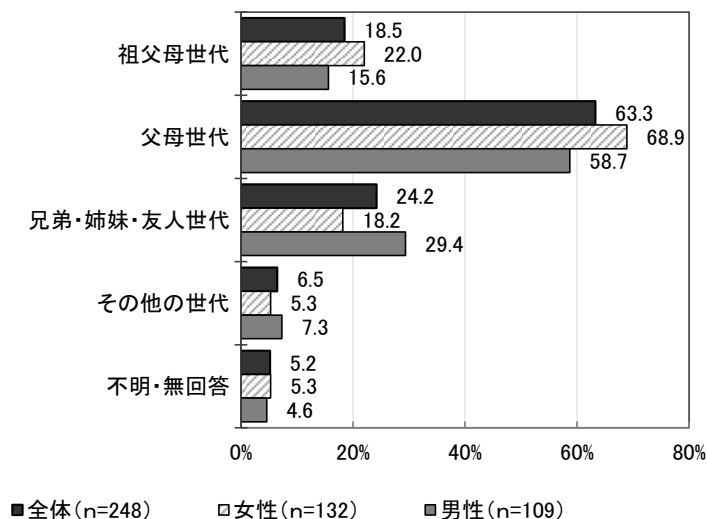


問3で「よく言われる」または「ときどきいわれる」と答えた方

問3-2 誰に言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

言われた相手は、全体で「父母世代」が63.3%と最も高く、次いで「兄弟・姉妹・友人世代」が24.2%、「祖父母世代」が18.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「父母世代」が最も高く、女性で68.9%、男性で58.7%となっています。また、女性は男性に比べて「父母世代」が高く、男性は女性に比べて「兄弟・姉妹・友人世代」が高くなっています。

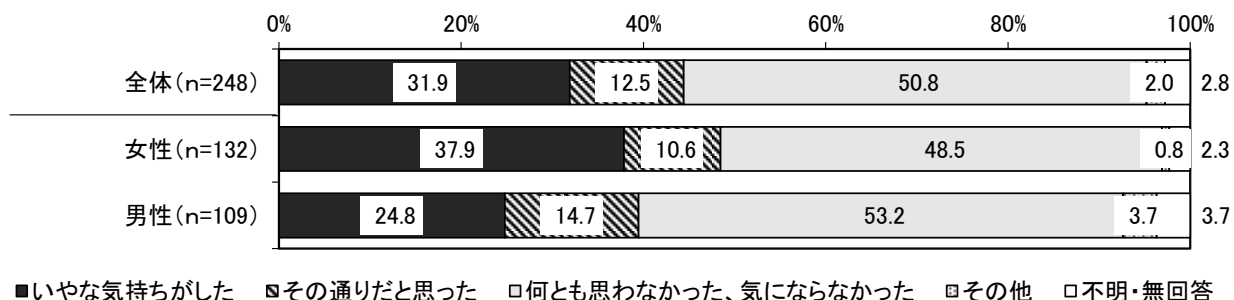


問3で「よく言われる」または「ときどきいわれる」と答えた方

問3-3 「女の子だから～しなさい (しちゃダメ)」 「男の子だから～しなさい (しちゃダメ)」 のように言われた時、どんな気持ちがしましたか。(1つに○)

言われた時の気持ちは、全体で「何とも思わなかった、気にならなかった」が50.8%と最も高く、次いで「いやな気持ちでした」が31.9%、「その通りだと思った」が12.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「何とも思わなかった、気にならなかった」が最も高く、女性で48.5%、男性で53.2%となっています。また、女性は男性に比べて「いやな気持ちでした」が高くなっています。

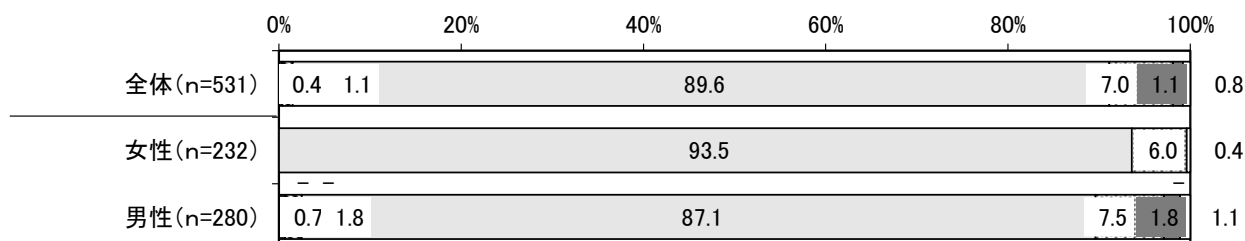


問4 次の家族の役割について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

A 家事（掃除や洗濯、料理など）（1つに○）

家事（掃除や洗濯、料理など）に対する家族の役割についての考えは、全体で「男女ともに協力して行うべき」が89.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性がした方がよい」が7.0%、「どちらかといえば男性がした方がよい」「主に女性がした方がよい」が1.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女ともに協力して行うべき」が最も高く、女性で93.5%、男性で87.1%となっています。



- ☒ 主に男性がした方がよい
 ☒ どちらかといえば男性がした方がよい
 ☐ 男女ともに協力して行うべき
☒ どちらかといえば女性がした方がよい
 ☒ 主に女性がした方がよい
 ☐ 不明・無回答

B 子育てや子どものお世話（1つに○）

子育てや子どものお世話に対する家族の役割についての考えは、全体で「男女ともに協力して行うべき」が88.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性がした方がよい」が8.5%、「主に女性がした方がよい」が0.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女ともに協力して行うべき」が最も高く、女性で92.2%、男性で85.7%となっています。

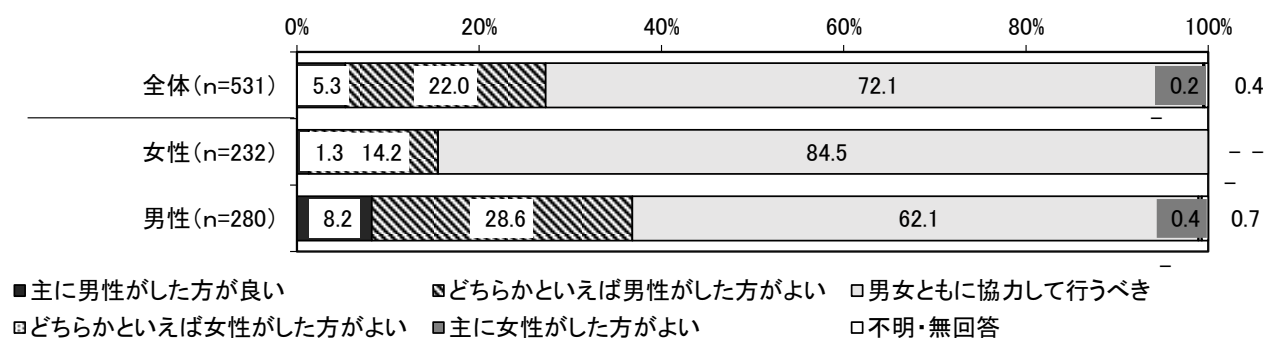


- ☒ 主に男性がした方がよい
 ☒ どちらかといえば男性がした方がよい
 ☐ 男女ともに協力して行うべき
☒ どちらかといえば女性がした方がよい
 ☒ 主に女性がした方がよい
 ☐ 不明・無回答

C 家族のために働いて生活費を得ること（1つに○）

家族のために働いて生活費を得ることに対する家族の役割についての考えは、全体で「男女ともに協力して行うべき」が72.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性がした方がよい」が22.0%、「主に男性がした方がよい」が5.3%となっています。

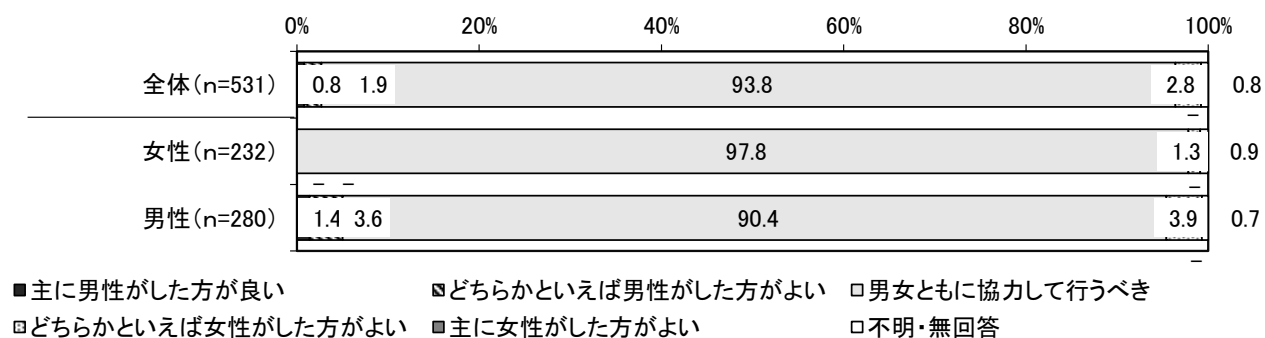
性別にみると、男女ともに「男女ともに協力して行うべき」が最も高く、女性で84.5%、男性で62.1%となっています。また、女性は男性に比べて「男女ともに協力して行うべき」が高く、男性は女性に比べて「どちらかといえば男性がした方がよい」が高くなっています。



D 祖父や祖母等の家族の介護（1つに○）

祖父や祖母等の家族の介護に対する家族の役割についての考えは、全体で「男女ともに協力して行うべき」が93.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性がした方がよい」が2.8%、「どちらかといえば男性がした方がよい」が1.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女ともに協力して行うべき」が最も高く、女性で97.8%、男性で90.4%となっています。

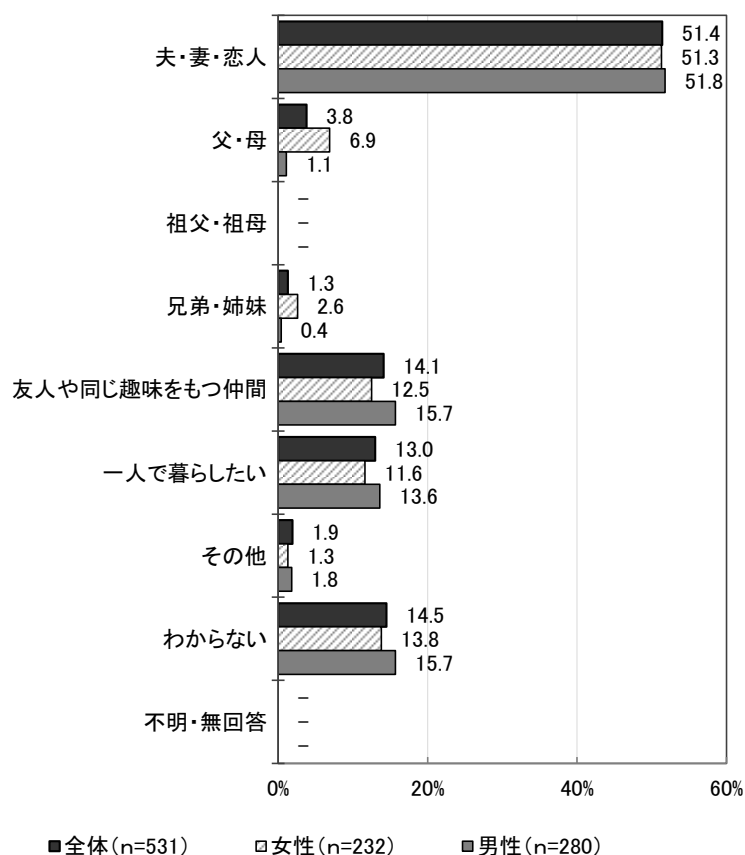


3 将来に関すること

問5 あなたは、将来誰と一緒に生活したいですか。(最も希望する項目1つに○)

将来誰と一緒に生活したいかは、全体で「夫・妻・恋人」が51.4%と最も高く、次いで「わからない」が14.5%、「友人や同じ趣味をもつ仲間」が14.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「夫・妻・恋人」が最も高く、女性で51.3%、男性で51.8%となっています。

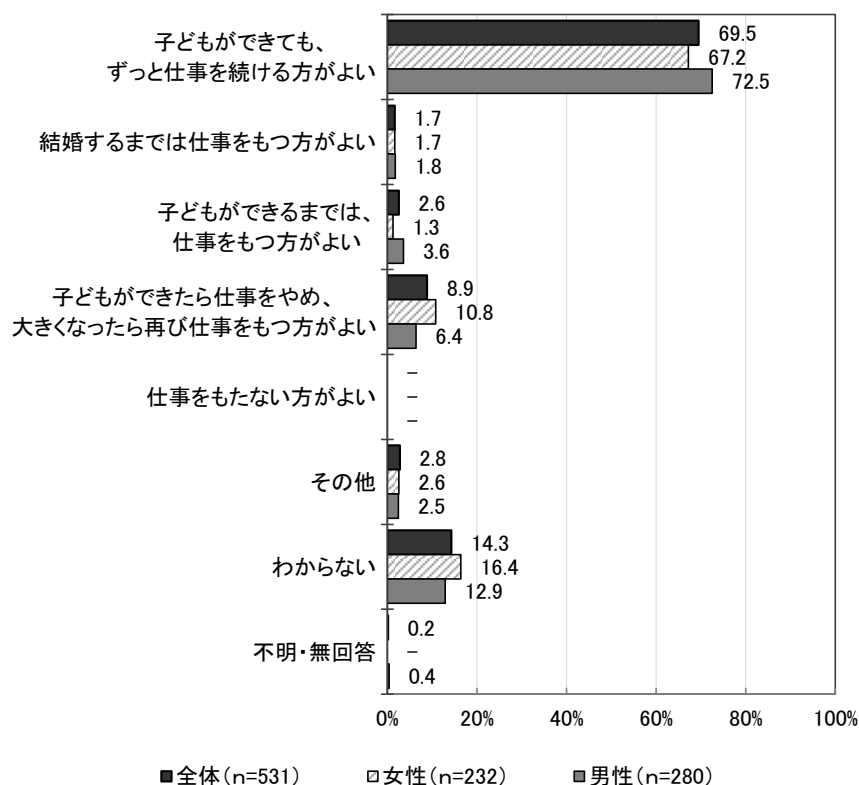


問6 男性・女性が仕事をもつことについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

【男性が仕事を持つことについて】（1つに○）

男性が仕事を持つことについての考えは、全体で「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が69.5%と最も高く、次いで「わからない」が14.3%、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が8.9%となっています。

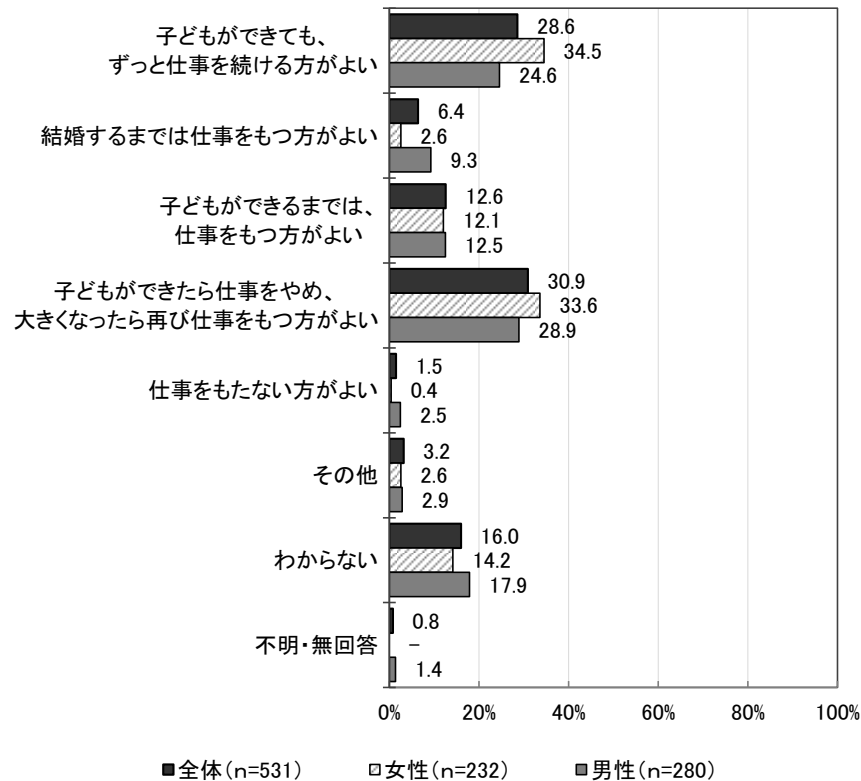
性別にみると、男女ともに「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が最も高く、女性で67.2%、男性で72.5%となっています。



【女性が仕事をもつことについて】（1つに○）

女性が仕事を持つことについての考えは、全体で「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が30.9%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が28.6%、「わからない」が16.0%となっています。

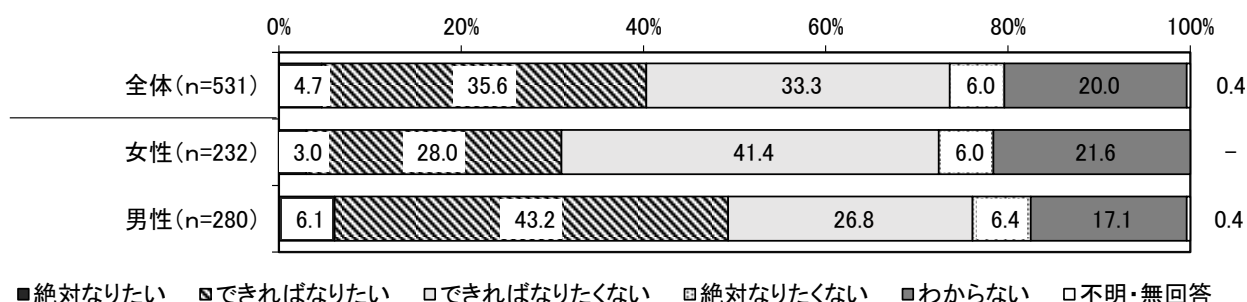
性別にみると、女性では「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が34.5%、男性では「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が28.9%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が高くなっています。



問7 あなたは、将来、仕事でリーダーを任されたり管理職（部下をまとめたり、会社内全体のことはあくしたりする人）になりたいと思いますか。（1つに○）

将来、仕事でリーダーを任されたり管理職になりたいと思うかは、全体で「できればなりたい」が35.6%と最も高く、次いで「できればなりたくない」が33.3%、「わからない」が20.0%となっています。

性別にみると、女性では「できればなりたくない」が41.4%、男性では「できればなりたい」が43.2%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「できればなりたくない」が高く、「できればなりたい」が低くなっています。



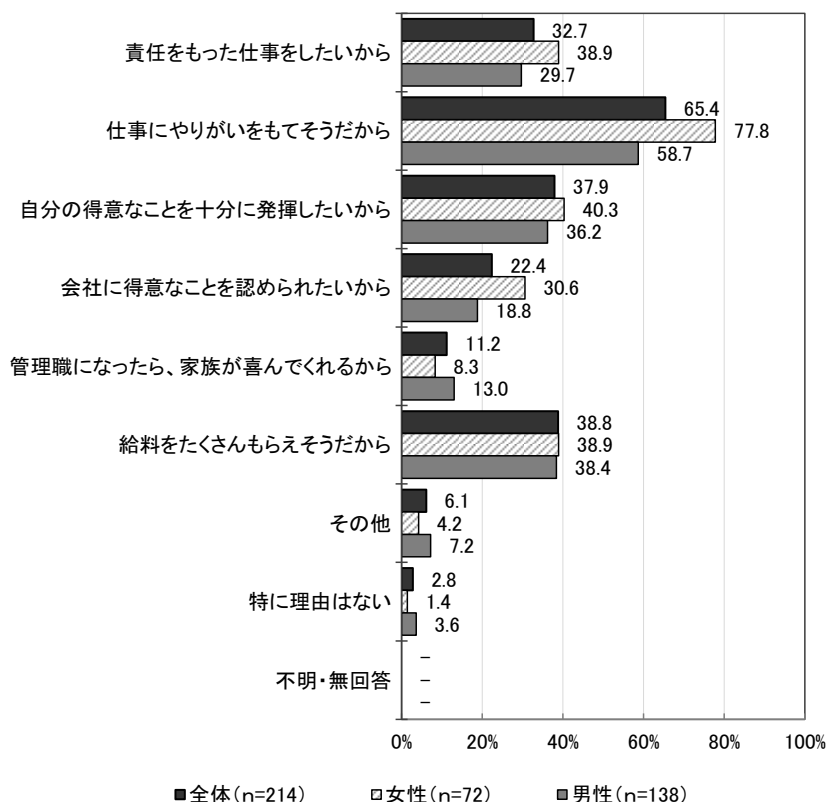
問7で「絶対なりたい」または「できればなりたい」と答えた方

問7-1 リーダーを任されたり管理職になりたいと思う理由はどれですか。

（あてはまるものすべてに○）

リーダーを任されたり管理職になりたいと思う理由は、全体で「仕事にやりがいをもてそうだから」が65.4%と最も高く、次いで「給料をたくさんもらえそうだから」が38.8%、「自分の得意なことを十分に発揮したいから」が37.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「仕事にやりがいをもてそうだから」が最も高く、女性で77.8%、男性で58.7%となっています。また、女性は男性に比べて「仕事にやりがいをもてそうだから」「会社に得意なことを認められたいから」が高くなっています。

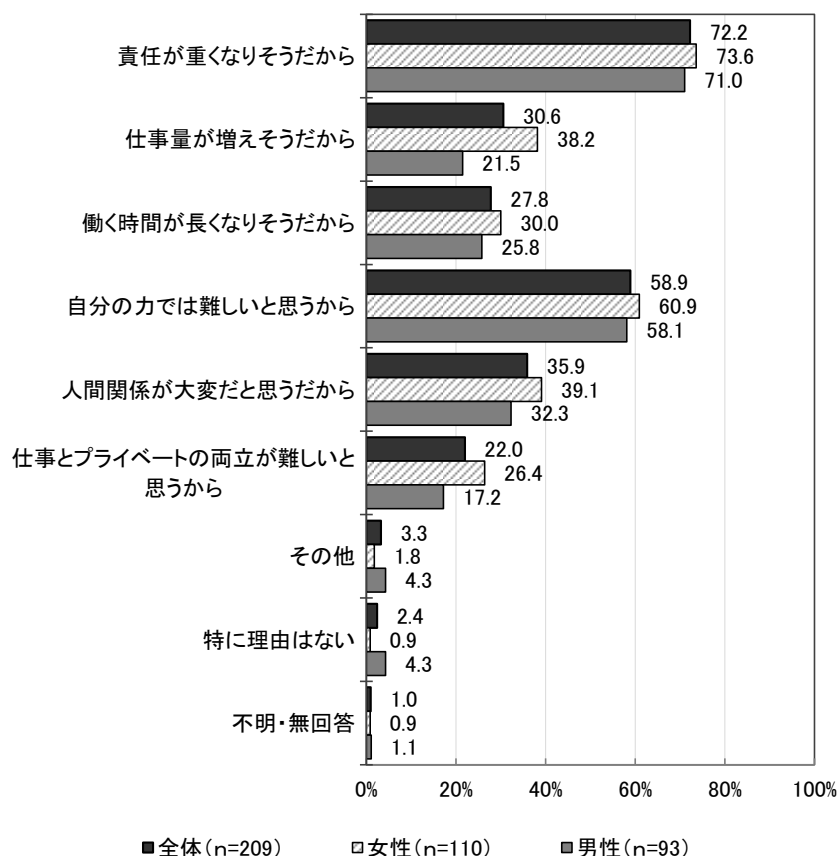


問7で「できればなりたくない」または「絶対なりたくない」と答えた方

問7-2 リーダーや管理職になりたくないと思う理由はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

リーダーや管理職になりたくないと思う理由は、全体で「責任が重くなりそうだから」が72.2%と最も高く、次いで「自分の力では難しいと思うから」が58.9%、「人間関係が大変だと思うだから」が35.9%となっています。

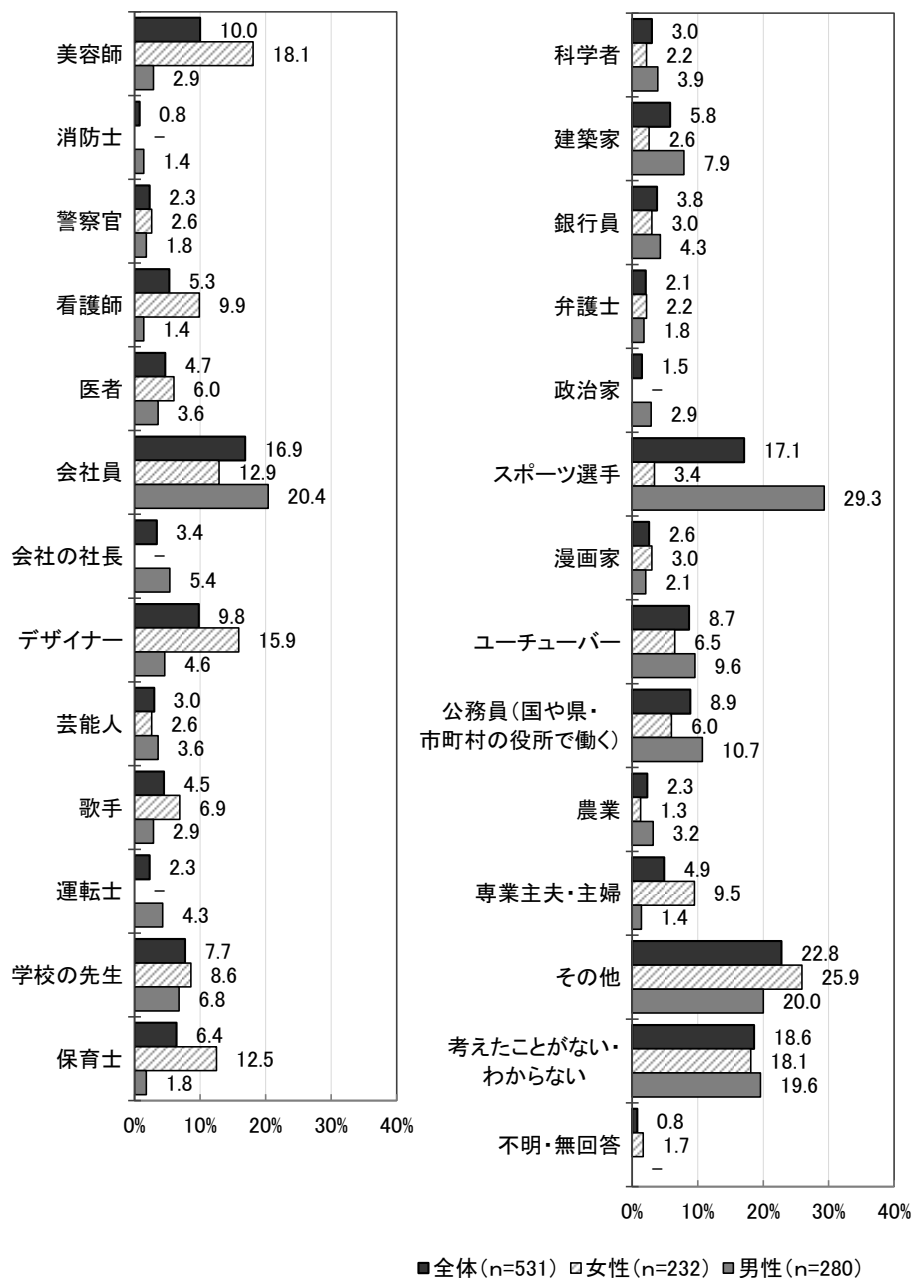
性別にみると、男女ともに「責任が重くなりそうだから」が最も高く、女性で73.6%、男性で71.0%となっています。また、女性は男性に比べて「仕事量が増えそうだから」が高くなっています。



問8 あなたが将来なりたいと思う職業は何ですか。(3つまで○)

将来なりたいと思う職業は、全体で「考えたことがない・わからない」が18.6%と最も高く、次いで「スポーツ選手」が17.1%、「会社員」が16.9%となっています。

性別にみると、女性では「美容師」「考えたことがない・わからない」が18.1%、男性では「スポーツ選手」が29.3%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「美容師」「デザイナー」が高く、男性は女性に比べて「スポーツ選手」が高くなっています。



●「その他」の主な回答

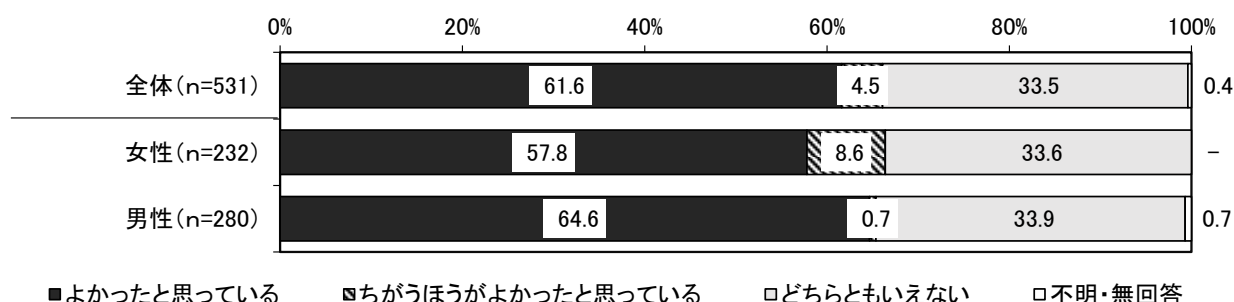
動物に関わる仕事（獣医師、動物園飼育員、飼育員等）
メイクアップアーティスト、ネイリスト
スポーツ関連の仕事（スポーツショップ、コーチ、指導者等）
飲食関係（飲食業、バーテンダー、ショコラティエ、カフェの店員等）
ゲームクリエイター
ディズニーキャスト

4 性別や心の性に関すること

問9 あなたは、自分が男子または女子に生まれたことをどう思いますか。(1つに○)

自分が男子または女子に生まれたことをどう思うかは、全体で「よかったと思っている」が61.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が33.5%、「ちがうほうがよかったと思っている」が4.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「よかったと思っている」が最も高く、女性で57.8%、男性で64.6%となっています。



問10 問9のように思った理由はなんですか。(自由記述)

●主な意見

【「よかったと思っている」と答えた方】 (213件)

今の生活が楽しいから
男子特有のノリみたいなのが楽しいから
女の子にしかわからない事が楽しく思えるから
友達や人間関係が楽しいから
生まれ持った体や性格に満足しているから

【「ちがうほうがよかったと思っている」と答えた方】 (15件)

面倒臭いことが多いから
女のせいで、勉強や友達関係に悩んでいるから。男の方が優遇されやすいから。
人間関係が上手く成り立たないときがあるから。
女子なんだからと言われるのが辛いから
違和感があるから

【「どちらともいえない」と答えた方】 (113件)

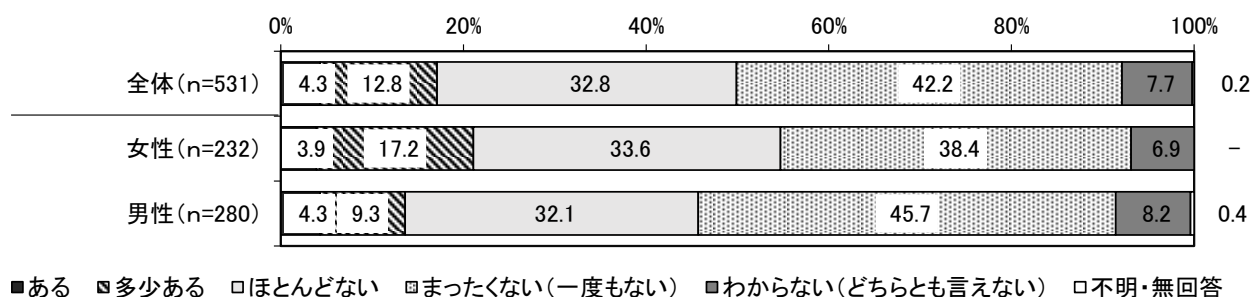
男女どちらも不便なことがあるから
どっちに生まれてもほぼ変わらないから
男性には男性の、女性には女性のいい所があるから
今の性別だと違う性別のことが分からないから
自分の性別はあまり気にしたことがないから

問11 あなたは、自分の身体の性別や心の性について悩んだりしたことはありますか。

(1つに○) [共通設問：一般市民調査…問15]

自分の身体の性別や心の性について悩んだ経験は、全体で「まったくない(一度もない)」が42.2%と最も高く、次いで「ほとんどない」が32.8%、「多少ある」が12.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「まったくない(一度もない)」が最も高く、女性で38.4%、男性で45.7%となっています。

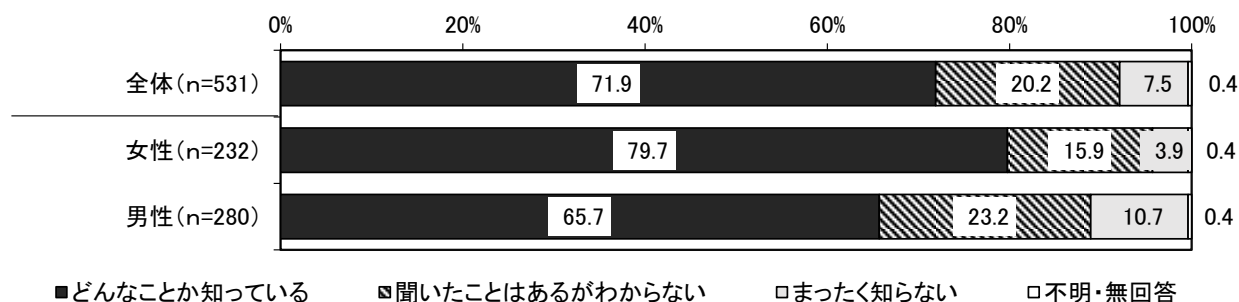


5 デートDVに関すること

問 12 あなたは、「DV」を知っていますか。(1つに○)

「DV」の認知状況は、全体で「どんなことか知っている」が71.9%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがわからない」が20.2%、「まったく知らない」が7.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんなことか知っている」が最も高く、女性で79.7%、男性で65.7%となっています。また、女性は男性に比べて「どんなことか知っている」が高くなっています。



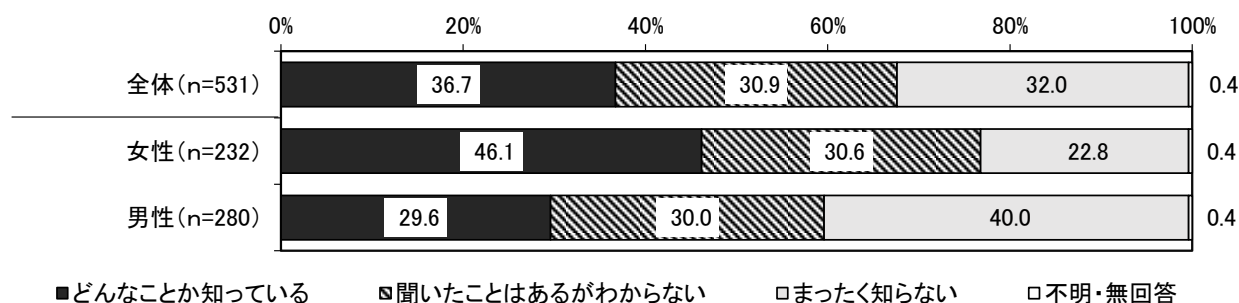
◆DVとは

配偶者（夫・妻）や親密な関係にある、もしくはあった者から振るわれる暴力のことで、なぐる、けるといった身体的な暴力だけでなく、言葉や態度、行動の制限なども含まれる

問 13 あなたは、「デートDV」を知っていますか。(1つに○) [共通設問：一般市民調査…問9 K]

「デートDV」の認知状況は、全体で「どんなことか知っている」が36.7%と最も高く、次いで「まったく知らない」が32.0%、「聞いたことはあるがわからない」が30.9%となっています。

性別にみると、女性では「どんなことか知っている」が46.1%、男性では「まったく知らない」が40.0%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「どんなことか知っている」が高く、男性は女性に比べて「まったく知らない」が高くなっています。



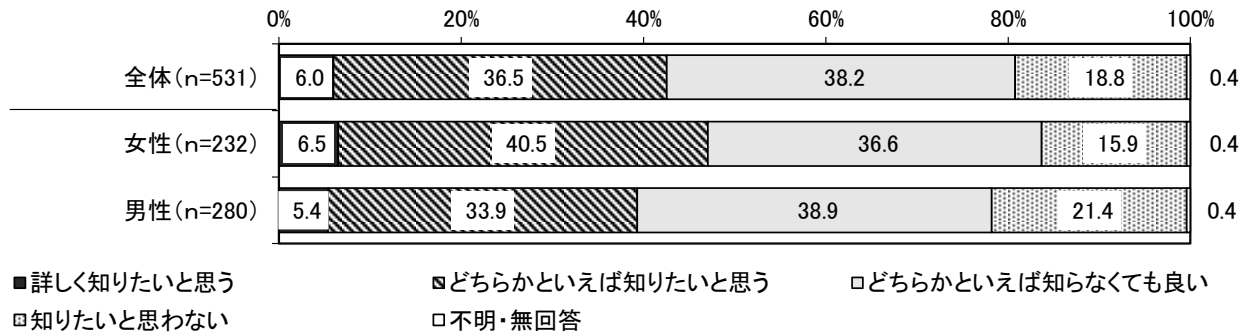
◆デートDVとは

恋人同士の間で起こるDV（暴力）のこと

問 14 デートDVについて詳しく知りたいと思いますか。(1つに○)

デートDVについて詳しく知りたいかは、全体で「どちらかといえば知らなくても良い」が38.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば知りたいと思う」が36.5%、「知りたいと思わない」が18.8%となっています。

性別にみると、女性では「どちらかといえば知りたいと思う」が40.5%、男性では「どちらかといえば知らなくても良い」が38.9%で最も高くなっています。

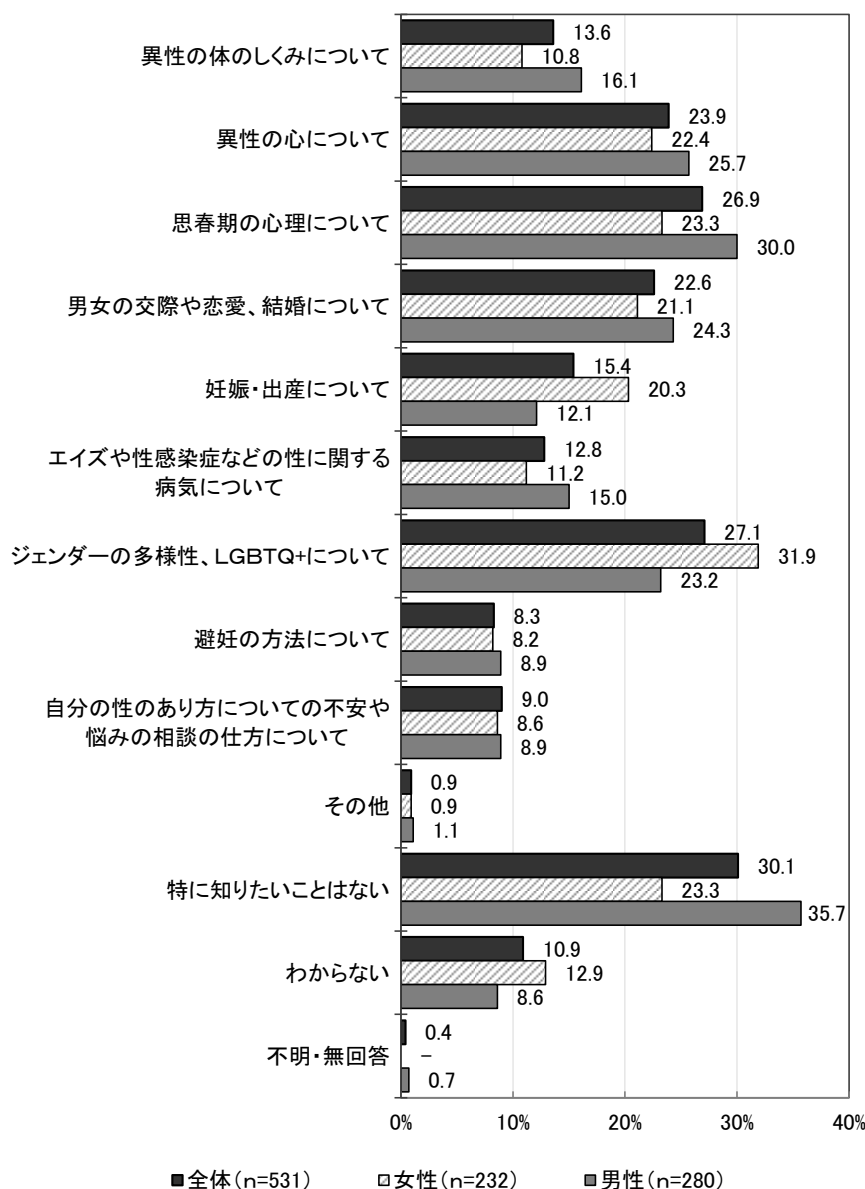


6 性教育に関すること

問 15 あなたが、体や心について、学んでいきたいことは何ですか。(いくつでも○)

体や心について、学んでいきたいことは、全体で「特に知りたいことはない」が30.1%と最も高く、次いで「ジェンダーの多様性、LGBTQ+について」が27.1%、「思春期の心理について」が26.9%となっています。

性別にみると、女性では「ジェンダーの多様性、LGBTQ+について」が31.9%、男性では「特に知りたいことはない」が35.7%で最も高くなっています。また、男性は女性に比べて「特に知りたいことはない」が高くなっています。



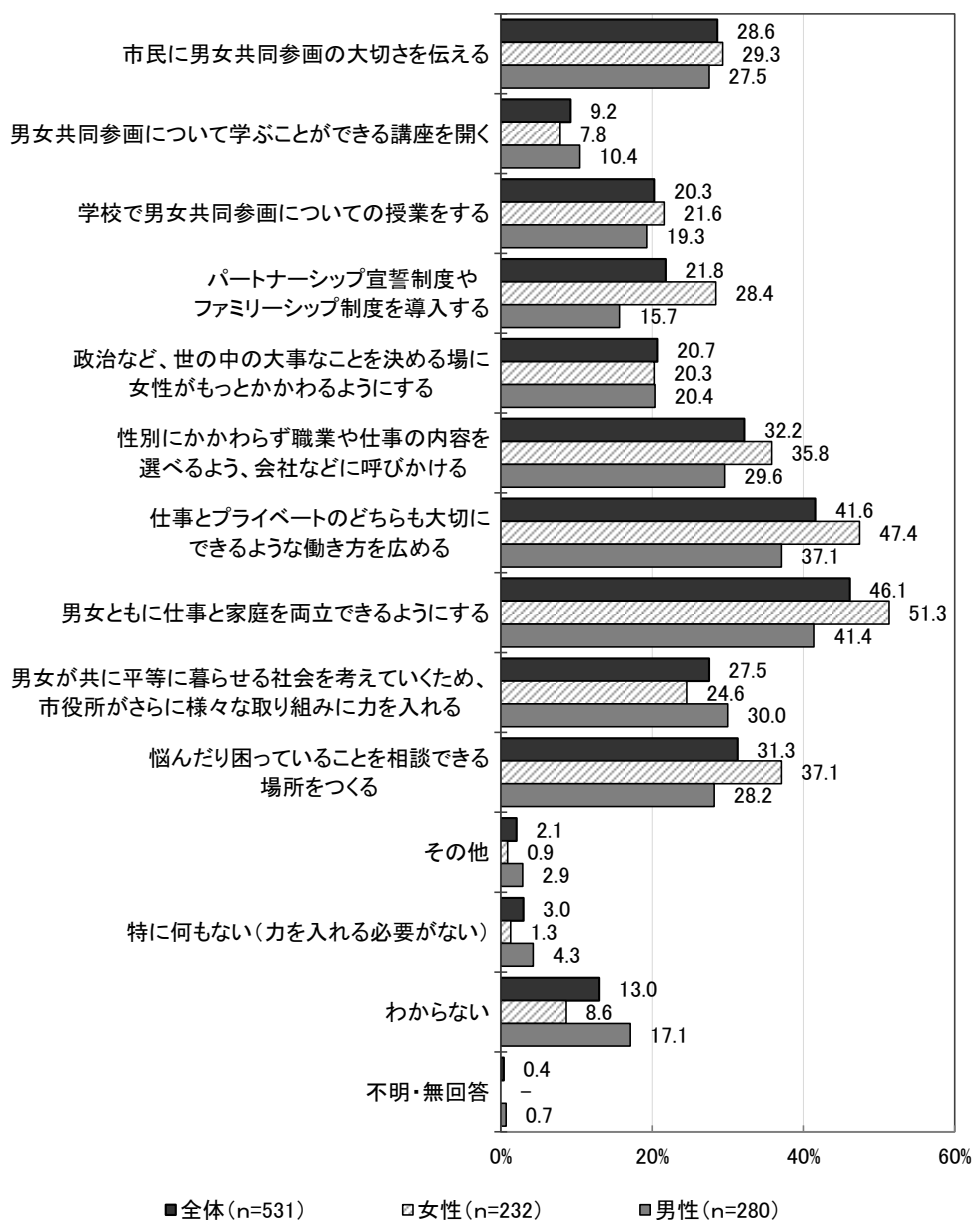
7 白井市が取り組むべきこと

問 16 あなたは、性別にかかわらず、誰もが自分らしく輝けるまちにするために、白井市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。（5つまで選ぶ）

〔共通設問：一般市民調査…問 24，市内在勤者調査…問 23〕

性別にかかわらず、誰もが自分らしく輝けるまちにするために、市が特に力を入れて取り組むべきだと思うことは、全体で「男女ともに仕事と家庭を両立できるようにする」が46.1%と最も高く、次いで「仕事とプライベートのどちらも大切にできるような働き方を広める」が41.6%、「性別にかかわらず職業や仕事の内容を選べるよう、会社などに呼びかける」が32.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女ともに仕事と家庭を両立できるようにする」が最も高く、女性で51.3%、男性で41.4%となっています。また、女性は男性に比べて「パートナーシップ宣誓制度やファミリーシップ制度を導入する」「仕事とプライベートのどちらも大切にできるような働き方を広める」「男女ともに仕事と家庭を両立できる環境をつくる」が高くなっています。



Ⅰ 一般市民調査 調査票

白井市男女共同参画に関する住民意識調査
ご協力をお願い

白井市では、男女共同参画に関する計画の見直しを行うにあたり、市民の皆様のご意見やニーズを伺うため、アンケート調査を実施いたします。
この調査の集計結果をもとに、性別に縛られず誰もが自分らしく輝ける市の実現を目指していきたいと考えております。

調査の趣旨にご理解いただき、本調査にご協力をお願いいたします。

令和6年11月

白井市長 笠井 喜久雄

あなたの声で、白井市の未来をよりよく！

12月6日(金)までに、ご回答をお願いします。
回答に要する時間は15分程度です。

▼インターネットで回答する場合

QRコードまたはURLから回答フォームにアクセスしてください。
※途中保存はできませんので、お時間の余裕がある際にご回答ください。
https://questant.jp/q/shiroi-danjo-shimin_2024

▼紙の調査票で回答する場合

- ① 本調査票に回答を直接ご記入ください。
② 同封の返信用封筒(切手不要)に入れてポストにご投函ください。
※差出人の名前を書く必要はありません。

■回答はあてはまる番号を○で囲んでください。質問によって、1つだけ○をつけるものと、複数に○をつけるものがあります。また、「その他()」に該当する場合は、()の中に具体的に記入してください。

■この調査は、住民基本台帳から無作為抽出した白井市在住の満18歳以上(令和6年10月1日現在)の方 2,000 人を対象にご協力をお願いするものです。回答の内容は統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。

問い合わせ先

白井市役所 市民環境経済部 市民活動支援課 市民活動支援係
電話:047-401-4078 FAX:047-491-3551



Ⅰ 家庭生活について

問1 あなたが理想とする男女の役割分担に、最も近いものはどれですか。また、現在のご家庭の状況(一人暮らしの人は、これまでの家庭での状況)に、最も近いものはどれですか。※家事には、育児・介護を含みます。(A～Bについて、それぞれ選択肢1～7から1つずつ○)

	家事全般をする男性が働き、女性が家事全般をする	家事全般をする女性が働き、男性が家事全般をする	男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする	男性女性が共に働き、家事全般は主として男性がする	女性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする	男性女性が共に働き、家事全般は主として男性がする	女性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする	特に関心のある人があること	わからない
A 理想は	1	2	3	4	5	6	7		
B 現実	1	2	3	4	5	6	7		

2 仕事について

問2 あなたは、収入の得られる仕事や、家庭内における家事(育児・介護を含む)などに1日平均どのくらい時間をあてていますか。(A～Cについて、それぞれ選択肢1～7から1つずつ○)

	8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどしない
A 収入の得られる仕事	1	2	3	4	5	6	7
B 家庭内の家事(育児・介護を含む)など【平日】	1	2	3	4	5	6	7
C 家庭内の家事(育児・介護を含む)など【休日】	1	2	3	4	5	6	7

※問2「A 収入の得られる仕事」で「7 していない、ほとんどしない」と答えた方にうかがいます。

問2-1 あなたは、今後仕事をしたいと思いますか。(1つに○)

1. 常勤で働きたい	2. パート・アルバイトで働きたい
3. 自分で事業をはじめたい	4. 家の仕事(家業)を手伝いたい
5. したいができないと思う	6. 働きたいと思わない

※問2「A 収入の得られる仕事」で「1」～「6」と答えた方にうかがいます。

問2-2 今どのような形で働いていますか。(1つに○)

1. 事業主
2. 正規社員
3. 非正規社員（嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど）
4. 家族従事者（家業の店や農業などに従事）
5. その他（ ）

問2-3 あなたの在宅勤務（テレワーク）の実施状況はどれですか。※直近3か月（令和6年8月～10月）を想定してお答えください。(1つに○)

1. 週に4日以上
2. 週に3日程度
3. 週に1～2日程度
4. 月に1～2日程度
5. それ以下の頻度
6. テレワークをしていない、できない
7. その他（ ）

問2-4 あなたの育児・介護に関するいずれかの休暇制度の取得状況はどれですか。(1つに○)

1. 取得した・取得中である・取得予定である
2. 制度はあるが、取得したことはない
3. 制度について知らなかった
4. 該当しない（子ども、介護が必要な親族はいない）
5. その他（ ）

問2-5 あなたの職場では、社員（職員）が有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。(1つに○)

1. 取りやすい
2. どちらかといえば取りやすい
3. どちらかと言え取りにくい
4. 取りにくい
5. わからない

問2-6 あなたは、管理職以上に昇進したいと思いますか。(1つに○)

1. 積極的に昇進したい ⇒問3へ
2. 機会があれば昇進したい ⇒問3へ
3. あまり昇進したくない
4. 昇進したくない ⇒問3へ
5. 既に管理職以上である ⇒問3へ
6. わからない ⇒問3へ

※問2-6で「3」～「4」と答えた方にうかがいます。

問2-6-1 昇進したくないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自分自身で決定する事柄が多くなるから
2. やるべき仕事が増えるから
3. 責任が重くなるから
4. ねたみや嫉妬で足を引っ張られるから
5. 仕事と家庭生活の両立が困難になるから
6. その他（ ）
7. 特に理由はない
8. わからない

3

※ここからは全員がお答えください。

問3 女性の働き方についてあなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。(1つに○)

1. 結婚する、しないにかかわらず、女性は働きに出ないで家にいた方がよい
2. 出産や育児を機に退職して家事や育児に専念した方がよい
3. 家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい
4. 出産や育児にかかわらず、仕事を続けたい方がよい
5. 必要に応じて、臨時にパートやアルバイトをするのがよい
6. その他（ ）
7. わからない

問4 育児や介護があっても仕事を継続できるようにするにはどのような援助や対策が望まれると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること
2. 育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと
3. 配偶や仕事の内容に他の従業員と差を設けないこと
4. 待遇（給与、昇進）に他の従業員と差がないようにすること
5. 育児・介護を行う社員の雇用機会や採用数を同等にすること
6. 保育・介護施設や保育・介護制度が充実していること
7. 病人や高齢者の世話が家族の誰か一人に任せられないようにすること
8. 出産や育児、介護を機に家族のうち誰かが仕事を辞めることのないようにすること
9. 育児休業や介護休業等が取りやすいこと
10. その他（ ）
11. わからない



4

3 ワーク・ライフ・バランスについて

※問2「A 収入の得られる仕事」で「1」～「6」と答えた方にうかがいます。

問5 生活の中での、仕事・家事（育児・介護を含む）・プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度について、「理想」と「現実」のそれぞれの視点で、あなたの考えや現状に最も近いものはどれですか。(A～Bについて、それぞれ選択肢1～8から1つずつ○)

	仕事優先	家事優先	プライベート優先	優先順位不明	仕事と家事を両立	仕事とプライベートを両立	家事とプライベートを両立	わからない
A理想は	1	2	3	4	5	6	7	8
B現実	1	2	3	4	5	6	7	8

問6 あなたにとって、仕事・家事（育児・介護を含む）・プライベートな時間のバランスは、うまくとれていると思いますか。(1つに○)

1. うまくとれている ⇒問7へ
2. ややとれている ⇒問7へ
3. あまりとれていない
4. まったくとれていない
5. わからない

※問6で「3」～「4」と答えた方にうかがいます。

問6-1 仕事・家事（育児・介護を含む）・プライベートな時間のバランスがうまくとれていない理由は何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. うまく時間配分ができないから
2. プライベートな時間に必要以上に時間を費やしてしまうから
3. 家族の理解や協力が得られないから
4. 職場の理解や協力が得られないから
5. 世間に、「男性は仕事、女性は家庭」という風潮や固定観念があると感じるから
6. 家事、育児、介護等をしなければならぬから
7. 子どもを預ける場所がなかったり、不足したりしているから
8. 生活のため、仕事（収入）を優先せざるを得ないから
9. 仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間が足りないから
10. 近くにスポーツ・文化施設が少ないから
11. 社会制度や環境が整っていないから
12. その他（ ）
13. わからない

5

4 男女共同参画に関する意識について

※ここからは全員がお答えください。

問7 次の各項目で、男女は対等な立場にあると思いますか、お考えに最も近い段階を選んでください。(A～Hについて、それぞれ選択肢1～5から1つずつ○)

	男性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	対等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
A 学校教育の場	1	2	3	4	5	6	
B 地域活動の場（自治会、ボランティア等）	1	2	3	4	5	6	
C 家庭生活	1	2	3	4	5	6	
D 職場	1	2	3	4	5	6	
E 社会通念・慣習など	1	2	3	4	5	6	
F 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6	
G 政治の場	1	2	3	4	5	6	
H 全体として今の日本では	1	2	3	4	5	6	

問8 男女平等をいっそう進めるため、日ごろから心がけていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 「男性は仕事、女性は家庭」と、性別によって役割を決めつけない
2. 家事や育児、介護などを、男女で協力し合う
3. 自ら収入を得て、身の回りのことは自分で行う
4. 男の子、女の子を差別しない子育て・教育をする
5. 社会のいろいろな出来事に目を向けるようにする
6. 政治経済や社会情勢に目を向ける
7. 「男らしく」「女らしく」というような押しつけをしない
8. 性別を気にせず、自分の個性や好み合った服装や髪型を選ぶ
9. その他（ ）
10. 特に何もなし



6

問9 次のA～Lの言葉を知っていますか。それぞれの言葉について最も近い段階を選んでください。(A～Lについて、それぞれ選択肢1～3から1つずつ○)

	よく知っている	聞いたことはある	知らない
A 女子差別撤廃条約	1	2	3
B 育児・介護休業法	1	2	3
C 男女共同参画社会	1	2	3
D 刑法の性犯罪規定の改正	1	2	3
E ジェンダー	1	2	3
F LGBTQ+	1	2	3
G リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3
H ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
I ポジティブ・アクション	1	2	3
J アンコンシャス・バイアス	1	2	3
K デートDV	1	2	3
L 生理の貧困	1	2	3

◆刑法の性犯罪規定の改正（令和5年7月13日施行）について
強制・準強制性交罪を「不同意性交罪」に一本化し、「不同意性交罪」の要件を「同意しない意思を形成、表明、もしくは全うすることが難しい状態」と定めたほか、性交同意年齢の見直し（原則13歳から16歳への引き上げ）等が盛り込まれています。

◆リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康・権利）とは
生殖に関する「健康」と「権利」のことです。「健康」としては、安全で満足できる性生活、安全な出産等が、「権利」としては、避妊・妊娠・中絶・出産の過程において、自ら「いつ」「何人」「子どもを産むか、産まないか」を決定する自由、性・生殖に関する適切な情報とサービスを得られる権利等が挙げられます。

◆ポジティブ・アクション（積極的改善措置）とは
家庭、職場、学校、地域その他の社会のあらゆる分野における活動に参画する機会に係る男女間の格差を改善するための必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、その機会を積極的に提供することです。

◆アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）とは
固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みのことです。
例）「性別」で任せる仕事や、役割を決めていることがある
男性から育児や介護休暇の申請があると、「奥さんは？」と唯唯に思う
「親が単身赴任中です」と聞くと、まずは「父親」を思い浮かべる

7

問10 次のA～Cの言葉を知っていますか。それぞれの言葉について最も近い段階を選んでください。(A～Cについて、それぞれ選択肢1～3から1つずつ○)

	よく知っている	聞いたことはある	知らない
A 白井市男女平等推進行動計画	1	2	3
B 女性生き生き相談（白井市）	1	2	3
C 青少年女性センター（白井市）	1	2	3

5 ハラスメントやドメスティック・バイオレンス（DV）について

問11 これまで、ハラスメントを受けた経験がありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）	2. パワー・ハラスメント（パワハラ）
3. マタニティ・ハラスメント（マタハラ）	4. パタニティ・ハラスメント（パタハラ）
5. モラル・ハラスメント（モラハラ）	6. 性的指向や性自認に関するハラスメント（SOGIハラ）
7. その他（ ）	8. ハラスメントを受けたことはない

◆マタニティ（パタニティ）・ハラスメントとは
働く女性が「パタニティ」については配偶者等の妊娠・出産をきっかけに職場で精神的・肉体的な嫌がらせを受けたり、不当な扱いを受けたりすること

問12 これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などのパートナーから、次にあげるA～Dのような経験がありますか。（A～Dについて、それぞれ選択肢1～4から1つずつ○）

	したことがある	されたことがある	したことも、されたことも両方ある	したことも、されたことも両方ない
A 身体的暴力	1	2	3	4
B 精神的暴力	1	2	3	4
C 性的強要	1	2	3	4
D 経済的圧迫	1	2	3	4

⇒問13へ

◇身体的暴力 ぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど
人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など
◇性的強要 いやがっているのに、性的な行為を強要される、見たくないのにポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど
◇経済的圧迫 生活費を渡されない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど

8

※問12で「1」「3」と1つでも答えた方にうかがいます。

問12-1 そのとき、だれ、もしくはどこに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

1. 市役所の相談窓口（女性生き生き相談、特設人権相談所、家庭児童相談室、こころの健康相談など）	2. 千葉県相談窓口（女性サポートセンター、男女共同参画センター、児童相談所など）
3. 警察	4. 法務局
5. 民生委員・児童委員	6. 法律関係者（弁護士など）
7. 医療関係者（医師、看護師、保健師など）	8. 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）
9. 民間の相談機関（民間シェルター・カウンセリング機関等）	10. 家族や親戚
11. 友人・知人	12. その他（ ）
13. どこ（だれ）にも相談しなかった	⇒問12-3へ

※問12-1で「1」「2」と答えた方にうかがいます。

問12-2 相談した際の手段は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 対面での相談	2. 電話での相談
3. メールでの相談	4. チャット、SNSでの相談
5. その他（ ）	

※問12-1で「13」どこ（だれ）にも相談しなかったと答えた方にうかがいます。

問12-3 どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- どこ（だれ）に相談してよいかわからなかった
- 相談窓口があるのを知らなかった
- SNSなどで相談したかったが、そのような窓口がなかった
- 恥ずかしくて誰にも言えなかった
- 相談しても無駄だと思った
- 相談するほどのことではないと思った
- 相談したことがわかったと、仕返しをされたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思った
- 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思った
- 相談したことが原因で別れたら、生活できないと思った
- 自分に悪いところがあると思った
- その他（ ）
- 特に理由はない
- わからない

9

※ここからは全員がお答えください。

問13 あなたは、配偶者やパートナーからの暴力についてどのようにお考えですか。（1つに○）

1. 100%加害者に責任があり、許せないものである
2. 加害者の責任はもちろんだが、つい手が出てしまうという気持ちもある
3. 加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う
4. 双方の関係の問題であり、周りがとやかく言うべきではない
5. その他（ ）
6. わからない

問14 あなたは、配偶者やパートナーからの暴力を防止するために、特に必要だと思うことは何ですか。（3つまで○）

1. 法律・制度の制定や見直しを行う
2. 犯罪の取り締まりを強化する
3. 被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる
4. 被害者のための相談機関や保護施設を整備する
5. 加害者のための教育機関や相談窓口を整備する
6. 家庭における男女平等についての教育を充実させる
7. 学校における男女平等についての教育を充実させる
8. メディアが自主的取組を強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする
9. 過激な暴力表現を扱った映像、ゲームソフト等の販売、貸出や配信を制限する
10. その他（ ）
11. わからない

6 性と生殖に関する健康・権利について

問15 あなたは、自分の身体の性別や心の性について悩んだりしたことはありますか。（1つに○）

1. ある	2. 多少ある	3. ほとんどない
4. まったくない（一度もない）	5. わからない（どちらとも言えない）	

問16 あなたは、女性の生涯にわたる健康を守るために、性や妊娠・出産に関して女性自身で決めるうえで、特に何が重要だと思いますか。（2つまで○）

1. 子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育
2. 性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実
3. 喫煙や薬物など、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実
4. 性感染症（HIV、カンジダ症、クラミジア感染症など）についての情報提供・相談体制の充実
5. 更年期についての情報提供・相談体制の充実
6. その他（ ）
7. わからない

10

7 子育てや小中学校での教育について

問17 学校教育の中で男女平等の意識を深めるためには、特に何が大切だと思いますか。(3つまで○)

1. 男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける
2. 男性女性が共に、経済的に自立できるような職業訓練や進路指導を受けられるようにする
3. 相手へのいたりや理解が増すような性教育をする
4. 性差別や人種差別などに問題意識を持たせる
5. 国際交流や交換留学を活かし、他国の事例や価値観を学ばせる
6. 教職員への男女平等研修を充実する
7. 保護者会や講演会を通して、保護者への男女平等への理解を深めてもらう
8. その他 ()
9. 今のままでいい
10. わからない

問18 今の子どもたちには、男女平等の意識がどの程度浸透していると思いますか。(1つに○)

1. 十分浸透している
2. ある程度浸透している
3. あまり浸透していない → 問19へ
4. 浸透していない → 問19へ
5. わからない

→ 問18で「1」～「2」と答えた方にうかがいます。

問18-1 浸透していると思う主な理由は、何ですか。(3つまで○)

1. 技術科・家庭科を男女が共に学ぶようになるなど、授業で男女の不要な区別がなくなったから
2. 学校の先生の接し方(名前の呼びかたなど)が変わったから
3. 混合名簿の採用で男子を上位とする風潮がなくなったから
4. 共働きが浸透したり、地域活動に男女関係なく参加したりするなど、親の意識が変わったから
5. 父親も家事・育児に参加するなど、父親の生き方や意識が変わったから
6. テレビやインターネット等で、性別にとらわれず自分らしく生きる男女の情報が提供されるから
7. 国・自治体の啓発が浸透しているから
8. 歳長・部長・生徒会役員など、生徒の中の役員を男女が平等に担うようになったから
9. 国際化の浸透で、海外の男女平等の在り方が影響しているから
10. その他 ()
11. 特に理由はない
12. わからない

11

8 介護について

※ここからは全員がお答えください。

問19 高齢者や病人の介護は、主として女性(妻、娘、息子の配偶者)の役割になりがちです。このことについてあなたはどのように思いますか。(1つに○)

1. 女性の役割として当然だと思う
2. 介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい
3. 労働時間などの現状からみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない
4. 男性も積極的に取り組む方がよい
5. その他 ()
6. わからない

問20 男性の介護への参加を進めるために、特に必要だと思うことは何ですか。(2つまで○)

1. 男性が取りやすいような介護休暇制度を企業等が整備する
2. 男性が気軽に参加できるような介護講座を開催する
3. 男性の理解と協力を得るための啓発活動を国や地方公共団体が行う
4. 労働時間の短縮や、在宅勤務、フレックスタイムの導入などを企業等が導入する
5. 女性が男性に介護への参加を強く要望する
6. 介護は今まで通り、女性が中心となって行うべきで、男性の参加は必要ない
7. その他 ()
8. わからない

9 地域の活動について

問21 あなたの地域活動(自治会やボランティア等)への参加状況は、どれですか。(1つに○)

1. 参加している → 問22へ
2. 参加したいが、できていない
3. 参加するつもりがない

※問21で「2」～「3」と答えた方にうかがいます。

問21-1 地域活動(自治会やボランティア等)へ参加できない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 時間が取れない
2. きっかけがない
3. 情報が少ない
4. 人付き合いが苦手
5. 関心がない
6. その他 ()
7. 特に理由はない
8. わからない



12

※ここからは全員がお答えください。

問22 地域活動(自治会やボランティア等)に、女性リーダーとして参画することについてどのようにお考えですか。(1つに○)

1. 女性も積極的に参画するほうがよい
2. 男性に任せほうがよい
3. 女性が参画することには賛成だが、現実には難しい
4. わからない

10 防災・避難について

問23 これまでの災害において、女性と男性のニーズの違いなどが配慮されないといった課題が生じましたが、防災(災害復興も含む)活動に関して男女共同参画を推進していくために、必要だと思うことはどれですか。(A～Hについて、それぞれ選択肢1～5から1つずつ○)

	必要	どちらか必要	あまり必要ではない	必要ない	わからない
A 防災訓練や防災研修会への女性の積極的な参加に努める	1	2	3	4	5
B 母親教室、乳幼児教室、PTA活動等、女性が多く集まる場での研修・訓練	1	2	3	4	5
C 女性消防職員や女性消防団員の育成、役員への女性の登用	1	2	3	4	5
D 地域の自主防災活動の運営に関する女性の積極的な参加	1	2	3	4	5
E 災害時ボランティア登録など多様な人材の確保	1	2	3	4	5
F 女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保	1	2	3	4	5
G 男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルの充実	1	2	3	4	5
H 避難所運営の際の女性リーダーの配置	1	2	3	4	5



13

11 白井市への要望について

問24 男女の共同参画を進めるため、これから市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。(5つまで○)

1. 男女共同参画についての学習講座を開くなど、社会教育を充実させる
2. すべての施策に男女共同参画の視点を取り入れる
3. 市全体の男女共同参画を推進するための条例を制定する
4. パートナースhip宣誓制度やファミリーシップ制度を導入する
5. 市の審議会など、施策を決定する場に女性の参加をもっと増やす
6. 学校での男女平等教育を進める
7. 女性の就労を支援するために、情報提供や職業訓練の場を充実させる
8. 保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える
9. 訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる
10. 市に男女共同参画を推進するための専門部署を設置する
11. 関連する情報を積極的に提供する
12. 相談やカウンセリング機能を充実する
13. ひとり親(母子・父子)家庭を援助する
14. 男性が家庭生活で自立できたり、地域活動に参加できたりするような活動を進める
15. 女性の視点に配慮した防災・災害対策を行う
16. その他 ()
17. 特に何もない(力を入れる必要がない)
18. わからない

- ◆ パートナースhip宣誓制度とは
自治体が同性同士のカップルを婚姻に相当する関係と認め、証明する制度
- ◆ ファミリーシップ制度とは
パートナースhip宣誓制度で証明されたカップルの子どもを家族として認定する制度

14

あなたご自身のことについておたずねします。

F1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

1. 男性 2. 女性 3. その他 4. 無回答

F2 あなたの年齢をお答えください。(数字をご記入ください。)

歳(11月1日時点)

F3 あなたは現在、結婚(事実婚を含む)していますか。(1つに○)

1. している(事実婚またはパートナーを含む) 2. していない(離別) ⇒F4へ
3. していない(死別) 4. していない(未婚) ⇒F4へ

→ ※F3で「1. している(事実婚またはパートナーを含む)」と答えた方にうかがいます。

F3-1 あなたの世帯は、共働きですか。(1つに○)

1. 共働き 2. 夫(またはパートナー)だけ働いている
3. 妻(またはパートナー)だけ働いている

F4 あなたは、現在どちらの地区にお住まいですか。(わからない場合は、自宅から一番近い小学校に○をつけてください)。(1つに○)

1. 白井第一小学校区 2. 白井第二小学校区 3. 白井第三小学校区
4. 大山口小学校区 5. 清水口小学校区 6. 南山小学校区
7. 七次台小学校区 8. 池の上小学校区 9. 板台小学校区

F5 主なお仕事はどれですか。(1つに○)

1. 農林業 2. 商店・工場・サービス業などの自営業
3. 会社または団体の役員 4. 医師・弁護士などの自由業
5. 会社・商店・工場・サービス業などの勤め人 6. 官公庁・学校などの公務員
7. パート、アルバイト、派遣、内職などの臨時的な仕事 8. 専業主婦(主夫)
9. 学生 10. 無職 ⇒F7へ
11. その他()

F6 主な仕事場(学校)はどちらですか。(1つに○)

1. 自宅 2. 白井市内
3. 白井市以外の印旛郡市 4. その他の県内
5. 東京都 6. 東京都を除く県外
7. その他()

F7 あなたの同居している家族の構成をお答えください。(1つに○)

1. ひとり暮らし(同居の家族はいない) 2. 夫婦のみ ⇒回答は以上です。
3. 親と子 4. 親と子と孫
5. その他()

※F7で「2」～「4」と答えた方にうかがいます。

F7-1 同居されている方に、次のような方はいますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 就学前の子ども 2. 小学生の子ども
3. 中学生・高校生の子ども 4. 介護を必要とする方
5. 介護を必要としない65歳以上の方 6. 同居者にあてはまるものはいない

アンケート調査へのご協力、ありがとうございました。

記入もれがないかご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに12月6日(金)までにポストにご投函ください。

※パソコンやスマートフォン等からご回答された方は、紙の調査票は返送しないでください。



白井市では、男女共同参画に関する計画の見直しを行うにあたり、本アンケート調査に加え、意見交換会(ワークショップ)を開催します。

今後、市広報等で開催の案内をしますので、よろしければご参加ください。

2 市内在勤者調査 調査票

白井市男女共同参画に関する市内在勤者調査 ご協力をお願い

白井市では、男女共同参画に関する計画の見直しを行うにあたり、市民の皆様のご意見やニーズを伺うため、アンケート調査を実施いたします。
この調査の集計結果をもとに、性別に縛られず誰もが自分らしく輝ける市の実現を目指していきたいと考えております。
調査の趣旨にご理解いただき、本調査にご協力をお願いいたします。
令和6年11月

白井市長 笠井 喜久雄

あなたの声で、白井市の未来をよりよく！

12月6日(金)までに、ご回答をお願いします。
回答に要する時間は15分程度です。

▼インターネットで回答する場合

QRコードまたはURL から回答フォームにアクセスしてください。
※途中保存はできませんので、お時間の余裕がある際にご回答ください。
<https://questant.jp/q/shiroi.danjo.kigyou.2024>

▼紙の調査票で回答する場合

- ① この調査票に回答を直接ご記入ください。
- ② 同封の返信用封筒(切手不要)に入れてポストにご投函ください。
※差出人の名前を書く必要はありません。

■回答はあてはまる番号を○で囲んでください。質問によって、1つだけ○をつけるものと、複数に○をつけるものがあります。また、「その他()」に該当する場合は、()の中に具体的に記入してください。

■この調査は、市内在勤者 500 人 を対象にご協力をお願いするものです。回答の内容は統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。

問い合わせ先

白井市役所 市民環境経済部 市民活動支援課 市民活動支援係
電話:047-401-4078 FAX:047-491-3551



1

問4 女性の働き方についてあなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。(1つに○)

1. 結婚する、しないにかかわらず、女性は働きに出ないで家にいた方がよい
2. 出産や育児を機に退職して家事や育児に専念した方がよい
3. 家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい
4. 出産や育児にかかわらず、仕事を続けたい方がよい
5. 必要に応じて、臨時にパートやアルバイトをするのがよい
6. その他 ()
7. わからない

問5 育児や介護があっても仕事を継続できるようにするにはどのような援助や対策が望まれると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること
2. 育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと
3. 配属や仕事の内容に他の従業員と差を設けないこと
4. 待遇(給与、昇進)に他の従業員と差がないようにすること
5. 育児・介護を行う社員の雇用機会や採用数を同等にすること
6. 保育・介護施設や保育・介護制度が充実していること
7. 病人や高齢者の世話が家族の誰か一人に任せられないようにすること
8. 出産や育児、介護を機に家族のうだちが仕事が辞めることのないようにすること
9. 育児休業や介護休業等が取りやすいこと
10. その他 ()
11. わからない

3 ワーク・ライフ・バランスについて

問6 生活の中での、仕事・家事(育児・介護を含む)・プライベートな時間(地域活動・学習・趣味・付き合いなど)の優先度について、「理想」と「現実」のそれぞれの視点で、あなたのお考えや現状に最も近いものはどれですか。(①～②について、それぞれ選択肢1～8から1つずつ○)

	仕事優先	家事優先	な時間優先	優先と家事	仕事とプライベート	家事とプライベート	プライベートを両立	仕事・家事・プライベート	わからない
A理想は	1	2	3	4	5	6	7	8	
B現実	1	2	3	4	5	6	7	8	

3

1 家庭生活について

問1 あなたが理想とする男女の役割分担に、最も近いものはどれですか。また、現在のご家庭の状況(一人暮らしの人は、これまでの家庭での状況)に、最も近いものはどれですか。
※家事には、育児・介護を含みます。(A～Bについて、それぞれ選択肢1～7から1つずつ○)

	家事全般を男性が担う	家事全般を女性が担う	男性が主として家事全般を担う	女性が主として家事全般を担う	男性が主として家事全般を担う	女性が主として家事全般を担う	男性が主として家事全般を担う	女性が主として家事全般を担う	わからない
A理想は	1	2	3	4	5	6	7		
B現実	1	2	3	4	5	6	7		

2 仕事について

問2 あなたは、収入の得られる仕事や、家庭内における家事(育児・介護を含む)などに1日平均どのくらいの時間をあてていますか。(A～Cについて、それぞれ選択肢1～7から1つずつ○)

	8時間以上	6～7時間	4～5時間	2～3時間	1時間未満	30分未満	ほとんどない、していない
A収入の得られる仕事	1	2	3	4			
B家庭内の家事(育児・介護を含む)など【平日】	1	2	3	4	5	6	7
C家庭内の家事(育児・介護を含む)など【休日】	1	2	3	4	5	6	7

問3 あなたが仕事をしている理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族の生活を支えるため
2. 家計を補うため
3. 親から家業を受け継いだため
4. 趣味や余暇活動を充実させるため
5. 自分だけの小遣いがほしいため
6. 将来に備えて貯蓄するため
7. 仕事が好き、気に入っているため
8. 自分の技能や知識などを活かすため
9. 自分の夢や目標のためにスキルアップするため
10. 社会との関わりを持ちたいため
11. 社会に貢献したいため
12. 働くことは当たり前だと思うため
13. 他にすることがなく時間があるため
14. その他 ()

2

問7 あなたにとって、仕事・家事(育児・介護を含む)・プライベートな時間のバランスは、うまくとれていると思いますか。(1つに○)

1. うまくとれている
2. ややとれている
3. あまりとれていない
4. まったくとれていない
5. わからない

問8 あなたの在宅勤務(テレワーク)の実施状況はどれですか。※直近3か月(令和6年8月～10月)を想定してお答えください。(1つに○)

1. 週に4日以上
2. 週に3日程度
3. 週に1～2日程度
4. 月に1～2日程度
5. それ以下の頻度
6. テレワークをしていない、できない
7. その他 ()

問9 あなたの職場でのワーク・ライフ・バランスの取り組みについて、どのように認識していますか。(それぞれ1つに○)

①現状

1. すでに十分取り組んでいる
2. 取り組んでいるが不十分
3. あまり取り組んでいない
4. 全く取り組んでいない
5. わからない

②今後の必要性

1. 積極的に取り組むべき
2. ある程度取り組むべき
3. 現状のままで問題はない
4. 取り組む必要はない

問10 あなたの勤めているところでは、ワーク・ライフ・バランスの取り組みとして、どのようなことを実施していますか。また、実施できれば効果のある取り組みだと思われるものは何ですか。(それぞれあてはまるものすべてに○)

①実施している取り組み

1. 経営戦略などにワーク・ライフ・バランスを進める趣旨を盛り込んでいる
2. 育児休業や短時間勤務制度を利用して評価の際に不利益にならないことをルール化している
3. ワーク・ライフ・バランスに関する情報提供・相談を行う組織・担当を設けている
4. 家庭の事情によっては、勤務地を考慮している
5. ノー残業デーを設けている
6. 従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行している
7. 従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫している
8. 従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施している
9. 管理職を対象とした研修を実施している
10. その他 ()
11. 特になし

4

②効果のあると思われる取り組み

1. 経営戦略などにワーク・ライフ・バランスを進める趣旨を盛り込む
2. 育児休業や短時間勤務制度を利用しても評価の際に不利益にならないことをルール化する
3. ワーク・ライフ・バランスに関する情報提供・相談を行う組織・担当を設ける
4. 家庭の事情によっては、勤務地を考慮する
5. ノー残業デーを設ける
6. 従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行する
7. 従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫する
8. 従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施する
9. 管理職を対象とした研修を実施する
10. その他（ ）
11. 特になし

問11 一般的に仕事と生活の両立をよりよくするために必要と思われるものは何ですか。(3つまで○)

1. 男女が共に家事等の家庭的責任を負うという意識改革
2. ライフスタイルに対する意識改革
3. 育児・介護休業を取得できる期間を延ばすなど、制度の充実
4. 管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境の整備
5. 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること
6. 地域や職場内の保育所、学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容の充実
7. 家事等の支援サービスの充実
8. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度
9. 残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること
10. 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
11. パートタイマーなど非正規職員の労働条件の改善
12. 男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対する、職場・家族など周囲の理解
13. 家事等に対する社会通念の変化
14. わからない
15. その他（ ）

5

4 職場について

問12 あなたは職場で次のような不満やストレスを感じることはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自分の理想よりも労働時間や残業時間が長い
2. 自分の理想よりも収入が低い
3. 雇用が不安定で、いつ解雇になるかわからない
4. 休暇に取りにくい
5. 仕事や通勤で疲労がたまる
6. 職場での人間関係がうまくいかない
7. 仕事へのやりがいを感じられない
8. 男女による格差（待遇面・精神面）がある
9. 不満やストレスを感じることはない
10. その他（ ）

問13 あなたの職場には次のような男女差や性差がありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 採用数や採用基準などに男女差がある
2. 配属や仕事内容に男女差がある
3. 待遇（給与・昇進）に男女差がある
4. 男性にだけ残業や休日出勤がある
5. 出産や育児、介護を機に退職する女性が多い
6. 女性は雇用や補助的な仕事が多い
7. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）がある
8. 男女格差は何もない
9. その他（ ）
10. わからない



6

問14 次のA～Oの各制度について、あなたは現在までに利用経験がありますか。また、今後の利用／導入を希望しますか。(A～Oについて、「①利用経験」と「②今後の利用／導入」の状況を、それぞれ選択肢1～2から1つずつ○)

	①利用経験			②今後の利用／導入	
	利用したことがある／利用している	利用したことはない		今後利用したい／導入してほしい	今後の利用／導入を望んでいない
A 産前産後休暇	1	2	⇒	1	2
B 通院休暇制度	1	2	⇒	1	2
C 妊婦の通院緩和措置	1	2	⇒	1	2
D 妊娠障害休暇（つわり休暇）	1	2	⇒	1	2
E 育児休業制度、出生時育児休業（産後パパ育休）	1	2	⇒	1	2
F 短時間勤務制度	1	2	⇒	1	2
G フレックスタイム勤務制度	1	2	⇒	1	2
H 始業時刻の繰り上げ・繰り下げ	1	2	⇒	1	2
I 育児のためのテレワーク導入	1	2	⇒	1	2
J 所定外時間の労働の制限	1	2	⇒	1	2
K 育児時間	1	2	⇒	1	2
L 企業内保育	1	2	⇒	1	2
M 介護休業制度	1	2	⇒	1	2
N ボランティア休暇制度	1	2	⇒	1	2
O 生理休暇	1	2	⇒	1	2

問15 今、あなたに子どもが生まれたとしたら、育児休業を取得したいと思いますか。また、家族等の介護が必要になったとしたら、介護休業を取得したいと思いますか。(1つに○)

1. 取得したいと思う ⇒ 問16へ
2. 取得したいと思うが、取得しない
3. 取得したいと思わない

7

※問15で「2」～「3」と答えた方にうかがいます。

問15-1 育児休業および介護休業を取得しない主な理由は何ですか。(3つまで○)

1. 職場の同僚の負担が増えて迷惑がかると思うから
2. 仕事が忙しく取得できる状況にないから
3. 取得しにくい雰囲気や職場にあるから
4. 復帰後の職場や仕事の変化に対応できなくなると思うから
5. 昇任や評価等に影響すると思うから
6. 上司の理解が得られそうにないから
7. 制度を利用できるかわからないから
8. 仕事にやりがいを感じているから
9. 取得すると経済的に苦しくなると思うから
10. 周囲からのサポート体制があるから
11. パートナーの方が子育てまたは介護に適していると思うから
12. 家族に反対されるから
13. その他（ ）
14. 特に理由はない
15. わからない

※ここからは全員がお答えください。

問16 家事（育児・介護を含む）への関わりが少ない男性が、より関わるようになるためには、特に何が重要だと思いますか。(3つまで○)

1. 仕事中心という社会全体のしきみを改めること
2. 男性が育児・介護休業を取りやすくなること
3. 労働時間の短縮や、フレックスタイム制などを導入すること
4. 男性のための育児・介護講座を充実すること
5. 男性自身の意識を高めること
6. 男性が気軽に育児や介護について相談できる体制を充実すること
7. 仕事を持ちながら利用しやすい保育・介護施設を整えること
8. 育児や介護についての地域でのネットワークを整えること
9. 家庭で育児や介護について十分に話し合うこと
10. 男性の育児や介護参加を妨げる社会通念やしきたりを改めること
11. その他（ ）
12. わからない

問17 あなたの現在の職層はどれですか。(1つに○)

1. 管理職（管理職手当がある者）
2. 係長職
3. 主任
4. 一般職
5. その他（ ）

8

問18 あなたは、将来的にはどのような職種で働きたいと思いますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 管理職 (管理職手当がある者) | 2. 係長職 |
| ⇒問 19 へ | |
| 3. 主任 | 4. 一般職 |
| 5. その他 () | 6. わからない ⇒問 19 へ |

※問 18 で「2」～「5」と答えた方にうかがいます

問 18-1 管理職になりたいくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 異動の幅が広がり、頻繁になったりするのがいやだから
2. 勤務時間が安定せず休暇も取りにくいから
3. 管理職になると、人事管理が煩わしいから
4. 管理職になると、責任が重くなるから
5. 第一線で活躍したいと思わないから
6. 現在の地位が自分に適しているから
7. 家庭生活と両立しにくいから
8. 地域活動や趣味の活動と両立しにくいから
9. 自分の能力に不安があるから
10. 配偶者より高い地位につきたいから
11. その他 ()
12. 特に理由はない
13. わからない

5 セクシュアル・ハラスメントについて

※ここからは全員がお答えください。

問19 職場において、セクシュアル・ハラスメントが起こる原因は何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 相手を職場の対等なパートナーとしてみていないから
2. 性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから
3. 固定的な性別役割分担意識にとらわれすぎているから
4. 職場内の日常的なコミュニケーションが不足しているから
5. ハラスメントをする側に職業人としての自覚が足りないから
6. 受ける側が毅然とした対応をしないから
7. 一部にモラルの低い人がいるから
8. その他 ()
9. わからない

9

問20 あなたはこの数年間に、次のようなセクシュアル・ハラスメントを受けて不快に思ったり、他の人から直接相談を受けたりした経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 性的関係の誘いを受けた
2. 体を触られたり、体をじろじろ見られた
3. 容姿についてのからかいや性的な冗談、質問をされた
4. 職場の飲み会などで、お酌やデュエットを強要された
5. 「ちゃん」「おじさん」「おばさん」などと呼ばれた
6. 結婚しない理由など、私生活に過度に立ち入る質問をされた
7. 職場のメールに「かわいいね」とか「食事に付き合って」といった内容が送られてきた
8. 職場に水着やヌードの写真を貼ったり、パソコンの壁紙として利用していた
9. 女性だからということでお茶くみや身の回りのことなどの雑用をさせられた
10. その他 ()
11. 受けた経験はない

問21 あなたの職場には、セクシュアル・ハラスメントの相談を受け付ける窓口がありますか。(1つに○)

- | | |
|----------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
| 3. わからない | |

問22 あなたの職場におけるセクシュアル・ハラスメント対策への取り組みについて、どのように認識していますか。現状及び今後の必要性についてお答えください。(それぞれ1つに○)

①現状

1. すでに十分取り組んでいる
2. 取り組んでいるが不十分である
3. あまり取り組んでいない
4. 全く取り組んでいない

②今後の必要性

1. 積極的に取り組むべき
2. ある程度取り組むべき
3. 現状のままで問題はない

10

6 白井市への要望について

問23 男女の共同参画を進めるため、これから市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。(5つまで○)

1. 男女共同参画についての学習講座を開くなど、社会教育を充実させる
2. すべての施策に男女共同参画の視点を取り入れる
3. 市全体の男女共同参画を推進するための条例を制定する
4. パートナースhip宣誓制度やファミリーシップ制度を導入する
5. 市の審議会など、施策を決定する場に女性の参加をもっと増やす
6. 学校での男女平等教育を進める
7. 女性の就労を支援するために、情報提供や職業訓練の場を充実させる
8. 保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える
9. 訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる
10. 市に男女共同参画を推進するための専門部署を設置する
11. 関連ある情報を積極的に提供する
12. 相談やカウンセリング機能を充実する
13. ひとり親(母子・父子)家庭を援助する
14. 男性が家庭生活で自立できたり、地域活動に参加できたりするような活動を進める
15. 女性の視点に配慮した防災・災害対策を行う
16. その他 ()
17. 特に何もない(力を入れる必要がない)
18. わからない

- ◆パートナーシップ宣誓制度とは
自治体が同性同士のカップルを婚姻に相当する関係と認め、証明する制度
- ◆ファミリーシップ制度とは
パートナーシップ宣誓制度で証明されたカップルの子どもを家族として認定する制度

あなたご自身のことについておたずねします。

F1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

- | | | | |
|-------|-------|--------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 | 4. 無回答 |
|-------|-------|--------|--------|

F2 あなたの年齢をお答えください。(数字をご記入ください。)

歳 (11月1日時点)

11

F3 あなたの現在の就労形態をお答えください。(1つに○)

- | | |
|------------|----------------------------------|
| 1. 正規社員 | 2. 非正規社員(嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど) |
| 3. その他 () | |

F4 あなたは現在、結婚(事実婚を含む)していますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. している(事実婚またはパートナーを含む) | 2. していない(離別) |
| ⇒F5 へ | ⇒F5 へ |
| 3. していない(死別) | 4. していない(未婚) |
| ⇒F5 へ | ⇒F5 へ |

※F4で「1. している(事実婚またはパートナーを含む)」と答えた方にうかがいます。

F4-1 あなたの世帯は、共働きですか。(1つに○)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 共働き | 2. 夫(またはパートナー)だけ働いている |
| 3. 妻(またはパートナー)だけ働いている | |

F5 あなたの居住地をお答えください。(1つに○)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 白井市内 | 2. 白井市外の印旛郡市 |
| 3. その他の県内 | 4. 東京都 |
| 5. 東京都を除く県外 | 6. その他 () |

F6 あなたの同居している家族の構成をお答えください。(1つに○)

- | | |
|----------------------|----------|
| 1. ひとり暮らし(同居の家族はいない) | 2. 夫婦のみ |
| 3. 親と子 | 4. 親と子と孫 |
| 5. その他 () | |

※F6で「2」～「4」と答えた方にうかがいます。

F6-1 同居されている方に、次のような方はいますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 就学前の子ども | 2. 小学生の子ども |
| 3. 中学生・高校生の子ども | 4. 介護を必要とする方 |
| 5. 介護を必要としない65歳以上の方 | 6. 同居者にあてはまるものはいない |

アンケート調査へのご協力、ありがとうございました。
記入もれがないかご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに12月6日(金)までにポストにご投函ください。

※パソコンやスマートフォン等からご回答された方は、紙の調査票は返送しないでください。



12

3 中学生調査 調査項目

あなたのこと

F1 性別（1つを選ぶ）

- 1 男性
- 2 女性
- 3 その他
- 4 無回答

男女共同参画に関すること

問1 あなたは、次の男女共同参画に関する言葉のなかで、知っているものはありますか。（A～Fについて、それぞれ項目1～5から1つずつ選ぶ）

A 男女共同参画社会：性別にかかわらず、お互いを尊重し合い、誰もが職場、学校、家庭、地域などあらゆる分野で活躍できる社会のことです。

- 1 よく知っている
- 2 少し知っている
- 3 聞いたことはある
- 4 知らない
- 5 わからない

B ジェンダー：これが男らしい、これが女らしいと決めるなど、社会や文化の中でつくられた性別に対する考えのことです。

- 1 よく知っている
- 2 少し知っている
- 3 聞いたことはある
- 4 知らない
- 5 わからない

C ハラスメント：様々な場面における嫌がらせのことで、他者に対する発言・行動等が本人の意図には関係なく、相手を不快にさせたり、不利益を与えたりすることです。

- 1 よく知っている
- 2 少し知っている
- 3 聞いたことはある
- 4 知らない
- 5 わからない

D LGBTQ+：L レズビアン（女性同性愛者）、G ゲイ（男性同性愛者）、B バイセクシュアル（両性愛者）、T トランスジェンダー（心と体の性の不一致）、Q クエスチョニング（心の性や好きになる性が定まらないこと）の頭文字に加え、これらに限定されない多様な性のことを表す「+」を加えた、多様な性の在り方を表す言葉です。

- 1 よく知っている
- 2 少し知っている
- 3 聞いたことはある
- 4 知らない
- 5 わからない

E ワーク・ライフ・バランス：働き方の見直し等により、多様な選択（たく）が可能な社会をつくり、働く人一人ひとりが意欲をもって、働きながら豊かさを実感して暮らせるようになることです。

- | | |
|---|----------|
| 1 | よく知っている |
| 2 | 少し知っている |
| 3 | 聞いたことはある |
| 4 | 知らない |
| 5 | わからない |

F アンコンシャス・バイアス：気づかない思い込みのことです。例）消防士と聞くと、まず男性を思い浮かべることを指します。

- | | |
|---|----------|
| 1 | よく知っている |
| 2 | 少し知っている |
| 3 | 聞いたことはある |
| 4 | 知らない |
| 5 | わからない |

問2 あなたは、次の場面で、男性と女性の立場や地位は、平等になっていると思いますか。（A～Fについて、それぞれ項目1～5から1つずつ選ぶ）

A 学校生活

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 男性（男子）の方がかなり特別扱いされていると思う |
| 2 | どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う |
| 3 | 平等だと思う |
| 4 | どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う |
| 5 | 女性（女子）の方がかなり特別扱いされていると思う |

B 地域での活動やボランティア等

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 男性（男子）の方がかなり特別扱いされていると思う |
| 2 | どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う |
| 3 | 平等だと思う |
| 4 | どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う |
| 5 | 女性（女子）の方がかなり特別扱いされていると思う |

C 家庭生活

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 男性（男子）の方がかなり特別扱いされていると思う |
| 2 | どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う |
| 3 | 平等だと思う |
| 4 | どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う |
| 5 | 女性（女子）の方がかなり特別扱いされていると思う |

D 世の中の考え

- 1 男性（男子）の方がかなり特別扱いされていると思う
- 2 どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う
- 3 平等だと思う
- 4 どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う
- 5 女性（女子）の方がかなり特別扱いされていると思う

E 政治の大臣や、政治上の物ごとの決め方

- 1 男性（男子）の方がかなり特別扱いされていると思う
- 2 どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う
- 3 平等だと思う
- 4 どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う
- 5 女性（女子）の方がかなり特別扱いされていると思う

F 全体として今の日本

- 1 男性（男子）の方がかなり特別扱いされていると思う
- 2 どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う
- 3 平等だと思う
- 4 どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う
- 5 女性（女子）の方がかなり特別扱いされていると思う

問3 あなたは、今までに「女の子だから～しなさい（しちゃダメ）」「男の子だから～しなさい（しちゃダメ）」のように言われたことはありますか。（1つを選ぶ）

- 1 よく言われる
- 2 ときどきいわれる
- 3 言われたことはない

問4 次の家族の役割について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（A～Dについて、それぞれ項目1～5から1つずつ選ぶ）

A 家事（そうじやせんたく、料理など）

- 1 主に男性がした方がよい
- 2 どちらかといえば男性がした方がよい
- 3 男女ともに協力して行うべき
- 4 どちらかといえば女性がした方がよい
- 5 主に女性がした方がよい

B 子育てや子どものお世話

- 1 主に男性がした方がよい
- 2 どちらかといえば男性がした方がよい
- 3 男女ともに協力して行うべき
- 4 どちらかといえば女性がした方がよい
- 5 主に女性がした方がよい

C 家族のために働いて生活費を得ること

- 1 主に男性がした方がよい
- 2 どちらかといえば男性がした方がよい
- 3 男女ともに協力して行うべき
- 4 どちらかといえば女性がした方がよい
- 5 主に女性がした方がよい

D 祖父や祖母等の家族の介護

- 1 主に男性がした方がよい
- 2 どちらかといえば男性がした方がよい
- 3 男女ともに協力して行うべき
- 4 どちらかといえば女性がした方がよい
- 5 主に女性がした方がよい

将来に関すること

問5 あなたは、将来誰と一緒に生活したいですか。（最も希望する項目1つを選ぶ）

- 1 夫・妻・恋人
- 2 父・母
- 3 祖父・祖母
- 4 兄弟・姉妹
- 5 友人や同じ趣味をもつ仲間
- 6 一人で暮らしたい
- 7 その他
- 8 わからない

問6 男性・女性が仕事をもつことについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(1つを選ぶ)

【男性が仕事を持つことについて】

- 1 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
- 2 結婚するまでは仕事をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
- 4 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
- 5 仕事をもたない方がよい
- 6 その他
- 7 わからない

【女性が仕事をもつことについて】

- 1 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
- 2 結婚するまでは仕事をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
- 4 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
- 5 仕事をもたない方がよい
- 6 その他
- 7 わからない

問7 あなたは、将来、仕事でリーダーを任されたり管理職（部下をまとめたり、会社内全体のことはあくしたりする人）になりたいと思いますか。(1つを選ぶ)

- 1 絶対になりたい
- 2 できればになりたい
- 3 できればなりたくない
- 4 絶対なりたくない
- 5 わからない

問8 あなたが将来なりたいと思う職業は何ですか。(選ぶのは3つまで)(複数選択)

1 美容師	14 科学者
2 消防士	15 建築家
3 警察官	16 銀行員
4 看護師	17 弁護士
5 医者	18 政治家
6 会社員	19 スポーツ選手
7 会社の社長	20 漫画家
8 デザイナー	21 ユーチューバー
9 芸能人	22 公務員(国や県・市町村の役所で働く)
10 歌手	23 農家
11 運転士	24 専業主夫・主婦
12 学校の先生	25 その他
13 保育士	26 考えたことがない・わからない

性別や心の性に関すること

問9 あなたは、自分が男子または女子に生まれたことをどう思いますか。(1つを選ぶ)

1 よかったと思っている
2 ちがうほうがよかったと思っている
3 どちらともいえない

問10 問9のように思った理由はなんですか。(自由回答)

--

問11 あなたは、自分の身体の性別や心の性について悩んだりしたことはありますか。(1つを選ぶ)

1 ある
2 多少ある
3 ほとんどない
4 まったくない(一度もない)
5 わからない(どちらとも言えない)

デートDVに関すること

問 12 あなたは、「DV」を知っていますか。(1つを選ぶ)

※DVとは：配偶（ぐう）者（夫・妻）や親密な関係にある、もしくはあった者から振るわれる暴力のことで、なぐる、けるといった身体的な暴力だけでなく、言葉や態度、行動の制限なども含まれます。

- 1 どんなことか知っている
- 2 聞いたことはあるがわからない
- 3 まったく知らない

問 13 あなたは、「デートDV」を知っていますか。(1つを選ぶ)

※デートDVとは：恋人同士の間で起こるDV（暴力）のことです。

- 1 どんなことか知っている
- 2 聞いたことはあるがわからない
- 3 まったく知らない

問 14 デートDVについて詳しく知りたいと思いますか。(1つを選ぶ)

- 1 詳しく知りたいと思う
- 2 どちらかといえば知りたいと思う
- 3 どちらかといえば知らなくても 良い
- 4 知りたいと思わない

性教育に関すること

問 15 あなたが、体や心について、学んでいきたいことは何ですか。(選ぶのはいくつでも)（複数選択）

- 1 異性の体のしくみについて
- 2 異性の心について
- 3 思春期の心理について
- 4 男女の交際や恋愛、結婚について
- 5 妊娠・出産について
- 6 エイズや性感染症などの性に関する病気について
- 7 ジェンダーの多様性、L G B T Q+について
- 8 避妊の方法について
- 9 自分の性のあり方についての不安や悩みの相談の仕方について
- 10 その他
- 11 特に知りたいことはない
- 12 わからない

白井市が取り組むべきこと

問 16 あなたは、性別にかかわらず、誰もが自分らしく輝けるまちにするために、白井市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。（5つまで選ぶ）（複数選択）

- | | |
|----|---|
| 1 | 市民に男女共同参画の大切さを伝える |
| 2 | 男女共同参画について学ぶことができる講座を開く |
| 3 | 学校で男女共同参画についての授業をする |
| 4 | パートナーシップ宣誓（せい）制度やファミリーシップ制度を導入する ※市役所が、同性同士で付き合っている二人や、その子どもを家族として認める制度 |
| 5 | 政治など、世の中の大事なことを決める場に女性がもっとかかわるようにする |
| 6 | 性別にかかわらず職業や仕事の内容を選べるよう、会社などに呼びかける |
| 7 | 仕事とプライベートのどちらも大切にできるような働き方を広める |
| 8 | 男女ともに仕事と家庭を両立できるようにする |
| 9 | 男女が共に平等に暮らせる社会を考えていくため、市役所がさらに様々な取り組みに力を入れる |
| 10 | 悩んだり困っていることを相談できる場所をつくる |
| 11 | その他 |
| 12 | 特に何もなし（力を入れる必要がない） |
| 13 | わからない |

白井市男女共同参画に関する
アンケート調査
結果報告書

発行：白井市役所 市民環境経済部
市民活動支援課 市民活動支援係
TEL：047-401-4078
FAX：047-491-3551

発行年月：令和7年3月